2015年度

事業成績報告書

社会福祉法人聖隷福祉事業団

2015年度 事業成績報告書 目次

はじめに 015年度事業成績報告 追隷三方原病院 三方原ベテルホーム		7
三方原ベテルホーム		7
11 + 4		15
B 隷浜松病院		17
皇隷淡路病院		20
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		22
皇隷佐倉市民病院		24
采健事業 部		26
登隷健康診断センター 登隷予防検診センター		27 29
B隷健康サポートセンターShizuoka		31
地域・企業健診センター		33
5松市リハビリテーション病院		35
2.赫袋井市民病院		37
E宅:福祉サービス事業部 和合せいれいの里> 特別養護を人ホーム和合愛光園 印合愛光園デイサービスセンター 掌害者相談支援事業所くすのき に店支援ハウスやまぶき ロ合愛光園の台サテライト お問看護ステーション住吉 起軸へルバーペクのり和合 起軸がアプランセンター にといる。		42
		46
いなさ愛光園		48
らくせいの里		50
<細江地区在宅複合事業> 坊間看護ステーション細江 豊藤ケアプランセンター細江		52
< 引佐地区在宅複合事業> 地域包括支援センター細江 追隷ケアプランセンターいなさ南部		53
B隷リハビリプラザいなさ		54
- 三方原地区在宅複合事業 > 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5		55
E隷デイサービスセンター三方原	***	56
<高丘地区在宅複合事業> 5問看護ステーション高丘 地域包括支援センター高丘		57
世隷コミュニティケアセンター		58
温隷リハビリプラザ I N高丘		59
方問看護ステーション住吉第二 四替でストードストンター 付土		60
登隷デイサービスセンター住吉 5問看護ステーション浅田		62
の同名後パグ ション 投出 登隷厚生園讃栄寮		63
世隷厚生園信生寮 <聖隷厚生園 障害児者在宅事業(浜松)>		65
トルド工房 チャレンジ工房 きらめき工房 E活訓練事業所ナルド 章がい者相談支援事業所ナルド		67
< 聖隷厚生園 障害児者在宅事業(磐田)> §田市発達支援センターはあと 己童発達支援事業所かるみあ		69
兵北愛光園		71
秦町愛光園		74
公戸愛光園		76
(補安市高洲高齢者福祉施設及び 端実高齢者ディサービスセンター> 自安市特別養護老人ホーム・短期入所生活介護 間安市方アハウス 自安市高洲高齢者デイサービスセンター 自安市高洲在全介護支援センター 日安市高洲在全介護支援センター		78
#女甲高洲仕七川護文後センター #女愛光園		80
有安ペテルホーム		82
夏藤ケアプランセンター浦安・ 有安せいれいクリニック		84
有安せいれいクリニック B静訪問看護ステーション浦安		85
f 安せいれいクリニック E 隷訪問看護ステーション浦安 賃須賀愛光園		85 86
f安せいれいクリニック ย隷訪問看護ステーション浦安 賃須賀愛光園 せいれい訪問看護ステーション油壺		85 86 90
事安せいれいクリニック 建練訪問看護ステーション浦安 現類質愛光園 せいれい訪問看護ステーション油壺 に塚すみれ栄光園		85 86 90 91
f安せいれいクリニック ย隷訪問看護ステーション浦安 賃須賀愛光園 せいれい訪問看護ステーション油壺		85 86 90

花屋敷栄光園		99
ケアハウス花屋敷		101
<宝塚第二地区在宅複合事業(社会福祉事業)>		
聖隷ベルパーステーション宝塚 聖隷逆瀬川デイサービスセンター		103
聖隷逆瀬川デイサービスセンター 聖隷逆瀬川デイサービスセンター虹		100
<宝塚第二地区在宅複合事業(公益事業)> 聖隷訪問看護ステーション宝塚		
逆瀬川地域包括支援センター	•••	105
聖隷ケアプランセンター宝塚		
<北神戸地区在宅複合事業>		
聖隷訪問看護ステーション北神戸 聖隷ケアプランセンター北神戸		107
<宝塚第五地区在宅複合事業>		108
聖隷訪問看護ステーション山本 聖隷ケアプランセンター花屋敷		100
聖隷逆瀬台デイサービスセンター		110
聖隷デイサービスセンター結い		111
聖隷コミュニティケアセンター宝塚		112
聖隷ケアプランセンター結い		113
聖隷山本デイサービスセンター		114
聖隷カーネーションホーム		115
淡路栄光園		117
聖隷訪問看護ステーション淡路		119
聖隷ヘルパーステーション淡路		120
奄美佳南園		121
- LyClastiy pag		
のぞみ園		123
春日保育園		125
<沖縄地区在宅複合事業>		
聖隷訪問看護ステーションゆい		127
聖隷居宅介護支援センターゆい		
聖隷こども園わかば		128
聖隷こども園桜ヶ丘		130
聖隷こども園ひかりの子		132
The life has been deared as a 10 to 100 days on		101
聖隷浜松病院ひばり保育園		134
和井はグル伊本国		136
聖隷めぐみ保育園		150
こうのとり保育園		138
こうのこう所有國		100
磐田市子育て支援総合センターのびのび		140
こうのとり東保育園		142
こうのとり豊田保育園		144
逆瀬川あゆみ保育園		146
御殿山あゆみ保育園		148
御殿山児童館		150
		152
野上あゆみ保育園		
野上あゆみ保育園 野上児童館		154
		154
		154
		154 156
野上児童館		
野上児童館		
野上児童館高齢者公益事業部		156
野上児童館		
野上児童館 高齢者公益事業部 浜名湖エデンの園		156 158
野上児童館 高齢者公益事業部 浜名湖エデンの園 宝塚エデンの園		156 158 160
野上児童館 高齢者公益事業部 浜名湖エデンの園 宝塚エデンの園 松山エデンの園		156 158 160 162
野上児童館 高齢者公益事業部 浜名湖エデンの園 宝塚エデンの園		156 158 160
野上児童館 高齢者公益事業部 浜名湖エデンの園 宝塚エデンの園 松山エデンの園		156 158 160 162
野上児童館 高齢者公益事業部 浜名湖エデンの園 宝塚エデンの園 松山エデンの園 油壺エデンの園		156 158 160 162 164
野上児童館 高齢者公益事業部 浜名湖エデンの園 宝塚エデンの園 松山エデンの園		156 158 160 162
野上児童館 高齢者公益事業部 浜名湖エデンの園 宝塚エデンの園 松山エデンの園 油壺エデンの園		156 158 160 162 164
野上児童館 高齢者公益事業部 浜名湖エデンの園 宝塚エデンの園 松山エデンの園 油壺エデンの園		156 158 160 162 164
野上児童館 高齢者公益事業部 浜名湖エデンの園 宝塚エデンの園 松山エデンの園 油壺エデンの園		156 158 160 162 164
野上児童館 高齢者公益事業部 浜名湖エデンの園 宝塚エデンの園 袖壺エデンの園 浦安エデンの園 横浜エデンの園 〈聖隷藤沢ウェルフェアタウン〉		158 158 160 162 164
野上児童館 高齢者公益事業部 浜名湖エデンの園 宝塚エデンの園 松山エデンの園 袖壺エデンの園 浦安エデンの園 横浜エデンの園 横浜エデンの園		158 158 160 162 164
野上児童館 高齢者公益事業部 浜名湖エデンの園 宝塚エデンの園 松山エデンの園 松山エデンの園 湘壺エデンの園 湘壺エデンの園 「横浜エデンの園 「本館藤沢ウェルフェアタウン>藤沢エデンの園一番館 藤沢エデンの園一番館		158 160 162 164 166
野上児童館 高齢者公益事業部 浜名湖エデンの園 宝塚エデンの園 松山エデンの園 松山エデンの園 一		158 158 160 162 164
野上児童館 高齢者公益事業部 浜名湖エデンの園 宝塚エデンの園 松山エデンの園 松山エデンの園 一		158 160 162 164 166
野上児童館 高齢者公益事業部 派名湖エデンの園 宝塚エデンの園 松山エデンの園 油壺エデンの園 油壺エデンの園 横浜エデンの園 《聖隷藤沢ウェルフェアタウン〉藤沢エデンの園―番館藤沢エデンの園―番館藤沢サエデンの園二番館藤沢・デンの園二番館藤沢・デンの園二番館		158 160 162 164 166
野上児童館 高齢者公益事業部 浜名湖エデンの園 宝塚エデンの園 松山エデンの園 油壺エデンの園 油壺エデンの園 油壺エデンの園 濃深エデンの園 満安エデンの園 養派エデンの園 養派エデンの園 養派エデンの園 番館 藤沢文デンの園 番館 産業来デンの園 番館 産業をアナサービスセンター藤沢 聖皇隷ケアブランセンター藤沢 聖皇隷かルバーステーション藤沢 聖皇隷訪問者護ステーション藤沢		158 160 162 164 166 168
野上児童館 高齢者公益事業部 派名湖エデンの園 宝塚エデンの園 松山エデンの園 油壺エデンの園 油壺エデンの園 油壺エデンの園 海家エデンの園 満家エデンの園 着館に 藤沢モデンの園一番館 藤沢エデンの園一番館 藤沢エデンの園一番館 産聖隷デイサービスセンター藤沢 聖聖隷ケイサービスセンター藤沢 聖聖隷かアルパーステーション藤沢 聖聖隷 訪問看護ステーション藤沢		158 160 162 164 166
野上児童館 高齢者公益事業部 浜名湖エデンの園 宝塚エデンの園 松山エデンの園 油壺エデンの園 油壺エデンの園 油壺エデンの園 濃深エデンの園 満安エデンの園 養派エデンの園 養派エデンの園 養派エデンの園 番館 藤沢文デンの園 番館 産業来デンの園 番館 産業をアナサービスセンター藤沢 聖皇隷ケアブランセンター藤沢 聖皇隷かルバーステーション藤沢 聖皇隷訪問者護ステーション藤沢		158 160 162 164 166 168
野上児童館 高齢者公益事業部 派名湖エデンの園 宝塚エデンの園 松山エデンの園 油壺エデンの園 油壺エデンの園 油壺エデンの園 海家エデンの園 満家エデンの園 着館に 藤沢モデンの園一番館 藤沢エデンの園一番館 藤沢エデンの園一番館 産聖隷デイサービスセンター藤沢 聖聖隷ケイサービスセンター藤沢 聖聖隷かアルパーステーション藤沢 聖聖隷 訪問看護ステーション藤沢		156 158 160 162 164 166 168 170
野上児童館 高齢者公益事業部 浜名湖エデンの園 宝塚エデンの園 松山エデンの園 油壺エデンの園 油壺エデンの園 満安エデンの園 横浜エデンの園 養院スエデンの園 一番館 藤沢スデンの園一番館 藤沢スデンの園一番館 産聖隷デイサービスセンター藤沢 聖隷デイサービスセンター藤沢 聖隷新聞者護ステーション藤沢 聖書・フ・ション藤沢 聖書・フ・マーマーエデンの園		156 158 160 162 164 166 170 174 178
野上児童館 高齢者公益事業部 浜名湖エデンの園 宝塚エデンの園 松山エデンの園 抽壺エデンの園 油壺エデンの園 油壺エデンの園 海でエデンの園 海では、アランの園 海では、アランの園 本のでは、アランの園 本のでは、アランの園 本のでは、アランの園 本のでは、アランの園 を放った。アランの園 を放った。アランの園 を表表で、アランの園 を表表で、アランの園 を表表で、アランでは、アランの園 を表表で、アランの園 を表表で、アランの園 を表表で、アランの園 のの園 のの園 のの園 のの園 のの園 のの のの のの のの のの のの		156 158 160 162 164 166 168 170
野上児童館 高齢者公益事業部 浜名湖エデンの園 宝塚エデンの園 松山エデンの園 松山エデンの園 油壺エデンの園 油壺エデンの園 清安エデンの園 海路エデンの園 高路館藤沢ヴェルフェアタウン>藤沢エデンの園一番館藤沢エデンの園一番館藤沢エデンの園一番館藤沢エデンの園一番館藤沢エデンの園一番館藤沢エデンの園 藤沢マデルーピコセンター藤沢聖泉・ルパーステーション藤沢聖泉・ルパーステーション藤沢聖泉・加州・ステーション藤沢聖泉・ルパーステーション藤沢聖泉・ルイーステーション藤沢野田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田		156 158 160 162 164 166 168 170 174 178 180 182
野上児童館 高齢者公益事業部 浜名湖エデンの園 宝塚エデンの園 を山エデンの園 油壺エデンの園 油壺エデンの園 清安エデンの園 清安エデンの園 高齢者の温素にある。 横浜エデンの園 一番館藤沢エデンの園二番館藤沢エデンの園二番館藤沢エデンの園二番館藤沢エデンの園二番館藤沢エデンの園二番館春沢を光園 聖隷をバイサービュンセンター藤沢 聖隷お問看護ステーション藤沢 聖隷お問看護ステーション藤沢 聖計のルパーステーション藤沢 聖計の別の園 野日見らいふ南大沢 法人本部 2015年度施設整備事業報告		156 158 160 162 164 166 170 174 178 180 182 187
野上児童館 高齢者公益事業部 派名湖エデンの園 宝塚エデンの園 セム山エデンの園 油壺エデンの園 油壺エデンの園 清安エデンの園 本際派エデンの園 本際派エデンの園―番館 藤沢でラ光ロージューンの園 一番館 整隷デイサービスセンター藤沢 聖皇隷大ルパーステーション藤沢 聖皇隷ケルパーステーション藤沢 聖泉をアンの園 カール・ション・藤沢 聖泉をアンの園 カール・ション・藤沢 聖泉・アンの園 カール・アンの園 カール・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・		156 158 160 162 164 166 170 174 178 180 182 187 191

2015年度事業成績報告にあたり

理事長 山本敏博

2015 年度は「中期事業目標・中期事業戦略 2011~2015」の最終年度でした。この 5 年間で人口動態や政策が変化する中、地域の医療福祉関連課題に対して質の高い貢献ができたと自負しております。2015年度は介護報酬の改定があり、特別養護老人ホーム等の入所サービスを中心に厳しい経営が想定されましたが、重度介護、認知症への対応など現場の努力により多くの加算が認められたことで、結果として良好な経営成績となりました。また、年度末には社会福祉法の改正が国会で成立しました。例えば従来は諮問機関であった評議員会が議決機関となり、理事会は執行責任を負う組織となるなど、社会福祉法人の仕組みを大きく変えるものになります。監査法人による会計監査の実施や経営情報の公開など聖隷福祉事業団が従来から取り組んできたことも多く盛り込まれており、今後の法施行に向けて全国の手本となるように対応をしてまいりたいと存じます。

生活自立相談支援センター「つながり」(浜松市受託事業)では、親世代の貧困が子どもの世代に引き継がれないように、聖隷独自の学習サポート事業(小3~中2)を開始しました。待機児童対策にも積極的に取り組み、幼保連携型認定こども園として「聖隷こども園わかば」「聖隷こども園ひかりの子」「聖隷こども園桜ヶ丘」の3園が保育園から体制を変えてスタートしました。老朽化していた奄美大島の「児童発達支援センターのぞみ園」の移転新築工事の完成も喜ばしいことでした。

地域包括ケアシステムへの対応も大きなテーマです。「聖隷ケアセンターいなさ」の開設など地域に密着したサービス展開をすすめることができました。また他法人との連携を進める必要もあります。東京海上ベターライフサービス様の経営する在宅介護サービス事業所と同一フロアに「聖隷訪問看護ステーション浦安」を開設しました。同じ地域にサービスを提供する事業者同士で相互理解が深まり、より質の高いサービス提供と人材の確保・育成ができることを期待しています。

医療・保健事業では極めて充実した救急医療体制が評価され高度救命救急センター指定をうけた聖隷 三方原病院は地域医療の要としての機能を果たしています。聖隷浜松病院では完成した新棟の全面運用 が開始されると共に既存棟の耐震化工事も進み、より安全で質の高い医療環境が整いつつあります。聖 隷淡路病院の地域包括ケア病床取得は淡路市内唯一の機能として地域への貢献と共に大きな経営効果も 発揮しました。聖隷横浜病院は診療体制の充実が図られると共に、さらなる発展に向けた新外来棟建築 計画が進展しました。聖隷佐倉市民病院は職員の努力と設備投資の効果が表れ、大幅な経営改善を達成しました。保健事業部については健康経営への取組みが進み、多くの企業・団体様からのご利用が大幅に 増加しました。指定管理受託施設である、浜松市リハビリテーション病院と聖隷袋井市民病院も市民の 期待に応え順調な経営ができました。高齢者公益事業部ではエデンの園が各種のランキングで上位を占めるなどマスコミから高い評価をいただき、特に浜名湖エデンの園では改築計画が進み、質の向上と永 続性の確保に向けて大きな一歩を踏み出しました。

聖隷福祉事業団全体としてはサービス活動収益 1,055 億円、経常増減差額率 2.8%など、2015 年度も 堅調な経営成績となりました。ご利用いただいた皆様はもちろん、日本財団様など支援、ご助言をいただ いた行政や諸団体、取引業者様等、関係の皆様に厚く御礼を申し上げます。また最後となりましたが社会 保障の最前線で事業を支えてくれている聖隷福祉事業団職員にこの場を借りて御礼を申し上げます。

■ 聖 隷 福 祉 事 業 団 理 念 ~ 目 標 体 系

基本理念

キリスト教精神に基づく 「 **隣 人 愛** 」

使 命

- ・いのちと尊厳のために
- ・利用される人々のために
- ・地域社会とともに
- ・未来を築く
- ・最高のものを

ビジョン2020

人・地域・社会・時代が必要とする ヒューマンサービスを追求し、 新たな価値を創造する

中期事業目標

事業部中期事業目標

中期事業戦略

事業部中期事業戦略

法人年度目標

各事業部年度目標

職員行動指針

わたしたちは、 ひとりひとりの 命と尊厳を守ります

わたしたちは、 サービスを求める すべての人々に、 誠実かつ献身的に仕え、 その自立を支援します

わたしたちは、
「保健・医療・福祉・介護」
サービスを通して
社会に貢献し、
地域の人々との
強い絆を育みます

わたしたちは、 先駆的・開拓的精神で 新たなニーズの発見に努め、 常に課題に挑戦します

わたしたちは、 ひとりひとりが専門職としての 倫理と誇りを持ち、 最高の技術を提供します

【用語の定義】

○使命/職員は何を大切に考えて仕事をするか ○ビジョン2020/2020年にどのような組織であるべきか

○中期事業目標/ビジョンを達成するための5年後に具現化すべき目標 ○中期事業戦略/事業目標を達成する上で重点としたいポイント

(2010.11.26 理事会承認)

■ 聖 隷 福 祉 事 業 団 中 期 事 業 目 標・中 期 事 業 戦 略

中期事業目標 I. 住み慣れた地域で暮らし続けることができるサービスの提供

中期事業戦略

- I-1 地域連携と事業団内の総合化力による、連続したサービス体系の構築
 - ①予防医療・急性期医療・回復期医療・介護サービスの法人内連携を強化する
 - ②慢性期を担う医療機関との地域連携体制を充実する
- I-2 安心·安全な医療の提供体制強化
 - ①地域の安全を守る救命救急等、急性期医療の機能を強化する
 - ②地域における医師確保のためのシステムを構築する
- I-3 安心して暮らし続けるサービスの創造
 - ①既存の介護・福祉の制度にとらわれない新たなサービスを構築する
 - ②有料老人ホームの新規契約形態と既存事業における将来構想を構築する
 - ③多様な保育ニーズに応える新たな子育て支援システムを構築する

中期事業目標 Ⅱ. 先駆的で良質なサービスの提供

中期事業戦略

- Ⅱ-1 高度な予防医療・急性期医療の提供体制強化
 - ①利用者ひとりひとりのニーズに応じた質の高いチーム医療を実践する
 - ②最新医療技術の導入によりトップクラスの医療提供を実現する
- Ⅱ-2 生活の質を高める高度な専門ケアの提供体制強化
 - ①急性期から終末期に至るまで連続したリハビリテーションを提供する
 - ②認知症疾患に対するサービス提供体制を強化する
 - ③医療依存度が高く重度介護が必要な方に対するケアの提供体制を強化する
- Ⅱ-3 各種研究機関・産業界との連携による新たな価値の創造

中期事業目標 Ⅲ.共に働ける環境の整備

中期事業戦略

- Ⅲ-1 働き方の多様性を受容する組織マネージメントの推進
 - ①国籍、年齢、障がいの有無にかかわらず、雇用促進する制度を確立する
 - ②職員のライフステージ・労働環境に合わせ働く事ができる人事制度を確立する
 - ③心と体の健康づくり事業を推進する
- Ⅲ-2 次世代を担う人材育成
 - ①理念と経営感覚を持った次世代経営層を育成する
 - ②OJT推進プログラムを作成する
 - ③職種別キャリアパスを作成する
 - ④国内外研修制度を確立する

中期事業目標 Ⅳ. 社会福祉法人の使命の追求

中期事業戦略

- №-1 社会福祉法人としての在り方の検討
 - ①公益法人改革等に係る情報収集を行い適切な対応を図る
 - ②地域や行政からの要望に対し誠実に取り組む
- №-2 地域に対する事業活動の積極的な情報発信
- Ⅳ-3 ガバナンス体制の強化
 - ①リスク管理体制を強化する
 - ②コンプライアンス経営を推進する
- Ⅳ-4 環境活動の推進
 - ① C O 2排出量を㎡あたり5%削減する(2009年度比・2012年度目標)

中期事業目標 V.事業団の継続性と発展性の維持強化(2015年度目標)

【成長性】事業収益

2009年度比

130%以上

【生産性】1人あたりの付加価値 2009年度比

112%以上 37%以上

【安全性】自己資本比率 【収益性】経常利益率

2010年度~累計平均 3%以上

中期事業戦略

- V-1 マーケティング調査に基づいた事業計画の策定
- V-2 事業計画と実績の検証

2015年度 事業成績報告

常務執行役員 青木 善治

(1) 事業の経過及びその成果

当期は、介護報酬の改定の年であり、改定率は▲2.27%とマイナス改定が行われた。一方、人事院勧告も2年連続でプラス改定となり、1999年以降の月例給改定率としては最高の0.36%という改定となる等、昨年に引き続き経営上厳しい要因が重なった年度であった。しかしながら継続して質の向上と地域ニーズへの対応を行い、不断の経営改善を行うことにより、第4四半期には成績が回復し、最終的にサービス活動収益は1,055億円、2014年度より46.2億円(対2014年度4.6%増)の増収を達成することができ、経常増減差額においても、経営効率向上を図る中で予算には若干未達ながらも、29.3億円(経常増減差額率2.8%)の実績を計上することができた。

(2) 医療・保健事業

医療事業において、聖隷三方原病院は高度救命救急センター、認知症疾患医療センター他、多くの指定病院として役割を担い、継続した質の向上と充実した診療体制の構築により、着実な経営実績(経常増減差額12.1億円)を上げることができた。

聖隷浜松病院においては耐震工事などの施設整備の中、特定入院料病床の拡充などの機能強化を進めたことにより、サービス活動収益は予算を達成した。一方で高機能化に伴う薬品、診療材料の増加も著しく経常増減差額において予算未達(予算 8.8 億円→実績 6.7 億円)となった。

聖隷淡路病院においては、淡路島内の人口減少など病院をめぐる経営環境は厳しい状況(経常増減差額▲2.4 億円)ではあるが、在宅復帰に向けた支援の強化として、地域包括ケア病床の開設や、累計分娩数が100件に達するなど地域から頼られる病院となっている。

聖隷横浜病院においては、連続する経常増減差額の赤字に対し、地域包括ケア病棟の設置や積極的な医師の招聘を行い診療体制の強化を行った。その結果、赤字ではあるが大幅な経常増減差額の改善(2014年度▲3.9億円→2015年度▲1.5億円)につながった。これは工事が進む新病院建築計画の追い風となっていくものである。

聖隷佐倉市民病院においては医師の増員のほか、地域包括ケア病棟、関節センターや摂食嚥下センターの開設など診療機能の強化がなされ、経常増減差額を黒字転換(2014年度▲0.7億円→2015年度+1.2億円)することができた。

保健事業部については、産業保健・健康経営への質の高い取り組みが結果となって表れ、受診者総数が581,984人(対予算105.8%、対前年107.1%)となり、経常増減差額は予算未達ではあるが、黒字継続を行うことができた。課題である聖隷健康サポートセンターShizuokaの経営改善については、年間受診者総数99,621人(対予算101.9%、対前年108.4%)と大幅な増加を達成したが、昨年に続き単独では赤字を計上することとなり、費用コントロール等への早急な取組みを行う必要がある。

指定管理を受け8年が経過した浜松市リハビリテーション病院は、新たな回復期リハビリテーション病棟を開設し順調に運営が行われた。また3年が経過した聖隷袋井市民病院は、医師の増員など着実に診療機能の充実が図られ、初めて経常増減差額において黒字化することができた (2014年度 \triangle 0.1億円→2015年度+0.3億円)。

(3) 在宅・福祉サービス事業

当期は「聖隷ケアセンターいなさ」、「聖隷めぐみ保育園」等の新規開設に伴う整備や、「児童発達支援センターのぞみ園」の移転新築など、在宅・福祉事業の拡充が進められる中、介護報酬改定(▲2.27%)が行われた。大変厳しい経営環境であった介護保険施設ではあるが、各種加算の取得を積極的に行いマイナス改定に対応することができた。

また保育事業については、待機児童の解消の為、児童の受け入れを積極的に行ったことで、稼働率の向上にもつながった。さらに、子ども・子育て支援法による給付費の増額や処遇改善加算率の上乗せなど事業を取巻く制度改定が追い風となって全体的に好成績を残すことができた。

一方、浦安せいれいの里の各施設においては、厳しい経営状況(経常増減差額▲1.3 億円)が続き、利用者減への対応や職員確保の為の人件費増などの課題は残り、今後も経営改善に向け継続的な取組みを行う。

事業部全体でサービス活動収益において、172.7億円(対前年103.8%、対予算101.7%)を達成し、経常増減差額7.9億円(経常増減差額率4.6%)となり着実な実績を残すことができた。

(4) 高齢者公益事業

競争の厳しい有料老人ホーム業界の中にあって、新規契約数(目標 133 件→実績 137 件)、入園 契約金額(目標 41 億円→実績 46 億円)ともに目標達成できたことは、信頼できる施設として評価された結果であると考える。また全体入居率も年度当初(92%)より着実に向上させ、年度末には 95%を達成できた。更に経常増減差額がマイナスであった浦安エデンの園も初めて黒字転換(2014 年度 ▲ 0.5 億円→2015 年度+0.6 億円) することができ、経営改善が進んでいる。

事業部全体でサービス活動収益において、93.3 億円 (対前年 104.2%、対予算 101.6%) を達成し、経常増減差額 11.6 億円 (経常増減差額率 12.4%) を上げ、着実な実績を上げることができた。

(5) 財務の状況

資産整備としては 63.5 億円であり、うち新築工事・高額備品等の特別整備は 37.7 億円の投資を行った。特別整備の中では、6.6 億円は聖隷横浜病院の新外来棟建築工事の着手金であり、聖隷浜松病院の第4期増築工事及び医局管理棟新築工事の支払いが 21.7 億円であった。前述の「児童発達支援センターのぞみ園」(1.9 億円)や「聖隷ケアセンターいなさ」(1.8 億円)の整備を含めても、過去5年間の平均整備額107億円と比べ、当期は設備投資が抑えられた狭間の年であった。

この結果、長期借入金残高は 339 億円となり、サービス活動収益に対する有利子負債比率は 32.8% (2014 年度 33.8%) に下げることができた。一方、運営資金である短期借入金は、2011 年度から借入実績はなく、賞与借入金についても、全額を自己資金でまかなう等、事業が拡大する中で継続的に財務体質の健全化を進めている。

今後は、赤字施設の早期黒字化を進め、既存施設の建替えや改修工事に備えるとともにさらなる事業展開に向け取り組んでいきたい。

≪直近5年間のサービス活動収益及び経常増減差額≫

(単位:百万円)

サービス活動収益	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度
医療・保健事業 計	68, 140	70, 307	72, 458	75, 207	79, 831
高齢者公益事業	8, 052	8, 722	9, 010	9, 034	9, 333
在宅・福祉サービス事業	14, 191	15, 104	15, 831	17, 747	17, 269
本部会計	2, 054	2, 104	2, 585	2, 705	307
内部取引	-	-	-	-	▲ 1, 237
合 計	92, 437	96, 237	99, 884	104, 693	105, 503
経常増減差額					
医療·保健事業 計	2, 023	2, 240	1, 224	1, 231	1, 780
高齢者公益事業	▲243	▲ 191	49	245	1, 160
在宅・福祉サービス事業	605	619	273	502	788
本部会計	729	1, 249	1, 336	1, 288	▲ 795
合 計	3, 114	3, 917	2, 882	3, 266	2, 933

※医療・保健事業には浜松市リハビリテーション病院及び聖隷袋井市民病院含む

※2015年度より新会計基準に変更

≪2009~2015年度 中期目標達成度≫

◆成長性

	09年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度			2009年	度対比				2009年度比
	09年度	10平皮	二十戊	12十反	19牛皮	14千茂	10年及	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度		
サービス活動収益(百万円)	85,216	90,643	92,437	96,237	99,884	104,693	106,740	106.4	108.5	112.9	117.2	122.9	125.3		<u>130%以上</u>
◆収益性														ŕ	
	09年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度		20	10年度以	降の累計平	均			2010年度~累計平均
	09平茂	10年度	口干皮	12年度	13年度	14年度	10年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度		
経常増減差額率(%)	3.1	4.5	3.4	4.1	2.9	3.1	2.8	4.5	3.9	4.0	3.7	3.5	3.4		<u>3%以上</u>
◆生産性														,	
	00 F F	40 F #	44.55	10 F #	40 F F	445	45.45.45			2009年	度対比				2009年度比
	09年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度		
一人あたり付加価値(千円)	7,696	7,976	7,785	7,911	7,846	8,352	8,101	103.6	101.2	102.8	102.0	108.5	105.3		<u>112%以上</u>

◆安全性

▼ X ± L															
	09年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度			2009年	度対比				
	09年度	10平及	11年度	12十段	19千茂	14十戊	10年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	_	<u> 37%以上</u>
純資産比率(%)	31.0	32.3	33.3	35.1	34.2	35.0	36.7	104.4	107.7	113.3	110.6	113.1	118.6		

※2015年度より新会計基準に変更

医療保護施設 総合病院 聖隷三方原病院

2015 年は都道府県において 2025 年のあるべき医療提供体制を検討する「地域医療構想」策定が開始し、また認知症の人を支えていく対策をまとめた認知症施策推進総合戦略 (新オレンジプラン) が発表されるなど 2025 年の医療提供体制の構築に向けた本格的な動きが始まった。

当院では2015年3月に指定を受けた高度救命救急センターにおいて広範囲熱傷患者の受け入れを行うとともに、救急科医師を増員し、更に放射線技師をセンターに常時配置するなど受け入れ体制の充実を図った。また基幹型認知症疾患医療センターとしては、浜松市が設置を義務付けられている認知症初期集中支援チームが稼動する前に問題点を洗い出すことを目的とした「認知症初期集中支援チームモデル事業」に参加し、チームの立ち上げに寄与した。また地域住民を対象とした認知症に関する講演や相談事業を各所で開催し、地域における認知症の理解と周知を行った。

10月には医療の安全を確保するために、医療事故の再発防止を行うことを目的とした医療事故調査制度が開始された。報告に該当する事例はなかったが、制度に対応すべく医療安全体制の強化を行い、職員に対しても講演会を開催し周知に努めた。

初期研修医が2014年度に引き続きフルマッチできた。臨床研修センターを中心とした病院全体の取り組みが功を奏した結果と考える。今後も研修プログラムの充実はもちろんのこと研修環境を向上させ、継続して初期研修医がフルマッチするよう受け入れ体制を改善していく。

2017年度より「新専門医制度」の施行が予定されている。施行に向けた体制を構築し準備に万端を尽くしたい。

静岡県より「ふじのくにイクボス活躍リーディングカンパニー」として表彰された。これは子育で中の人を含む誰もが働きやすい職場づくりのため、ワーク・ライフ・バランスを実践する上司「イクボス」普及に向け、そのイクボスの活躍が模範となる組織に対して表彰されるものであり、当院の職場スタッフのワーク・ライフ・バランスを考えることができる上司の育成が評価されての受賞と考えている。

最後に経営的側面では、外来患者は減少したが入院患者は増加しており、結果予算を上回る業績を残すことができた。ひとえに職員一人ひとりが頑張ってくれたおかげであると感謝したい。 2015年度も職員の利便性向上を目的とした職員駐車場を病院近くに整備することができた。今後も職員の満足度が向上し業務に注力できるよう労働環境の改善を行っていく。

	予 算	実 績	対予算	対前年		予 算	実 績	対予算	対前年
入院患者数	630名	633名	100.5%	101.3%	外来患者数	1,080名	1,062名	98.3%	96.8%
入院単価	61,800円	61,646 円	99.8%	99.0%	外来単価	14,800 円	15,418円	104. 2%	105. 1%
職員数	1,437名	1,399名	97.4%	99. 1%	病床利用率	82.5%	82.9%	100.5%	101.5%
サービス 活動収益	20, 147 百万円	20, 253 百万円	100. 5%	102. 6%	サービス 活 動 費 用	19,403 百万円	19,515 百万円	100.6%	99.8%

(注:外来患者数、外来単価は歯科を除く)

1. 安全で、質の高い医療の提供

(ア) 安全な医療の提供

救急専従医の 24 時間 365 日配置を開始し、更に繁忙期の二次救急日のスタッフを増員するなど救急医療体制の強化をした。手術室において手術後の医師同伴帰室の遵守、患者・手術部位誤認防止のマーキング・タイムアウト、異物残遺予防の手術室での術後 X線撮影の徹底を行った。研修医ガイドブック内に掲載されている「初期研修医が単独で行ってよい処置・処方の基準」を改定した。研修医の習熟度合いにより処置等の範囲を拡大できるようにするなど、運用に柔軟性を持たせつつ責任を明確にした。オカレンスなどの発生時当事者がMRMに沿った行動をしているか確認し、MRMに基づいたフィードバックを行った。また 18 種類のMRMの再評価を実施し改定を行った。

(イ) 質の高い医療の提供

下肢静脈瘤治療において、6月に保険収載された低侵襲であり患者にとって負担の少ない高周波治療を開始した。高度救命救急センターERに放射線技師を常時配置し、緊急画像検査の迅速化を図った。退院先の施設を訪問し退院後の経過を踏まえ、退院患者の入院中の看護の評価に繋げた。看護補助者が自立して実践している高齢者集団ケア「なごみ」については、他病院からの見学を受け入れるなど院外でも評価され、着実に実績を上げている。

(ウ) 安全で効率的な病床運用

外科の低侵襲全身麻酔手術症例のA3 病棟への転棟を進めB3 病棟に重症患者を集めることで、看護師などの人的資源を集中し、より安全な病棟運営を実現した。また利用 状況を踏まえ院内 I C Uを 12 床から 8 床へ変更し、看護師の適正配置を行った。

2. 次世代を担う人材育成と働く支援

(ア) 医師および看護師の人材確保と定着

初期研修医採用の取り組みとして、札幌の合同説明会への出展やマッチング面接終了後から順位登録終了まで、フォローアップ面談を実施した。新たな地域での病院広報活動や当院受験者への個別の働きかけを行った。2015年度は13名確保できたが、2016年度以降も定員を継続して確保できるように、研修医の声に耳を傾けつつ研修環境を整えていく。

(イ) 職員教育の充実

研修医向けに感染症診療について集中講義を実施し、研修医の感染に対する意識の向上を図った。11 月には、日本看護協会が認定する認定看護管理者教育課程ファーストレベル研修を開講した。近隣の施設のみならず遠くは静岡市から受講希望者があり、合計17 施設 47 名が受講した。

(ウ) ワーク・ライフ・バランスが実現出来る職場環境づくり

8月より救急科に次いで2科目となる交代制勤務を小児科にて開始し、医師の負担軽減に努めた。ワークシェア制度や育児短時間制度の利用は着実に増加している。また2015年度は男性職員2名が育児休暇を取得した。育児休暇や介護休暇について職員の理解が進むよう努力した結果と考える。育児中の職員を対象に育児を語ろう会を年4回、育児セミナーを年3回開催し、育児中の職員の支援を行った。

3. 地域における多施設連携の取り組み

(ア) 地域における多施設連携の推進

結核患者に対して浜松市保健所のみならず、県外の豊橋市や新城市の保健所と結核ケアに関する情報交換をし、県境を跨いだ広域でサポートするよう活動している。東日本大震災時における透析の問題点を踏まえ、地域で透析患者をケアするとともに必要時に透析患者の転院をスムーズに行うため、ドライウエイトの設定条件について各施設間において協議を行った。ID-LINK(利用者情報利用システム)によって、聖隷予防検診センターからの紹介患者の検査結果が迅速に参照可能となっており、患者負担軽減の面からも有益に機能した。

(イ) 救命救急センターの体制充実

ドクターへリの運航をはじめとして救急医療を円滑に行うために、地域医療機関や消防機関など関係各機関と連携を行った。2014年度に引き続いて管内の各消防機関に出向いての訓練や勉強会を実施し顔の見える関係作りを継続している。2015年3月に指定を受けた高度救命救急センターにおいては熱傷・急性中毒・指肢切断などの特殊疾患に各診療科と連携し対応した。

(ウ) 認知症疾患医療センターの体制充実

8月、11月に地域包括支援センター主催の研修会に講師として協力、9月に一般市民 向け講演会を主催するなど、医療・介護・福祉従事者だけでなく一般市民の認知症に関す る理解を深める活動を行った。また浜松市と協力して「はままつオレンジガイドブック」 を作成し、地域全体で認知症の人・家族を支える体制づくりに努めた。

(エ) 地域がん診療連携拠点病院の体制充実

静岡県社会保険労務士会の協力のもと、がん患者に対する相談会を定期的に開催し、 就労に関する相談や支援体制を構築した。がんの家族をもつ子ども達の支援をしている 医療従事者のネットワークである「がんの家族をもつ子ども支援ネットワーク浜松」に 参加し、年3回のミーティングを行い院内外の様々なケースの相談内容や情報の共有を 図っている。9月には件西部北遠地区の春野町にて市民公開講座を開催した。

(オ) 地域医療支援病院の体制充実

減少傾向にあるがいまだに年間1万9千人以上が新たに罹患している結核患者の診療などについて、他病院と結核ケアチーム会を定期開催し連携をとっている。院内向けの 褥創教育講座を地域に開放し、他施設の職員へ教育の場を提供することで地域での褥創 に対するレベルの向上を図った。

(カ) 災害拠点病院としての体制充実

アクションカードを用いた地震発生から患者受入開始に至るまでの立ち上げ訓練を中心とした防災訓練を実施した。また、例年の地震防災訓練に加えて各職場防災係や職場長を対象に机上訓練を2回実施した。規模を縮小した机上にすることで災害時における院内活動の全体を把握でき、お互いの目標や課題などを共有することに繋がった。院外においては例年のように県の訓練や政府訓練などへ災害医療チーム(DMAT)が参加した。また、掛川市で開催された大規模災害訓練にDMAT・ドクターへリが参加し消防機関・警察・市職員と連携し医療活動を行った。

4. 地域に望まれる病院環境の整備と社会貢献

(ア) 利用者サービスの向上

産後の助産ケアの充実を図る目的で「育児・母乳相談外来」を開設し、産後うつになるなど産後不安定な精神状態になることの多い女性ケアを行った。また、乳がん認定看護師による専門外来を開始した。

(イ) 病院の将来構想の検討

患者、職員を守るための院内セキュリティ整備の検討を開始した。また、警察OBを 採用し、クレームやトラブル時の対応強化を図った。

(ウ) 聖隷おおぞら療育センターの体制充実

気管カニューレ挿入者の管理のため、耳鼻咽喉科医師による月に一度の往診を実施し、 診療体制を充実させた。

(エ) 老年期医療の意思決定の啓発

高齢者の方の退院前カンファレンス時に、残された時間をどう過ごしていくのか考えてもらうよう啓発を行っている。退院調整業務の中で退院後の終末期医療についての意思決定について、より良い選択ができるよう介入している。

(オ) 病院ボランティアの組織づくり

院内行事へのお手伝いや衛生材料の整理、松葉杖のメンテナンスなど病院運営に欠くことのできない様々なことを行って頂いた。また小児科病棟において患児へ本の読み聞かせを行うなど患者へ接する活動も増えている。ボランティアを希望する方のために講習会を開催しその育成にも力を入れている。また説明会を3回開催するなど、ボランティアの確保に努め、新たに25名の登録を得た。

(カ) 障がい者雇用の促進

障がい者を対象とした就職説明会へ2014年度に引き続き参加し募集活動を行った。知的障がい者の採用や新たに就労可能な職場を増やすなど、障がい者に対する雇用機会の拡大を行った。

(キ) 医療保護施設としての使命の再認識

高齢者等経済的弱者への支援を目的として、高齢・後期高齢者入院医療費減免制度を 院内において整備し8月より運用を開始した。

(ク) 省エネルギー活動の継続

玄関棟熱源機器の更新や玄関ホール照明のLED化などの改修を行い、目標を上回るエネルギーの削減を図ることができた。引き続き設備の更新を計画的に推進し、更なる省エネルギーに努めていく。

(ケ) 次期中期事業目標の検討

現状に基づいた中期目標の策定を行った。

5. 安定した経営基盤の確保

(ア) コンプライアンスに基づく業務改善の推進

看護必要度等の施設基準の経時的な管理とデータ抽出ツールを作成し、施設基準管理 の精度を向上させた。

(イ) コストパフォーマンスの向上

認知症看護、乳がん看護、緩和ケア看護の認定看護師が新たに増え、各専門分野の知識を有した職員を適材適所に配置することができた。

6. その他公益的事業

- ・院内ボランティアの受け入れ・高校生の看護体験93名・高校生、中学生の職業体験27名
- ・市民公開講座 352名 ・患者、一般利用者対象の栄養講座 35名

医療保護事業

生活困窮者、無保険者、外国人労働者等に対する医療費・室料の減免をおこなった。引き続き 福祉施設等への医師・薬剤師・理学療法士等の派遣協力をおこなった。

第一種助產施設

2015 年度は助産制度の利用はなかった。当院の診療体制の変更が影響したものと考えている。 今後はより入院助産制度に関する情報提供を行い制度の周知を図り、必要とする方が 1 人でも多 く利用できるよう努めていく。

聖隷おおぞら療育センター

「医療型障害児入所施設/療養介護 (重症心身障害児施設)・短期入所 ショートステイ)」

聖隷おおぞら療育センターの施設入所サービスは、2012年の障害者総合支援法の成立以降、医療型障害児入所施設(18歳未満)と療養介護(18歳以上)の並立施設運用になっている。2015年度の利用実績は、4月時点の入所者は133名であったが2016年3月末では137名(期間限定の入所者3名を含む)となった。また、入院病床機能の分化再編成への対応から、12月から看護師職員の配置を7対1から10対1へと変更した。

また、保護者など家族の事情により一時的な入所が必要と判断したケースで実施している期間限定入所の受け入れは、2014年度8名に対し、2015年度は16名と増加しており、緊急時など必要な時に安心して利用できる施設としての役割を果たすことができた。

ショートステイの 2015 年度利用実績は、1 日平均利用者数が 17.5 名 (定員 20 名)、新規契約者は 7 名で契約者総数は 306 名となり、在宅の重症心身障害児者及びその家族を支援する為の重要なサービスとして地域の期待に応えることができた。

あさひ「生活介護」

2015年度は利用者数 43名からスタートし、年度途中の利用開始者が 4名、利用終了者が 2名 あり、45名で年度を終了した。利用実績は、1日平均利用者数 29.7名(定員 35名)となった。職員配置では、看護師 2名体制の継続により、医療的ケアの必要な利用者に安全なサービスを提供できた。また、常勤専従の生活支援員を増員し、入所施設職員の兼務に頼らない体制を作ることで、安定した日中活動支援を継続的に提供することができた。重度の医療的ケアの必要な方が増えている中で、小グループ単位で日中活動に重きを置いたサービスを提供することができた。

児童発達支援センターひかりの子

「児童発達支援・放課後等デイサービス・保育所等訪問支援・障害児相談支援・特定相談支援」

児童発達支援センターは、通所利用の障害児への支援だけでなく、在宅障害児の支援を積極的に行い地域の中核的な療育支援施設としての役割を果たす必要がある。当施設は 2015 年 4 月に保育所等訪問支援を新たに開設し、必要な体制をすべて整えることができた。

児童発達支援は、障害や発達に沿った遊びや保育を重視して実践した。2015 年度は利用者数 28 名からスタートし、年度内の利用開始者が 4 名、利用終了者が 1 名あり、最終的には 31 名となった。利用実績は、1 日平均利用者数 15.6 名(定員 15 名)となった。

放課後等デイサービスは、静岡県西部圏域の特別支援学校に通う医療的ケアのある重症心身障害児を主な対象とし、学校の授業終了後や休日に利用できるサービスである。2015年度は利用者数 27 名からスタートし、年度内の利用開始者が 6 名あり、最終的には 33 名となった。利用実績は、1 日平均利用者数 4.5 名(定員 5 名)となった。

2014年 10 月に開設した相談支援事業所おおぞらは、児童を対象とした障害児相談支援と主に成人を対象とした特定相談支援を合わせて、2014年度は登録者数 79 名であったが、2015年度は新規契約者 104名、契約終了者 6 名と、最終的な登録者数は 177 名となった。

	入	所	短期	入所	あさ	z O	ひかり) の子
	予 算	実 績	予 算	実 績	予 算	実 績	予 算	実 績
入院患者・利用者数	133名	135 名	20名	18名	_	_	_	_
入院単価(医療)	30,000 円	29, 589 円	_					
入院単価(福祉)	8,902 円	8,607円	22,748 円	25,589 円	_	_	_	_
外来患者・利用者数	55 名	56 名	_	_	33名	32名	22 名	22 名
外来単価(医療)	5,550円	5,351円			13,890円	14,007 円	14,340 円	14, 228 円
サービス活動収益	2, 172, 000 千円	2, 168, 727 千円	左記含む	左記含む	112, 400 千円	108, 404 千円	79, 400 千円	81, 581 千円
サービス活動費用	1, 792, 300 千円	1,841,841 千円	左記含む 一	左記含む 一	106, 300 千円	122, 619 千円	55, 900 千円	59, 761 千円

(注:外来患者数、外来単価は歯科を除く)

その他の公益的事業

- ・ボランティアの受け入れ(延人数145人)
- ・中学校、高等学校の福祉・職業体験(延人数5人)

1. 科別入退院状況

1. 竹川八延枕小																	
項目	総診	腎内	ホスピス	消化	循環	呼内	結核	内分	脳卒	呼外	外科	整形	形成	産科	婦人	小児	泌尿
入院	155	139	151	1,200	1,124	1,360	21	156	455	844	1,102	1,216	299	459	274	1,004	828
退院	173	175	303	1,204	1,092	1,417	26	162	433	836	1,145	1,267	313	477	269	1,016	835
延入院	3,984	3,806	9,150	15,059	12,495	28,751	1,780	3,444	10,804	10,701	14,253	28,264	5,037	3,798	1,581	6,477	6,032
1日平均	10.9	10.4	25.0	41.1	34.1	78.6	4.9	9.4	29.5	29.2	38.9	77.2	13.8	10.4	4.3	17.7	16.5
平均在院日数	23.2	23.1	39.0	11.5	10.3	19.7	74.6	20.6	23.4	11.7	11.7	21.7	15.4	7.1	4.8	5.4	6.3
項目	眼科	耳鼻	皮膚	脳外	精神	麻酔	救急	神内	リハ	心外	肝臓	放治	感リ	血内	お小	お内	合計
入院	1,830	465	53	397	442	6	1,059	40	22	252	132	7	28	156	157	1	15,833
退院	1,820	466	52	384	491	5	583	46	81	271	140	7	37	183	143	-	15,852
延入院	5,495	3,683	1,546	8,775	21,820	27	6,487	1,006	4,338	3,726	2,454	41	1,087	5,778	49,496	6	281,181
	150	10.1	4.2	24.0	59.6	0.1	17.7	2.7	11.9	10.2	6.7	0.1	3.0	15.8	135.2	-	768.3
1日平均	15.0	10.1	4.2	24.0	33.0	0.1	17.7	2.1	11.0	10.2	0.7	0.1	0.0	10.0	100.2		

2. 月別一日平均入院・外来患者数

/1/// H 1-0/1/00 /1//	**************************************												
項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
入院	634.6	611.0	624.3	629.1	661.8	654.7	609.0	606.4	622.8	648.8	657.2	637.5	633.0
入院【おおぞら合算】	766.3	743.4	757.2	762.5	796.0	787.4	743.1	744.5	760.1	786.1	796.5	777.2	768.3
外来(医科)	1,067.1	1,071.5	1,040.2	1,056.9	1,014.9	1,109.1	1,028.2	1,074.3	1,122.9	1,088.0	1,040.2	1,047.3	1,062.0
外来(医科)【おおぞら合算】	1,123.5	1,128.2	1,096.9	1,114.4	1,068.7	1,168.5	1,086.8	1,132.6	1,175.1	1,142.0	1,095.0	1,104.3	1,118.3
外来(医·歯科)	1,091.3	1,094.5	1,064.2	1,083.7	1,040.7	1,133.2	1,052.4	1,100.9	1,148.0	1,118.0	1,070.2	1,077.7	1,088.2
外来(医・歯科)【おおぞら合算】	1,150.4	1,153.1	1,123.0	1,144.2	1,096.2	1,194.9	1,113.8	1,161.2	1,202.4	1,173.9	1,126.7	1,137.3	1,146.8

3. 月別入退院状況

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入院	1,294	1,205	1,367	1,345	1,339	1,246	1,312	1,286	1,341	1,368	1,319	1,411	15,833
退院	1,334	1,234	1,303	1,348	1,342	1,256	1,340	1,274	1,448	1,221	1,309	1,443	15,852

4 科别从李惠考勒

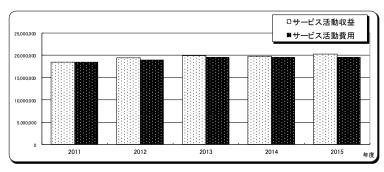
4. 科別外来愚者	数													
項目	総診	ホスピス	心内	外科	呼内	精神	婦人	産科	小児	耳鼻	眼科	整形	形成	泌尿
新来	299	244	-	608	1,103	665	565	193	3,926	1,214	1,346	1,216	378	683
再来	3,035	143	49	11,283	16,918	22,592	8,454	4,537	9,038	14,101	16,004	28,452	6,891	9,516
延患者数	3,334	387	49	11,891	18,021	23,257	9,019	4,730	12,964	15,315	17,350	29,668	7,269	10,199
1日平均	11.3	1.3	0.2	40.4	61.3	79.1	30.7	16.1	44.1	52.1	59.0	100.9	24.7	34.7
項目	循環	脳外	皮膚	呼外	麻酔	消化	腎内	腎透	心外	肝臓	脳卒	神内	内分	救急
新来	546	667	1,056	260	31	1,823	123	1	136	112	140	262	241	9,104
再来	9,385	5,733	14,605	6,734	6,470	12,593	3,468	13,091	2,851	3,639	2,683	3,304	12,079	6,370
延患者数	9,931	6,400	15,661	6,994	6,501	14,416	3,591	13,092	2,987	3,751	2,823	3,566	12,320	15,474
1日平均	33.8	21.8	53.3	23.8	22.1	49.0	12.2	44.5	10.2	12.8	9.6	12.1	41.9	52.6
項目	放治	放射	リハ	化療	感リ	血内	緩ケ	歯科	お内	お小	お歯科	合計		
新来	8	1,969	105	5	66	52	-	1,200	-	4		30,351	※おおぞら歯科:	含まず
再来	5,649	734	14,098	2,101	2,460	4,019	8	6,492	2	16,546		306,127	※おおぞら歯科:	含まず
延患者数	5,657	2,703	14,203	2,106	2,526	4,071	8	7,692	2	16,550	670	337,148		
1日平均	19.2	9.2	48.3	7.2	8.6	13.8	-	26.2	0.0	56.3	2.3	1,146.8		

5. 科別手術件数(入・外合計 ※手術室使用)

項目	外科	呼外	産婦	整形	形成	脳外	眼科	耳鼻	救急	泌尿	心外	循環	腎内	精神	麻酔	脳卒	合計
件数	919	370	223	1,369	594	149	1,898	301	1	465	239	60	64	124	1	2	6,779
比率%	13.6	5.5	3.3	20.2	8.8	2.2	28.0	4.4	0.1未満	6.9	3.5	0.9	0.9	1.8	0.1未満	0.1未満	100.0

6. 最近5ヶ年の	医栗収益・費用動	懸			【単位:千円】
項目	2011	2012	2013	2014	2015
サービス活動収益	18,442,725	19,435,342	19,938,038	19,774,062	20,254,175
サービス活動費用	18,487,290	19,020,195	19,572,500	19,546,370	19,548,033

◆サービス活動収益・費用動態

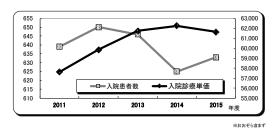


7. 最近5ヵ年の一日当り入院・外来患者数・単価の動態

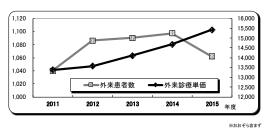
項目	2011	2012	2013	2014	2015
入院患者数	639	650	646	625	633
入院患者数【おおぞら合算】	744	771	771	753	768
入院診療単価	57,600	59,850	61,741	62,267	61,646
入院診療単価【おおぞら合算】	53.626	55.254	56.793	56.928	56.431

項目	2011	2012	2013	2014	2015
外来患者数	1,040	1,086	1,090	1,097	1,062
外来患者数【おおぞら合算】	1,090	1,134	1,140	1,152	1,118
外来診療単価	13,381	13,571	14,102	14,675	15,418
外来診療単価【おおぞら合算】	13,010	13,228	13,724	14,239	14,931

◆入院 患者数・単価の動態



◆外来 患者数・単価の動態

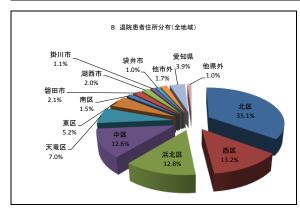


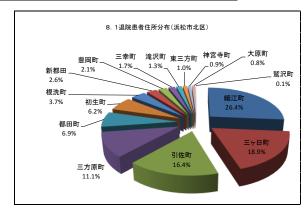
8. 退院患者住所分布(全地域)

項目	北区	西区	浜北区	中区	天竜区	東区	南区	磐田市	湖西市	掛川市	袋井市	他市外	愛知県	他県外	合計
件数	5,558	2,085	2,028	1,995	1,116	817	237	326	313	174	155	271	615	162	15,852
比率%	35.1	13.2	12.8	12.6	7.0	5.2	1.5	2.1	2.0	1.1	1.0	1.7	3.9	1.0	100.0

8. 1退院患者住所分布(浜松市北区)

項目	細江町	三ヶ日町	引佐町	三方原町	都田町	初生町	根洗町	新都田	豊岡町	三幸町	滝沢町	東三方町	神宮寺町	大原町	鷲沢町	合計
件数	1,467	1,048	910	615	384	344	204	144	119	92	74	57	49	43	8	5,558
比率%	26.4	18.9	16.4	11.1	6.9	6.2	3.7	2.6	2.1	1.7	1.3	1.0	0.9	0.8	0.1	100.0



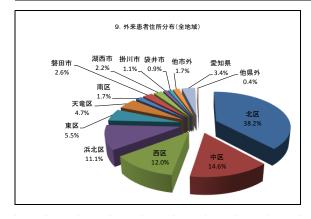


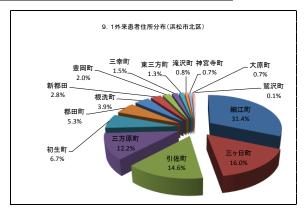
9. 外来患者住所分布(全地域)

項目	北区	中区	西区	浜北区	東区	天竜区	南区	磐田市	湖西市	掛川市	袋井市	他市外	愛知県	他県外	合計
件数	125,517	47,877	39,504	36,392	18,074	15,556	5,510	8,386	7,173	3,537	3,066	5,476	11,263	1,455	328,786
比率%	38.2	14.6	12.0	11.1	5.5	4.7	1.7	2.6	2.2	1.1	0.9	1.7	3.4	0.4	100.0

9. 1外来患者住所分布(浜松市北区)

項目	細江町	三ヶ日町	引佐町	三方原町	初生町	都田町	根洗町	新都田	豊岡町	三幸町	東三方町	滝沢町	神宮寺町	大原町	鷲沢町	合計
件数	39,425	20,104	18,276	15,288	8,369	6,700	4,895	3,466	2,559	1,936	1,584	1,002	931	905	77	125,517
比率%	31.4	16.0	14.6	12.2	6.7	5.3	3.9	2.8	2.0	1.5	1.3	0.8	0.7	0.7	0.1	100.0





聖隷三方原病院併設 介護老人保健施設 三方原ベテルホーム

2015 年度は、介護報酬改定への対応からスタートした。通所リハビリテーションの提供体制を 見直すなど、介護老人保健施設に求められる役割を果たすことで、全体で 2.27%マイナスという 改定率の中でも増収という結果を得た。6 月には在宅強化型施設の再認可を受け、2015 年度は合 計 9 ヶ月間、在宅強化型での算定を行った。施設収益にも大きく寄与し、開設以来、過去最高の 経営成績を収めることができた。

長年の課題であった大規模改修工事についても着手することができた。当初 10 月工事開始を予定していたところ、若干の計画変更を経て 1 月工事開始となったが、利用者の療養環境改善に向けて大きく前進している。

職員に対しては、年度当初に事業計画説明会を実施し、事業方針の浸透を図った。また、事業 方針に沿った勉強会等を開催することで、地域包括ケアシステムにおける介護老人保健施設の役割としての在宅復帰支援や緩和ケアへの取り組みの必要性が理解されたと考える。

1. 在宅復帰・在宅生活継続支援の継続

在宅復帰率は通年で 51%(2014 年度比 6%増)となった。また、介護報酬改定により新設されたリハビリマネジメント加算 II の算定件数も着実に増加している。

2. 安定した経営基盤構築への取り組み

介護報酬改定への対応、及び在宅強化型算定の継続により、過去最高の経営成績を収める ことができた。今後、大規模改修工事による費用増が見込まれるため、安定的な収益確保と 適正な費用管理が不可欠となる。

3. 安全で質の高いケアの提供

年度当初に事業計画説明会を行い、事業方針を職員に浸透することができたと考える。これらの影響もあって、病院への入院件数減少や、看取り件数増加(2014年度比58%増)など、様々な効果が出た。

4. 次世代を担う人材育成と働く支援

新たな取り組みとして、安全衛生委員会主催で腰痛予防勉強会を実施した。リハビリテーション課職員が講義と実技指導を行い、トランスファーの基本技術に関する理解を深めることができた。その他、毎月職員勉強会を開催し、緩和ケア、感染対策、口腔ケア、認知症ケアなどの知識向上に努めた。

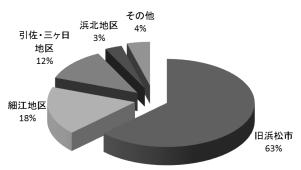
5. 地域社会に期待される施設づくり

療養環境の改善と今後のニーズへの対応を図るべく、長年の課題であった大規模改修工事 に着手することができた。

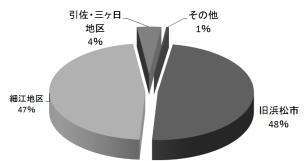
短期入所や通所リハビリテーションなどの在宅サービス利用者を対象とした家族会を年 3 回開催し、在宅生活における家族介護の悩みの相談に応じるとともに、リハビリテーション や食事の勉強会を合わせて実施した。

【数値実績】

入所者 地区别利用状况



通所者 地区别利用状况



入所者 性別年齢別状況(%)

	男(41.4)	女 (58.6)
65 歳未満	3. 7	0.4
65 歳~	3. 3	1. 2
70 歳~	3. 7	3. 3
75 歳~	5. 3	5. 7
80 歳~	10. 2	12.7
85 歳~	8.6	13. 5
90 歳~	4. 1	15. 2
95 歳~	2. 5	6.6

通所者 性別年齢別状況(%)

	男(51.6)	女 (48.4)
65 歳未満	4. 7	1.6
65 歳~	4. 7	1.6
70 歳~	6. 3	3. 1
75 歳~	10. 2	7.8
80 歳~	10. 2	11. 7
85 歳~	10. 2	9. 4
90 歳~	3. 1	10. 2
95 歳~	2. 3	3. 1

入所(短期含)利用状况

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10 月	11月	12 月	1月	2月	3 月
定員(人)	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150
1日平均(人)	128. 4	127. 6	132. 7	135. 6	134. 1	127. 5	120. 5	119.8	111.8	106. 7	107. 1	105. 6
延人数(人)	3, 853	3, 955	3, 982	4, 204	4, 158	3,824	3, 737	3, 594	3, 466	3, 309	3, 106	3, 274
稼働率(%)	85.6	85. 1	88. 5	90. 4	89. 4	85.0	80.3	79. 9	74. 5	71. 1	71.4	70. 4
平均要介護度	3. 0	3. 0	3. 0	3. 0	3.0	2. 9	2. 9	2. 9	2. 9	2. 9	2. 9	2. 9

通所リハビリテーション利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10 月	11 月	12 月	1月	2月	3月
定員(人)	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50
1日平均(人)	29.6	30. 4	29.8	30. 3	31. 3	31. 5	32. 5	30. 2	30.6	28.8	30.9	31. 4
延人数(人)	770	790	776	817	813	819	877	754	766	690	773	847
稼働率(%)	59. 2	60.8	59.6	60.6	62.6	63.0	65. 0	60.4	61. 2	57.6	61.8	62.8
平均要介護度	2. 2	2. 3	2.3	2. 3	2. 2	2. 2	2. 2	2. 2	2. 2	2. 2	2. 1	2. 1

総合病院 聖隷浜松病院

2015 年度は「患者・職員から信頼され続ける病院を目指して」をテーマに地域に貢献できる 医療を提供してきた。高度医療、急性期医療を提供することを使命として、断らない医療の提供、 特定入院料病床の拡充を進めた。5 月に I C Uを 18 床から 22 床に増床し、6 月に H C Uを新設 したことで重症患者の救急搬送の断りを減少させることができた。MF I C Uを 12 床から 15 床 に、小児入院管理料算定病棟を 32 床から 37 床に増床し、特定入院料病床の合計としては 104 床 から 120 床に 16 床増床し高度急性期機能を強化した。8 月には 2 回目となる J C I の本審査を 受審し、1 回目よりも高い評価で認証を取得することができた。9 月には新手術室が完成し、手 術室が 13 室から 15 室に増室したことで手術機能が拡充された。5 月以降の特定入院料病床の拡 大に伴う病棟再編に加え、9 月からはA棟の耐震改修工事を実施し病棟移転や配置転換など年度 を通して人と物の移動が頻繁に行われたが病棟稼働率を維持しつつ安全に遂行することができた。

【病院使命】

"人々の快適な暮らしに貢献するために最適な医療を提供します"

【病院理念】

"私たちは利用してくださる方ひとりひとりのために最善を尽くすことに誇りをもつ" 【運営方針 2020】

私達は常に信頼される病院であり続けます

- ■望まれる良質な医療を提供します ■地域とのつながりを大切にします
- ■良い医療人を育てます ■働きやすい環境を作ります ■健全な経営を継続します

【事業・運営計画】

「利用者価値」の視点(患者・職員の満足のために)

- 1. 利用者満足度の向上
 - (ア) 患者満足の向上
 - ①「この病院に満足している」全肯定 入院 55%以上(実績:60.5%)

外来 45%以上 (実績:28.7%)

②「この病院を家族や知人にすすめたい」全肯定 入院 55%以上 (実績:59.8%)

外来 45%以上(実績:37.1%)

③再診患者の診察待ち時間 2時間以上 前年比 10%DOWN

(実績:待ち時間の有効利用策を検討)

④入院費用の説明の実施率 (パス対象疾患・カテ入院等限定)

80%以上(実績:130%)

- *①、②患者満足度調査の調査項目より
- (イ)職員満足の向上
 - ①「この病院で働いていることに満足している」 57.8%以上(実績:53.6%)
 - ②「家族、友人、知人などが病気になったらこの病院を勧める」

65.5%以上(実績:63.7%)

- ③個別職員(サテライト職員)満足度調査結果 47%以上(実績:41.4%)
- ④目標管理制度、研修、個人面接などを行い、人材育成に力を入れている

74%以上(実績:72.7%)

⑤1年に1回以上、自分の成果や能力向上について評価を受ける機会がある

57%以上(実績:58.2%)

*職員満足度調査の調査項目より

「価値提供行動」の視点(病院機能・質の向上のために) 1. 高度・急性期医療の充実 (ア) 断らない医療の提供 ①救急車受入れ制限時間 120 時間以内/月 (実績:128 時間/月) ②紹介患者断り率 5%以下(実績:6.9%) ③直来患者断り率 30%以下(実績:29.8%) ④救急外来滞在時間 4h 以上を 10 人以下/月 (実績:7.1 人/月) (イ) 特定入院料病床の有効活用 稼働率 94%以上 (実績:82.1%) (1)ICU 算定率 80%以上(実績:84.1%) 重症率 85%以上(実績:83.9%) 稼働率 90%以上 (実績:95.2%) ②NICU 算定率 78%以上 (実績:85.9%) 稼働率 90%以上(実績:87.4%) 3MFICU 算定率 75%以上 (実績:67.8%) (4)HCU 稼働率 75%以上(実績:83.5%) 重症率 65%以上(実績:なし) (5)GCU 稼働率 80%以上(実績:70.0%) (ウ) 低侵襲治療の推進 ①循環器治療件数 (PCI) 2014 年度比 5%増加 (実績:8%増加) ②アブレーション(心筋焼灼術)件数 2014年度比 10%増加 (実績:15%増加) ③内視鏡治療件数(ESD) 2014 年度比 5%増加 (実績:16%増加) ④腹腔鏡下手術件数: 大腸 2014 年度比 7%増加 (実績:5%減少) 婦人 2014 年度比 4%増加 (実績:3%増加) \bigcirc TAVI 2014 年度比 1 件増加 (実績:4 件増加) ⑥大動脈ステントグラフト(EVAR) 2014 年度比 28%増加 (実績:2%増加) 2014 年度比 20%増加 (実績:36%増加) ⑦脊椎最小侵襲手術 (MISt) (エ) 手術室の効率利用 ①手術件数 10,438件以上 (実績:10,222件) 2. 地域との連携の推進 ※地域包括ケアの検討 (ア) 紹介・逆紹介の推進 ①地域医療支援病院紹介率 65%以上 (実績:66.9%) ②地域医療支援病院逆紹介率 40%以上 (実績:71.6%) ③新規紹介加算件数 1,979 件以上/月 (実績:1,979件) (実績:34.2%) ④退院調整加算 14 日以内 40%以上 3. 質の向上 ※JCI認証継続 (ア)診療の標準化 ①クリニカルパス適用率 50%以上 (実績:41.9%) 4. 安全の保証 ※引越し・病棟再編 (ア) 安全管理の徹底 ①転倒転落発生率 (実績:1.03‰) 0.94‰以下 ②転倒転落による 3b 以上の傷害発生率 0.01‰以下 (実績:0.02‰) ③患者誤認によるレベル1以上の発生率 0.08‰以下 (実績:0.06‰) 「成長と学習」の視点(人材確保・成長のために) 1. 職員の現場力の向上

(ア) 現場主体の質改善活動の推進

①CQI サークル活動 提案数 50 件 (実績:37 件) ②CQI サークル活動 完遂率 60%以上 (実績:89%)

- 2. 仕事のやりがい
 - (ア) 認め合う組織づくり

①職場双方向評価のしくみづくり 双方向評価方法の確立(実績:アンケート実施) 双方向評価方法の実施(実績:検討中)

3. 明日を担う人材育成

(ア) 医師の確保

①病院見学者数108 名以上(実績:114 名)②専門医研修医受験者数(10 月評価)25 名以上(実績:18 名)③専門医研修医採用数20 名以上(実績:16 名)

(イ) 医師の評価と育成

①当院初期研修医から当院専門医研修医への入職率 45%以上 (実績:37.5%)

②専門医研修医の教育評価システムのパイロット導入件数 5 診療科以上 (実績:なし)

(ウ) 看護職員の確保

①看護師採用数110名以上(実績:96名)②看護助手採用数19名以上(実績:10名)③純増数20名(実績:63名)

「財務」の視点(経営・運営の安定のために)

1. 目指す医療が出来る安定した財務 ※引越し・再編時の経営維持

(ア) 年度予算の確実な達成

①サービス活動収益 27,780 百万円以上 (実績:28,336 百万円)

②経常増減差額 880 百万円以上 (実績:669 百万円) ③経常増減差額率 3.1%以上 (実績:2.4%)

③病床稼働率 93.5%以上 (実績:93.7%)

【数値指標】

項目	予 算	実 績	対 予 算	対 前 年
入 院 患者数	696 名	697 名	100.2%	100.2%
入院 単 価	74,500 円	75,881 円	101.8%	104.4%
外 来 患者数	1,613名	1,579名	97.9%	99.6%
外来 単 価	15,500円	16, 729 円	107.9%	108.7%
病 床 稼働率	93.5%	93.7%	100.2%	100.2%
サービス活動収益	27,780 百万円	28,336 百万円	102.2%	104.7%
サービス活動費用	27,035 百万円	27,787 百万円	102.8%	107.1%
職員数	1,986名	1,958名	98.6%	103.4%

(注:入院単価、外来患者数、外来単価は歯科を除く)

聖隷浜松病院併設助産所

2015 年度は9名(延べ日数64日)の方の利用があった。利用件数は2014年度比90.1%と減少傾向にある。2011年10月から院内助産システムが稼働し、2014年5月にはMFICUがオープンし、産科部門の療養環境も大幅に改善された。社会的経済的に困難を抱えた妊産婦の方々にも広く利用していただくことができ、受け入れ態勢の強化につなげることができた。2016年度も引続き受入体制の確保と充実を図っていく。

聖隷淡路病院

2015年度は、新病院移転後2年目となり、初年度である2014年度と比較して大幅な収支改善を見せたが、予算の達成には及ばなかった。しかし、淡路市内唯一の分娩機能を持つ産婦人科において2014年7月の分娩開始以来、累計分娩数が100件に達し地域のメディアで大きく取り上げられ、また淡路島初となる地域包括ケア病床を設置し在宅復帰に向けた支援を行う等、地域ニーズに沿った運営に、大きな注目を集めた。

移転後3年目となる2016年度は、全職員が勝負の年という共通の認識を持ち、経営改善に積極的に取り組み、 "職員が目指す医療を実践できる、体制を構築していく。その為にも職員の一人ひとりが情報を集約し病院の運営に参画し、一丸となって事業計画を遂行していく。

1. 新病院の運営振り返りと病院機能の充実

旧病院の一般病棟・療養病棟という病棟構成から、152 床全てを一般病床とした新病院ではあるが、未だ安定稼働を確保できているという状況には至っていない。しかし、淡路島内初となる地域包括ケア病床(40 床)をスタートし在宅復帰に向けた支援を行いながらも、入院単価の上積みを図るなど、地域住民のニーズに則した病院運営を進めつつ経営的な改善も進めた。聖隷淡路地区施設との関係性においても、合同のカンファレンスを定期的に行ったり、病院・施設間で人事異動や地域での採用を行ったりするなど、着実に連携が深まりつつある。職員採用についても、消化器内科の若手医師を採用したのをはじめ、新人看護師や助産師の採用も順調に進み、病棟運営に必要な人数を確実に確保できた。保健事業に関しても、近隣に移転した企業に健診事業のPRを行う事で、新規顧客を獲得するなど今後の保健予防事業に繋がる大きな成果を収める事ができた。

2. 安全な医療サービスの提供と人材育成の推進

医療安全管理、感染予防、褥瘡予防等、各委員会、職場の徹底した推進活動により、事故も無く、アクシデントレベル事例も減少した。臨床工学技士による機器保守管理体制の充実等、安全な医療の提供に向けた体制整備、運用の強化が進められた。人材育成に於いては、病院の将来を担う係長による院内連携係長会を設け、自主的に病院内の問題発見・解決や健康フェスタの企画など自主性とやりがい、役職者としての自覚を育てる試みも行った。更に、年末には役職者及び職場長を対象にした拡大役職者会を開催し、次年度の事業目標を考え、事業目標の設定に参画させることで経営参画意識を高める取り組みも行った。

3. 利用者及び職員の満足度向上

利用者満足度調査を実施し、旧病院と新病院に移転した後との外来・入院の満足度比較を行い、 設備や職員の接遇に関する意見や要望を調査することができた。また、外来に設置されたご意見 箱を活用し、要望やクレームに対して迅速な改善を行い、満足度の高い病院運営に繋げた。更に 職員が働きやすい環境を整備するため、5S活動をスタートさせ病院環境の改善を進めた。

4. コンプライアンス経営とエコロジーの取り組み

内部監査では、兼務者が多く職員の負担は大きいものの、概ね適切な評価を得た。全体のリスクポイントは問題の無いレベルではあるが、一つひとつの業務を精査し、更に高いレベルの業務が行えるよう改善を行った。また、省エネルギー対策にも力を入れ、節電の意識を職員に刷り込む事で、エコロジーへの意識も高めた。

5. 健全な経営基盤の確立

医業収益は 2014 年度比入院診療収益 116.0%、外来診療収益 104.7%、保健予防活動収益 107.2%であった。上半期は予算に近い人数の入院患者数を確保できていたが、下半期に大きく落ち込み、入院収益は未達成となった。費用削減に於いては物品等の見直しを行い、医業収益が増加している中、事業費を 2014 年度比 98.8%に抑える事ができたが、経常利益では入院患者数の大幅な未達が響き、-237,525 千円に終わった。

【無料又は低額診療事業】

無料又は低額診療事業を行う施設としての使命感を持ち、事業内容の広報及び生計困難者の受入に力を入れた。具体的には、院内掲示・病院ホームページへの事業内容掲載・淡路市社協の広報誌への記事掲載依頼を行い、当事業の周知広報に努めた。減免実施率は10.9%であった。

【数值実績】

	予 算	実 績	対予算	対前年		予 算	実 績	対予算	対前年
入院患者数	120 名	107名	89.2%	116.3%	外来患者数	130名	128 名	98.5%	105.0%
入院単価	29, 300 円	28,832 円	98.4%	99.9%	外来単価	8,620円	8,533 円	99.0%	100.3%
サービス	1, 745	1, 554			サービス	1, 856	1,770		/
活動収益	百万円	百万円	89.1%	112.5%	活動費用	百万円	百万円	95.4%	104. 7%
病床利用率	78.9%	70.4%	89.2%	116.4%	職員数	171 名	165 名	96.5%	105.8%

聖隷横浜病院

2015年1月から新院長体制となり、将来構想委員会を中心にあらためて中長期の課題を明確にした。将来構想は"4本柱"としてまとめ、「救急診療体制の再構築と強化」「高齢者医療(生活支援型医療)の充実」「将来を見据えた診療体制の再編」「地域連携部門の強化」を課題として掲げた。2015年度はこれら4つの課題を事業計画として具現化し、目標達成のために全職員が一丸となって取り組んだ年度であった。

1. 安全で質の高い医療を効率的に提供する

心臓血管センター内科医師による 24 時間切れ目のない救急診療など "断らない" 診療体制の構築に努めた結果、救急車受入率 (受入件数/要請件数) は全日で 2014 年度の 76%から 83% へと改善した。また懸案であった当院への救急車の要請件数も増加し、受入総件数は過去最高の 3,905 台となった。2016 年度は脳神経外科や整形外科領域の診療体制の充実を図り、受入率 90%、受入総件数 4,000 台以上を目指す。

東 4 病棟を診療報酬基準の「地域包括ケア病棟」として届出を行い、5 月から稼働を開始した。急性期診療を終えた患者の在宅復帰支援を行うことが目的であり、まずは院内の対象患者を確実に当該病棟に転棟させる流れを確立した。2016 年度は総合診療科の医師を中心に他の急性期病院からの対象患者の受入や在宅からのサポート入院を拡大していく。

安全管理体制の充実を図るため、レポート管理システムを導入し、インシデント・アクシデント事例の速やかな報告が可能となった。新病院建築計画は実施設計が完了し、2016年1月に一般競争入札を行って施工業者が決定した。2016年3月より準備工事を開始し、まずは新立体駐車場整備を先行して本格的に工事を進めていく。

2. 利用者の立場に立った医療を提供し、地域連携の推進を図る

7月に保土ヶ谷区内の急性期3病院(当院・横浜市民病院・横浜保土ヶ谷中央病院)間で地域医療連携協定を締結した。3病院が培ってきた診療実績や地域医療機関との連携体制を礎とした包括的な協力関係を築くことで地域連携に関する課題に適切に対応し、地域医療全体の質向上に寄与したい。11月に保土ヶ谷医師会主催で市民公開講座が開催され3病院の院長が揃って講演を行ったほか、今後は具体的な連携施策を地域内で可視化していく。

2016年1月にドック・健診科を開設し、横浜市特定健診の受診者枠の拡大と新たに人間ドックの実施を目指す。また、当院利用者が安全・快適に通院することを促進するため、横浜市交通局と連携して最寄駅を経由する新たなバス路線の開設を検討した。結果、2016年4月より地域貢献型バスサービス「聖隷横浜病院循環」と命名された新路線が運行されることとなった。

3. 人材を確保、育成する

将来構想を踏まえて戦略的な医師採用活動を行った。4月に心臓血管センター内科を開設し、 複数の医師をチームで招聘したほか、2016年1月にリウマチ膠原病センター・脳血管センター (脳血管内治療科)・総合診療科を開設し、実力のある部長医師を採用した。2016年採用の初 期研修医の募集は連続して定員6名のフルマッチであった。

4. 職員が働きやすい環境を整える

新外来棟建築計画に伴い院内保育所「ひだまり保育園」は敷地内の旧看護師宿舎「フェリーチェ」の 1 階に新築移転し、2016 年 2 月より保育を開始した。同「フェリーチェ」は 2 階を訪問看護ステーションの事務所として、 $3\sim4$ 階はロッカー室・事務室等に改修され、2016 年 2 月から使用を開始した。

5. 長期安定的に発展するために経営基盤を確立する

新たな診療体制の整備と地域包括ケア病棟の設置により、新規入院患者増と効率の良い病床管理が行われ、2016 年 2 月の病床稼働率は過去最高の 94.6%となった。年間の平均稼働率も 2014 年度の 74.3%から 83.3%へと改善された。心臓血管センター内科のPCI (経皮的冠動脈形成術)等のカテーテルを使用した治療や検査件数が増え、診療単価は 2014 年度と比較して 115.2%上昇した。年間のサービス活動収益は 2014 年度比で約 12 億円の増収となり、最終の経常増減差額も 2014 年度決算を大幅に改善することができた。

6. その他の公益的事業

- (ア)健康講座の院内開催(心臓血管センター内科医師による患者及び地域住民を対象とした「ちょっと良い話」を毎週月曜日に開催)
- (イ) 市民公開講座の外部開催(神奈川産業振興センターにて広く市民を対象として2回開催)
- (ウ) ジャパンマンモグラフィーサンデーの実施(日本乳がんピンクリボン運動、31名が受診)
- (エ) 高校生看護体験の実施(11名の参加)
- (オ) 中学生職業体験の実施(近隣中学生を対象に看護師等の1日体験を実施。6名の参加)
- (カ) 救急フォーラムの開催(市内救急隊員を対象とし10回開催、延べ282名の参加)

【無料又は低額診療事業】

生活困窮者に該当する低所得者に広く事業を実施し、国が定める基準 10%を超えて 11.7%の 実績であった。また、神奈川県医療福祉施設協同組合を通じて難民支援事業に参加し、イラン 国籍の患者 1 名の受入れを行った。

【数値実績】

	予算	実績	対予算	対前年
入院患者数	245 名	250 名	102.0%	112. 1%
入院単価	45,042 円	50,408 円	111.9%	115. 2%
外来患者数	590 名	539 名	91.4%	100.0%
外来単価	11,200 円	12,018 円	107. 3%	108.9%
サービス活動収益	62.9 億円	67.8億円	107. 7%	121. 2%
サービス活動費用	62.2 億円	69.3 億円	111.4%	115.6%
職員数	504名	506 名	100.3%	103.0%

聖隷佐倉市民病院

2015 年度は、地域包括ケア病棟の開設、腎臓内科医を中心とした医師増員、関節センター・摂食嚥下センターの開設による診療機能の拡充・強化により、多くの患者を受け入れられる体制を整備した。

入院患者の増加により下半期以降は満床が続き、救急隊からの搬送を他医療機関へ依頼せざる を得ない状況が発生したこともあり、増床計画の検討を開始した。

2015年度の主な活動は以下のとおりである。

- 2015年 4月 地域包括ケア病棟の開設、関節センターの開設
 - 8月 知っ得・納得!・腎臓祭!!の開催(共催:トランスプラントなのはな会)
 - 9月 一般撮影装置をFPDシステムに更新
 - 10月 摂食嚥下センターの開設、夜間化学療法外来の開始
 - 11月 第10回院内学会、第12回がんワクチン療法研究会学術集会の開催
- 2016年 3月 A号館照明をLEDに変更

1. 患者の笑顔につなげる安全で質の高い医療の提供

次期システム導入プロジェクトを発足し、基本方針の重要項目のひとつに「安全で質の高い医療の提供」を掲げ、電子カルテ導入の検討を開始した。医療安全の更なる強化を図るため、IAレポートシステムへの入力を推奨する講演会を実施し、IA報告を積極的に行う組織風土の形成に取り組んだ。

乳腺外科では夜間の化学療法外来を開始し、日中に働きながら抗癌剤治療を行っている患者への支援を行うことができた。また、一般撮影装置をFPD (Flat Panel Detector)システムへ更新し、高解像度画像による質の向上とともに、低線量での撮影で患者負担を低減することができた。

2. 地域のニーズにあった病院機能の変革

急性期治療後のリハビリ・在宅復帰に向けた医療や支援を行うため、一般病棟のひとつを地域包括ケア病棟(38 床)に変更した。また、同病棟に入院中の患者の、在宅復帰に向けてのリハビリ訓練や患者同士のコミュニケーション・談話場所として「さくらルーム」を病棟に併設してオープンした。腎臓内科外来・耳鼻咽喉科外来において、紹介患者の事前診療予約制の導入を行い、紹介患者の待ち時間軽減に取り組んだ。また、看護部、事務・医療技術部の役職者の多くが佐倉市認知症サポーター養成講座を受講し、認知症への理解を深める取り組みを行った。

3. 職員が笑顔で働ける職場づくり

院内保育所を利用する職員の要望に応え、開所時間を 8 時から 7 時 45 分へ変更するなど、働きやすい環境の整備に取り組んだ。また、職員用駐車場エリア拡大及び駐車場環境整備を行った。 年末の職員慰労用イベント・院内掲示物に工夫を凝らし、満足度向上のための企画を、経営状況にあわせて定期的に実施した。

4. 安定した経営基盤の確保

一般病棟と地域包括ケア病棟間のベッドコントロールを適正に行う運用を構築し、病院全体の病床稼働率を向上することができた。腎センター、整形外科のチームが院外での講演活動を積極的・戦略的に行い、院外に向けて聖隷ブランドの発信を行った。また、健診センターの収益は2014年度比115.0%となり、新築工事の投資効果が表れた。

5. 人材の確保と育成

研修医受入体制の強化に継続して取り組んだ結果、2015 度(2016 度研修開始)もマッチング募集定員(3 名)を満たし、4 年連続の初期研修医採用に繋がった。また、看護部と事務部の協働で看護師採用活動にも力を入れ、7 対 1 看護体制が維持できた。

6. 公益的事業

- (ア)地域住民向け健康講座の開催(市民公開講座5回、聖隷看護フェア・聖隷リハビリフェア・ わくわく健康教室・糖尿病週間イベント各1回)
- (イ) 腎臓病教室の開催 36 回
- (ウ) 糖尿病教室の開催 36 回
- (エ) ロビーコンサートの開催6回
- (オ) ジャパンマンモグラフィーサンデーの実施(受診者数27名)
- (カ) 千葉県看護協会への講師派遣6名
- (キ) 千葉県看護協会「まちの保健室」派遣7名・公共行事への派遣11名

【数值実績】

	予 算	実 績	対予算	対前年		予 算	実 績	対予算	対前年
入院患者数	271 名	264 名	97.5%	107.8%	健診受診数	80 名	96名	120.0%	106. 7%
入院単価	52, 270 円	51,433 円	98.4%	97.7%	健診単価	30, 150 円	24, 212 円	80. 3%	105.3%
外来患者数	773名	752 名	97. 3%	102.0%	サービス活動 収益	8,926 百万円	8,76 <mark>1</mark> 百万円	98. <mark>1</mark> %	105. 6%
外来単価	12,720 円	12, 928 円	101. 5%	101.6%	サーヒ゛ス活動 費用	8, 703 百万円	8, <mark>597</mark> 百万円	98. <mark>8</mark> %	103. 8%
病床利用率	89. 1%	86.8%	97. 4%	104. 7%	職員数	672名	654名	97. 3%	103. 8%

【無料又は低額診療事業】

昨年度に引き続き、生活困難者への経済的支援に力を入れた。減免実施率は18.9%であった。

せいれい訪問看護ステーション佐倉

地域包括支援センターと連携して、地域住民を対象にした在宅医療の講演会を開催し、訪問看護の利用促進を図った。2015年度の主な動きは以下のとおりである。

介護保障	É	予 算	実 績	対予算	対前年	医療	保険	予 算	実 績	対予算	対前年
利用回数	女	250 回	243 回	97. 2%	118.5%	利用	回数	85 回	74	回 87.19	89. 2%
単位	Ĭ	8,500円	8,773 円	103. 2%	100.3%	単	価	11,000円	10, 959	円 99.69	100.8%

保健事業部

2015年度は、「経営基盤の安定」と「人材育成」を方針として事業運営を行ってきた。国の「日本再興戦略」の中で、健康・医療分野が、戦略市場創造プランの一つとして位置づけられており、国民の健康寿命の延伸と経済再生との一体的な推進を目指しており、特に「効果的な予防サービスや健康管理についての充実により、健やかに老いることができる社会」の構築にあたっては、保健事業部として顧客企業や健康保険組合に対して産業保健・健康経営への取り組みを開始し、結果が現れはじめた。

2015 年 12 月より、施行されたストレスチェックについては受入れ体制を整えることができ、2016 年 4 月より本格的な受入れが開始された。内部業務的には、請求業務の一元化や予約センターの業務改善・効率化を図ることができ、他業務についても積極的に且つ継続的に取り組んでいく。また、顧客企業や健康保険組合から要望が多かった聖隷沼津健康診断センターとのデータ統合が年度末に完了され静岡県内全域における聖隷保健事業グループによるカバー体制が整った。

保健事業部における経営基盤の強化のための取り組みとしては、予防検診センターの施設内受診者確保と静岡地区における改善について重点を置いて取り組んだ。予防検診センターは、施設内の総受診者数が74,360人(対予算比106.0%、対前年比105.5%)となり、予約業務改善等による結果を出すことができた。静岡地区(健康サポートセンターShizuoka施設内、施設外、静岡健診クリニック)全体では総受診者数が99,621人(対予算比101.9%、対前年比108.4%)受診者数としては予算達成できたが、サービス活動収益としては1,516,673円(対予算比97.5%、対前年比104.8%)で予算未達成という結果であった。

保健事業部全体では、受診者総数は対予算比 103.9%、サービス活動収益は対予算比 101.4%と共に予算達成となったが、サービス活動費用が対予算比 102.4%と超過した結果、経常増減差額についても予算未達成となった。

【数値実績】

	予算	実績	対予算(%)	対前年(%)
人間ドック	59,092名	58,781名	99. 5%	102.6%
健康診断	448, 401 名	482, 315 名	107. 5%	108. 2%
外来精密	42,623 名	40,888名	95.9%	99. 2%
サービス活動収益	7, 330, 300 千円	7, 433, 113 千円	101.4%	105. 2%
サービス活動費用	7, 124, 640 千円	7, 294, 772 千円	102.4%	105. 1%

聖隷健康診断センター

2015 年度は、利用者のニーズに対応した予約枠の確保と、検査時間・待ち時間の削減対策に着手した。2F・3Fに分かれていた採血コーナーを 2Fに一本化し、採血検査での待ち時間の削減、さらには検査業務の効率化を図ることができ、全体で検査時間の削減を図ることができた。

利用者に対して継続的な健康管理として二次精密検査については、2014年度から引き続き3ヵ月後の再検査未受診者へ受診勧奨を行い、精密検査増を行った。しかし、循環器科医師の退職により、精密検査の受け入れが減少したため、2014年度に比べ300件減少した。

サービス活動収益は、4 月、9 月にそれぞれ医師の採用ができたことで、1 日ドックの利用者増を図ることでき、2014 年度比 102% と増加した。また、P E T 健診の利用者数が 2014 年度比 103% となり、高単価なドックの利用が増加した。結果、予算に対し 12,720 千円の増収となり、経常利益は 160,000 千円を上回った。

2016 年度は、新たなドックとしてMCIドックを開始する。利用者への質の高いサービスとして、4 月に人間ドック食にてサラダバーを始め、人間ドック利用者の健康意識の向上、リピート率の向上を図る。5 月に施設内の改修を行い、診察室の増室、待ち時間の削減、利用者増を図っていく。引き続き、保健指導・栄養指導・運動指導を柱としたより質の高いサービスが提供できる体制を構築し、経営の安定、人材の育成を推進する。

1.質の高いサービスの提供

待ち時間削減が課題である中、2014年度に導入した人間ドックの指定時間受付は順調に稼動し、受付での待ち時間の削減ができた。また 2F・3F の採血コーナーを統合し、採血検査での待ち時間を削減することができた。

人間ドック利用者の健康意識を高めるために、栄養面では野菜を多く取ってもらう試みとしてサラダバーの導入検討を行い、12月に試験的に導入した。利用者から高評価を得たことから、2016年4月より導入することとなった。また、運動面では、GENKIを活用した人間ドック体操を人間ドック利用者待合フロアにて運動指導士が説明をするなど積極的なアプローチを行い、利用者増を図った。結果、人間ドック体操の利用率は30%を越えた。

顧客である企業や、聖隷諸施設に対し、予約が取り易いと好評であった出張予約センターを 拡大したことで利用者増に繋げることができた。

一方、継続的な課題である混雑緩和、待ち時間削減を目的に、人員体制や予約枠の確保を含めリアルタイムドック導入の検討を行ったが、現在の利用者数を実施できない可能性があるため、再度検討する。

2. 経営基盤強化のための取り組み

人間ドック利用者の増加を図るため、2F・3Fの採血コーナーを統合させ、待ち時間の削減、業務の効率化を図った。人間ドックの予約枠が2014年度に比べ1日2人増加することができ、多くの利用者の受け入れができた。しかし、当日のキャンセルが平均3.8人であったことから、今後、予約枠の考え方を含め、検討していく。

2014年度に始めた利用者への「お勧めオプション」は、利用者がオプション検査を選ぶ際の参考となり、疾病予防に繋がるだけでなく、経営効果でも単価増に貢献している。

3. 人材の育成と確保

CSアンケート、ESアンケート、目標参画を活用して職場長面談を実施し、目標達成に向けた支援を行った。医療安全委員会、ISMS委員会にて各職場で提出されたIAレポートを分析し、自職場での共有のみならず、他職場での課題とそれに対する取り組みを共有でき、施設での課題解決に繋げることができた。

また、資格を取得した職員を全体会で報告するなど、職員のモチベーション向上につなげることができた。

4. 連携強化

産業保健チームとして、保健事業部が持つデータを活用し、健康支援課・統計情報課が連携し、各企業様・健保様への積極的な提案を行うことができた。また、作業環境測定室をもつ健診施設として、地域・企業検診センターと連携し、顧客である企業に対し、特殊健診の適正化を勧めることができた。

また、各センター間で業務応援を行い、事業部内での業務連携を進めることができた。

5. 健康経営への取り組み

健康経営委員会と衛生委員会が連携し、職場環境改善・メンタルヘルスに関する目標の可 視化を行い、健康経営に取り組むことができた。

また、衛生委員会にて職場巡視を毎月実施し、職員の椅子の更新、看護休憩室の整備など労働環境整備を行った。

健康情報発信Webサービス「Qupio(クピオ) for 聖隷」の利用については、全職員への利用促進を図り、80%を超えるログイン率となった。

各職場・職員の声を聴くため、ESアンケートを行い、職場長と面談を実施したことで、各職場での問題が可視化でき、さらに問題解決に向けて具体的に取り組むことができた。

6. その他公益事業

- (ア) 自治会(萩丘地区他)無料講演の実施。4回実施 121名参加。
- (イ)シニア倶楽部向け無料講演の実施(冨塚地区他)3回実施 140名参加。
- (ウ) 浜松市商工会主催いきいきフェスタ、いかまい検診音楽祭 2015 へのブース参加。

【数值実績】

人間ドック	PET 健診	一般健診	特定保健指導	婦人科健診
26,065名	291 名	51,034名	3,083名	21,907名
特殊健診	外 来	合 計	サービス活動収益	職員数
2,312名	18,716名	123, 408 名	2,440,801 千円	223 名

聖隷予防検診センター

2015 年度は、現場力をさらに高める必要があり、聖隷予防検診センターとして特色のある健診内容の再検討を実施した。年度初めより、係長・中堅を主体にメンバーを選任し、新規スピード・ドック運用、時間差受付再検討、オプション事前推奨運用、健康経営活動などの検討を行い、これら全ての運用が改善でき、利用率及び利用者満足度も向上した。メンバーも多くの経営企画に携わることで、施設・職場間を超えた連携強化と、既存概念に捉われない広い視野を持った人材に成長した。予約受付変更や営業強化も行い、利用者増に繋がった。1.2.3 階フロアと階段の照明をLED化、2.3 階床と椅子を更新し、省エネ対策及び環境改善にも努めた。継続して、施設運営を支える職員の心身両面の健康が基本であり、職員満足度を高めつつ、自らの組織が健康経営を意識し、利用者の期待に応えられる施設づくりを実践していきたい。

経営数値としては、受診者数 74,360 人 (対予算 106.0%、対前年 105.5%)、医業収益 1,374,709 千円 (対予算 101.1%、対前年 104.5%) であった。

【事業・運営計画】

1. 利用者の目線に立った質の高いサービスの提供 (顧客視点)

利用者への当日オプション追加推奨及び検査項目相談を目的に、受付横に看護スタッフの窓口を設け、健診コンシェルジュを常設した。健診コンシェルジュの積極的な勧奨が、サービス向上及び単価UPに繋がった。4月より時間差受付を開始し、6月より利用者滞在時間短縮及び業務効率向上を目的に、10枠/日、1,000円/枠にてスピード・ドックを開始した。当初の利用率は50%であったが、アプローチの検討・改善を行い、平均利用率を80%に上げることが出来た。また、業務効率を高めたことで施設内検査全般の流れも良くなり相乗効果が出た。利用者満足度も高いことから、今後さらに、スピード・ドックを利用者へ広め、稼働率を上げていきたい。フロアコンシェルジュサービス向上のため、受付順番・コース別などを視野に入れた検査の順番をパターン化して、待ち時間を感じさせない案内に変更した。これにより利用者待機状況を日々フロア責任者が監視して、誘導を積極的に行うと伴に日々の改善に繋げていった。環境改善として、2.3階フロア床をマットに変更、3階の天井照明をLED化、待合椅子を変更した。

2. 経営基盤安定のための取り組み

利用者数の確保と拡大のため、オーダーメイド健診の提供・予約サービスコーナー常設(提案型健診)を行った。特に予約サービスは、利用者個々に対する疑問や健診内容を効率よく聞いて予約に結びつけることができた。また、継続的に予約電話に対するとりこぼしの無い運用を2014年度末より実施し、浜松地区における利用者拡大に繋げることが出来た。リーフ配布などの地域を絞った営業の効果も出ている。二次精密受診率も個人・事業所に対して積極的に啓蒙活動が実施でき件数増加に至った。利用者ニーズに沿った商品の開発では、センター独自の新ドックプラン・新オプション項目の運用を開始し、利用者を増やすことができた。

3. 人材の育成と確保

中堅・係長による新規提案・改善プロジェクトチームを立ち上げ、他職場との交流と連携強化を図る(現場力を高める)活動として、スピード・ドック及び、午後健診運用検証・オプション検討を行った。各課運用調整や意見交換を活発に実施することで、医師・看護・技師・事務の連帯感が生まれ、スピード・ドックの運用が開始出来た。キャリアアップへの支援では、全体会議において資格取得者発表を行い、職員への意欲向上を促すことが出来た。外部医師紹介会社への直接訪問及び、募集要項の見直しを行った。問合わせ及び医師面談は、5名程行ったが、マッチングまで至っていない。継続して消化器内科・婦人科専門医招聘に向けても活動していきたい。

4. 健康経営の実践と発信

健康情報発信Webサービス「クピオ for 聖隷」へのアクセス・ログイン率を月次で高める活動を行い、ログイン率 80%達成職場が 14 職場中 7 職場となった。また、イベントとしてボーリング大会開催や、ウォーキングイベント参加など、センター独自で開催運営した。職員環境改善では、1 階職員エリアにおける天井照明のLED化及び椅子の部分的な変更、ユニフォームの変更を行った。しかし、休憩スペースが縮小されて不便をかけている。グリーンペンション 2 室を契約したことで、さらに有効利用できるように広めて行きたい。

5. データヘルス計画に向けて

保健事業部グループ内(沼津を含む)のデータ連携を構築し、運用基盤が構築できた。利用者に対し、健康情報発信Webサービス「クピオ for 聖隷」を利用した活動も利用者への登録推進をして着々と会員を増やすことが出来ている。

6. 連携の強化

大学 (浜松医科大学・名古屋大学・東京大学)・企業と共同研究参加を積極的に実施し、保健 事業部の情報資産を提供することで、予防に繋げられるよう継続していきたい。保健事業部内 職員による業務応援体制では、医療技術部門が積極的に調整でき、費用削減に至った。

7. その他公益事業

- (ア) 近隣地域中学生に対する職業体験の活動:聖隷クリストファー中学生2名
- (イ) 日本乳がんピンクリボン運動によるマンモサンデーによる乳がん検診:125名
 - (J. POSH: Japan Pink-Ribbon of Smile and Happiness campaign)

【数值実績】

宿泊ドック	一日ドック	一般健診	特定保健指導	婦人科健診
655 名	17, 258 名	27,418名	1,941 名	14,668名
特殊健診	外 来	合 計	サービス活動収益	職員数
1,765名	10,655名	74, 360 名	1,356,036 千円	172 名

聖隷健康サポートセンターShizuoka

2015 年度は、前年に引き続きより多くの方に利用して頂くことを第一目標とした。その結果、聖隷健康サポートセンター Shizuoka (以下サポートセンター)では対前年比 102.9%、聖隷静岡健診クリニック(以下健診クリニック)では、対前年比 103.9%、巡回健診については対前年比 128.8%となり、いずれも 2014 年度実績を上回ることはできたが、対予算では未達成となった。

設備面ではサポートセンターのトイレ増設工事により顧客ニーズに対応することや健診クリニックにおける耐震検査の実施により、より安心して健診を受けられる体制を整えることができた。 2016 年度は、出張健診事業をさらに拡充して、既存のサポートセンター、健診クリニックの 2 施設とともに顧客満足度と稼働率を上げる施設運営を実施し、上記 3 部門を有機的に連携させることにより静岡地区の経営基盤安定を図っていきたい。

【事業・運営計画】

- 1.ご利用者様の目線に立った質の高いサービスの提供
 - (ア) 利用者のニーズに合ったサービスの提供。
 - ①おすすめオプション検査の実施。(1,846件 ¥7,940,000)
 - ②健診クリニックにおける耐震検査の実施(6月)、土曜営業の再開。(年間14日)
 - (イ) CSアンケート調査の実施。(8月~10月 回収件数 1122件)
 - (ウ)『ストレスチェック』の受注開始。(2015年度;2社757名)
 - (エ) 全国労働衛生団体連合会 労働衛生サービス機能評価認定の取得。(2月)

2. 経営基盤の安定

(ア) 閑散期対策の実施。

静岡市プレミアム商品券事業所申請、各種キャンペーン(オプション検査、職員)の実施。

- (イ) より多くの利用者を受け入れるためのサービスの実施。
 - オプション検査: 抗CCP抗体検査(4月)、抗ミュラー管検査の開始(6月)、婦人科 プレミアムドック『いきいき』の開始(8月)、内視鏡検査の増枠(月曜)、健診未実施 地域(清沢、羽高)での健康診断の実施。
- (ウ) 事業間連携の推進。
 - ①聖隷富士病院との連携による富士市特定健診の受け入れ。(568 名)
 - ②各種外来(内科精密、乳腺、婦人科)の増枠による精密検査受け入れ体制の強化。
- (エ) 結果説明の待ち時間を利用した健康情報発信Webサービス「Qupio(クピオ) for 聖隷」の利用勧奨。

3. 人材の育成

(ア) 日本人間ドック学会等各種学会発表支援、各種資格取得支援: MMG(3名)、CT(1名) 認定技師、衛生管理者(1名)、内視鏡技師(1名)、受胎調節実地指導員(1名)。

- (イ) 職場間連携を意識した世代別ミーティングを実施。4月に各グループで発表会を行った。
- (ウ) 継続した勉強会(健診カンファレンス、肺がんをなくす会、乳腺勉強会)の実施。
- (エ)全体会にて事例を紹介し『おもてなし』の大切さ、意識を継続して伝えた。

4. 健康経営の実現

- (ア)全体会にて、お褒めの投書や資格取得した職員を紹介することで、職員一人ひとりが やりがいや魅力を感じることができる施設づくりを行った。
- (イ)衛生委員会を中心に、職員の健康意識を向上させ、精密検査受診率 75%、職員ドックに おける保健指導受診率 80%とした。

5. 連携の強化

- (ア) 静岡市、市内健保企業等、健診機関、医療機関との連携推進。
 - ①NPO法人主催の講演会に市内健診機関とともに健診紹介ブースを設置。(9月)
 - ②市内健診機関との情報交換会を開催し、静岡市への上申書の提出を行った。(2月)
 - ③聖隷沼津健診センターとのシステム統合に向けた準備。
- (イ) リレーフォーライフ、大浜ビーチフェスタ等、地域イベントへの継続参加。
- (ウ) 静岡県立大学との研究協力の実施。(4 研究)

6. その他公益事業

(ア) 施設見学受入れ(大原簿記情報医療専門学校他)9名

見学期間:2015年4月13日、8月21日

(イ) 静岡産業技術専門学校実習受入れ

実習期間:2015年5月25日~6月5日(顧客サービス課)

(ウ) 静岡県委託事業 緊急未就職卒業者就職応援事業 実習者3名

実習期間:2015年5月25日~6月26日(顧客サービス課・経営事務課)

- (エ)静岡県立総合病院 前期研修医に対する地域医療研修(診療所研修)前期研修医3名実習期間:2015年9月1日、2015年9月29日、2016年2月2日
- (オ) ワークラリー静岡(常葉大学教育学部他)7名

実習期間:2016年2月17日、2月18日、2月19日(顧客サービス課・経営事務課)

(カ) 静岡県主催 "健診うけましょうキャンペーン" への参加 (職員2名)

【数值実績】

1日ドック	一般健診	特定保健指導	婦人科健診	特殊健診
14,512名	55, 121 名	1,738名	14,512名	2,221名
外来	合計		サービス活動収益	職員数
11,517名	99,621名		1,516,673 千円	144 名

地域・企業健診センター

2015 年度、地域・企業健診センターは、健康診断(検診車両)の稼動率向上を図ることで、中小零細事業所等の健康診断を促進した。結果、労働安全衛生法にかかる新規顧客の獲得は377事業所、当該受診者5,505人と良好の成果を得た。また、ハイリスク事業所や新規獲得事業所等に対して産業保健活動を推進し、顧客との信頼関係を構築した。市町村健診では、北設楽郡東栄町の新規獲得や島田市の複数年契約の更新など順調に推移することができた。また、静岡県下のファミリー健診の低迷を課題として、全国健康増進協議会等他の健診機関との連携を強化した。

また、聖隷健康サポートセンターShizuokaとの巡回健診連携強化など、収益の確保のみならず新たな事業展開につながる基盤整備の一年であった。

2016 年度は、2015 年度の取り組みを継承し、課題とした医師派遣費用増加への対応、ストレスチェックの事後指導等への対応、聖隷沼津健康診断センターとのデータ統合などさらなる発展を目指す。また、競合機関との価格競争も激化している現状を鑑みれば、産業保健活動を基軸に保健事業部でしかできないサービスを展開することが重要と考える。

経営数値としては、受診者数 284,595 人 (対予算 104.9%、対前年 108.0%)、医業収益 2,054,694 千円 (対予算 104.2%、対前年 106.7%) と好調であった。

- 1. 質の高いサービスの提供
 - (ア) 精度管理と職員教育の推進
 - (イ) 情報セキュリティマネジマントシステム (ISMS) 活動を通してプロセスアセスメントシートを生かし、リスクマネジメントを強化
 - (ウ) 県内一元管理を推進し、統計情報の有効活用で差別化を推進
 - (エ) 利用者目線でのサービス提供
 - ①レディス健診のアメニティの充実(託児施設等)
 - ②検診車両の更新(29 号胃部検診車、66 号超音波検診車)と充実した整備計画の推進
- 2. 経営基盤安定のための取り組み
 - (ア) 利用者数の確保と拡大
 - ①被扶養者健診・ファミリー健診を拡大
 - ②午後健診の稼働率を向上させ、中小零細事業所等の健診を推進
 - ③下半期は法令順守によるストレスチェックの運用開始
 - (イ) オプション検査の検討
 - ①予防医学に資する血液検査等オプション検査の推進
 - (ウ) 営業力強化ツール開発
 - ①ハイリスク事業所への産業保健の展開
 - ②各企業・事業所への適正検診項目の見直しと推奨(法令順守への勧奨)
 - ③特殊健診CD管理媒体の検討・開発

- (エ)検診車配車管理と固定資産を有効に活用する ①車両・設備等の稼働率の向上
- 3. 人材の育成と確保
 - (ア)「目標参画」と連携したOJTを推進
 - (イ) 顧客管理充実のため渉外担当職員(運営管理課、営業契約課)のスキル向上
 - (ウ) 各課職員において衛生管理者国家資格の取得
 - (エ) 実践型の産業保健教育の実施

4. 健康経営の実践と発信

- (ア) 健康経営委員会と衛生委員会の連携強化
- (イ) 各人の健康づくり支援として健康イベントの企画開催
- (ウ) 育児や介護者をかかえる者、身体に障害者があっても働き続けられる職場環境づくりを 推進
- (エ) 禁煙活動の推進

5. データヘルス計画に向けて

- (ア) 保健事業部各施設内および聖隷沼津健康診断センターとのデータ連携を構築
- (イ) 事業所に健康情報発信webサイト「クピオfor 聖隷」を利用し、継続した健康管理サービスを展開
- (ウ) 保健事業部保有データを積極的に活用し、健康経営の推進など新たな産業保健技術の習得

6. 連携の強化

- (ア) 保健事業部内職員による業務応援体制を強化し人的資源の有効活用を推進
- (イ) 専属の地域・企業健診センター所長を迎え、医務部との連携および健康診断実施体制を 強化

【数値実績】

一般健診	婦人科健診	特殊健診	合 計	サービス活動収益	職員数
220,341名	30, 382 名	33,872名	284, 472 名	2, 121, 602 千円	134名

^{*}特定保健指導 123 名含む

浜松市リハビリテーション病院

聖隷福祉事業団が浜松市リハビリテーション病院の指定管理を受託して8年が経過した。

2015年度は、当院の役割である回復期医療のさらなる充実を図ることに加え、これまで病床や職員を増加し規模を拡大させてきた当院の中身や質について振り返ることに重点を置いた。

10月には回復期リハビリテーション病棟を3病棟体制とし、地域や市民からのリハビリテーションのニーズに応えることができた。厚生局の適時調査による影響から入院単価は予算に満たなかったが、リハビリテーション提供単位数や患者受け入れ体制に関する改善策を講じ、利益が確保できたことは職員の努力の成果である。

医療の質および利用者サービスの向上に向けて取り組んだ「日本医療機能評価機構による認証の取得」という大きな目標に対しては、当院が提供してきた医療を振り返り、改善に繋げたり、自分たちの取り組みを認めたりという成果を得た。最終結果は後日になるが、高評価を得たと実感している。

2016年度は、継続的に質改善に取り組みながら、地域包括ケアの中心的役割を担えるよう活動していく。

1. 安全で質の高い医療の提供

- (ア) 当院の役割である回復期医療のさらなる充実を図るため、10 月より回復期リハビリテーション病棟を3 病棟体制とした。
- (イ) 2016年2月の日本医療機能評価機構による第三者評価受審までのプロセスを通じ、患者 それぞれに適した治療やリハビリテーションを提供するための共通ルールの確認や手順 の見直し、医療事故・感染防御対策など新たなルールの作成および徹底など、これまで を振り返りながら改善することができた。

2. チーム医療の充実と連携の強化

- (ア) 3 月より、在宅・福祉サービス事業部 (訪問看護ステーション) の看護師 2 名を在宅支援ナースとして迎え、入院患者における在宅サービスへの直接的な連繋、病棟看護師に対する情報提供や情報共有を行う活動を開始した。
- (イ) 地域リハビリテーション体制については、会議での情報交換や課題の共有、講演会を通じて支援を行った。

3. 人材の育成と労働環境の整備

- (ア)職員採用は順調に進み、病院ボランティアについても「食事介助ボランティア」を全国 に先駆けて育成・導入するため、5回コースの教育プログラムを作り、9名が合格、6月 より活動することができた。
- (イ) 採用時や階層別研修だけでなく、専門性向上ための研修にも注力した。また、防災意識を高めるため防災訓練を全職員必須とし、防災委員会ではHUG(避難所運営ゲーム)を2回実施し、リスクへの対策に着手した。
- (ウ) 事業所内保育所として、敷地外ではあるが9名枠を確保したことで、安心して働くことのできる環境の一端ができ、職員に活用された。2016年度は15名枠へ増枠するが、より拡大するために敷地内への整備についても浜松市とともに検討していく。

4. 安定した経営基盤の確立

- (ア) 病床利用率は年平均で 90%を超えることができた。患者の受け入れ体制を見直したり、 患者が退院後に利用するサービスへのつながりを意識した計画的な退院運用を構築した りすることで、下半期は94%を超えた。
- (イ) 厚生局の適時調査によって入院単価に影響があったが、職員の努力と改善によって、利益を確保することができた。

5. 利用者および地域への貢献

- (ア)利用者満足度調査や「患者さんの声」を踏まえ、身障者駐車場の利用方法の見直し、臨時院内ポストの設置、植樹等を行ったり、5月より「患者さんの声」への回答を掲示したりすることで、患者サービスの向上に努めた。また、11月の外構工事完了に合わせて路線バスの乗り入れを検討したが、アンケート調査の結果から見送ることとした。
- (イ) 市民いきいきトレーナー養成事業は、約360名(累計)を輩出し、初開催されたトレーナー総会では各地域での普及活動を共有することができ、報道などにも取り上げられることで地域への貢献を実感した。

6. 地域に望まれる病院環境の整備

- (ア) 2011 年に着手した新病院建築工事は11月のリハビリパークの完成をもって終了した。
- (イ) 今後の病院整備事業計画として、重大災害時における医療的福祉避難所の検討を浜松市 とともに開始していく。

7. その他公益事業

- (ア)看護実習(144名)、リハビリ実習(80名)、管理栄養士実習(2名)、中学生看護体験(4名)等の受け入れ
- (イ) 市民いきいきトレーナー養成事業 (講習:6回、参加人数:121名)
- (ウ) 地域リハビリテーション広域支援センター事業(セミナー:4回、延べ参加人数:535名)
- (エ) 市民向け運動器機能向上トレーニング教室事業の支援(参加人数:20名)
- (オ) 近隣小学校への手洗い指導、地域住民対象の健康相談・体力測定(浜リハ祭)

【数值実績】

		予 算	実 績	対予算	対前年		予 算	実 績	対予算	対前年
入	院患者数	201名	203名	101%	113%	外来患者数	169名	177名	105%	129%
入	院 単 価	33, 210 円	31,336 円	94%	98%	外来単価	7,034 円	7,226 円	103%	96%
職	員 数	334名	317名	95%	106%	病床利用率	88.4%	90.1%		_
サ	ービス活動 収 益	2, 875, 397 千円	2,768,588 千円	96%	105%	サービス活動 費 用	2,850,477 千円	2, 725, 611 千円	96%	108%

病床別患者一人あたりリハビリ実施単位数

	単 位 数
回復期病床	5.0 単位
一般病床	3.4 単位

病床別入院単価

	単価
回復期病床	33, 715 円
一般病床	28. 748 円

聖隷袋井市民病院

2015年度は、開設から3年目を迎え、少しずつではあるが着実に機能の充実が図られた年となった。5月には非常勤内科医を聖隷福祉事業団に設置されるドクターズサポートセンターより招聘出来た。また、8月には内科の常勤医を招聘することが出来、診療内容の充実が図られた。地域診療所からの紹介件数も増加し、のべ外来患者数は対前年124.1%に増加した。

病棟機能では、増改築した西棟への移転から2年が経過し、一般病棟と療養病棟がそれぞれの機能的特色を生かし、連携をもった病床運営が出来た。また、2016年4月に開設する3つ目の病棟である回復期リハビリテーション病棟は、袋井市をはじめ、聖隷福祉事業団の各事業部から多くのご支援を頂き、開設準備が順調に進んだ。3つの病棟が揃うことにより、中東遠医療圏での地域包括ケアシステムの核として、地域の急性期病院はもとより、在宅復帰など地域診療所とも連携し、地域全体として切れ目のない医療を提供出来る体制整備が進んだ。

医療機器の整備においては、放射線部門が一般撮影 FPD(フラットパネルディテクター)撮影装置に更新したことで、低線量高画質が可能になり、患者被ばくも低減することが出来た。また、従来の機器と比較して短時間で撮影画像が確認出来るため待ち時間の削減等、効率的な業務運用が可能となった。

組織体系的には、5月に地域包括ケア推進、保健、福祉などの機能を集約した「袋井市総合健康センター」が同一建物内に開設した。同センターに移転した市の健康支援を進める担当部署や保健センター、社会福祉協議会との連携が強化され、地域住民が住み慣れた地域で健やかに自分らしく暮らせる長寿社会の基礎作りが進められた。

経営は、当初マイナス予算を立てていたが、病床稼働率の向上や経費の削減等により、開設3年目で黒字化することが出来た。これは職員ひとりひとりが経営の重要性に目を向け、事業の発展を目指すために努力した成果だと考える。

今後も中東遠医療圏で当院の役割を果たすことが出来るよう、関連機関との連携を深め、地域 全体として切れ目のない医療が提供出来るよう職員が一体となって頑張って行く。

1. 地域ニーズに対応した安心・安全で質の高い医療サービスの提供

地域医療構想の策定が進められたなかで、中東遠医療圏も医療需要に対する医療供給を踏まえた病床必要量の検討が行われた。2016年4月に開設する回復期リハビリテーション病棟は同地域において充足が望まれる機能であり、地域ニーズの高い病床である。開設準備が順調に進んだ事は、今後の発展に向けて大きな事業と捉えている。

リハビリテーションは理学療法士・作業療法士の増員により、更なる機能強化に繋げる事が出来た。リハビリテーション介入基準を作成し、リハビリテーションを要する患者に提供量の増加が可能となった。9月からは土曜日リハビリテーションも開始出来た。

医療安全、院内感染防止に関しては職場及び委員会活動の熱心な取り組みや職員全体に対する 勉強会を開催することで、大きなアクシデントの発生を防ぐことが出来た。

2. 急性期病院・地域診療所との懸け橋となる連携体制の構築

中東遠医療圏を中心とした急性期病院から円滑な患者受入に努めることが出来た。入院紹介件数は毎月30件前後の紹介を頂くことが出来、増加率は前年度比約150%と連携が更に進んだ結果となった。地域診療所の先生方との連携体制も進み、紹介件数も増加した。CT・MRIの地域共同利用については、地域医療機関から毎月約10件の撮影受託を頂くことが出来た。

3. 在宅復帰や療養施設への入所を支援し、地域全体として切れ目のない医療の提供 介護事業所・行政と年間3回の介護保険連携連絡会、年間1回の介護支援専門研修会を開催する事が出来た。多くの参加者を招き、連携事業所との積極的な情報交換が出来た。

4. 安定した経営基盤の確立

内科の常勤医及び非常勤を招聘することが出来、外来患者数及び入院患者数の増加に繋がった。 看護師の採用は担当者の努力や病院全体の取り組みにより、継続的な採用が行われた。しかし、 病床のフル稼働までは至らず、今後も積極的な採用活動を行う。また、リハビリテーション職員 の増員で取得単位数が増加し、安定した経営基盤の確立に努力した。

5. 働きがいのある職場づくりと人材育成

教育活動が積極的に行われた1年であった。嚥下勉強会、呼吸リハ勉強会、トランスファー勉強会等職種間の垣根を越えた連携が意識出来た。

また、働きやすい職場環境の整備が促進され、子育て中の看護師も安心して働くことの出来るように院内託児所の開設準備が進んだ。

6. その他の公益的事業

- (ア) 袋井市総合健康センターお元気教室 講師6回 理学療法士
- (イ) 実習生受け入れ リハビリテーション係:7名 事務課:8名

	予算	実績	対予算	対前年
一般病棟入院患者数	39 名	32 名	82.1%	97.0%
一般病棟入院単価	20,400 円	23, 234 円	113.9%	107. 7%
療養病棟入院患者数	45 名	34名	75.8%	125.9%
療養病棟入院単価	17,000 円	20,594 円	121.1%	119. 2%
外来患者数	50 名	67 名	134.0%	124.1%
外来単価	6,400 円	6, 326 円	98.8%	100.9%
サービス活動収益	865 百万円	865 百万円	100.0%	132.5%
サービス活動費用	869 百万円	833 百万円	95.9%	123.8%
職員数	88 名	90名	102.3%	126.8%

在宅・福祉サービス事業部

2015 年度は中期事業計画の最終年度であると共に介護保険法、障害者総合支援法における報酬改定と子ども子育て支援制度における新制度スタートの年でもあった。これらに対応すべく事業部では12のエリアに分けた管理体制を構築すると共に、事業部本部機能を充実させるため業務の集約集中管理を行った。各エリアにおける行政対応や地域事情が異なる中で、各エリア長を中心に施設長及び事業所長が一丸となって制度、報酬改定に対応することが出来た。2016 年度計画ではこれを基にエリア体制から小さな拠点によるボトムアップ組織を目指すことに繋がる結果となった。

事業部本部機能においては施設維持管理担当・中途採用担当・運営企画担当の部署を設け、エリアへの支援機能の充実を目指した。福祉人材不足が叫ばれる中で法人本部人事部の新卒採用と連携し、中途・経験者採用を事業部が担当し、200名を超える採用を行った。中途採用が増える中で人材育成は急務となったが、人材開発部の協力を得て介護職テクニカルラダーに次いで、保育職、相談員職のキャリアラダーの運用を開始した。職員処遇改善が求められる中でキャリアラダーの運用は必須事項である。福祉分野での先駆的取り組みは今後の人材確保、人材育成に大きく役立つものであり、今後の新人事制度構築に繋げていく評価の仕組みとして注目していきたい。

社会福祉法人制度改正案は年度末ようやく成立し、法人の地域公益活動の義務化と共に、地域貢献活動の可視化が求められる。真に必要とされる福祉は何か、地域福祉、地域貢献を事業部では議論を重ねた。高齢者福祉は介護保険制度、障害者福祉は障害者総合支援法、児童福祉が子ども子育て支援法へと福祉制度が確立されていく中で、地域福祉は新たな視点を持って横断的な福祉的課題に取り組まなくてはならない。新たな視点と発想を得るため、次世代を担う職員を中心に障害福祉はデンマーク、高齢者福祉はノルウェーにそれぞれ海外視察チームを送った。継続して福祉先進国への視察、体験研修を行い、新たな福祉に取り組む糧としたい。

昨今、報道記事において生活困窮世帯における子どもの貧困、発達障害児の課題等が取り上げられるようになった。2014年度より浜松市受託事業として発足した生活困窮者自立支援事業では、2015年度高校進学を促すため中学3年生を対象とした学習支援が事業として加わった。生活困窮世帯の中で学習環境を整えて行くことの必要性に鑑み、聖隷独自の事業として小学3年~中学2年を対象とした学習サポート事業を開始した。

発達障害児支援の拠点として磐田市ではサテライト事業所の設置、奄美市では念願の支援センター新園舎が完成し、島内から溢れんばかりの児童が集まっている。これらの事業は、それぞれ自治体の要請に基づき、2016年度以降に新たな事業の展開が求められている。

今後の課題として、福祉的課題は制度を軸として支援するのではなく、地域を軸として複合的且つ総合的に支援していくことが望まれる。医療と介護の連携で取り組まれている「地域包括ケア」の推進に寄与しつつ、高齢、障害、児童を含めた「包括的地域支援」の体制づくりを目指していきたい。

2015年度事業目標

2025年に向けた社会福祉のアクションプランの骨格をつくる

- 1. 時代と制度変化に対応した組織をつくる
- 2. 真に地域に必要な事業をつくり、社会に貢献する
- 3. 戦略的情報管理の仕組みをつくる
- 4. 新たな人材育成と人材確保の仕組みをつくる

【介護保険·高齢者事業】

介護報酬改定は基本報酬の減額に対し、各種加算の取得を徹底して行う傍ら、厳しさを増す報酬監査に対し、自己チェック・相互チェックをエリア体制の中で相互補完を行った。

また、政府の掲げた介護離職ゼロを掲げて特別養護老人ホームの開設が全国で相次いだこと、特養の要介護度3以上の重度者の受け入れが義務化され、軽介護の待機者がサービス付き高齢者住宅や有料老人ホームに流れたことから、特別養護老人ホーム待機者は首都圏を除いて大きく減少した。入居稼働率は全国的に低下し、待機者リストの共有化等の入所待機者募集の新たな仕組みが必要となった。

地域包括ケアが推進される中で、訪問看護ステーションの活動は重要な役割を担っている。職員体制の充実と機能強化型ステーションの取得を目指して種々の取り組みを行った。 浦安エリアでは指定管理以外の在宅事業を聖隷として行っておらず、訪問看護ステーションを浦安駅前に開設した。開設にあたり東京海上日動ベターライフサービス株式会社の訪問介護・居宅介護支援事業所と隣接させ、相互協力する仕組みに取り組んだ。浦安市特別養護老人ホームの指定管理の5年間受託契約も更新されたことから、事業継続に困難な状況にある浦安施設について、あらゆる経営改善を行っていきたい。

浜松地区では聖隷各病院の支援と協力を得て医療との連携の具体的な取り組みを開始することが出来た。しかし、在宅診療に強い医療機関があり、浜松地区では機能強化型ステーションの取得が出来なかった。地域機関と連携しつつ、在宅診療を意識した関係づくりを行っていきたい。

【障害児者事業·生活保護等事業】

障害福祉は地域移行重視の報酬改定が行われた。利用者の重度化が進む中で地域移行が 次第に難しくなりつつある。脱施設の方向性が変わらない中でグループホーム等の新たな 住まいの場、生活の場づくりも検討していく必要がある。

児童発達支援事業は、磐田市や奄美市の理解と協力を得て磐田市では児童発達支援センターの移転と就労支援施設の開設誘致を受けた。奄美エリアでは、近隣の龍郷町より児童発達支援事業の要請を受け同町において事業開設の協議を重ねることとなった。奄美エリアにおいては唯一の児童発達支援センターだけに、制度対応や業務支援のため浜松地区、宝塚地区より年間を通して支援協力を継続した。

生活困窮者自立支援事業は浜松市における事業委託により、生活困窮の課題を明らかに

し、支援の方法について調査研究しまとめ、高い評価を頂いた。さらに次年度以降3年間の 事業委託が為され、今まで以上の取り組みを行いつつ、社会福祉法人の公益的活動が進めら れていく方向性も示していきたい。

【保育事業】

子ども・子育て支援新制度に基づき、「幼保連携型認定こども園」として、「聖隷こども園わかば」「聖隷こども園桜ヶ丘」「聖隷こども園ひかりの子」が移行した。「聖隷浜松病院ひばり保育園」は事業所内保育事業所として移行し、和合愛光園の事業所内保育事業所として「聖隷めぐみ保育園」を開設した。それぞれのこども園、保育園において定員増を行い、浜松市における待機児童解消に貢献した。浜松市においては更なる待機児童解消が目指され、聖隷こども園わかば、聖隷こども園ひかりの子においては増築による定員増、和合においてはこども園新規開設の協議が為されることとなった。奄美市においては春日保育園の定員増に伴う増築工事も行われた。

これらの定員増に対応すべく、保育士確保は大きな課題であるものの、2014 年度より取り組みの保育インターンシップや保育学会等において聖隷クリストファー大学から多くの協力を頂いた。

この数年 20~30 人規模の保育士採用が続き、保育園職員の世代交替が余儀なくされている。保育の質を担保していくために勉強会や研究発表、自己評価や相互評価を丁寧に行い保育職育成に努めた。

聖隷の保育に拘りつつ、期待されている保育事業の変化に対応していく年度となった。

【主な施設整備と事業開設等】

- ① 聖隷ケアセンターいなさ 開設 (地域包括支援センター細江 移転・聖隷リハビリプラザいなさ 開設・聖隷ケア プランセンターいなさ南部 開設・訪問看護ステーション細江サテライト 開設)
- ② 聖隷ディサービスセンター結い移転 開設
- ③ 聖隷ディサービスセンター山本 閉鎖に伴う聖隷訪問看護ステーション山本・聖隷ケア プランセンター花屋敷 2016 年 4 月 移転
- ④ 聖隷訪問看護ステーション浦安 開設
- ⑤ 聖隷訪問看護ステーション淡路 津名サテライト 移転改修
- ⑥ 聖隷カーネーションホーム認知症ディサービス「うっとこ」 開設
- ⑦ 児童発達支援センターのぞみ園 移転新築
- ⑧ 春日保育園 定員増に伴う 増改築
- ⑨ 児童発達支援事業所かるみあ豊田 開設
- ⑩ 和合愛光園事業所内保育所聖隷めぐみ保育園 開設
- ⑪ 生活困窮者自立支援事業 学習サポート事業高丘教室 開設

和合せいれいの里

特別養護老人ホーム和合愛光園・和合愛光園デイサービスセンター 障害者支援施設みるとす・障害者相談支援事業所くすのき 生活支援ハウスやまぶき・和合愛光園和合サテライト

訪問看護ステーション住吉・聖隷ヘルパーセンター・聖隷巡回ヘルパーぐるり和合 聖隷ケアプランセンター浜松・聖隷ケアプランセンター和・地域包括支援センター和合

2015 年度は介護報酬改定への早期対応、市内事業所の大幅な増加による利用者並びに職員の確保、事業部組織の改編に伴う在宅事業の編入、聖隷めぐみ保育園の開設等があったが、概ね適切に対応し、安定運営ができた。しかし、加算算定の難易度の上昇や労働者の不足、利用者確保の困難さは益々加速していくことが予想され、環境の変化に早期に対応していく必要性を感じた。年度末には、社会福祉法の改正が行われ、我々社会福祉法人はより高い公益性を追求していくことが求められており、改めて和合せいれいの里は、事業所間の連携を高め、高齢者、障害者、子どものサービスをシームレスで同時に同じ場所で解決していき、地域の中で頼りとされる施設づくりを着実に推進していく必要性を感じた年でもあった。

- 1. 介護報酬改定等への早期対応と経営の安定化
- (ア) 特別養護老人ホームにおいて各種加算の算定を行いサービスの拡充を実施した。
- ① 医療的依存度の高い利用者の受入枠について固定化せず時々の状況で検討し増加させた。
- ② ユニット型施設においては空床のショートステイ利用の受入れを増加させた。
- ③ 短期入所においては医療連携体制加算、個別機能訓練加算の算定を新たに開始した。
- ④ 多職種が連携し、経口維持加算Ⅰ、Ⅱの加算を3月末迄に20人算定できた。
- (イ) 相談員の組織、業務を見直し入所、ショートの受入れ体制強化、スピード化を図った。
- ① 相談業務を担当制(入所、短期)からチーム制に変更し、祝、土曜日営業体制を開始した。
- ② 毎月和合愛光園、各サテライト相談員会議を行い営業活動方法の見直しを行った。
- (ウ) デイサービスの対象者、提供サービスの明確化
- ① 一般デイサービスにおいては中重度者ケア体制加算の算定を4月より開始した。
- ② 送迎体制の見直しを行い、使用車両台数を減らし効率化に努めた。
- (エ) 障害福祉サービスの対象者の拡大と社会参加、自立支援の促進
- ① 障害児をサービス対象とする為、児童相談支援の開始をした。
- ② 営業活動を実施し、特別養護老人ホームにおける短期入所利用者数増加ができた。
- ③ みるとす第2単位では他事業所への適切な移行を進め、年度末には障害支援区分 $5\sim6$ の割合を60%以上とし2016年度から1.7対1の人員配置体制加算を算定できるようにした。
- (オ) 生活支援ハウスについて、現行以外の用途を行政と協議を行い継続協議となった。
- (カ) 訪問介護、定期巡回・随時対応型訪問介護看護について利用者ニーズに対応できる体制構築に努めた。
- ① 聖隷巡回ヘルパーぐるり和合について、介護度に応じた訪問回数の調整ツールを作成し収 支構造の改善を図った。

- ② ヘルパー確保の為、ヘルパー限定のおしごと相談会を開催した。
- (キ) 訪問看護では集中減算回避の為、自然減した介護の件数を、医療の件数増で対応したが、 当初、目指した機能強化型訪問看護はターミナルケア加算数未達にて算定できなかった。
- (ク) 居宅介護支援事業所では事業所としての対応力を高め、良質なサービス提供に努めた。
- ①聖隷ケアプランセンター和では行政や地域包括支援センターと支援困難進捗会議を開き、困 難事例への支援体制確保に努めた。また事務所の配置換えで訪問看護との情報連携に努めた。
- ②聖隷ケアプランセンター浜松では継続的な検討会の実施や同行訪問により新人の能力向上に 努めた。また、事務所の配置換えで聖隷ヘルパーセンターとの情報連携を進めた。
- (ケ) 地域包括支援センター和合では地域と共に更に問題を解決できるよう取組を行った。
- ①市が実施した地域包括支援センターの機能強化方針に基づき職員の増員と事務員を社会福祉 士に変更し、職種間の業務分担の見直しを図った。
- ②「高齢者相談センター」への名称変更に合わせ、更に地域住民への周知活動を推進するのと 共に市が推進するロコモ教室の開催支援や広報活動に努めた。

2. 事業所、施設間の枠組みを超えた、新たな協力関係の構築

- (ア) 障害者雇用を見直し、1 名の既存職員の再訓練実施や、新たな障害者を雇用、定着を促進する為、アセスメント担当を配置し、各々の職員の特性に合った業務内容を調整した。
- (イ) 聖隷巡回ヘルパーぐるり和合が高齢者デイサービスと連携し、夕方の一部の訪問を委託し、 効率的で安定したサービス提供に努めた。
- (ウ) 聖隷浜松病院や浜松市リハビリテーション病院の退院患者の受入れ機能を強化する為、協議の上、訪問看護師やケアマネージャーが滞在する体制をスタートした。
- (エ)特別養護老人ホームの宿直員の配置要件の変更に合わせ、生活支援ハウスと兼務とし、宿 直体制の合理化を図った。

3. 職員、管理者が成長できる体制の確立と安定した人材確保の取組

- (ア)介護職員のプリセプター制度を人材育成委員会で見直し、事前研修や面接を実施し、特に 新人教育の強化に努めた。
- (イ) 「介護テクニカルラダー」の運用を通じ、職員の習得すべき技術、知識の理解を促進した。
- (ウ) 外部研修枠を拡大し、利用者やその家族に向けて情報発信をするよう努めた。
- (エ) 各種委員会の責任者に主任も任命し、その運営を通じ役職者・リーダーの育成を実施した。
- (オ) 喀痰吸引 2 号研修 9 名、認知症介護実践者研修 3 名、ユニットリーダー研修 1 名、キャリア段位制アセッサーの研修 3 名の修了者を出した。
- (カ) EPA人材3名を受入れ、新たに2名の外国人の採用を行い、多様な人材確保に努めた。

4. コンプライアンス、地域に向けた活動の強化

- (ア) 新たな障害者を雇用し、前年度3名から7名に増員し法定雇用率を達成した。
- (イ) 36 協定違反を無くす為、毎月主任会議で検討し施設においては大幅に減少した。
- (ウ) 防災委員会、安全運転委員会の開催方法を見直し、和合せいれいの里、和合サテライト、 初生地区それぞれの地区の危機管理体制の強化に努めた。

- (エ) 浜松市ボランティアささえあいポイント事業の利用者 41 名/年とロコモーショントレーニング事業を開始し236名/年の利用をして頂いた。
- 5. ムリ・ムラ・ムダのない業務を構築する
- (ア) 効率的、効果的な委員会運営の為、定員と委員会数、役割の見直しを実施した。
- (イ) 冷暖房の温度設定管理を徹底し、冷暖房切り替え時に集中的に巡回を実施し、年間のガス 使用量を4,376 ㎡(2.7%)削減した。

6. 公益的事業について

- (ア)介護福祉士(19名、延283日)・社会福祉士(3名、延65日)等、実習生の受入を行った。
- (イ) 地域から依頼された各種委員の引き受け(浜松介護サービス事業者連絡協議会会長等)
- (ウ)地域の小中学校等の福祉体験24名、延45日を受け入れた。

【数値実績】

高齢者入所・和合サテライト・通所関係事業

	和	和合愛光園				合愛光 -ビスも	園 ニンター	やま ぶき
	特養	入所	短期	イト	通所介護		大臣	生活
	従来型 (3 号館)	ユニッ ト型	従来型 (障害)	ユニッ ト型	一般 型	予 防介護	認知症 対応型	支援 ハウス
利 用 者 定 員	50名	40名	20名	29 名	50名	(50)	12名	20名
利 用 延 数	18, 950	14, 455	5, 952	10, 516	7, 155	468	2, 081	4, 522
一日平均利用者数	51.8	39. 5	16. 3	28.6	23. 0	1.5	6. 7	12. 4
稼 動 率 (%)	103. 6	98. 7	81.3	98.8	49.	0	55. 8	60.0
稼 動 延 日 数	366	366	366	366	31	.1	311	366
平 均 介 護 度	4. 02	4. 42	3. 68	3. 78	2.	50	3. 09	_
単価 (一人一日)	11, 711	14, 050	11, 729	13, 482	10, 440	5, 562	13, 321	4, 792
サービス活動収益(千円)(*)	234, 529	203, 434	69, 870	141, 809	77, 3	330	27, 720	21, 675
正職常勤換算数	25. 4	20. 3	7.9	13. 9	6.	3	1. 5	0. 9
パート常勤換算数	12. 0	7. 3	2.8	3.9	13.	3	2. 3	2. 2

障がい者入所・通所・相談関係事業

		障害者	支援施設	みるとす			高齢
	施設入所 生活介護 I	生活 介護 Ⅱ	短期 入所	入浴 サービス	日中一時	相談支援くすのき	同 障害 総合計
利 用 者 定 員	20名	20名	2名	5名	10名	(者)支援	_
利 用 者 延 数	7, 215	5, 179	1,032	63	356	151 件	_
一日平均利用者数	19. 7	21.3	2.8	0.2	1.0	(者)継続	_
稼 動 率 (%)	98. 6	106.6	141.0	3. 4	9. 7	516 件	-
稼 動 延 日 数	366	243	366	366	366	(児)援助	_
平 均 区 分	5. 64	4. 78	4.64			1 件	_
単価 (一人一日)	17, 108	12, 280	8, 630	6, 683	2, 886	14, 029	_
サービス活動収益(千円)(*)	123, 338	63, 599	9	, 377	1,020	21, 659	995, 360
正職常勤換算数	14.8	3. 4				2. 2	96. 6
パート常勤換算数	1. 7	9. 4	_	_	_	1.0	55. 9

訪問・居宅介護支援・地域包括支援事業

訪問看護ス	平均利用者		訪問 牛数		訪問 件数	単	鱼価	(円)	サービス活動 収益(*)	常勤換算 職員数
テーション 住吉	151. 6		37.3件		10,047件	:	Ç	9, 791 円	98, 693 千円	13.8名
	Í	介護給付		予	防給付	単	鱼価	(円)	サービス活動	常勤換算
聖隷	平均利	訪問			用者	介護		予防	収益(*)	職員数
ヘルパー	用者数	月間	年間	月間	年間	(回)		(月)		1902 (200
センター	86.6	1, 144	13, 373	50 人	3, 769			21, 702	77, 833	9.3名
	人	件	件		人		<u>円</u>	円	千円	
聖隷巡回			護給付		Le Mrt			<u>(円)</u>	サービス活動	常勤換算
ヘルパー	月間利	用者数	年	間利用:	者数	介記	隻	(月)	収益(*)	職員数
ぐるり和合		8.8人			105 人		149	9, 157 円	15,532 千円	5.7名
ケアプラン	年間請	求件数	平均	匀単価	(円)	訪	問詞	調査	1	常勤換算
センター	介護	予防	介護	大臣文	予防	年間 件数		単価 (円)	サービス活動 収益(*)	職員数
浜松	2,820件	275 件	15, 528	8円 4	-, 140 円		_		48, 105 千円	7.8名
和	2,473件	161 件	17, 733	3円 4	., 209 円	15	件	4, 320	41,760 千円	7.0名
地域包括支 援センター	浜松市受 (千		-	プラン 件数		ち 壬件数		予防 プラン 単価(円)	サービス活動 収益(*)	常勤換算 職員数
和合	20, 2	235 千円	3,	304 件	1,	967 件	4	4,390円	40,681 千円	6.1名

^(*)内部取引消去前

聖隷ケアセンター初生

和合愛光園初生サテライト・聖隷デイサービスセンター初生 聖隷へルパーセンター初生・聖隷巡回へルパーぐるり初生

2015 年度は、介護保険制度改正による基本報酬の減少を和合愛光園初生サテライトでは加算の取得、通所介護においては稼働率の維持向上により水準の維持を図ることができた。また、事業所の集住から1施設として一体的な運営連携に取り組み、2015年10月より聖隷ケアセンター初生しての運営を開始した。

一方、特別養護老人ホームの入所基準の変更や浜松市の施設整備計画による入所待機者の減少、 入所者の重度化に伴う稼働の不安定化、訪問介護をはじめとする介護人材の雇用困難などの課題 が明確化されてきており、これまで以上に地域に根差し地域の中でサービスが完結できる施設や 仕組み作りをしていきたいと考える。

- 1. 「地域で暮らし続けることができる」ために4事業が連動して包括的に提供できる体制を編成する。
 - (ア) 各事業受け入れや相談時に他事業案内を意識的に実施できるよう取り組んだ。
 - ① ぐるり初生の利用から通所介護へつなげたり、空床ショートステイの案内等ができてきている。
 - ② 事務所の一体化について環境上の移動は行ったが、施設としての機能集約と自立には至っておらず、達成目標を明確にした計画や育成が必要である。
 - (イ) 初生サテライトにおいて空床ショートステイの受け入れを開始した。
 - ① 空床発生時に緊急ショートステイの受け入れや、障害者枠での受け入れ等が実施できた。
 - ② お泊り機能の追加については初生地区だけでなく、浜松エリアの状況に合わせて 2016 年 度整備計画としていく。
 - ③ 2015年10月より浜松市ロコモーショントレーニング事業を開始した。通所介護における要支援認定者については予算以上に受け入れをしている状況であり、新総合事業を踏まえて引き続き検討していく。
- 2. 経営の安定化とコンプライアンス体制を拠点機能として強化する。
 - (ア) 2015年10月より初生地区として防災、リスク、苦情委員会の立ち上げと運営を開始した。
 - (イ) 通所介護からぐるり初生への兼務、応援体制を開始したが、事業規模や稼働状況を踏まえた配置や採用を引き続き実施していく。
 - (ウ) 事務機器等の共有化、介護補助機器等の一部共有化をすすめることができた。
- 3. 階層別、地域のニーズに柔軟に対応できる人材育成に取り組む。
 - (ア) 通所介護、訪問介護においてパート職員参加の勉強会など計画的に実施できた。また、委員会や運営会議の運用を活用し、リーダー人材の育成を開始できた。今後も役割の明確化等による階層別の育成に取り組んでいく。

(イ) サテライトにおいては喀痰吸引研修参加を推進できた。

4. その他公益事業

- (ア) 聖隷クリストファー大学社会福祉学部「インターンシップ」受け入れ(2名・延4日間)
- (イ) 聖隷クリストファー大学看護学部「老年看護実習 I 」受け入れ (8 名・延 8 日間)
- (ウ) 浜松医科大学医学科「医学概論Ⅱ」受け入れ(2名・延1日間)
- (工) 県立浜松特別支援学校「産業現場における実習」受け入れ(1名・延5日間)

	和合愛光園		ービスセンター 加生	聖詩	まヘルパーセンタ	7一初生	聖隷巡回ヘルパー
	初生サテライト	介護給付	予防給付	介護給付	予防給付	自立支援•有償等	ぐるり初生
利用者定員	29 名	50名	(50名)			_	
利 用 延 数	10, 288	9, 905	2, 701	5, 704	169		74
一日平均利用者数	28. 11	31. 97	8. 71	475/月		_	1
稼動率(%)	96. 9	8	31. 40		_		1
稼 動 延 日 数	366	310	310	-		_	
平均介護度	3. 94	1. 6	_	_		_	
単価 (一人一日)	13, 678	8, 653	33,855/月	3, 494	18,200/月	_	116,577/月
サービス活動収益(千円)	140, 178	110), 153	22,	, 884	15, 948	9, 587
職員数(正・ゾ)	13. 4	6	6. 1		3. 7		1.3
職員数(パ・ア)	5. 1	1	4. 2	2 2			0.4

いなさ愛光園

2015 年 4 月に介護報酬改定が実施され、高齢者ができる限り住み慣れた地域で尊厳を持って自分らしい生活を送ることができるよう、「地域包括ケアシステム」の構築に向けた取組みを進めることになった。介護報酬単価の影響等が心配されたが、実施している事業の加算の見直しや人件費、事務費等の支出を抑えることで、施設運営は全般的に安定して推移することができた。

特別養護老人ホームは入所要件が変わったことで、今後の待機者確保が課題となった。特例入居の利用もあり、年間を通して安定した稼働で推移した。短期入所は空床を活用して緊急時対応も断ることなく対応することができた。通所介護は、新たに理学療法士を採用することができたことから、個別機能訓練の充実への準備ができた。認知症対応型通所介護は四季折々の季節を感じるよう企画して認知症ケアを実践した。グループホームは夜間における利用者の安全確保が課題であったが新たな加算ができたことから宿直職員を配置した。訪問介護は短時間の身体介護が増え、登録者数が増えたことで稼働を確保した。居宅介護支援事業所は、本人及び家族の意向に基づき、医療機関や訪問看護ステーション等のサービス提供者と連携することで、在宅での看取りケアを実践した。配食サービスはひとり暮らし高齢者の生活の支えとして、年間約1,900食を提供した。在宅介護支援センターが中心となり、家族介護者教室やロコモーション事業の運営やサロン活動の支援をした。2015年10月に開設に向けて、聖隷ケアセンターいなさへの支援をした。今後も連携を図ることで、総合力を高めていく。

- 1. 利用者に安心・信頼・満足を届ける
 - (ア)特別養護老人ホーム、グループホームはご利用者の外出機会が増えた。
 - (イ)特別養護老人ホームでは新たに「おたっしゃ倶楽部」を立ちあげ卓球・散歩・茶話会等の 活動をして生活の中での楽しみの機会が増加した。
 - (ウ)グループホーム、認知症対応型通所介護では野菜作りをご利用者が主導して畑を作り、収穫を楽しんだ。
- 2. 利用者の安全と質の高い個別ケアを提供する
 - (ア)ケアプラン作成には24時間シートを活用して、「その人らしさ」を支援した。
 - (イ)特別養護老人ホームの退去者は26名いたが、ご家族と嘱託医、看護師、管理栄養士、介護職員等が連携し、13名のご利用者の方に施設で看取り介護をさせて頂いた。
 - (ウ)病院受診を伴う介護事故は22件であったが、早期に対策を立て再発予防に努めた。
 - (エ)災害に備え、事業を継続するための計画(BCP)を作成した。
- 3. 次世代の人材育成と組織づくりをする
 - (ア)目標参画システムが円滑に運用できるように、会議等で進捗を確認した。
 - (イ)介護テクニカルラダーの運用は始まり、看護師ラダーは試行運用が始まった。相談支援スキルアップラダーは2016年度から試行運用が始まる予定となった。
 - (ウ)園内研修方法として、集合研修・職場単位研修・DVD研修を実施した。

4. 安定した施設運営をする

- (ア)職員のための働きやすい環境作りとして照度計を用いて産業医と巡回した。
- (イ)腰痛予防対策として、特殊浴槽を更新した。(職場定着支援助成金)
- (ウ)環境に優しくコスト削減につながるLEDを導入することができた。
- (工)計画的に車両更新、建物修繕及び設備更新をすることができた。

5. 地域交流を大切にし、地域に貢献する施設になる

- (ア)地域交流ホールにて、サロン型ロコモーショントレーニング事業が始まった。
- (イ)引佐地区社会福祉協議会主催の「いなさふれあい広場」へ参加した。(12名)
- (ウ)地域が主催するイベント(ホタル観賞・棚田ウォーク)に参加した。(15名)

6. その他公益的事業

(ア) 渋川・伊平・川名・久留女木地区にて家族介護者教室を開催

(延べ回数 4回、延べ人数 63人)

(イ) 幼稚園児、小学生等の世代間交流 (延べ回数 6回、延べ人数 100人)

(ウ) 中学校生、高等学校生の福祉介護体験等 (実人数 12人、延べ人数 24人)

(エ) 高齢者サロン活動 (伊平) の支援 (延べ回数 11 回、延べ人数 260 人)

(オ) サロン型ロコモーショントレーニング事業 (延べ回数 3回、延べ人数 23名)

【数值実績】

高齢者入所・通所関係事業・委託事業

	特別養護老人	ホーム いなさ	いなさ愛光園	デイサービス	
			センター		
	特養	入所	短期入所	通所:	介護
	従来型	ユニット型	ユニット型	通常規模型	認知症 対応型
利用者定員(名)	30 名	40 名	20 名	35 名	10 名
利用者延べ人数(名)	10,778名	14,837名	5,878名	7,986名	2, 133 名
一日平均利用者数(名)	29.4名	40.5名	16.0名	25.6名	6.8名
稼動率(%)	98.1%	101.3%	80. 36%	73.1%	67.8%
稼動日数(延べ:日)	366 日	366 日	366 日	311 日	311 日
単価 (一人一日当り:円)	12,980 円	13,697 円	12,583 円	8,915円	11,899 円
総収入(千円)	139,900 千円	203,221 千円	73,964 千円	71, 194 千円	25,381 千円
職員数(常勤換算:名)	24.0名	20.7名	14.0名	14.5名	6.4名
	ほのぼのケ アガーデン	いなさ愛光園 ヘルパーステ ーション	聖隷ケアプ ランセンタ ーいなさ	いなさ愛光園 在宅介護支援 センター	配食 サービス
利用者定員(名)	9名	_	_	_	_
利用者延べ人数(名)	3,264名	4,143名	1,889名	_	1,896名
一日平均利用者数(名)	8.9名	11.4名	_	_	6.4名
稼動率(%)	99.0%			_	
稼動日数(延べ:日)	366 日	362 日	366 日	366 日	296 日
単価 (一人一日当り:円)	13, 179 円	4,993 円	15233 円	_	683 円
総収入(千円)	43,015 千円	20,686 千円		28,756 千円	1,295 千円
職員数(常勤換算:名)	7.7名	4.6名		4.3名	_

軽費老人ホーム もくせいの里

軽費老人ホームの目的は、独居・高齢者世帯が増加するなど地域社会や家族形態が大きく変化する中で高齢者の尊厳保持、自立支援の実現にある。2015年のもくせいの里は老朽化する施設の設備の更新を行うことにより、「一人一人の人生の終盤、生活の安心が得られ、豊かに幸せに過ごすことができるようにする」という基本を守りつつ運営を行った。

1. 入居の状況

2016年3月31日現在 入居者の平均年齢は83.2歳となり、要介護度の状況は要支援1=5名、要支援2=9名、要介護1=14名、要介護2=4名、要介護3=1名である。新規入居者は7名。退所者は5名(他施設入所1名)である。また、入居申し込み者は各方面への新規募集を行った結果8名の待機者となった。

2. 安心と安全を重視したサービス

- (ア) 各職員の連携を強化し、施設全体の防災を徹底した。職員の少ない時間帯の地震、火災 発生時の初動訓練には引き続き重点的に取り組んだ。
- (イ) 感染症防止の徹底のための消毒は重点箇所を決めて行った。
- (ウ) 利用者の身元保証人の再確認、今後の身元保証人がいなくなるケースを踏まえた検討を 開始し身元保証人法人の調査を行った。
- (エ) 消防署員を招いて防災についての講話を利用者向けに実施した。

3. 利用者に寄り添うサービス

- (ア)介護予防・自立支援など機能面からみたサービス提供を充実させ転倒予防のため体操、 脳トレーニングを行い、利用者の希望を中心とした散歩を行った。
- (イ) 配食サービス利用者の安否確認時の情報交換をケアマネージャー等と行った。
- (ウ) 第三者評価事業受審から見えた課題 (職員研修) の計画を見直し実施した。
- (エ) 施設の行事(誕生会)を利用者とともに外出しながら行った。

4. 職員の資質の向上

- (ア) 聖隷および老人福祉施設協議会等の研修への積極的な参加、施設内研修の活性化、資格 取得などのキャリアアップで職員の自己成長を目指した。新規の相談員のスキルアップに は重点的に取り組んだ。
- (イ) 真空調理およびコンビオーブンなど調理の幅を広げる、盛り付けの研究を行うなど、施 設内の研修を通して栄養サービス室全体の調理技術の向上を図った。
- (ウ) 年間を通して計画的に職員研修をおこなう事ができた。

5. 地域社会に貢献

(ア) 浜松市北区の要望に応えるため、地域の食事サービスを継続して受託できた。

- (イ) 高台幼稚園とも従来同様定期的なふれあい活動を継続できた。
- (ウ) 近隣デイサービスへの食事提供を進めた。 (聖隷デイサービスセンター三方原 3,879 食、聖隷リハビリプラザいなさ 761 食)
- (エ)湖東地区自治会の防災訓練に参加し、施設の防災と地域の防災の協力関係を構築できた。
- (オ) 地域の農家と提携し地産地消を進めることができた。(2件)

6. 設備の更新

- (ア) 食堂、事務所、厨房などの空調設備(GHP(ガスエンジン・ヒートポンプ・エアコン)) の更新を行った。(7月)
- (イ) 厨房内排水溝の修繕を行った。(3月)

7. その他公益的事業

- (ア) 浜松市一人暮らし高齢者等食事サービス (公費補助 1,265 食)
- (イ) もくせいの里食事サービス(自費 1,359食)
- (ウ) 福祉体験学習受け入れ (三方原中学、高台中学、聖隷クリストファー中学)

	軽費老人ホーム	食事サービス	計
利 用 者 定 員	50 名	607 名	657 名
利用者数(延べ)	18,215名	7, 289 名	22,504名
利用者数 (日:名)	50 名	20 名	70 名
稼 働 率 (%)	100%	84%	_
稼働日数(延べ)	366 日	309 日	-
単価(一人一日当り)	6,039 円	665 円	-
サービス活動収益 (千円)	110,220 千円	4,843 千円	115,063 千円
職員数	15.5名	0.7名	16.2名

細江地区在宅複合事業

訪問看護ステーション細江 聖隷ケアプランセンター細江

- 1. 引佐地区在宅複合事業がスムーズにスタートできるよう準備する
 - (ア)聖隷内のケアプランセンター間でエリア調整・利用者の移行はスムーズに行えた。 (居宅介護支援)
 - (イ)訪問看護ステーション本体とサテライト運営は、試行錯誤をしながらより良い方法 を探っている。情報共有に難があり、今後 ICT 導入を検討中。(訪問看護)
- 2. 利用者の個性・ニーズに合わせた質の高いサービスを提供する
 - (ア)年間計画に沿った勉強会の実施と、外部開催の研修にも積極的に参加しケアに反映 している。
 - (イ)インシデント・アクシデントの検討とシステム作り、交通安全 KYT (危険予知トレーニング) に取り組み、リスク感性を高めるトレーニングを継続している。
- 3. 事業所間の連携を強化する
 - (ア)細江・ケアセンターいなさ合同で計画的に事例検討会や研修の実施。
 - (イ)2016年度に向け、聖隷三方原病院と連携システムの足がかりを作った。 (病院看護師の出向・病棟単位の退院調整に訪問看護が関わる・スムーズな外来受 診のためにどうするか)

【数値実績】

訪問看護ステーション細江

年間利用者数 年間訪問件		サービス活動収益	職員数
		(*)	(常勤換算)
1,405人	8,306件	79,857 千円	10.2名
月平均 117人	月平均 692 件		

聖隷ケアプランセンター細江

年間請	求件数	平均単位	西 (円)	サテライト	職員数
介護	予防	介護	予防	年間対応件数	(常勤換算)
1,994件	105 件	17,710円	4,400 円	426 件	5.5名

引佐地区在宅複合事業

地域包括支援センター細江 聖隷ケアプランセンターいなさ南部

2015 年 10 月、聖隷として旧引佐三町での地域包括ケアの要となるべく期待を背負いオープンしたのが、聖隷ケアセンターいなさである。以降、地域連携の柱として地域包括支援センター細江が、幅広く地域の福祉ニーズに対応し、地域見守りネットワーク拠点として機能した。また、聖隷ケアプランセンターいなさ南部は、この地域に潜在化していた訪問看護ニーズ、リハビリテーションニーズを掘り起こし、具体的なサービス提供につなげる役割を担うことができた。

今後は、聖隷三方原病院、訪問看護ステーションやいなさ愛光園と連携した重度者、認知症者対応の 充実と、引佐町及び三ケ日町方面での分野を問わない福祉ニーズを掘り起こし、「隣人愛の精神のもと、 地域とつながり、共に生きる。」を拠点理念として地域の期待を担える事業所に成長していきたい。

【地域包括支援センター細江】2015年10月聖隷ケアセンターいなさの開設と同時に、事務所移転。

- 1. 地域見守りネットワークの強化
 - (ア) 個別ケースや研修企画、地域ケア会議等を通じて医療機関・介護事業所・地域等と連携した。
- 2. 事業所移転の周知・広報を徹底したことで、混乱なく事業を展開できた。
- 3. 地域に根差した活動を展開する。
 - (ア) 共有スペースを利用して家族介護教室や毎月ロコトレ教室「さんさん倶楽部」の開催を行った。
 - (イ) 併設の居宅介護支援事業所、通所介護の利用者紹介を重点的に行った。
- 4. 医療・介護・福祉の諸機関と連携し、地域に切れ目のないサービスを提供する。
- (ア) 事業所内外の専門職の多職種連携とチームアプローチを念頭に個別支援、研修企画等を行った。 【聖隷ケアプランセンターいなさ南部】
- 1. 新規依頼に積極的に対応し安定稼働する。
 - (ア) 聖隷ネットワークの強みを活かし、事業所内に対応体制を確立していたことで、開設初年度で ありながら多くのケースに対応することができた。
- 2. 併設事業と密に情報共有し、連携できる。
 - (ア) 地域包括支援センター細江との情報共有により、いち早く地域課題に気づき取り組めたことで、 聖隷リハビリプラザいなさ、訪問看護ステーション細江サテライトの利用につながった。
- 3. 事業を利用する一般利用者のニーズに迅速に対応できる。
 - (ア) 個々の利用者対応においては、必要に応じてその場で情報共有と対応はできた。

【数値実績】地域包括支援事業(地域包括支援センター細江)

浜松市受託収入	予防プラン	うち	予防プラン	サービス活動収	職員数
(千円)	請求件数	再委託件数	単価(円)	益(千円)	(常勤換算)
31,788 千円	4,392件	2,884件	4,564 円	51,747 千円	5.0名

居宅介護支援事業(聖隷ケアプランセンターいなさ南部)

年間請求	文件数	平均単価(円)		訪問調査	訪問調査	サービス活動収	職員数
介護	予防	介護	予防	年間件数	単価(円)	益(千円)	(常勤換算)
355 件	23 件	15, 301 円	4,480 円	_	_	5,463 千円	3.5名

聖隷リハビリプラザいなさ

2015年10月に開設した聖隷リハビリプラザいなさは、浜松北部地域に必要とされていたリハビリ特化型通所介護である。訪問看護ステーション細江サテライト・聖隷ケアプランセンターいなさ南部・地域包括支援センター細江との複合施設という強みもあり、潜在的利用者を順調に新規利用者として獲得できた。

一方、経営的には2015年度の制度改正の影響もあり、要支援利用者の割合が多く、収入を大き く伸ばすことはできなかった。

2016年度は、引き続きニーズに積極的に応えて新規利用者の獲得を目指しつつ、更に質の高いサービスを提供できるように、人材育成・業務改善に取り組んでいきたい。

1. 安定した運営に向けた新規利用者の獲得

- (ア) 地域への広報活動として 2 回の内覧会・チラシを用いた近隣への挨拶回りを行い、新規利用者の受け入れを行った。
- (イ) 遠方からの利用者も積極的に受け入れ、対応が難しい事例にも個別に丁寧に対応し、利用 につなげた。
- 2. サービスの質を向上させる職員教育を行う
- (ア) 開設前より新規採用者の研修ができたことで、混乱なく新規利用者の受け入れができた。
- (イ) 同施設内での他事業所との定期的なカンファレンスや交流会の場を共有し、積極的に情報 を共有できるよう努めた。
- 3. 業務内容を整理し、スムーズに新規利用者を受け入れる
- (ア) 聖隷内の既存の通所介護事業所を参考に、開設前に書類・備品を用意でき、トラブルなく 利用者を受け入れることができた。
- (イ) ICT 化による業務効率化を目指した新たな業務管理ソフトの導入により、iPad での記録・ 請求業務を行うことで、記録時間・入力業務の効率化が図れた。

【数値実績】

	介護	予防
利用定員	45 名	(45 名)
利用者延べ人数	1,224 人	167 人
稼働延べ日数		153 日
1日平均利用者数	8.0人	6.0人
稼働率		31.3%
単価(1人1日当り)(円)	5,814 円	28, 588 円
サービス活動収益 (千円)	7,279 千円	4,998 千円
職員数(常勤換算)		7.7名

三方原地区在宅複合事業

訪問看護ステーション三方原 聖隷ケアプランセンター三方原

1. 訪問看護ステーション三方原

- (ア) 地域包括ケアへの取り組み
 - ①三方原地区の包括連携会議への参加や社会福祉協議会への挨拶を実施し、顔の見える関係が構築できた。当事業所主催の秋祭りへの地域住民の参加も増加傾向にある。
 - ②職場会でリハビリテーションと看護の他職種協働やデイサービスと訪問看護の兼務の役割を明確にしたことで、それぞれの職種の機能を活かした在宅ケアの提供につながった。

(イ) 運営安定化

- ①近隣の居宅介護支援事業所・病院・障害支援事業所へ年2回広報活動に取り組んだことで、新規依頼につながった。
- ②職場でワークライフバランスについて各スタッフが話し合える場を設け、「自分もスタッフも大事にする」「時間管理」という意識づけができたことで、超過勤務の削減につながった。

2. 聖隷ケアプランセンター三方原

- (ア) 断らない体制づくり
 - ①事務への業務分担などに取り組み、新規受け入れ時に効率よく書類が流れるよう整える ことができた。断らないで月平均8件の新規受付を継続できた。
 - ②独自の相談窓口としての活動はできなかったが、デイサービスの介護保険外事業である ロコモ教室の活動協力を通して地域の保険外利用者の現状を知ることができた。
- (イ) 聖隷ケアセンターいなさへの支援
 - ①常葉リハビリテーション病院や地域包括支援センターなどに挨拶に行き、北部地区の新規利用者を取り準備を進めてきたが、10月開設当初のケアプランセンターいなさ南部への紹介数が予測数の60%程度にとどまった。

【数値実績】

訪問看護ステーション三方原

平均利用者	月訪問件数	年間訪問件数	単価	サービス活動収益	常勤換算
123 名	647 件	7, 120 件	9,524 円	76,089 千円	11.2名

聖隷ケアプランセンター三方原

年間請求件数		平均単価 (円)		サービス活動収益	職員数
介護	予防	介護	予防		(常勤換算)
1,843件	328 件	15,625 円	4,227 円	31,512 千円	4.8名

聖隷デイサービスセンター三方原

2015年度は、総件数・収益的には、概ね予算を達成することができた。介護・予防のご利用者の割合に変化がみられ、予算件数に対して、予防は達成、介護は未達の結果だった。リハビリ特化型デイサービスとして、地域の方々や居宅支援事業所に認知されてきており、順調に新規ご利用者数を伸ばすこともできた。

- 1. 特色のあるサービスの実践と広報
 - (ア) リハビリに特化した内容を「見える化」、広報活動を行う
 - ①予防のご利用者を対象に運動機能の評価をし、データのグラフ化を継続した。
 - ②サービスご利用中の様子を写真に撮り、ご利用者、ケアマネジャーに報告した。
 - (イ) 訪問看護との協働
 - ①訪問看護と定期的にカンファレンスを行い、共通のご利用者に対して支援ができた。
 - (ウ) 介護保険外事業の実施
 - ①総合事業への準備として、ロコモーショントレーニングサロンを定期開催した(浜松市委託事業)。
- 2. スタッフの健康管理
 - (ア) 交通事故の削減
 - ①ドライバーミーティングを週1回定期開催し、危険箇所やご利用者情報を共有したが、 交通事故を削減することはできなかった。
 - (イ)スタッフの健康管理
 - ①有給休暇の活用や、業務の偏りを改善し、体調を崩して長期に休むスタッフはなく、全 員が健康に過ごすことができた。
- 3. その他公益事業
 - (ア) ロコモーショントレーニング事業への参加(指導員の研修講師受託)
 - (イ)健康秋祭りの開催
 - (ウ) グリーンカーテンの実施

【数値実績】

	通所介護			
	介護	予防介護		
利用者定員	170)人		
利用者延べ数	11,242 人	658 人		
稼働延べ日数	310 日			
一日平均利用者数	36. 27 人	54.8 人		
稼働率	68.	8%		
単価	6, 272 円 33, 194 円			
サービス活動収益	93, 456 千円			
職員数(常勤換算)	15.9名			

高丘地区在宅複合事業

訪問看護ステーション高丘 地域包括支援センター高丘

1. 訪問看護事業(訪問看護ステーション高丘)

- (ア)「リハビリ強化型ステーション」として外部に向けては「高丘通信」を3ヶ月毎に発行し、周知した。内部では、勉強会を継続して実施し、リハビリの依頼はエリアを超えて対応した。聖隷以外の居宅介護支援事業所からの依頼が多く、訪問件数は月平均1,000件を超えた。
- (イ) 浜松市リハビリテーション病院との連携に力を入れ、2016年3月より訪問看護ステーション高丘の職員が「在宅支援ナース」として病院との兼務をすることになった。
- (ウ) ラダーの本格的な運用はできなかったため、継続課題とする。

2. 地域包括支援事業(地域包括支援センター高丘)

- (ア) 民生委員とサービス事業所との交流会や小規模の話し合い等の企画 6 回、ロコモーショントレーニング事業で 9 団体へ 28 回、民児協・老人会が 45 回、各団体に参加し、顔の見える関係づくり・情報共有ができた。多職種の参加を頂き、地域ケア会議を 6 回開催、うち医療関係者の出席が 3 回得られた。
- (イ) 高丘地区内にある聖隷内事業所と共に、地域に向けたロコモーショントレーニングと して「ロコ友高丘」を始めることができた。また、家族介護教室開催についても講師 依頼ができた。
- (ウ) 各事業に計画的に取り組むために、毎月1回会議を開き、事業の役割分担や進捗状況 の確認を計画的に実施することができた。

【数值実績】

訪問看護ステーション高丘

	平均利用者	月訪問件数	年訪問件数	単価(円)	サービス活動	職員数
					収益 (千円)	(常勤換算)
ŀ	194名	1,034件	12,408件	8,926 円	114,690 千円	14.0名

地域包括支援センター高丘

浜松市受託	予防プラン	うち再委託	予防プラン	サービス活動	職員数
収入 (千円)	請求件数	件数	単価	収益 (千円)	(常勤換算)
27,083 千円	3,852件	2,302件	4,582 円	44,472 千円	6.5名

聖隷コミュニティケアセンター

高丘地区での連携

- (ア) 高丘地区では訪問看護ステーション高丘、聖隷リハビリプラザ IN 高丘、地域包括支援 センター高丘と共に身近な関係で連携強化を図った。4事業所合同でロコモーショント レーニング事業「ロコ友高丘」を立ち上げ活動を行い、各事業所の強みを出した地域へ 向けた取り組みを行うことができた。
- (イ) 地域包括支援センター高丘との取り組みで、地域の方に向けた福祉用具の勉強会を行ったり、訪問看護ステーションや特別養護老人ホームでの勉強会にて用具の提供を行うなど、福祉用具を取り扱う事業所としての強みを活かした取り組みや協力ができた。
- (ウ) 聖隷厚生園チャレンジ工房にて洗浄消毒を行う貸与ベッドを優先的に貸与している。「ターミナル利用者」へ貸与するケースが多く、出し入れが激しい現状もあり、ベッドだけで月間15~20台をチャレンジ工房へ洗浄消毒の依頼をした。

2. 店舗機能の有効活用

- (ア) 営業職員、店長、店舗職員が、和合愛光園やゆうゆうの里などへ出張販売を行い、特に施設職員との関係を構築できた。また、店舗職員と営業職員の連携強化にも繋がった。 施設職員から店舗への依頼も顔が見えるやり取りが出来る様になり、店舗もその地域に根差した取り組みを行う第一歩となった。
- (イ) 2015年10月13日に浜松病院店が地下1階に移転オープンした。売り場面積も踏まえ シンプル且つコンパクトな店舗で、お客様が声を掛け易い・相談し易い店作りを行って いる。オープンから順調に売上、来店者数共に伸びているが、浜松病院店を含めた全店 舗とも予算を達成できなかった。従来通りの運営ではなく、3病院(聖隷浜松病院・聖 隷三方原病院・浜松市リハビリテーション病院)の中に入っているという強みを活かし た事業展開をしていかなければならない。

	レンタル件数	介護保険収益	販売収益	住宅改修	サービス活動収益
浜松店	9,377件	155,444 千円	299,035 千円	15,598千円	470,077 千円

聖隷リハビリプラザ IN 高丘

2015 年度は、ご利用者の介護度が利用期間中に予防に改善することが多く、当事業所でのリハビリテーション、ケアの内容が評価された結果と考える。予防の件数は予算を達成することができた反面、介護の件数は予算を達成することができなかった。

浜松市リハビリテーション病院との連携会議を開催することができ、リハビリテーションを必要とするご利用者に対して、聖隷内の継ぎ目のないサービスの提供に向けて動き出すことができた。

- 1. サービスを超えた、さらなる連携の強化を図る
 - (ア)事業団内訪問看護ステーションとの共通利用者の情報共有、お互いの役割の確認を各職員 が意識して行えるようになってきている。
 - (イ) 訪問看護ステーション高丘からの見学研修を1名行うことができた。こちらからの研修は、 職員の体制・体調のことがあり、行うことができなかった。
 - (ウ) 浜松市リハビリテーション病院との連携については、退院からつながった利用者についての利用状況の報告を担当者に伝えることができた。しかし、外来リハビリテーションを継続している利用者の目標設定や情報共有を行うまでには至っていない。
- 2. 高丘地区で介護保険事業外の取り組みを行い、地域の拠点となる
 - (ア) 施設の2階を利用し、浜松市が薦めるロコモティブシンドロームの予防に対するロコモティブトレーニング事業を10月より6回、年度末まで開催することができた。

【数値実績】

	通所介護			
	介護	予防介護		
利用者定員	50	名		
利用者延べ数	6,622 人 615 人			
稼働延べ日数	310 日			
一日平均利用者数	21.33 人 11.67 人			
稼働率	66	%		
単価	5,291 円 33,015 円			
サービス活動収益	55, 394 千円			
職員数(常勤換算)	9.3名			

訪問看護ステーション住吉第二

上半期は集中減算回避による同法人からの新規依頼減少と介護報酬の単位数引下げに加えて、利用者の長期入院もあり訪問件数が低迷した。下半期は病院や法人外の居宅支援事業所から多数の新規利用者を獲得することができた。2015 年度は「重症で医療依存度の高い対象者は聖隷の訪問看護に託したい」という地域の期待が当事業所にも向けられるようになった。

- 1. 訪問看護が予防的にかかわる意味を可視化し、地域に貢献する
- (ア) 訪問時の看護やリハビリテーションが症状悪化の予防や家族の介護負担軽減につながった事例を 学会、研究会において報告した。小児の訪問看護セミナーに講師を派遣した。

2. 利用者に安心を提供する

- (ア)「利用者や家族の考える安心とは何か」を追求し、できる限り利用者ニーズに添うよう長時間訪問、 同日複数回訪問や土・日の予定訪問を組み入れたことにより、新規依頼と訪問件数が増加した。
- (イ) 在宅看護職ラダーによる訪問看護の実践能力評価を実施したことにより、看護師が自身の課題に 気づき、具体的な目標をもってレベルアップに取り組むようになった。
- 3. どのような利用者層でも受け入れることができる体制をつくる
- (ア) 宅直を4人体制、定期訪問1日5人体制にして連日・長時間・緊急訪問の増加に対応した。
- (イ) 小児、がん末期、ストマ、精神等のケアに困難を感じたときには、速やかに医師や専門看護師の 指示・助言を求め、適切なケアを提供するように努めた。
- (ウ)助産師の母乳・育児指導技術をケアに盛り込み、難病小児の療育と母子関係の確立を支援した。また、浜松市難病患者家族リフレッシュ事業を受託し、3名の小児利用者に留守番ケアを実施した。

4. 職員一人ひとりが主体的に働く職場になる

- (ア) 毎朝、一日の目標を朝礼で発表し、勤務終了時に振り返ることが習慣となった。
- (イ)毎月の職場会において月次実績報告を行ったことにより、職員間に「新規依頼を速やかに受け入れることが経営の安定に繋がる」という共通認識が生まれ、新規依頼時の電話応対が変化した。

	平均	月平均	年間	平均単価	サービス活動	職員数
	利用者数	訪問件数	訪問件数	半均早個	収益	(常勤換算)
2014年	68名	357件	4,284 件	10,032 円	41,949,000 円	8名 (5.7)
2015年	72名	459件	5,510 件	9,459 円	52,188,999 円	8名 (7.4)
	関係医療機関数		関係居宅介護支援事業所数			
2014年	30		26			
2015年	32		38	}		

聖隷デイサービスセンター住吉

1. 2015年度事業の振り返り

上半期においては、新規の受け入れは順調に行えていたが、新規より終了者が上回る月も 多く、件数の伸びにつながらなかった。下半期は、休んでいたご利用者が復帰され、また既 存のご利用者が利用回数を増やす等から順調に利用延べ人数を増やすことができた。

個別機能訓練加算 I は、年間通して 100%取得できた。個別機能訓練加算 II も前年度約 290 名に対し、2015 年度は約 400 名と延ばすことができた。

月間平均利用件数は792名となり、前年度比102.5%に延ばすことができた。

- 2. 利用者サービスの質の向上
 - (ア)「1日平均利用件数31名を維持する」
 - 1日平均利用者数30.9名で予算には未達であった。
 - (イ)「タイムリーな事故・苦情検討」「勉強会の開催」

事故・苦情の検討は実施できたが、内容を掘り下げた十分な検討には至らなかった。 勉強会の開催は、時間の捻出が上手くいかず年に2回のみの実施となった。

- (ウ) サービスの「見える化」を図り、地域に根差した事業所運営 地域の小学校の課外授業、住吉子ども連の練り、住吉交友会での体操の指導を行う等、 外交的交流を行うことで、地域の方々にサービスを知っていただく機会をもてた。
- (エ)「ひばり保育園児との交流を増やす」

ひばり保育園の先生と毎月話し合いの日を設け、合同で行える行事やデイサービス利用 者と保育園児がより密に交流が出来るように検討を実施した。結果、デイサービス、保 育園の誕生日会の交流、朝のラジオ体操を一緒に行うなど、交流を増やすことができた。

- 3. 公益的事業について
 - (ア) ロコモーショントレーニング事業への参入
 - (イ) 地域の小学校(泉小学校)の課外(昔の遊びを知る)授業受け入れ
 - (ウ) 老人会(住吉交友会)の体操指導へ派遣

【数値実績】

	通所介護			
	介護	予防介護		
利用者定員	35名			
利用者延べ数	8,061 人 230 人			
稼働延べ日数	310 日			
一日平均利用者数	26.0 人	4.9 人		
稼働率	88.	2%		
単価	9,790 円 33,906 円			
サービス活動収益	86,734 千円			
職員数(常勤換算)	18.5 名			

訪問看護ステーション浅田

1. 利用者ニーズへの誠実な対応

- (ア) 訪問看護計画書・報告書等は、利用者状況が解り易い表現にし、カンファレンスで共有 した。
- (イ) 聖隷内の訪問看護ステーション全体の学習会や新たな医療機器の情報収集のために業者を招いての学習会の開催、1週間のターミナル研修にも参加させ、増加する医療依存度の高い利用者に対応した。

2. 運営の安定化の推進

- (ア) 関係機関等との関係作りについては、タイムリーな看護要約の送付・電話・ファックス、 地域の関係機関との連携会議への積極的な参加や直接会い情報交換を行う等、関係者と の顔の見える関係作りに取り組んだ。
- (イ) 関係機関等へのアンケート調査については、アンケートの作成は行えたが、配布と集計 には至らなかった為、2016 年度の継続課題とする。
- (ウ) 業務の時間管理については、係を中心に推進し、スタッフ一人ひとりが意識して直行・ 直帰等の活用も含め時間管理を行った。
- (エ) 残業の削減については、看護要約作成の時間削減の為、ケースによっては簡易な連携票 の活用を行った。取り組みの成果として、超過勤務手当を月平均7万円程削減できた。

【数値実績】

平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価(円)	サービス活動 収益(千円)	職員数 (常勤換算)
医療 43.8	医療 275.2	医療 3,303	医) 10,995		
介護 85.5	介護 426.2	介護 5,115	介) 9,209	87,196	12.0
予防 12.0	予防 34.6	予防 416	(予防含む)	千円	名
人	件	件	円		

聖隷厚生園讚栄寮

讃栄寮 救護施設 讃栄寮 短期入所 (障害)

2015年度は障害者総合支援法の短期入所定員を2人から4人に変更し、地域で暮らすご利用者を支える体制を整えた。また、平年に比べて緊急一時入所の利用も多かった。一方で保護施設通所事業は支援終了者が多く、経営面で大きなダメージとなった。救護施設として讃栄寮の在り方の見直しが迫られた一年となった。

- 1. 人権尊重および社会的障壁の解消を重視した支援
 - (ア) 地域のセーフティネットの機能を強化し見直す

讃栄寮から地域移行したご利用者でOB会を開催し、OB同志で独自のネットワークがあることが解った。公的なセーフティネットだけでなく、讃栄寮が媒体となって形成されたネットワークを利用して係りが少なくなった方の情報収集ができた。

(イ) パーソン・センタード・ケアの浸透と実践

上記のOB会で、地域生活が継続できている方の共通要因として"自己決定"をしている意識の高いことがあった。これを参考に入所のご利用者の一部と個別支援計画を共同で作成し"自己決定"している意識を強めて達成感を高めた。

- 2. 経済的自立や社会的自立を目標に地域移行や社会復帰支援
 - (ア)入所者の地域生活移行を推進できるシステム作りの見直しを図る 障害者総合支援法のサービスを活用して地域移行を行うことが標準化したが、更なる連携を検討したい。
 - (イ) 社会参加を目指した通所事業の支援の充実

讃栄寮の地域移行は、法人名義で借上げたアパートで一年程度地域生活を経験していただく救護施設居宅生活訓練事業を経て、ご利用者が自分名義で契約したアパートに引越し、保護施設通所事業で讃栄寮に通って作業や食事をしたり、職員がアパートを訪問して自立生活に向けた支援を行うことで 62 名の入所者が讃栄寮を卒業している。通所事業は1年ごとに効果測定を行政が行って必要と判断されれば支援継続となるが、今年度は終了者が多く、年度当初の16 名から年度末には6 名に減少した。今後は地域移行候補者に入所中から地域生活を想定した支援を行って居宅生活訓練事業の期間を短縮して保護施設通所事業の利用者を増加させる。

(ウ) 専門性を発揮できる人材育成

ご利用者の障害特性の理解を深めることや、生活保護や障害者総合支援法の制度理解を目的に毎月の職員会議の後に30分程度、職員が相互に講師を努めて研修会を行った。また、聖隷厚生園全体の取り組みとして、聖隷厚生園を育てる会からご支援をいただいてデンマークへ3名の職員を派遣した。また、讃栄寮では社会復帰促進事業補助金を活用して地域移行希望のご利用者と職員が金沢の先進施設の視察を行った。特にご利用者は良い刺激を受けて地域移行や就労に強い意欲を持つようになった。

- 3. 地域移行が困難なご利用者には、高齢者施設に移行するまで、安全かつ充実した生活を過ご すことのできる支援
 - (ア) 安心して生活できる環境の提供

精神症状等の理由で入浴できないご利用者に粘り強く支援を行い、不定期ではあるが入浴する方が増えた。設備においては老朽化による冷温水発生機など高額な修繕が発生した。また、地域自治会の防災訓練に参加して住民との交流や防災意識の向上が持たれた。

(イ) 障害を持つ方も生き生きと活動ができ、社会参加できる活動プログラムを実施する 職員主導の行事から利用者参加の行事へ見直しを行った。春はやきそばとフランクフル ト、夏はカレー、秋は生さんまの塩焼き、冬は芋煮と季節ごとにご利用者が中心となっ て炭起しから調理まで行った。回を重ねるごとに自然に役割分担が出来上がり、ご利用 者の新たな側面を見いだすことができた。

また、年間を通して組織として継続的にボランティアをしていただいた保険会社の社員 の皆さまとご利用者が良い関係を築くことができた。

	讃栄寮				
	- 1/- -=#-+ /- -=⊓-	******	短期入所		
	救護施設	救護通所	(自立支援法)		
利 用 者 定 員	60名	15 名	4名		
利用者延べ人数	24, 125 名	3,416名	920 名		
一日平均利用者数	65.9名	9.3名	2.5名		
稼 働 率	109.9%	62.2%	62.8%		
稼働日数(延べ)	365 日	365 日	355 日		
単 価 (一人一日当り)		5,048円			
サービス活動収益(千円)	257, 546 千円 4, 645 千月				
職員数(常勤換算)	29.4名				

聖隷厚生園 信生寮

障がい者支援施設 聖隷厚生園信生寮 まじわりの家 障がい者相談支援事業所 信生

聖隷厚生園信生寮の利用者は疾病や身体状況、年齢層が幅広く、求められるサービスも多様である。 そのため 2015 年度は、地域・在宅サービス・施設入所の連携体制を意識し、利用者や家族のライフス テージに合わせた多様なニーズに対応できる施設経営を目指した。

1. 利用者のできることに着目した支援の展開

- (ア) 利用者の個別支援計画に"できること"に着目したプランを立案し、実行することができた。
- (イ) 多職種協働により、経管栄養者5名の経口移行支援を開始することができた。
- (ウ) 家族懇談会にて意見交換を行った。また、成年後見制度の勉強会を実施することができた。
- (エ) 介護職員によるたん吸引・経管栄養、医療除外行為の安全性を確保するための体制作りを行い、 誤嚥性肺炎での入院を防ぐことができた。
- (オ) 全国身体障害者施設協議会『個別支援の実現に向けたケアガイドライン』のチェックを行い、 特に地域とのかかわりに課題があることが理解できた。

2. 地域からの要請に応じたサービス展開

- (ア) まじわりの家では、新たなレクリエーションプログラムを実行できた。
- (イ) 西部、浜名特別支援学校のPTA進路学習会や、学童フォーラム等に積極的に参加した。その中で特に湖西市での短期入所や通所系サービスのニーズを発掘できた。
- (ウ) 静岡県立西部特別支援学校の実習生の受け入れを行った。
- (エ) 短期入所事業は稼働率 100%を超えることができた。しかし、障害児の新規受け入れについては 想定よりも低い結果に終った。虐待等の緊急を要するケースは、数は少ないものの、要請があ った場合は必ず受け入れを行った。

3. 相手の尊厳を守る支援の実践

- (ア) 利用者への接遇向上への取り組みを職場ごとに月間目標を立てて実行した。利用者懇談会で利用者から職員の接遇向上への取り組みに関する評価をいただく機会を作った。
- (イ) 職員による虐待防止セルフチェックを年2回実施し、どんな言動が虐待にあたるのかを職員間で考える機会を作った。

4. 後継者育成と人材発掘のための啓発活動の推進

- (ア) 3年目以降の職員が中心となって介護技術向上のための定期勉強会を実行することができた。特に介護過程における勉強会は、日々の個別支援計画の作成にあたり、質的向上に直結する内容として実行することができた。
- (イ) 教育担当者委員会では、組織的に新人教育することができた。またプリセプターの新人教育に

- 対する教える力を強化することもできた。
- (ウ) 聖隷クリスファー大学や浜松医療福祉専門学校の教員と連携し、教育的なスーパービジョンの 強化を図ることができた。また、厚生園学会に学生も参加する機会を作った。
- (エ) 全国身体障害者施設協議会研究大会、東海北陸ブロック身体障害者施設研究大会、聖隷福祉学会へ、一演題ずつ研究論文を発表することができた。
- 5. 施設会計の円滑化と衛生管理体制の向上
 - (ア) 社会福祉法人新会計基準へ移行を円滑に行うことができた。
 - (イ) 正確かつ効率的に請求作業ができるようにマニュアルを刷新した。
 - (ウ) 手洗い、換気や清掃を強化し、インフルエンザやノロウイルスの蔓延を防ぐこができた。
 - (エ) 腰痛予防のため、2人介助の徹底を行った。
- 6. 環境に配慮した経営と地域貢献への取り組み
 - (ア) 水光熱費の使用量を月ごとに職場内周知を図り、基準年度-2%を達成できた。
 - (イ) 新規の障害者雇用はできなかった。

7. その他の公益的活動

- (ア) 西部、浜名特別支援学校のPTA進路学習会や、学童フォーラム等に参加し、保護者に事業説明を行い、利用につなげる働きかけをした。
- (イ) 静岡県立西部特別支援学校の実習生4名の受け入れを行った。
- (ウ)介護福祉士実習において聖隷クリストファー大学5名、浜松医療福祉専門学校6名、社会福祉士 実習では聖隷クリストファー大学より2名の実習生を受け入れた。
- (エ) 地域住民向けの介護体験講座を開催し、12名の参加を得た。

【数值指標】

	信生寮			まじわりの家		信生	
	7. TE	短期	日中	生活	機能	浜松市	指定
	入所		一時	介護	訓練	相談支援	相談支援
利用者定員	60名	10名	1	14名	6名	1	1
利用者延べ人数	21,843名	3,774名	2,765 時間	4,113名	1,502名	-	1
一日平均利用者数	59.7名	10.3名	_	15.9名	5.9名	-	-
稼 働 率	99.5%	103.1%	-	113.0%	97.0%	-	-
稼働日数 (延べ)	366 日	366 日	366 日	260 日	258 日	ı	-
単価(一人一日当り)	16,768 円	9, 246 円	1,036円		14,048円	1	-
サービス活動収益(*)	367, 426 千円	34,895 千円	2,866 千円		78,885 千円	9,095 千円	15,527 千円
職員数 (常勤換算)		55.7名		14.	0名	2.6	名

(*)内部取引消去前

聖隷厚生園 障害児者在宅事業 (浜松)

ナルド工房 チャレンジ工房 きらめき工房

生活訓練事業所ナルド

障がい者相談支援事業所ナルド

浜松市生活自立相談支援センターつながり

2015 年度は、2016 年度に予定されている障害者総合支援法の改正を意識しつつ、①就労支援施設の安定的経営、②生活困窮者自立支援の強化、③相談支援事業体制の充実強化、④経営状況の共有、⑤実践の言語化の5点を重点項目として取り組んだ。

1. 就労支援施設の安定的経営

- (ア) ナルド工房11人、チャレンジ工房12人、きらめき工房8人の就職者を出した。
- (イ) 就労移行支援、就労継続支援B型に続く、就労継続支援A型を具体的に検討した。
- (ウ) 目標工賃加算、移行支援体制加算等のための実績を作った。
- (エ) 既就職者の現状把握、次のステージへのステップアップ、再訓練について評価した。

2. 生活困窮者自立支援の強化

- (ア) 生活困窮者の世代別ニーズに合う事業周知方法を検討しメディアに掲載した。
- (イ) 民生委員や地域包括支援センターのネットワークと連携した新規相談を開拓した。
- (ウ) 法人内各施設の協力を得て「中間的就労」の場を開拓した。
- (エ) 自立相談支援員のスキルアップを目的に事業所内外の勉強会等に参加した。

3. 相談支援事業の充実強化

- (ア) 毎月の勉強会で、全職員が持ち回りで事例提供を行った。
- (イ) 事例検討会を中心とする勉強会では、事例理解に必要な理論的裏付けを行った。
- (ウ) 各会の勉強会でアンケートを取り、スタッフの着眼点・不足する論理を把握した。
- (エ) 相談支援初任者研修、現任者研修参、サービス管理責任者研修に参加した。

4. 経営状況の共有

- (ア) 職場会議で経営状況を報告し、職員全員が経営意識をもつようになった。
- (イ) 予算と実績値を毎月提示し、職員一丸となって目標達成を目指した。
- (ウ)総合支援法の仕組みを把握し、日々の実践とのつながりを全職員が理解した。
- (エ) 事業所間で交換研修を行い、他の事業所の良い部分を取り入れた。

5. 実践の言語化

- (ア) 厚生園学会で、一部署が一演題発表した。
- (イ) 係長職以上は、全県または全国の研修や学会等で講師または発表を行った。
- (ウ) 各種学会に積極的に参加し、日々の実践と全国のレベルとを比較体感した。
- (エ) 勉強会を定期的に開催し、実践の理論的裏付けや専門用語の学習を行った。

【数値指標】

	ナルド工房		チャレン	チャレンジ工房		きらめき工房	
	就労移行	就労継続	就労移行	就労継続	就労移行	就労継続	
利用者定員	20名	15 名	15 名	15 名	15名	15 名	
利用者延べ人数	4,455名	4,016名	3,353名	3,580名	4,334名	4,211名	
一日平均利用者数	15.8名	13.0名	12.3名	13.3名	13.9名	13.5名	
稼 働 率	78.7%	86.4%	81.6%	88.1%	92.6%	90.0%	
稼働日数 (延べ)	311 日	310 日	274 日	271 日	312 日	312 日	
単価(一人一日当り)	13,441 円	9, 263 円	12,799 円	8, 260 円	9,767 円	8,584円	
サービス活動収益 (*)	59,880 千円	37, 201 千円	42,917 千円	29,574 千円	42,334 千円	36, 149 千円	
職員数(常勤換算)	10.	9名	8.8名 9.5名		5名		

	生活訓練ナルド		相談支援事業ナルド		地活ナルド	つながり
	生活訓練	生活介護	浜松市	指定	地域活動	生活困窮者
	生石训釈	生石刀喪	相談支援	相談支援	支援センター	支援事業
利用者定員	14名	6名				
利用者延べ人数	3,408名	1,595名		_	_	_
一日平均利用者数	12.6名	6.4名	_	_	_	
稼 働 率	89.8%	105.1%		_	_	_
稼働日数 (延べ)	271 日	253 日		_	_	_
単価(一人一日当り)	8,563 円	6,231 円		_	_	_
サービス活動収益 (*)	39, 124 千円		9,087 千円	20,672 千円	11,245 千円	49,819 千円
職員数(常勤換算)	4. 7	名	3. 5	5名	1.4名	8.2名

^(*)内部取引消去前

聖隷厚生園 障害児者在宅事業 (磐田)

磐田市発達支援センターはあと 児童発達支援事業所かるみあ

2015年度は、発達段階に合わせた支援環境を整備するため、児童発達支援事業所かるみあの従たる事業所として"かるみあ豊田"を開設した。特別な支援を要する子どもの増加に伴い、発達支援センター相談希望者や児童発達支援事業所利用希望児童の待機期間の長期化が新たな課題として挙げられる年となった。

1. 児童発達支援事業所かるみあ

(ア)安定的運営

- ①2015 年 4 月に従たる事業所を開設し、幼稚園生活を想定した環境を整えることが出来た。
- ②事業所選定のためのルールを作成し、事業所移行時は、子どもと保護者双方がスムーズに移行できるよう職員体制を調整した。その結果、開設当月より年間を通して、利用率 100%を維持できた。
- ③年間計画・月間計画をモニタリングする会議体を発足した。家庭で、子どもが「事業所で行ったこと」を話したり行ったりするという変化はあったものの、判断基準が不明確なため、2016年度は発達指数など客観的指標を積極的に活用する。

(イ) 家族支援の充実

- ①全利用者を対象に家庭訪問を実施した。生活全般で支援するという視点を職員が持つ機会となり、環境要因に関する意見がカンファレンスで聞かれるようになった。「保護者同士のつながり」を目的に、保護者懇談会を行った。年度末には、お互いの子どもの成長を喜び合う保護者の姿がみられた。
- ②個別支援計画のみで、「子どもの"成長"」を伝えることが難しいと判断し、アセスメントシートの改訂を行った。「"子どもの現状"は理解しやすくなったが、家族に説明することは難しい」との意見もあるため、2016年度も継続して取り組む。

2. 磐田市発達支援センターはあと

(ア) 早期療育

- ①家庭で実施できる遊びを中心に、「遊びかたカード」を活用した。関わり方の基本を踏まえて、振り返ることができ、子どもとの関わりについて考えを発信する保護者が増えた。
- ②はあと療育グループ入所時期を変更した。その結果、利用希望者は増加となり、健診 事後教室からスムーズな移行が可能となった。また、幼稚園へ支援方法をつなぐため、 「いろはノート(育ちファイル)」を保護者と作成し、入園予定園へ引き継ぎを行った。

(イ)機関支援の強化

①支援方法が検討できるよう、申し送りの方法を変更した。問題提起の場として活用す

る職員が増えた。

②「客観的な指標」をもとに、幼稚園の巡回相談の書式を変更した。「子どもの特徴が分かりやすい。書類作成の時間が短縮された」と評価をいただいた。

3. 公益的事業

幼稚園・小学校・中学校教諭対象に、講師派遣を年 5 回実施した。磐周養護教諭全体研修受け入れを行った。発達障害児親の会を対象に、イベントを1回開催した。

	はあと		かるみあ			
	発達障害等支援	児童発達支援	保育所等 訪問支援	日中一時		
利 用 者 定 員	-名	20名	- 名	- 名		
利用者延べ人数	-名	5,195名	643名	2,557時間		
一日平均利用者数	-名	21.2名	-名	-名		
稼 働 率	-%	106.0%	- %	- %		
稼働日数 (延べ)	- 日	245 日	365 日	244 日		
単価 (一人一日当り)	- 円	8,220円	10, 101 円	1,364円		
サービス活動収益 (チ円)	26,779 千円	42,708 千円	6, 495 千円	3,489 千円		
職員数(常勤換算)	8.2名		12.7名			

浜北愛光園

2015 年度介護保険法改正に伴う報酬減額による影響は、入所稼働率の向上でカバーできたが、 在宅サービス契約者の伸長は停滞気味であり、認知症高齢者や障がい児へのサービスの充実や、 訪問看護ステーションを活用した高医療対応の強化については課題を残している。

地域包括ケアシステムにおいて、北浜地区の南東端にある地理的不利もあり、地区内での存在 感はまだ弱い。その打開策として、大規模な入所定員と、地域包括支援センター・ケアプランセ ンター・訪問看護ステーション・障害者相談支援事業所等の在宅支援機能が併設されている強み を活かして、『多様な介護ニーズに応えられる大規模・多機能・高機能の複合介護施設』、『福祉人 材を育成・排出できる組織』、『地域内の様々なサービスを繋げることができる拠点施設・ハブ施 設』を目指した活動を各事業単位で展開した。その活動の成果は、サロン「いかまいか北浜」の 定期開催や、北浜地区医師会や開業医との関係づくりに出始めており、継続した取り組みとして いきたい。

人材育成においては、若年層の多い介護職員と、新任係長を含む若手の職場長の育成は喫緊の課題であり、新人教育のプリセプター制度の2年継続や役職者プリセプター制度を試行している。 方法論の修正は必要だが、目標参画や職種別ラダーと併用しながら個人の成長を促す効果は期待できる。EPAを含む職員の資格取得支援も行っており、無資格者の有資格化、各職種における介護支援専門員へのチャレンジも見られる。多種の専門職が従事する大規模施設の利点を生かした勉強会の実施は、今後も継続させ、個々のスキルアップを施設機能の強化へと活かしたい。

【年度事業目標・年度事業計画】

- 1. 利用者満足の向上
 - (ア) 地域包括支援センター・訪問看護ステーションと他の医療・介護事業所とのカンファレンスや勉強会を開催し連携を深め、地域包括ケアにおける、当施設機能の周知を図った。
 - (イ) 個別ケアの質の向上につなげるため、ケアプラン作成プロセスの見直しと、プラン・サービス・記録が連動するように職員教育を図った。また、短期入所利用者への排泄アセスメントを実施し、適切なオムツ選択についての提案を行った。
 - (ウ)接遇・ホスピタリティの向上と虐待防止に関する意識づけ向上のため、通年で各職場で の勉強会やセルフチェック表の活用の結果、接遇やコミュニケーション不足等に起因す る大きな苦情は発生していない。
 - (エ) 障害者サービスについては、内部連携の見直しにより、相談支援事業所浜松東からの依頼ケース及びきらめき工房からの紹介ケースがあった。ケアプランセンター浜北と浜松東との兼務職員を配置することで、障害サービスと介護保険の併給者への対応をすることができた。

2. 職員満足の向上

(ア)職員の専門スキル向上のため、介護福祉士については無資格者に対する実務者研修の受講を促進できた。介護支援専門員については森町・浜北愛光園共催で試験対策講座を実施した。また EPA4 期生は無事に国家試験に合格した。先輩合格者による後輩候補生へ

の学習サポートを引き続き継続していく。

- (イ) 目標管理については、組織目標・職場目標と個人目標の連鎖が進んでいる。今後もマネジャーを中心に、聖隷及び施設理念と職員個人の「やりたいこと」をリンクさせた取り組みを継続していく。
- (ウ) 次世代リーダーの発掘と育成のために、ファシリテーターとプリセプターを巻き込みながら、事業団の階層別研修における学習内容を活用したリーダー研修を実施した。新人教育のプリセプター制度も2年間に延長して実施した。

3. 健全な経営の継承、向上

- (ア) 法令・規則に基づく適正経営と問題解決に努めた。また、ホームページのリニューアル を実施し、今後浜北愛光園で更新作業ができる環境となったため、効果的で即時的な情報公開を目指す。
- (イ) 園内会議において、各職場長による数値実績に基づく経営報告や分析ができるようになってきた。また、介護保険の算定要件の理解も進み、報酬のマイナス改定の経営面への影響を最小限にとどめることができた。通所介護、短期入所の在宅サービス契約者の伸長は停滞気味であり、サービス提供地域の拡大や提供時間の選択肢の追加を実施した。
- (ウ) 区内の聖隷施設間での情報共有・地域連携のあり方の見直しについては、事業部の各種 連絡会議と協働して、浜松地区 4 愛光園における利用申込者・待機者情報の共有化・4 愛光園営業ツールの標準化を進めた。
- (エ)環境に配慮した経営については、事業団から提供される集計資料をタイムリーに活用し、 時季に応じた注意喚起や管理活動を行った。年度末に、蛍光管(399 本)のLED化を1 号館で実施した。効果測定は前年対比で2016年度末に実施する。

4. 地域貢献等のための活動(公益事業)

- (ア) 地域防災については自治会関係者への呼び掛けを行い、双方の課題確認に着手できた。 災害対策拠点としての役割・地元町内会の実情や課題を出し合いながら今後の協力の在 り方について意見交換を重ねていく。
- (イ)地域包括支援センターと高薗デイサービスセンターが協力して、7月より月1回のサロンを開催した。また民生・児童委員協議会への会議場提供・見学受け入れを通じて交流を図り、当該地区における高齢者介護・障害者支援の概要をご理解いただけるように努めた。
- (ウ) 高校の福祉科、専門学校等の介護実習、相談援助実習、看護実習、事務職に聴覚障害者の実習を受け入れた。また、高校生対象の親子見学会の開催や中学生の職場体験受け入れてより、多くの生徒・学生に福祉・介護・医療分野の魅力を発信した。

【数值実績】

高齢者入所・短期入所・通所・相談支援関係事業

		Ž	兵北愛光園	高薗デイサービス センター		障害者 相談支援		
	特養	入所		短期入所			介護	浜松東
	従来型	ユニット型	従来型 ユニット型 障害		一般	予防		
利用者定員	50名	100名	20 名	20 名	ı		35名	
利 用 延 数	18,795名	37,945名	5,329名	3,840名	151名	6, 295 名	562名	
一日平均利用者数	51.35名	103.68名	14. 56	10. 49	0.41	20. 36	1.81	
稼動率(%)	102.7%	103.68%	72.81%		54.5%	63.35%		
稼 動 延 日 数		366 日			366 日	309 日		
平均介護度	4. 12	3. 72	3. 27	2.85	4. 11		2. 19	
単価 (一人一日)		12,832 円		12,050 円		10,148 円		
サービス活動								
収益(*)	72	9,634 千円	111,934 千円			69,	590 千円	17,733 千円
職員数(常勤換算)		96.68名		4	23. 20 名		13.32名	2.9名

訪問看護事業 (訪問看護ステーション貴布袮)

平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価(円)	サービス活動	職員数
十均利用有效	万切问什效	平切问什奴	平価(口)	収益 (*)	(常勤換算)
115名	673 件	8,074件	9,714円	78,501 千円	10.1名

居宅介護支援事業(聖隷ケアプランセンター浜北)

年間請	求件数	平均単位	平均単価(円)		訪問調査	サービス活動	職員数
介護	予防	介護	予防	年間件数	単価(円)	収益 (*)	(常勤換算)
1,926 件	159 件	15,922 円	3,086円	36 件	4,000円	32,927 千円	5.9名

地域包括支援事業(地域包括支援センター北浜)

浜松市受託収入	予防プラン	うち	予防プラン	サービス活動	職員数
(千円)	請求件数	再委託件数	単価 (円)	収益 (*)	(常勤換算)
25,332 千円	2,057件	724 件	4, 497 円	34,615 千円	4.4名

(*)内部取引消去前

森町愛光園

2015 年度は介護報酬改定があり、基本報酬がマイナス改定されたが、新たに加算取得できたことや安定した稼働率で推移させることができ、大きな混乱を生じることなく事業運営が図られた。 入居においては感染症の蔓延もなく、また入退居時の入れ替え時に生じる空床期間を短縮する 工夫をすることにより、ほぼ予算通りの稼働を維持することができた。

居宅介護支援は、森町地域包括支援センターとの連携を強化することで、2014 年度比より計画作成件数を伸ばすことができた。訪問介護は想定の稼働率を維持できた一方で新規契約がやや鈍い傾向がみられる。今後は医療など他機関の動向から新規の流れを分析することや、障がい者(児)ショートステイ、保険外付帯サービスを行うなどして独自性を地域に示したいと考えている。通所介護は、上半期の稼働率低下によって、予算想定の稼働を下回った。2016 年度は認知症ケアや理学療法士による個別機能訓練の充実を図り、その成果をご利用者へ示し、個別ニーズに答えることのできる事業展開をしたい。また、森町内にある8つの通所介護事業所による合同連絡会を立ち上げ、地域ニーズについて情報交換できる機会を作ることができた。2016 年度は、森町愛光園の中長期計画に基づいて、法人の枠を超えて協働して地域課題の解決に向けての取り組みができる関係性を築き、地域包括ケアシステムの一端を担える運営を目指したい。

- 1. 入居、在宅の全事業において利用者・家族が望む生活を支援できるように質の高いサービスを提供する・・・「私らしさをあきらめない」
 - (ア) 入居部門においては、介護計画に基づいたサービスの実施、評価、再検討、再実施の流れを作るために記録係を中心に勉強会等を行い、介護計画と経過記録の連動性を意識できるよう職員に促した。
 - (イ)フェイスシートやご利用者ごとの 24 時間の生活がわかるシートを作成するなどして、職員間で情報を共有し「その人らしさ」を尊重したサービスを提供することができた。
 - (ウ) 入居者の年間の延べ入院者数は昨年度比約 50%増加しており、健康管理支援については 2016 年度の課題とした。
 - (エ) 入居部門とデイサービス、ショートステイとの連携で、スムーズな入居手続きをする体制が整った。
- 2. 職員の計画的な育成ができ、やりがいと魅力ある職場づくりを目指す。
 - (ア) 介護テクニカルラダーと目標参画を連動させて、全正職員が実施することができた。
 - (イ) 部署によっては接遇面の課題が残ったため、2016年度の課題とする。
 - (ウ) 部署ごとに目標の達成基準を定めて職場全体で主体的に課題解決にあたることができた。
- 3. 2015 年度の介護報酬改定を受け、地域支援を充実化する。また、2025 年を見据えた森町愛光園の中長期計画を策定し、地域包括ケアの一角を担えるよう準備を行う。
 - (ア) 中重度者ケア加算や経口維持加算などの加算取得のための体制を整えた。しかしながらまだ取得できていない加算があるので、引き続き 2016 年度の課題とした。
 - (イ) 森町にある通所系 8 事業所の連絡会を発足させた。訪問介護の付帯サービスの検討や障がい者(児)の居宅介護、通所介護における個別リハビリテーションや認知症の方への

ケアなどのニーズが見えてきたため、2016年度に具体的な事業のかたちにしていくこととする。

- (ウ) 日中一時支援では、定期利用者が増えつつある一方で障害ショートステイについては、 新規契約につながっておらず、事業展開において検討する必要性がある。
- (エ) 森町愛光園における中長期計画を策定することができた。2016 年度以降具体化に向けての取り組みを行う。
- 4. 静岡県の「高齢者福祉施設における災害対応マニュアル」に基づいた備蓄を行い、広域災害時における利用者及び職員の安全を確保する。
 - (ア) 利用者分に加えて、新たに職員用非常食、衛生用品等の備蓄を3日分用意した。
 - (イ) ライフライン障害に備えた行動指針の作成は 2016 年度の課題とした。これに加えて、 ライフライン障害を想定した訓練導入を 2016 年度実行に移したい。
 - (ウ) 町内会や豊田合成との合同防災訓練を実施し、有事の際の確認ができた。

【数値実績】

								1		
	!	特養		サテ	ライト	短期	期入所	通	通所介護	
	従来型	ユニット	人型	ユニ	ット型	従	来型	居宅	予防	
利用者定員	60 名	2	0名		29名		12名		42 名	
利用者延べ数	21,583名	6, 98	8名	10	, 375名	3	8,760名	7, 717 名	名 864 名	
1日平均利用者数	58.97名	19.0	9名	2	8.35名	1	.0.27名	25.06 4	2.81名	
稼動率	98. 28%	95. 4	16%	Ć	97. 75%		85.61%		66.31%	
稼動日数(延べ)		36	6 日		366 日		366 日		308 日	
単価 (一人一日当り)	11,527 円	14, 14	9 円	12	, 532 円	11	, 360 円	10, 817 F	9 5,777円	
サービス活動収益(千円)		349, 372	千円	130,071 千円		42, 8	326 千円		88,470 千円	
職員数(常勤換算)	39.79名	12. 4	12.45名 19.8		9.89名		7.50名		14.90名	
	在宅介護	居宅介	護支持	爰	討	5問介護		#7 A	A =1	
	支援センター	居宅	予	防	居宅		予防	配食	合計	
利用者定員										
利用者延べ数		1,689名	13	39 名	4, 754 名	各	409名	111名		
1日平均利用者数					13. 21 名	各	1.14名	0.43名		
稼動指数		34.4件	2.	8件	62. 1 f	牛	5.3件			
稼動日数(延べ)						•	360 日	258 日		
単価 (一人一日当り)		16, 178 円	4, 21	18 円	3, 804 F	円 3	8,208 円	600 円		
サービス活動収益(千円)		27	27,911 千円		19, 397 円		66 千円	658, 113 千円		
職員数(常勤換算)	0.1名		4. ()8名			6.37名	0.1名	105.18名	

松戸愛光園

特別養護老人ホーム松戸愛光園 松戸愛光園ショートステイ 松戸愛光園デイサービス 松戸愛光園ケアプランセンター

2015 年松戸愛光園は、各事業の責任の明確化と組織づくりを行った。管理会議において、各事業責任者より各月稼働率分析・考察報告を行い、松戸エリア会議にて事業展開について議論した。

人材育成・職員教育については各専門職ラダーの取り組みを開始したが、目標参画システムとの連動までには至らなかった。介護職にあっては、介護プロフェッショナルキャリア段位制度のアセッサーに2名合格することができた。また、「千葉県ユニットリーダー研修」の実習受入施設として、千葉県内のユニット型施設職員、12名の実習生を受け入れ、ユニットケアの在り方について自らの学びの場とできた。喀痰吸引研修については新たに2名の研修が終了した。

最後に、松戸愛光園においても人材確保は大きな課題であり、様々な採用活動を行っているが 採用困難な状態が続いている。

1 安定した経営・運営

- (ア) 介護報酬改定に応じた新たな加算算定は行えなかったが、日常生活継続加算等、安定した 算定を行うことができた。
- (イ) 稼働率を意識した運営を行ったが、予算稼働率には至らなかった。しかし、厳しい地域事情の中、各事業が出来る限りの受け入れを行うことができた。
- (ウ) 各事業の相談員、ケアマネージャーが連携を強化することで新規利用者の獲得に寄与する ことができた。
- (エ) インフルエンザの蔓延はなく、またノロウィルス等の感染症の発生もなく推移できた。
- (オ) ガスエンジン・ヒートポンプエアコンについては計画通り更新ができた。

2 「最高の質」に対する取り組み(ユニットケアの推進)

- (ア) 喀痰吸引研修へ2名の派遣を行うと同時に、他施設の受講生の実習の場として貢献ができた。
- (イ) ユニットリーダー研修受講については、千葉県高齢者福祉施設協会が千葉県より受託して 行う研修に参加できた。また、講師派遣や、実習生の受け入れも行った。
- (ウ) サービス自己評価を行い、ケアの振り返りとする機会を得ることができた。
- (エ) 利用者の退居に伴い、畳からフローリングへと改修を行った。また、通所介護事業前の廊下をカーペットよりフローリング調塩ビシートに変更し、転倒のリスクを軽減した。
- (オ) 看取りケアについては退居者の8割が園での看取りを行うことができた。

3 人材育成・人材教育と採用

- (ア) 各専門職ラダーについては、本格的導入にまでは至らず、課題を残す形となった。
- (イ) 介護プロフェッショナルキャリア段位制度評価者(アセッサー)に**2**名の合格者を出すことができた。
- (ウ) 新人研修については予定通り推移することができた。
- (エ) リクルーター派遣することで、採用に関して有効であることが確認できた。

4 住み慣れた地域で暮らしていくために

- (ア) 通所介護事業新規スペースを活かし、デイアクティビティの多様化が図れた。
- (イ) 高塚団地自治会、高塚団地友の会(老人会)との交流については例年通り行うことができた。高塚団地管理組合とは公用車駐車場について連携が図れた。
- (ウ) 松戸愛光園玄関前に、これまでなかった案内看板を設置するとともに、松戸ニッセイエデンの園と共同で、フィットネスクラブ前においても案内看板を設置した。

5 地域への貢献(公益的活動)

- (ア) 松戸愛光園チャリティバザーを開催し、売上金全額を松戸市社会福祉協議会へ寄付した。
- (イ) 周辺地域の清掃活動を松戸ニッセイエデンの園と共に実施した。
- (ウ) 高塚団地有志の「映画を見る会」に地域交流ホールを提供し、一部ではあるが、利用者と 地域住民の交流の場とすることができた。また屋上庭園については、あじさいの時期に多 くの地域住民が訪れ、鑑賞の場を提供することができた。
- (エ) 松戸市特別養護老人ホーム連絡協議会とは良い連携体制がとれ、2016 年度副会長施設と しての足掛かりを行った。

【数値実績】

			通所	介護	ケアプラン	
	特養入居	短期入所	一般	予防	センター	総計
利用者定員	100名	20 名		29 名		
利用者延べ数	35,632名	5,121名	5, 219 名	203 名	1,111名	47,286名
一日平均利用者数	97.4名	14.0名	16.9名	0.7名		
稼働率 (%)	97.4%	70.0%	60.7%			
稼働日数 (延べ)	366 日	366 日		309 日		
単価 (一人一日当り)	13,614円	13,818円	10,330円	5,858円	10,665 円	
サービス活動収益	486, 331	71, 109	55, 520 千円		11,854	624, 814
(千円)	千円	千円			千円	千円
職員数(常勤換算)	70.4名	12.8名	10.1名		2.5名	95.8名

浦安市高洲高齢者福祉施設及び

浦安市猫実高齢者デイサービスセンター

浦安市特別養護老人ホーム・短期入所生活介護 浦安市ケアハウス 浦安市高洲高齢者デイサービスセンター 浦安市猫実高齢者デイサービスセンター 浦安市高洲在宅介護支援センター

2015年度は、介護人材の確保に明け暮れた年度であった。また、報道機関を通じて高齢者施設での虐待のニュースが取り上げられ世間の注目を集めた年でもあった。人材不足の中、社会からの大きな期待を背負いながら現場を支えてくれている職員に対し、施設として仕事のやりがい作りをどのように感じてもらえるかを多く考えさせられた年度である。

本来高齢者介護の現場は、多くの笑顔とご利用者の生きがいに触れ働く職員自身のやりがいを 多く感じられるところである。それらを感じてもらうために、施設内の研修・カンファレンス・ 業務を通じ技術・知識の習得やアセスメントを通じてご利用者の個別性を見出し、個々の生き方 の支援を考えられる視点作りを行ってきた。

また、浦安市指定管理の役割として緊急の短期入所の受入れ、浦安市による措置入所の受入れを行い、地域の必要性に応えてきた。

2015年4月より、特別養護老人ホームへの入所基準が原則要介護度3以上に規定されたことにより、介護職員の喀痰吸引研修・実地研修を利用者の協力のもと進めてきた。

1. 個別ケアの充実

ICF(国際生活機能分類)研修への参加者による施設内研修を継続し、各フロアーにおいては徐々に、ヒヤリハットについては、リスクへの気づきや事故防止のための記載方法についてポイントを絞った研修を行った。

居室担当の役割については、明確化や役割遂行に向けての具体的な教育という点まで至らず 継続課題となった。

2. 職員教育の充実

介護テクニカルラダーと施設内研修の一体化を進めてきた。一部ではあるが、研修とラダーの連携が取れるようになった。年度当初は、レベルについても目標参画に取り込むことはできたが年間を通じて、レベル認定まで進むことが出来ていない。また、資格取得に関しては高洲地区合同で介護支援専門員の資格取得勉強会を開催する取組みを行った。2016年度以降も継続し、全体で資格取得に向けたモチベーションを高めていく。

認知症については、具体的な事例を基に実践的なアセスメント方法の検証を行い個々のケアプランの作成に反映できるよう取組みを行った。

3. 地域連携の拠点としての取り組み

2015年度は、在宅介護支援センターの最終年度となった。2016年度からの地域包括支援センターの指定を受けることができ、より一層地域とのつながりの中で広い視点で地域包括ケアを目指していく。

4. 施設機能の重点化

通所介護においては、新総合事業への移行も視野に入れ専門的なサービス提供の事業所として認知症に着目したサービス提供を試みた。しかしながらご利用者の状態から、認知症の方の利用率より中重度の方の利用が見込まれる為、中重度ケアに方向転換をしていく。

5. 防災体制の確立

各職場におけるマニュアル整備は進んでいるが、実際に周知と行動が伴っていない状況もある。そこで、職場の中での検証をより進められるよう、2016 年度の防災委員は職場長が担うこととし、体制づくりを進める。

6. その他公益的事業

(ア) 小学生の職場体験 (実人数 0名 延べ人数 0名)

(イ) 中学生の職場体験 (実人数 20 名 延べ人数 30 名)

(ウ)介護福祉士の実習受け入れ (実人数 3名 延べ人数 66 名)

(エ)浦安市薬剤師会見学実習 (実人数24名 延べ人数24名)

(オ)順天堂大学医療看護学部 (実人数32名 延べ人数120名)

(カ) 了徳寺大学 看護学科 (実人数 20 名 延べ人数 75 名)

(キ) 社会福祉士の実習受け入れ (実人数 1名 延べ人数 15 名)

(ク)浦安市就労準備支援事業 (実人数 1名 延べ人数 8名)

【数值実績】

	特 養	短 期	ケアハウス	高 洲	猫実	在宅支援	総合計
				ディ	ディ	センター	
利用者定員	100名	50 名	50 名	20 名	20 名	_	240 名
利用者数 (延べ)	36,246名	14,393名	17,934名	5, 152 名	5,509名	_	
一日平均利用者数	99.0名	39.5名	49.0名	16.7名	17.8名	_	_
稼動率(%)	99.0%	78.7%	98.0%	83.4%	89.1%	_	_
稼働日数(延べ)		366 日		309 日	309 日	_	_
平均介護度	3. 5	2.8		2. 2	2. 1	_	_
単価 (一人一日当り)	_			_	_	_	_
サービス活動収	475, 265	200, 096	90, 609	36, 674	45, 271	19, 104	867, 019
益 (千円)	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円
職員数 (常勤換算)	62.1名	19.3名	5.7名	6.7名	6.6名	1.9名	102.3名

浦安愛光園

2015 年度、浦安愛光園は予算達成をすることができた。地域加算による単価の上昇と稼働率や経営指標を意識して施設運営することができたことが要因と考えられる。特にケアについては入院日数を減らすため 2014 年度の入院状況を分析し誤嚥性肺炎の予防に多職種が協力して取り組むことができた。一方、新規入居までの期間の短縮については結果が出せず空床期間の短縮には課題が残る。サービスについては、ケアプランを見直すことでQOLが向上し、継続している接遇アンケートの結果から満足度が向上していることが確認できた。

浦安地区の大きな課題である人材不足に対応するため、人事部関東採用センターと連携し管理者を中心にお仕事相談会を2日間開催し、雇用に結びつけることができた。育成については2年続けてキャリア段位制度のアセッサーに合格者を出すことができたが介護テクニカルラダーの運用は不十分で計画的な取り組みが今後必要である。

1. ケアプランに基づいた生活支援の実践

- (ア) 目標参画に位置付け職員全体でケアプラン実施率向上に取り組むことができた。特に 余暇活動については参加率が上がりQOLを高めることができた。
- (イ) 24 時間シートの活用についてはユニット毎の差が大きく、効果的な活用ができていない。
- (ウ) ケアプランにご家族の役割と目的を反映させたことで、終末期だけでなく日常の中で ご入居者、ご家族、職員が一緒に関わる機会を増やすことができた。

2. 安心・安全・快適な生活

- (ア) 誤嚥性肺炎での入院を減少するために多職種が協力し勉強会等を積極的に実施した。 下半期には効果・結果として入院者数を減らすことができた。
- (イ) 各委員会で研修を企画・実施、委員主体で対策の啓発を行った。
- (ウ) アセスメント力の向上により自立支援につながった。

3. 施設理念に基づいた教育方針と人材育成の定着

- (ア) 法定研修については自施設で実施、人材育成については浦安地区全体で効果的に取り 組むことができたが、認知症ケアについては不十分であった。
- (イ) キャリア段位制度のアセッサーに1名合格。アセッサーは園で2名となった。介護テクニカルラダーについては実施したが本格的な運用は課題である。
- (ウ) 接遇アンケートをご家族に実施した結果、昨年と比較して悪い・不満足の数が減少した。

4. 地域における高齢者福祉サービスの拠点として地域住民の期待に応える

(ア) 地域ふれあいサロンにて管理栄養士による講話、鍋づくりを地域住民と実施した。

- (イ) 花火大会翌日の清掃と若潮公園に花を植える美化運動に参加し、地域住民と一緒に活動した。
- (ウ) 地域ニーズとしてボランティア、看護・介護実習、職場体験等の受け入れを積極的に 行うことができた。
- (エ) 福祉避難所における物資等の備蓄を補助金で購入した。

5. 経営改善の継続

- (ア) 稼働率予算未達。誤嚥性肺炎の予防に取り組むことで入院日数は減少したが、新入居 までの日数がかかり空床期間を短縮することはできなかった。
- (イ) 10年目の建物であり、予想以上に突発的な設備・機械の故障が相次いだ。

6. その他公益事業

(ア) 介護・看護・社会福祉援助実習の受け入れ

介護福祉士実習(3名、延べ66日)

順天堂大学医療看護学部 高齢者ケアシステム実習 (32名、延べ109日) 社会福祉援助実習 (2名、延べ10日)

- (イ) 教職員免許特例法に基づく介護等体験の受け入れ(29名、延べ145日)
- (ウ) 女子栄養大学の実習受け入れ (6名、延べ68日)
- (エ) 浦安市花火大会清掃活動及び若潮公園「花いっぱい運動」に参加

【数值実績】

	浦安愛光園
利 用 定 員	70 名
利用者延べ数	24, 502 名
稼 動 延 日 数	366 日
一日平均利用者数	66.9名
稼 動 率	95. 6%
単価(1人1日当り)	13, 818 円
サービス活動収益 (千円)	340, 448 千円
職員数(常勤換算)	45.1名

介護老人保健施設 浦安ベテルホーム

2015 年度は、在宅生活に近い環境を居室内外に整備し、他職種協働で在宅復帰に向けた支援に取り組んだ結果、ユニット型居室では在宅復帰率が 46.2% (2016 年 3 月※前 6 ヶ月通算)と在宅復帰支援施設としての機能を発揮することができた。経営面では、入所において新設および既存の特別養護老人ホームへの転出が 2014 年度比で倍増し、稼働率は 67.9%と予算を大きく下回った。通所リハビリテーションでは、平均利用者数はほぼ 2014 年度と同数であったものの、基本単位と単価が上がったことにより収益増に寄与することができた。また、入所、通所ともに他施設では受入れが困難な医療依存度の高い方の受入れも積極的に行い、地域における役割を果たすとともに、今後も真に必要とされる施設を目指し引き続き邁進していく。職員募集は関東採用センターの協力も得ながら進め、初めて開催したお仕事相談会では 2 名が採用に結びついたが定数を満たすには至らず、募集のための情報発信という点では課題を残した年度となった。

1. ご利用者と家族のQOLに則した支援の幅を拡大する

- (ア)ご利用者、ご家族を"知る"ことに拘り、ご意向を多職種で共有することはできてきた。 今後はさらにご意向に寄り添うことができる、多彩な在宅支援手法を増やしていきたい。
- (イ) 各専門職が役割を再認識し、それぞれの立場でご利用者への関わり方を考えることができるようになった。
- (ウ) 退所計画を立て、在宅復帰後の介護支援にも関わることができている。入所と通所の情報共有もできるようになり、通所やショートステイの利用にもつなげることができた。

2. 専門職としてのスキルを磨き、やりがいや誇りを共有できる

- (ア)テクニカルラダーの評価はできたが、OJTに結び付けるまでには至っていない。
- (イ) 利用者の健康マネジメントについては、研修やOJTを通じて教育をしたが、全職員ができるまでには至らず、継続課題とした。
- (ウ) 担当制は定着したが、役割の明確化や情報共有、他職種、他職員との連携という点では 課題が残った。全職員がご家族を含めての心の拠り所にはなれていない。
- (エ) 日ごろ研鑽を積んだ成果が、千葉県老人保健施設協会主催の研究発表会や聖隷福祉学会 での評価に如実に現れ、職員のやりがいや誇りを構築しつつある段階である。
- (オ) 積極的に学生(看護、介護、リハビリ職)の研修及び見学の受入れを行った。

3. 入所・通所における憩いの充実

- (ア) 馴染みのある行事を企画し、ご利用者がご家族と共に季節や楽しみを感じていただくことができた。
- (イ)満足度調査回収率 39.7%、回答者のうち行事参加率 76.0%であった。2016 年度は、回収率 50%、行事参加率 80%を目標とする。
- (ウ)「外食レク」や「出前レク」などの家族との団欒を支援する食のレクリエーションを定期 的に実施することができた。退所前訪問・指導・カンファレンスも実施できている。

4. 運営の安定化

- (ア)地元の医療機関に留まらず、対象地域を船橋市、江戸川区、江東区にまで拡大して施設のPRを行った。地元医療機関との定期的な看護会議では、より具体的な連携のあり方を話し合うことができた。また、医療機関からの受入れを拡大するため、ムースゼリー食の導入に向けた取り組みを開始し、2016年度より提供が可能となった。
- (イ)特別養護老人ホームへの退所者が、2014年度18名であったものが41名と激増した。今後もこの傾向が進行すると予想される中で、相談件数の増加、利用者の獲得に注力する。通所リハビリテーションでは、要支援者の利用が2015年度末には11名となり、2014年度末比で10人増えた。各種加算については、認知症ケア加算の取得を目指したが、対象となる研修修了者の退職により取得はできなかった。次年度は計画的に研修を受講し取得に向けて進める。また、短期集中リハビリテーション加算は予算通り1日当たり15名取得できた。経口維持加算Iも、常時4名以上対象とすることができた。

5. 地域社会への貢献

(ア) 順天堂大学医療看護学部看護師の実習受け入れ

(イ) 了徳寺大学看護学科看護師の実習受け入れ

(ウ) 理学・作業療法士の実習受け入れ

(エ) 栄養士の実習受け入れ

(オ) 社会福祉士の実習受け入れ

(カ) ボランティア受け入れ

(キ) 障がい者雇用

(実人数 32 名、延べ日数 109 日)

(実人数 16 名、延べ日数 60 日)

(実人数4名、延べ日数80日)

(実人数6名、延べ日数68日)

(実人数2名、延べ日数48日)

(11 グループ、16 イベント)

(常勤換算1名新規採用)

(ク) 浦安市ふるさとづくり推進協議会主催「花いっぱい運動」への参加

≪無料又は低額老人保健施設利用事業≫

無料又は低額老人保健施設利用事業を適正に実施するため、受入れについての基準(減免規程) を整備した。2016年度は、この基準に従い使命感を持って計画的に実施する。

【数値指標】

	入	入所		通所リハビリ		合計
	従来	ユニット		一般	予防	口盲
利 用 定 員	56名	44 名	空床利用		40名	140名
利用者延べ数	12,921名	10,889名	1,028名	8,339名	219名	33, 396名
一日平均利用者数	35.3名	29.8名	2.8名	27.0名	0.7名	95.6名
稼 動 率			67. 9%		_	
稼動日数(延べ)			366 日	309 日		_
単価(1人1日当り)			13,858円	12, 185 円		_
サービス活動収益		0.4		104 000 TI		449, 199
(千円)		34	4,917 千円	104, 282 千円		千円
職員数(常勤換算)			56.4名		15.4名	71.8名

聖隷ケアプランセンター浦安

2015 年度、運営的には厳しくサービス活動収益とサービス活動費用がともに予算未達である。 その中で、介護保険事業収益については少しずつ利用者数を増やすことができ 2 月、3 月の 2 ヶ 月は予算達成することができた。

また、地域で開催される会議やイベントについては年間計画に基づき積極的に参加でき、地域 に印象づけることができたと考える。

1. ご利用者の満足度を高める支援

個別性についてはアセスメントの中から抽出して意識的に計画書(第2表)に入れることができた。ご利用者・ご家族への満足度調査では、2014年度と比較して回収率が52.4%から64%に上がったが、その中から質を向上するための課題を読み取ることはできなかった。

2. サービス事業所との連携強化

在宅復帰ケースの支援を充実させるまでには至らなかったが、併設施設の相談員とその都度連携を図り受け入れ体制を構築した。

3. 地域との関わりを深める

地域ケア会議、認知症メモリーウォーク、認知症予防フェアに参加し地域との交流を深めた。

【数值実績】

一日平均	年間	稼働日数	単価(1人	単価(1人 サービス	
利用者数	利用者数		1日当り)	活動収益	(常勤換算)
_	665名	366 日	12,435 円	8,469 千円	2.1 名

浦安せいれいクリニック

- 1. 医師不在の期間があり、稼動日数は予算未達であったものの、年間利用者数は 2014 年度とほぼ同数を確保できた。平均利用者数は着実に伸びており、収益は予算を上回ることができた。
- 2. ご利用者、ご入居者の初期診療、日常的な健康管理を担うことができた。
- 3. 高洲地区全体の感染症拡大防止のため、各施設からの相談に応じることができた。

【数值実績】

一日平均	J	年間	经 鱼口粉	単価(1人	サービス	職員数
利用者数	Ź	利用者数	稼働日数	1日当り)	活動収益(*)	(常勤換算)
5.8 名		1,317名	229 日	3,181 円	15,723 千円	2.9 名

(*)内部取引消去前

聖隷訪問看護ステーション浦安

浦安地域における聖隷福祉事業団の活動として施設事業を中心に運営してきている。その中で、 長年の懸案であった訪問看護ステーション浦安が 2016 年 3 月に開設できたことは大きな成果で あり、今まで以上に、浦安地域へ貢献していくことができると考えている。

また、拠点は東京海上日動ベターライフサービス株式会社の居宅介護支援事業所及び訪問介護 事業所と同一フロア内に事業所を開設し、法人を超えて協働する新たな形態での事業展開であり、 地域からの期待も大きく、その期待に応えられるよう活動していきたい。

【数値実績】

利用者数	年訪問件	数 単価 (円)	サービス活動収	益 職員数 (常勤換算)
1名	9件	9,222 円	83 千円	3.0 名

横須賀愛光園

特別養護老人ホーム横須賀愛光園 デイサービスセンター 西第二地域包括支援センター せいれい訪問看護ステーション横須賀 せいれいヘルパーステーション横須賀 聖隷巡回ヘルパーぐるり横須賀 せいれいケアプランセンター横須賀

【特別養護老人ホーム】

2015 年度は、社会福祉事業の特性を活かし、地域とのつながりを強く意識し、ご利用者の生活しやすい環境と職員の働きやすい環境づくりに注力した組織運営を目指した。

サービス提供面では、介護職の3名が評価者研修を修了するとともに、介護支援専門員・介護福祉士の資格取得や、介護・看護・相談ラダーの運用(一部試用)があり、各職種の専門性向上の一歩を踏み出した。一方、ご利用者の生活の質を維持・向上させるために不可欠な事故・苦情の要因分析や予防的なリスク対応力の向上には課題が残った。

安全・安心な施設づくりでは、継続した実践的防災訓練により、職員だけでなくご入居者・ご利用者の防災意識が格段に向上した。感染症は万全の態勢で予防に努め集団発生を回避し、設備・備品の充実や改修・更新を順次進めることで、ご利用者の生活環境と併せ、職員の就業環境改善にも努めた。また、エリア会議を中心に入所・在宅の各事業による連携が深まり、情報共有や迅速な対応が可能となったことで、シームレスなサービス利用に近づいた。

その他、組織の進むべき方向として、理念や事業方針を職場会議や勉強会を通じ再確認することで、より一体感のある取り組みを継続することができたことは、努力を重ねた職員の自信につながった。今後もこの取り組みを継続し、地域で必要とされる施設づくりを行っていく。

- 1. 良質なサービス提供のための人財育成と組織づくりを行う
 - (ア)「事業計画」等は職場掲示をし、職員の行動へ落とし込みを行った。
 - (イ) 職員補充が低調な中、一体感のある職場運営となる行動を職員が示した。
 - (ウ) 自職場だけでなく、主体的に施設全体の取組みとして活動し連携を深めた。
 - (エ) 内部研修参加率は低調であったが、自主学習により資格取得は促進された。
- 2. 安全・安心なサービスを提供する
 - (ア) アセスメント力は向上したが、課題整理の優先順位づけに課題が残った。
 - (イ) ケアプラン作成手法の変更を通じ、ご利用者の意思をより反映できるようになった。
 - (ウ) 認知症周辺症状や精神疾患の知識は深めたが、実対応は課題が残った。
 - (エ) ヒヤリハットやメッセージカードの活用により、迅速な情報共有につなげた。
 - (オ) 実践的な訓練を通じ防災意識が高まり、災害対応力が向上した。

3. 安定した経営を行う

- (ア) 利用者満足度調査を実施し、実態把握に努めた。
- (イ) 空床期間が 2014 年度比入院 29.7%・入退所 12.3%・合計 24.7%減少した。
- (ウ) CO2 排出量 4 年連続前年比減等、メリハリの効いた省エネルギー活動により経費節減をした。
- (エ) 建物及び設備の老朽化による改修・更新を計画的に行うことができた。

4. 地域ネットワークの一員として活動する

- (ア) 聖隷内の連携はエリア会議を通じ強化したが、他法人事業所との連携に課題が残った。
- (イ) 地域行事への入居者・職員の参加や、計画的な地域美化活動を行った。
- (ウ) ボランティアや実習生などに対し、社会貢献活動実践の場を積極的に提供した。

5. その他公益事業

- (ア) 地域の中学校から依頼された介護体験実習の受入れ(2校、12名)
- (イ)介護福祉士及び看護師養成校から依頼された実習の受入れ(3校、14名)
- (ウ) ボランティア受入れ (19 団体、延 953 名) 及び幼稚園の交流受入れ (1 幼稚園、100 名)
- (エ) 社会福祉協議会及びボランティアセンター主催地域行事支援(年間計2回、延6名)
- (オ) 武山養護学校評議員及び地区ボランティアセンター運営委員の受託
- (カ)地域清掃活動の実施(年3回、延41名)
- (キ) 寄付型飲料自動販売機の設置による寄付(寄付年額 173,410円)

【数值実績】

	特養	入所	行地工品	
	従来型	ユニット型	短期入所	
利用者定員	64名	40名	16 名	
利用者延べ数	22,738名	14,049名	5,271名	
一日平均利用者数	62.1名	38. 3名	14.4名	
稼働率 (%)	96.	6%	90.0%	
稼動日数(延べ)	36	6 日	366 日	
単価(1人1日当り)	11,549円	14, 271 円	11,326円	
サービス活動収益	463, 088	千円	59,697 千円	
職員数(常勤換算)	60. 9	9名	11.4名	
	通所介護	地域包括 支援センター	配食サービス	合計
利用者定員	40名			_
利用者延べ数	4,959名	_	1,187名	
一日平均利用者数	19名	_	6.0名	_
稼働率 (%)	47. 5%	_	_	_
稼動日数(延べ)	307日	_	198日	
単価(1人1日当り)	8,966円	_	550円	_
サービス活動収益(*)	43,799 千円	29,844千円	662千円	597,090 千円
職員数(常勤換算)	8.5名	4.0名	_	
(.) 4 4p# 31W 4-24				

(*)内部取引消去前

【在宅事業】

2015 年度は、訪問看護を除く介護報酬のマイナス改定や、地域での他のサービス事業者増加、 高齢化率上昇や人口減による働き手の減少と、サービス提供に一層の効率化が求められる中、聖隷 福祉事業団だからこそ成し得るサービスを展開し、地域で選ばれるサービスを提供できるよう取り 組んだ。

中でも、ご利用者が安心して自宅で生活することができる支援を行うための各事業の連携強化については、高齢者公益事業部や病院事業部と横断的な連携をし、情報やアイデアの共有に努めた。また、定期巡回随時対応型訪問介護看護事業を軸とした横須賀愛光園との連携についても、合同会議を通じ、ご利用者の情報等業務連携を深めることができた。

一方、喫緊の課題である人材の確保は困難を極め、サービス提供に大きな影響を及ぼすなど、今後も大きな課題となることが見込まれるが、このような状況においても、良質なサービスの提供と 安定経営の為に努力を続けた職員がいることは、大きな財産となった。

- 1. 訪問看護事業(せいれい訪問看護ステーション横須賀)
- (ア) 職員の質を高め、アセスメントの能力を向上させる。
 - ①ケースカンファレンスは定期・随時に開催したが、内容の充実には課題が残った。
 - ②看護ラダー評価を実施し、個別看護技術の把握を行った。
- (イ) 健全経営を維持する
 - ①医療機関主催研修や介護医療連携推進会議への参加で、他事業所との連携を深めた。
 - ②9月以降、機能強化型訪問看護管理療養費 I を取得し、収益の向上に努めた。
 - ③日程管理システムの不具合や短期間利用の増加等、業務効率向上に課題が残った。
- (ウ) 防災対策を推進する 愛光園と連携した防災訓練を実施することができた。
- (エ)事業活動を通じ地域貢献をする 地域で開催されるイベントへ職員を派遣し、啓発活動を充実させた。
- 2. 訪問介護事業(せいれいヘルパーステーション横須賀)
- (ア) 人材を確保し円滑な業務につなげる
 - ①新たな広告や WEB 利用等、採用活動は強化したが効果が薄かった。
 - ②家庭の事情による退職はあったが、就業環境が理由の離職はなかった。
- (イ) 訪問形態・確認作業の見直しにより業務効率化を図る 書類確認方法を変更し、業務効率向上につなげた。
- (ウ) 職員の質を向上させ、安心して利用していただく事業所となる
 - ①全体会議を通じて教育は行ったが、個別目標の設定や実施評価は不充分であった。
 - ②登録も含め全職員が介護ラダーレベル1を達成し、業務遂行基準の向上につながった。

- 3. 定期巡回随時対応型訪問介護看護事業(聖隷巡回ヘルパーぐるり横須賀)
- (ア) 人材の確保をし、効率的なサービス提供を目指す
 - ①対応職員が確実に業務遂行するために、状況毎の手順書を整備した。
 - ②利用者数が伸びず訪問地域にばらつきが生じ、効率的な巡回訪問に課題が残った。
- (イ) 新たな利用者確保のために、居宅介護支援事業所や病院との連携を充実させる 介護医療連携推進会議を通じた多職種参画となり、他事業所との連携が促進された。
- 4. 居宅介護支援事業(せいれいケアプランセンター横須賀)
- (ア) 安定した経営を継続する
 - ①特定事業所加算Ⅱを取得し、収益の向上に努めた。
 - ②認定調査受託は増加しなかったが、職員の確保により請求件数の維持・向上に努めた。
- (イ) 質の向上を図る
 - ①新たな経験を積むための講師派遣を行うことができなかった。
 - ②順次相談支援関連の研修に職員を参加させ、技術の向上に努めた。
- 5. その他公益事業
- (ア) 訪問介護事業による介護福祉士実習受入れ(1校、2名)
- (イ) 訪問看護事業による看護師養成校受入れ(2校、22名)
- (ウ) 訪問看護事業による重症心身障害児及び訪問看護師養成講習の実習受入れ(3名)

【数值実績】

1. 訪問看護事業(訪問看護ステーション)

平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価(円)	サービス活動収益 (*)
123 人	746 件	8,963件	10,964円	103,554 千円

2. 訪問介護事業(ヘルパーステーション)

介護	給付	予防	給付	総合	事業		単価(円)		サービス
月間	年 間	月間	年間	月間	年間	介護	予防(月)	総合事業	活動収益
訪問件数	訪問件数	利用者	利用者	利用者	利用者	(回)	1,67(月)	(月)	(*)
731 件	8,766件	17 人	199 人	2 人	6人	3,940円	19,033 円	24,874 円	58,758千円

3. 定期巡回随時対応型訪問介護看護事業

介護	給付	単価(円)	サービス
月間利用者数	間利用者数 年間利用者数		活動収益(*)
11 人	128 人	139,732 円	17,898 千円

4. 居宅介護支援事業 (ケアプランセンター)

年間請求	マ件数	平均単価(円)		訪問調査	訪問調査	サービス
介護	予防	介護	予防	年間件数	単価(円)	活動収益(*)
2,621件	91 件	15,000円	4,000円	171 件	4,470 円	45,237 千円

(*)内部取引消去前

せいれい訪問看護ステーション油壺

2015 年度は、地域におけるサービス事業者の増加、高齢化率の上昇による働き手の減少と、サービス提供に一層の効率化が求められる中で、利用者が安心して自宅で生活することができる支援を行うために、人材の確保に努め、職員が就労を継続でき、やりがいを持つことができる職場環境構築に腐心した。中でも経営状況の可視化は、職員が活動の結果を知ることとなり、やりがいの創出に寄与した。安定した経営が良質なサービスを提供することにつながることから、グループホームや通所介護事業所からの看護師派遣の業務委託など積極的に受託し、他法人事業所との連携を強化しつつ、収益の改善を図ることができた。

今後も、聖隷福祉事業団だからこそ成し得るサービスを展開し、地域で選ばれるサービスを提供 できるよう取り組みを継続する。

- 1 職員の知識・技能の向上を図る
 - (ア) 定期的なカンファレンスの実施により、ご利用者ニーズに沿った看護を提供した。
 - (イ) 積極的な研修参加と伝達講習実施により、サービスの質の向上につながった。
 - (ウ) マニュアル整備は行えず、全職員が同様の質で対応できるまでには至っていない。
 - (エ) 行政・病院・他事業所等、地域との連携充実を図ることができた。
 - (オ) 認知症サポーター研修の参加や事業所内での勉強会開催を通じ、理解を深めることができた。
- 2 職員の確保と働きやすい環境をつくる
 - (ア) 広告掲載継続や人脈を活かし、職員採用につなげた。
 - (イ) 職場内の整理整頓を徹底し、就業環境を改善した。
- 3 運営状況の分析を共有する
 - (ア) 収支、利用者状況等を分析し、全職員で共有した。
- 4 環境活動を積極的に行う
 - (ア) エコキャップ活動の参加や地域美化活動を行った。
 - (イ) 業務用・自家用公用車ともにエコドライブを実践した。

【数值実績】

平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価(円)	総収入(千円)
65.9 人	337.5件	4,051件	10,488 円	40,594 千円

宝塚すみれ栄光園

特別養護老人ホーム宝塚すみれ栄光園、短期入所生活介護 宝塚すみれ栄光園デイサービスセンター 聖隷ケアプランセンターすみれ

開設 2 年目となる 2015 年度は、我が家のように安心できる居場所として、ゆったりと過ごして頂き、健やかな生活を楽しんで頂く施設として、安定した運営の構築を目指した。特養入所において退所者は 17 名おられたが、宝塚せいれいの里内の連携により、短期入所、結いホーム宝塚、ケアハウス宝塚からの住替えも多く、年間平均 97.6%と高い稼働率を維持することができた。短期入所からは、特養だけでなく、ケアハウス宝塚、結いホーム宝塚へ入居される方も多く、稼働率は年間平均 90.7%に止まったが、入所 270 床を支える 20 床の短期入所として貢献している。9月には、宝塚せいれいの里秋祭りの開催をはじめ、園内行事、外出企画にも力を入れ、2014 年度にはできなかった、祭事や季節感といった生活の潤い、楽しみの部分にも意識した運営が行えた。

在宅事業は、宝塚せいれいの里が所在する宝塚市第 4 地区に、聖隷の在宅サービス拠点が無かったことから時間は要したが、デイサービスセンター、ケアプランセンター共に件数を伸ばすことができた。デイサービスセンターは、2014 年度は月曜日から金曜日の週 5 日営業であったが、土曜日の営業を開始するにあたり、宝塚市後援事業として、6 月より若年性認知症特化型デイサービスを開始した。新たな取り組みとして、近隣他市や関係機関からの見学者も多く、注目度の高い事業となっている。ケアプランセンターは、3 月にはケアマネジャー1 人当りの担当件数が37 件を超え、短期入所、デイサービスへの紹介へと繋いている。2016 年度には、聖隷ケアプランセンター結いとの統合により人員を増員し、聖隷ケアプランセンター宝塚、花屋敷と合わせて、宝塚市全域をカバーできる体制を構築していく。

2014年10月に開設した事業所内保育所は、延べ13名の児童が利用し、その半数が新規採用者であり、宝塚市内の聖隷事業所職員が利用できる事業所内保育所として、職員採用・就労支援に貢献した。

1. 入居者・利用者お一人お一人に安心と穏やかな暮らしを提供する。

入居者個々の状態に応じたケア、環境整備を意識し、体調不良や事故による入院を少なくすることができた。行事やレクリエーションについて、フロアやユニット毎での開催とすることで、 入居者に合わせた内容を実施した。

退所者 17 名のうち、4 名を園で看取ることができた。家族懇談会にて、園での看取りについて説明を行い、看取りに加え園にてお別れ会を希望する方もおられたことは、園でのケアが信頼されていることの実績としてあげられる。

2. 宝塚せいれいの里「人材育成システム」の構築

次世代を担うリーダー育成を中心に、リーダーには自身の成長はもちろんスタッフを教育する者として役割を明確にした。そのためのツールとして、新入職員、パート職員育成マニュアル、プリセプター時のチェックツールの見直しを行った。

職員本人の適正・希望を踏まえて、宝塚せいれいの里内において人事異動を行い、聖隷内外の研修と合わせて、職員が目指すキャリア支援を行った。人事企画部が実施する「実務者研修」では、2名の修了者を出し、2016年度の実務者研修にも4名が申し込んでいる。

3. 宝塚せいれいの里内事業・宝塚地区施設における連携強化とシームレスなサービス提供 宝塚せいれいの里の特徴である複合施設を活かし、デイサービスと短期入所の併用利用、入 所施設間の住替えは、各部署の連携により構築されている。情報活用を目的に待機者情報管理ソ フトを導入し、入居案内センター、相談員に集まる情報を共有し、入居待機者へタイムリーな情 報提供を行ったことが、入所施設の高い稼働率へ繋がっている。

給食委託業者とは、契約更新に長い交渉を要したが、聖隷逆瀬川デイサービスセンターへの 夕食配食を同じ委託業者である宝塚栄光園から変更するなど、新たな取り組みへの交渉が行えた。

4. 様々なニーズに応え、地域に信頼される施設運営

阪神シニアカレッジへの講師派遣、障害学習教室の福祉用具体験講座への運営協力を行う。 併せて、施設を地域に知って貰うための施設見学受け入れから、地域会議の会場提供を積極的に 行った。

障害者雇用の促進に加えて、施設園庭・緑地の整備を市内の障害者福祉施設へ委託し、地域 福祉事業者との連携を進めた。

5. 環境活動への取り組み

新しい施設として設備機器の省エネ化は進んでいる。運用面で、照明の点灯範囲・時間、空調の温度・時間設定など、利用者へ影響がない範囲内で実施した。

6. その他公益的事業

- (ア) 市内各地区の民生委員や、関係諸機関の研修の場として、施設を開放した。
- (イ) 近隣大学生の学びの窓口として、施設においてインターンシップを開催し、学生と入居者 が直接関わりを持てる場を提供することができた。

【数值実績】

	特養入所	短期	通所介護	居宅介	護支援	合計
	(ユニット)	入所	(一般)	介護	予防	口百日
利 用 者 定 員	100名	20 名	24 名			
利用者・請求延べ数	35,737 名	6,641 名	4,512 名	901 件	269 件	
一日平均利用者数	97.6 名	18.1 名	15.4 名			
稼 働 率	97.6%	90.7%	63.9%			
稼働日数(延べ)	366 日	366 日	294 日			
単価(一人一日・件当り)	14,456 円	14,374 円	10、865 円	12,906円	4,454 円	
サーヒ、ス活動収益(*)	568,567 千円	95,043 千円	49,032 千円	1:	2,846 千円	725,488 千円
職員数(常勤換算)	79.1 名	14.3 名	12.1 名		3.8 名	109.3 名

(*)内部取引消去前

介護付きケアハウス ケアハウス宝塚

開設2年目となった2015年度は、入居後も在宅からの生活スタイルを尊重し、アクティビティの充実を通じて入居者が安心して在宅時と変わらぬ生活が継続できるよう支援に取り組んだ。

4月には6階を10床増床し70名定員とし、4月から5月にかけて入居者の心身の状況に合わせた住替えを実施した。住替えの実施にあたり、入居者が自分らしく暮らすことが出来るよう5階・6階のフロアコンセプトを明確にした。住替え当初は入居者に若干の混乱が生じたが、徐々に落着き、日数が経過する中でユニット毎の特徴が現れ、より自分らしく暮らせるための環境の充実を図ることが出来た。

行事・イベントについては、2014年度は手探り状態で実施した面があったが、2年目に入り外出企画や運動会、宝塚せいれいの里秋祭りの実施、ボランティアの協力により下半期には毎月コンサートを行うなど行事の数が格段に増加した。また、ユニット独自の企画も少しずつ実施できるようになった。楽しみを持って暮らしていただけるよう 2016年度も取り組んでいきたい。

2015年度の年間退居者数は24名(内、看取り3名)に達したが、結いホーム宝塚、ケアハウス花屋敷、宝塚すみれ栄光園ショートステイからの紹介により、ほぼ年間を通じて70名の入居者数を確保することが出来た。これは里内及び宝塚地区内における連携が機能している成果であり、2016年度も引き続き連携を強化していきたい。

- 1. 入居者の希望をかなえ、その人らしい生活を実現する
- (ア)入居前の生活環境、生活スタイルを入居者・家族から聴取し、入居者が過ごしやすい環境づくりに結びつけた。
- (イ)入居者、家族から趣味・特技等を聞き、役割を持っていただいたり、アクティビティや趣味 活動に活かすことが出来た。また作成物については作品展を開催した。
- (ウ) お花見、紅葉狩り、喫茶店、レストラン等入居者のニーズを確認しながら外出企画を計画 し、実施した。
- (エ) ボランティアを積極的に受け入れ、コンサートの開催、ドックセラピー等多様なイベント を開催できた。
- 2. 宝塚せいれいの里「人材育成システム」の構築
- (ア)次世代を担うリーダー育成を中心に、リーダーには自身の成長はもちろんスタッフを教育する者として役割を明確にした。そのためのツールとして、新入職員、パート職員育成マニュアル、プリセプター時のチェックツールの見直しを行った。

3. 増床を含めた運営の再構築

- (ア) 入居者の特性に合わせフロアコンセプトを設定し住み替えを実施した。入居者一人ひとり の状況に応じ、その人らしい生活が送れるよう環境を整えた。
- (イ) 増床及びフロアに合わせた、業務・勤務体制の見直しを実施した。
- 4. 宝塚せいれいの里内事業・宝塚地区施設における連携強化と、シームレスなサービス提供
- (ア) 宝塚すみれ栄光園、結いホーム宝塚との間で会議体、行事を共催し情報共有と連携を深めた。里全体行事としては、秋祭りの共催、里学会を開催した。
- (イ) 待機者情報共有システムの導入、里内施設の入居申込用紙の書式統一により、相談員間の 情報共有が容易となり、里全体の高稼働率の維持を達成できた。

5. 環境活動への取り組み

- (ア)夜間における共用部(各階ホール・廊下)の照明範囲を限定した。
- (イ)利用者への影響がでない範囲内での空調コントロールを実施した。

6. その他公益的事業

- (ア)市内各地区の民生委員、訪問看護ステーション、ケアマネジャーの研修の場として、施設 を開放した。
- (イ)近隣大学生の学びの窓口として、施設においてインターンシップを開催したり、学生と入 居者が直接関わりを持てる場を提供することができた。

【数值実績】

		軽費老人ホーム (特定施設入居者生活介護)
	員	70名
11 /1 /	数	23,764名
一日平均利用者	数	64.9名
稼動	率	92.8%
稼動日数(延べ))	366 日
単価(一人一日当り)	12, 596 円
サービス活動収益(千円)	327, 233 千円
職員数(常勤換算))	38.0名

結いホーム宝塚

2013年11月に開設した結いホーム宝塚は、この1年も入居者100名を維持することができた。これは、宝塚せいれいの里の3施設が連携して運営がなされていること、聖隷の宝塚地区の施設・在宅事業が地域から高い評価を受けていることに他ならない。また入居者や家族を通して施設を紹介していただくことも多く、入居待機者は年度末には33名となっている。2015年度の退居者数は20名(内、看取り4名)となり、5分の1の入居者が入れ替わったことになるが、入居待機者増により、病院などからいち早く施設に入居したい人、在宅での介護が厳しくなっている人たちの入居希望の声に十分応えきれない状況が生まれてきている。

入居者の介護度は、要介護 4・5の人が 2割、要支援 1・2の人が 2割を占め、要介護度の平均 は 2.0 前後で推移している。平均年齢は、87.2歳(男性 85.4歳、女性 87.7歳)である。平均介 護度は決して高くないものの、高齢の方が多いために一旦怪我をしたり、病気になると入院が長期化することも少なくない。

入居者一人ひとりの生活の質の向上につなげるために、イベントやアクティビティーには、給食業者やボランティアの協力を得ながら、積極的に取り組んでいる。クリスマス会や春の花見、ゆず湯・菖蒲湯、初めて開催した作品展など、季節に応じた企画を実施することができた。また秋には、宝塚せいれいの里として第1回の秋祭りの開催、敬老会では近隣の保育園の子どもたちによる和太鼓演奏もあり、好評であった。

1. 入居者のその人らしさを支えるためのケアの提供

- (ア) 入居者それぞれの心身の状況に応じ、介護職員・看護師・相談員が連携してケアを提供することができた。特に、認知症グループが中心になって行われた「ひもときシート」を活用した学びは、多職種との連携・共通認識を持つ大切さを考える機会になった。
- (イ) ターミナル期において、介護職員・看護師・相談員がそれぞれの専門性を発揮し、医師や 家族と連携をしつつ、看取りにつなげることができた(2015年度の看取り実績:4名)。
- (ウ) 秋と春に、入居者懇談会・家族懇談会を開催し、入居者や家族・身元引受人の声を直接聴く機会を持つことができた。特に春の家族懇談会では、「看取り」をテーマにしたところ、 多くの出席者があり、関心の高さを感じることとなった。

2. 宝塚せいれいの里「人材育成システム」の構築

- (ア)全ての職員が利用者や家族に安定したサービスを提供することができるように、手順書・マニュアル・技術チェック表を作成した。新年度のオリエンテーションから活用していく。
- (イ)職場内研修では、職場の意見を反映させた研修を行うことができ、職場内で相談・レクチャーし合う体制ができてきた。
- (ウ)日々の業務のために、外部研修などに参加できる人とできない人がおり、計画的に取組む ことが課題になっている。

- 3. 宝塚せいれいの里内3施設・宝塚地区内における連携強化とシームレスなサービス提供
- (ア) 宝塚せいれいの里内 3 施設の職員が共に委員会活動に参加し、情報を共有化することができた。また宝塚せいれいの里としての第1回の秋祭りを開催することができた。
- (イ) 宝塚せいれいの里内 3 施設で申込書を統一書式とし、またソフトを導入したことにより相 談員間で入居申込時からの情報共有・入居判定に結びつけることができた。また宝塚地区 においても、相談員間で情報の共有を行い、地区内における入所施設待機者情報の共有シ ステム構築の足掛かりを作ることができた。

4. 地域住民との協働と地域社会への貢献

- (ア)近隣の保育園の行事に参加することや施設での園児による和太鼓演奏を通して、入居者と 園児の交流ができた。
- (イ) 地域住民・団体に対して施設を解放し、地区ネットワーク会議や民生児童委員協議会など の会議や研修の場として活用してもらった。
- (ウ) 障害者雇用の促進に加えて、施設園庭・緑地の整備を市内の障害者福祉事業所に委託し、 地域の福祉関係者との連携を進めた。

5. 環境活動への取り組み

- (ア) 建設会社の2年目点検を通して、建物・設備のメンテナンスに取り組んだ。
- (イ)年間を通して、特に水光熱費の節約に取り組み、電気料金では契約の見直しを行うことで 前年比100万円近くを削減し、ガス料金も下げることができた。

6. その他公益的事業

- (ア) 市内各地区の民生委員や関係諸機関の研修の場として、施設を開放した。
- (イ) 近隣の学生・生徒の窓口として、インターンシップやボランティアを受け入れ、福祉現場 に触れてもらう機会を提供することができた。
- (ウ) これから就職活動を始める大学生に対して、福祉業界の現状・就職への心構えを学ぶ機会 を提供した。

【数值実績】

	介護付有料老人ホーム
利 用 者 定 員	100 名
利 用 者 延 べ 数	34, 265 名
一日平均利用者数	93.6名
稼 動 率	93.6%
稼動日数(延べ)	366 日
単価(一人一日当り)	13, 575 円
サービス活動収益(千円)	521,319 千円
職員数(常勤換算)	57.7名

宝塚栄光園

2015年度の振り返りとして、「人づくり」に力を入れることができた。介護における専門性を高めるとともに、利用者にとって安心できる施設作りを行った。

特に介護プロフェッショナルキャリア段位制度においては介護の「できる」部分を客観的に明らかにし、2名のレベル認定を実施することができた。また、認知症実践者研修では新たに5名の修了者を出し、フロアでの認知症の捉え方が徐々に変わりつつある。また、喀痰吸引の実地研修にも多くの職員が参加でき、医療依存度の高い利用者の受入につながっている。そんな「人づくり」をすすめることができたのも、職員一人ひとりが利用者に「ここに来てよかった」と思ってもらうことを実践してきた結果である。

今後の課題としては、市報告事故は 2014 年度 19 件から 2015 年度 23 件に増大した。重大事故 自体は減少しているが、更なる減少を目指す。また、兵庫県から「地域サポート型特養」の認定 を受け、LSA 事業を始めたが、現在利用者はいない状態である。認知度を高めてサービスにつな げたい。

そして地域貢献について、それぞれの地域ニーズにあった独自サービスが行えるように「社会福祉法人の使命」として、地域との接点を作ることを主眼に置き、これからも「地域から求められる施設づくり」を行っていきたい。

- 1. 利用者に「ここに来てよかった」と思ってもらう"人"づくりを
 - (ア)職員すべてが取り組む「丁寧な言葉遣いと丁寧な態度」での対応ができる。
 - ① サービス向上委員会にて「丁寧な言葉遣い」の具体例を作成し、各職場で周知を図ることができた。
 - ② 接遇研修の実施には至らなかった。
 - (イ) 介護事故減少への取り組みとリスク管理の徹底
 - ① 介護事故は宝塚市報告事故が 2014 年度 19 件から 2015 年度 23 件に増大した。転 倒事故が増加した。
 - ② 2014 年度より重大事故は 5 件から 2 件に減少した。
 - (ウ)より良い人材の創出のための取り組み
 - ① 2015年度は看護ラダーの実施を行った。介護テクニカルラダーは自己評価のみの実施となった。
 - ② 介護職員プロフェッショナルキャリア段位制度にてレベル認定を行った。
- 2. 利用者が「安心できる」サービス提供。
 - (ア) 認知症の利用者への対応力の向上
 - ① 認知症実践者研修に5名参加。
 - ② 認知症のある利用者が安心できるハード面の整備については未実施。
 - (イ) 医療依存度の高い利用者の受入れ
 - ① 医療依存度が高い利用者(胃ろう、たん吸引等)を 2015 年度に新たに 5 名受入実

施。

- ② たん吸引研修受講者が全体の85.3%を達成。
- (ウ) 短期入所における緊急利用の積極的受入れ
 - ① 地域の「緊急時の要」として、短期入所生活介護での緊急受入れを年間30ケース実施。
- 3. 地域住民が「いつまでも住み続けられる地域」に貢献。
 - (ア) LSA 事業(地域サポート型特養事業)の受諾
 - ① 兵庫県より地域サポート型特養の認定を受けた。
 - ② LSA 事業を開始したものの、現状では利用者数は 0 名である。
 - (イ) 新しい地域密着事業の模索
 - ① 現状の中でのニード調査は実施したものの、事業にはつながらなかった。

4. その他公益事業

- (ア) LSA (地域サポート型特養) 事業の実施
- (イ) 宝塚市福井町自治会への給食材料の提供事業実施
- (ウ) 地元大学から 3名の管理栄養士の現場実習受け入れの実施
- (エ) 地元介護福祉士養成専門学校からインターンの受入の要請に応じ、4名の受入実施
- (オ) 地元大学生の教員過程における介護等体験に12名の受入実施
- (カ) 地域住民対象で、参加費無料の「介護技術講習会」3回/年開催し、30名参加
- (キ) 宝塚市権利擁護センターより市民後見制度の実習生 3名受入れ

【数值実績】

	特養入所	短期入所	合計
利 用 者 定 員	70 名	15 名	85 名
利 用 者 延 べ 数	24, 085 名	4,605名	28,690名
一日平均利用者数	366 日	366 日	366 日
稼 働 率 (%)	65.8名	12.6名	78.4名
稼働日数(延べ)	93.8%	84.3%	92.2%
単価(一人一日当り)	11,991 円	11,888 円	
サービス活動収益(千円)	290,839 千円	54,744 千円	345, 583 千円
職員数(常勤換算)	43.23名	6.97名	50.20名

花屋敷栄光園

特別養護老人ホーム花屋敷栄光園、花屋敷デイサービスセンター 花屋敷地域包括支援センター

2015 年度、年々利用者が重度化する中で、暮らしの居心地のよさ (安心感) を実現するために、各専門職がなすべき事をしっかりと見定め、誠実に確実に実践してきたことで、経営的には安定的に推移することができた。入居サービス、短期入所サービスは、相談員、介護員、看護師各専門職が、一体となってケアに取り組めた。通所サービスでは、特に重度化対応、認知症対応を確実にケアに生かすための体制づくりと様々な取り組みが試行された。地域包括ケアの実現が叫ばれる中、地域包括支援センターが橋渡しとなって、改めて地域の中での我々に求められる役割と責任に気づく機会を得ることができた。

今後も、地域で暮らす住民の支えとして、様々な福祉課題に対応し、安心して生活できる地域 づくりのために里全体が、それぞれで持つ機能を強化して取り組んでいきたい。

以下の個別項目について2015年度事業計画に沿って事業報告する。

- 1. 個々の利用者に日常的な居心地のよさを提供する
 - (ア) 認知症の心理・行動症状に対応できる条件整備に取り組む

認知症の利用者対応を通じて、改めて利用者の生活習慣を理解し、チームでケアに取り組むことの重要性を実感する事ができた。また利用者を中心としてユニット内に留まらないケア協力体制を確立できた。その際には、認知症実践者研修受講者が中心となって認知症ケアにおける、正しい知識と技術だけでなく、想いを共有化し大切にすることが、この利用者ケアを通じて実践できた。認知症対応通所介護のケアの質の向上のために、機能訓練アセスメントの導入を目指し、機能訓練指導員を研修参加させることができた。また、短期入所相談員、介護員と認知症対応型通所介護相談員との日常的な情報共有の仕組みが確立でき、相互利用の利用者の安心感に寄与できた。

(イ) 医療依存度の高い中重度要介護者のケアを維持向上する

施設での看取りのニーズが高く、実際に対応するケースも多いことから、介護と看護が日常的に連携する機会も多く相互チェックする中で、スキルの維持向上に取り組めた。中重度者の利用が多いことから、入退居の頻度も高かったが、相談員を中心とした各専門職が連携したことで、緊急短期入所にも積極的に対応でき、新しい入居者にもスムーズに対応できた。年末から年始にかけて、一部ユニットにて疥癬の感染が広がり、利用者、家族へのケアに大きな影響を与えてしまったが、全職員で直接ケア、バックヤード支援に協力し乗り切ることが出来た。感染症の初期対応における情報の収集と共有化、マニュアルの更新等一部課題が明確化した。

(ウ) オール個室、ユニット化に見合う質の高いケアを確立する

ユニットリーダー研修の受講をすすめる中で、花屋敷栄光園のユニットリーダー12名が中心となって、当園ならではの個別ケアの在り方を模索しながら、あらゆる取り組みを試行する一年だった。24時間シートの導入と活用をすすめながら、ユニットごとの設え等環境整備にも課題が見えてきている。特に食事面での課題は顕著で、メニュー、配膳・提供方法等多岐にわたり、食事委員会において検討がされた。

2. 人材育成と定着化の推進

(ア) 介護員の効果的なスキルアップを支援する

キャリア段位制を積極的に導入するため、新たに4名のアセッサーを育成した。今後、 段位認定の取り組みを全介護員とすすめる中で、個々のスキルアップの道筋と評価を明確にしたい。特にパート職員のやりがいにつながる動機づけと評価が課題である。 また、EPA4 期生2名が介護福祉士を取得。資格取得を機に夜勤も含めた業務調整に取り組んでいく。

(イ) 看護師の効果的なスキルアップを支援する

経験もあり個々のスキルも高いため、看護ラダーは、自己評価ツールとしての活用を 進めた。必要に応じた研修参加は積極的に行えた。

(ウ) 相談員の効果的なスキルアップを支援する

経験もあり個々のスキルも高いため、今後は、相談支援スキルラダーをスムーズに導入し、まずは各個人が自己評価できるように取り組んでいく。

- 3. 地域ニーズに即応し、社会貢献活動に積極的に取り組む
- (ア) 地域包括支援センターとの連携強化

地域包括支援センターからの積極的なアプローチにより、介護員、相談員、管理栄養士など各専門職員が、地域の会合等に積極的に協同参加していくことができた。

(イ) 効果的な社会貢献活動を実施する

専門職のスキルを活かして、地域のイベントや、サロン活動に参加し、介護技術講習会など地域の介護力を高める取り組みを行うことができた。

(ウ) 地域防災拠点としての機能を強化する

定例の防災訓練の工夫に加え、消防署と協同で防災訓練を実施することができ、防災 意識が向上した。今後は、地域との相互防災協定の締結に取り組んでいきたい。

(エ) 地域の社会資源として、長く地域で活用されるように、計画的に効果的な省エネルギー 活動と設備更新を行う

計画的に共有スペースの LED 化、各種配管類や空調設備のメンテナンス等設備更新・ 修繕をすすめたことで水光熱費が大きく削減できた。

【数值実績】

	特養入所	短期入所	通所介護			包括	∧ ∌I
	ユニット	ユニット	通常規模	予防型	認知症対応		合計
利用者定員	108名	12名	35 名	12名	12名	_	_
利用者延べ数	38,828名	4,435名	7,759名	1,211名	2,458名		
稼動延日数	366 日	366 日	310 日	310 日	310 日		
一日平均利用者数	106.1名	12.1名	24.9名	3.9名	7.9名	_	_
稼 働 率	98.2%	100.8%	71.1%	32.5%	65.8%	_	_
単価(1人1日当り)	14, 123 円	13, 958 円		11,217円	14,099 円		
サービス	549, 756	61, 905	1.0	00 622 千田	34, 656	50, 224	797, 163
活動収益(*)	千円	千円	100,622 千円		千円	千円	千円
職員数 (常勤換算)	78.8名	12.7名	23.	4名	4.5名	8.8	128.2名

(*)内部取引消去前

軽費老人ホーム ケアハウス花屋敷

今後の地域包括ケアの実現を目指す中で、ケアハウス花屋敷の今後の在り方を考える1年と位置づけし、運営してきた。要介護度の高い方は特別養護老人ホーム等の施設で支え、比較的お元気な方は在宅で支えていくという方向で国は動いており、介護付きの施設は着々と増え、自立型ケアハウスは減少している。宝塚で複数の介護施設を経営する聖隷福祉事業団の一施設として、ケアハウス花屋敷の担うべきは、食事や浴室の提供等、生活の一部分を支援することで永くお元気に過ごして頂くこと、健康寿命を延ばすことであると改めて認識した。地域に住まう方々が、この宝塚の地で最後までその方らしく生活出来るよう、在宅事業所等と連携して今の形を継続していくことが必要と感じている。実際にケアハウス花屋敷の入居者の方々は平均年齢85歳を超えているが、お元気に暮らされている。栄養バランスのとれた美味しい食事と健康維持のためのラジオ体操・健康体操、季節ごとの行事などを楽しむことを大切にし、人と人とのつながりがあればお元気に長生きが出来るということを実証していると感じている。施設として、その一部に寄与できたと思っているが、まだまだ足りない部分も多く、課題も感じた1年であった。

- 1. 自立を支援し、認知症症状や介護の必要性があっても対応できる柔軟性、対応力を強化する。
 - (ア) 認知症についての知識・対応能力の取得・向上

計画していた認知症実践者研修は、介護保険制度改正に伴い受講希望者が殺到し、当該職員は受講できなかった。入居者の方対象の研修はできず、次年度に繰り越した。ボランティアの方に対しての認知症サポーター研修を花屋敷地域包括支援センターの協力のもと行った。

(イ) 介護技術の習得と強化

トライアル研修、宝塚地区リーダー研修、施設レクリエーション、健康体操についての研修には参加でき、実務に生かすことが出来た。介護ラダーについては活用できていない。

(ウ) 自立支援

入居者の病状や生活状況を把握し、必要時にはご家族や担当ケアマネージャーに報告・相談 しながら、公的サービスと園独自の有料サービスを組み合わせて支援をすることが出来た。

- (エ)介護支援専門員、訪問看護、訪問介護、福祉用具専門員との入居者個々についての連携 については、4月に相談員が交代し、介護員も3名中2名が代わる等、連絡や意思疎通が十 分でない場合もあったが、徐々に必要な情報交換がスムーズになってきている。
- 2. 生活の中で楽しむ事や心地よさの提供

全員が参加しやすい行事を新たに追加し、予想以上の反響があった。継続の希望もあり、2016年度も実施する予定である。また、季節ごとに草花や絵画、伝統行事毎の飾りつけ等を行い、季節感や時の流れを感じてもらえたと思う。2015年度は初めて中庭に野菜を栽培し、育つ過程を入居者と楽しみ、収穫したものを食事の中に盛り込むなどして喜んで頂くことが出来た。

3. 運営安定の維持

入居率はほぼ 100%維持でき、費用も出来るだけ抑え運営した。また、共用部分の LED 化を すすめると共に天井電熱ヒーター廃止に向けて、入居者と協議を重ねている。

4. 安心安全で美味しいと感じてもらえる食事の提供

施設栄養士と委託業者の職員、ケアハウスの職員が一体となって、食事提供には力を注いできた。入居者にとって食べやすく、美味しい、季節感や彩り、香りを感じてもらえるよう食事が提供でき、アンケートの結果からも評価いただけたと感じている。

5. 防災対策

年度初めに、各利用者個別訪問し、防災と災害時の備えの確認、アドバイスを実施した。 2015年度は合同訓練まではできなかったが、防災委員会を通し、それぞれの災害時の動きに ついて確認した。明確になった課題について、少しずつではあるが改善し、実際の避難 (訓練)に要する時間は短縮できている。

6. 安全で快適な生活環境の整備・老朽化に伴い発生する修繕や設備更新の計画的な実施 2015 年度はナースコール機器更新と PHS との連動工事を実施した。入居者にとって、より安 心して生活していただくことが出来ると共に、職員の業務上の動きも無駄が無くなった。 その他には、年明けに立て続けに食堂の空調機、自動ドアが故障し、修理を行った。

7. 安全な薬剤管理

必要な方には薬剤師に薬の管理・指導をお願いしている。職員の薬管理における意識も高まり、誤配薬はほとんどなくなった。

入居者状況 (2016年3月31日現在)

1.年齡

	人数(名)	最高年齢 (歳)	最低年齢 (歳)	平均年齢 (歳)
男性	17	94	66	82. 3
女性	83	97	72	85. 7
合計	100			平均 (85.1)

2.介護度内訳(名)

B	要支援1	要支援2	要介護1	要介護 2	要介護3	要介護4	要介護 5	合計
	9	25	19	6	1	1	0	61

3. 入居前居住地(名)

宝塚市	44	市外(他府県込)	56
-----	----	----------	----

【数值実績】

定員 (名)	100
稼働率 (%)	99.8
単価(一人一日:円)	4, 299
サービス活動収益計(千円)	157, 034
職員数(名)	13.8

宝塚第2地区在宅複合事業(社会福祉事業)

聖隷ヘルパーステーション宝塚 聖隷逆瀬川デイサービスセンター 聖隷逆瀬川デイサービスセンター虹

2015 年度、宝塚第 2 地区在宅複合事業では介護報酬改定の中、地域に必要とされるサービスの質を確保しつつ、運営的にも経営的にも順調に推移できた。訪問介護事業所では、喀痰吸引を必要とされる利用者の対応など重度要介護者への訪問も積極的に対応できた。職員教育については訪問介護事業所・通所介護事業所ともに積極的な研修の開催、参加を行うことができた。リスクマネジメントについては事業者間での格差があり、通所介護事業所でインシデント・アクシデント報告書の見直しが進まなかった。

1. 職員のスキルアップ向上

(ア)喀痰吸引の研修については第2号研修1名、第3号研修3名の研修修了者の確保ができた。

- (イ) 同法人内での交換研修は未実施に終わった。
- (ウ) パート職員が担当制にて毎月責任を持ってレクリエーションの予定を立て、実施できた。
- (エ) パート職員の介護技術や知識を増やすといったことを計画的に教育できるシステム、現状 の能力を把握、また指導する側のスキルアップとシステムの構築とまでは至らなかった。

2. リスクマネジメントの向上

- (ア) リスクマネジメント委員会を定期的に開催し、事故についての分析を行い、事故防止策を 定めて再発防止に取り組んだ。
- (イ) 宝塚地区全体で取り組んでいるインシデント・アクシデント報告書の見直しは検討に止まった。

3. その他公益事業

- (ア) 生活援助等サービス事業
- (イ) 認知症介護実践者研修実習生受入
- (ウ) 小林聖心女子学院高等学校の体験学習(ボランティア学習)受入
- (エ) 教育職員免許法の特例にもとづく社会福祉施設等における「介護等体験」受入

【数值指標】

訪問介護事業(聖隷ヘルパーステーション宝塚)

介護給付			予防	5給付	単価(円) サーヒ		サービス活動	職員数
平 均	月間	年 間	月間	年間	介護	予防	収益	(常勤
利用者数	利用者数	利用者数	利用者	利用者	(月)	(月)	(千円)	換算)
109 人	1,312人	14,111 人	110 人	1,317人	3,935 円	17, 983 円	111,936 千円	10.5名

通所介護事業(聖隷逆瀬川デイサービスセンター)

介護給付			予防	5給付	単価(円)		サービス活動	職員数
平 均	月間	年 間	月間	年間	介護	予防	収益	(常勤
利用者数	利用者数	利用者数	利用者	利用者	(月)	(月)	(千円)	換算)
59.7人	482.6人	5,791 人	200 人	2,404 人	8,478 円	38, 286 円	64,512 千円	12.3名

通所介護事業(聖隷逆瀬川デイサービスセンター虹)

	介護給付			予防	坊給付	単価(円)		サービス活動	職員数
平	均	月間	年 間	月間	年間	介護	予防	収益	(常勤
利用	者数	利用者数	利用者数	利用者	利用者	(月)	(月)	(千円)	換算)
23.	.8人	233.8人	2,806 人	0人	0人	13,470円	0 円	37,840 千円	6.9名

宝塚第二地区在宅複合事業(公益事業)

聖隷訪問看護ステーション宝塚 逆瀬川地域包括支援センター 聖隷ケアプランセンター宝塚

2015 年度、宝塚第二地区在宅複合事業(公益事業)での経営面をみると訪問看護ステーション及び地域包括支援センターは、ほぼ予算通りに推移し安定経営が維持できた。ケアプランセンターの収支は赤字であったが、赤字脱却の見通しは立ったといえる。「看取りのカンファレンス」、「地域の居宅介護支援事業所や包括支援センター対象の訪問看護勉強会」「多業種対象の地域包括ケア勉強会」、「小中高の学校での認知症講座」などの開催を通じ、3事業所のそれぞれで、地域ニーズに対するアクション、ネットワーク作り(連携強化)への取り組みを実践しつつ、取り組んだスタッフそれぞれのスキルアップ、質の高いケアへの意識向上にもつなげることができた一年であった。

【実績】

〈訪問看護ステーション宝塚〉

- 1. ラダーを活用した職員教育システムの構築 関西地区聖隷 4 ステーション間の研修は実施できなかったが、リハビリテーション連絡会を 立ち上げ 4 回開催できた。
- 2. 訪問看護ステーション宝塚の PR と各居宅支援事業所との連携強化 居宅支援事業所向け研修会を 4 回、看取りカンファレンスについても 4 回実施できた。
- 3. 地域住民との交流 同法人ケアマネジャーと地域の高齢者が集うサロンに参加し、参加者と意見交換を実施できた。

〈逆瀬川地域包括支援センター〉

- 1. 介護予防・日常生活支援総合事業の推進
 - (ア)総合事業に向け、介護予防給付対象者全員を対象にしたアンケートを実施できた。
 - (イ) 包括支援センター主催で医師など多職種参加の包括ケア勉強会を3回実施できた。
- 2. 認知症の啓発活動及び支援

小中高の各 1 校に認知症講座や勉強会を開催。地域対象も今年度 3 回開催できた。 〈聖隷ケアプランセンター宝塚〉

- 1. 収支のバランスを整え、安定した経営状態を保持 単月ではプラス収支の月もあったが、2015年度全体としてはマイナス収支であった。
- 2. 業務の効率化及びケアプラン業務の法令順守を推進 モニタリング及び記録を手書きからシステムに移行し、相互間チェックも実施できた。
- 3. 認知症及び重度利用者などをテーマとした事業所内外の人材育成 家族や医師等の多職種を招いての看取りカンファレンスを今年度4回実施できた。

【数值実績】

訪問看護事業 (聖隷訪問看護ステーション宝塚)

	平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価(円)	サービス活動 収益(*)	職員数 (常勤換算)
医療	48 人	369 件	4,431件	9,816円		
介護	105 人	512 件	6, 147 件	10,142円	111,800 千円	12.0名
予防	15.8人	51 件	615 件	10, 142 円		

居宅介護支援事業(聖隷ケアプランセンター宝塚)

年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査	訪問調査	サービス活動	職員数
介護	予防	介護	予防	年間件数	単価(円)	収益(*)	(常勤換算)
2,986 件	410 件	17,628 円	3,055 円	2,498件	4,000円	64,435 千円	9.7名

地域包括支援センター事業〈逆瀬川地域包括支援センター〉

年間請	青求件数	平均	単価(円)	サービス活動	職員数
予防	予防 (委託)	予防	予防 (委託)	収益(*)	(常勤換算)
4,705件	2,327 件	4,926 円	4,926 円	74, 325 千円	10.4名

^(*)内部取引消去前

北神戸地区在宅複合事業

聖隷訪問看護ステーション北神戸 聖隷ケアプランセンター北神戸

24 時間 365 日地域の利用者の生活を支える安心・安全なサービスを目指し、2015 年度は訪問看護事業を拡大し、強固な体制作りを目標とした。常勤看護師 5 名の確保、丁寧な新人教育、人材育成を優先した。4 月に常勤看護師 2 名の採用を行ったものの、1 月・2 月に相次ぎ退職し、規模拡大は振り出しに戻った。サービスの質向上のため、2014 年度は不十分であった現任教育の研修参加も積極的に行った。個々の目指す研修参加、特に 9 日間の管理者研修に参加できたことは管理体制の強化に繋がっている。将来的に目指している訪問介護との複合事業化は検討に止まった。その他、淡路・宝塚・北神戸・山本の 4 ステーションによる相互間チェックやモバイル端末の導入による訪問看護システムの ICT 化が実現した。

1. 2015 年度 事業計画・予算の達成度

- (ア)機能強化加算の取得や将来的な発展を見据え、30代の常勤看護師を2名採用し、紹介料や人件費が増加。細やかな新人教育を優先した結果、訪問件数、収支共に予算を下回った。特に重視している精神疾患の利用者に対しては、研修参加も継続でき、困難事例にも対応できる体制、近隣の病院・クリニック・支援センターとの連携も取れてきている。
- (イ) 難病利用者に対しては、重介護が多いことから、ケアプランと訪問看護の兼務職員による同行訪問を積極的に取り入れた。
- (ウ) 癌や高齢者の看取りに対しては、連携しているクリニックの医師の外来診療科目が多忙となる事で紹介が減り、看取り件数は6件に止まった。
- (エ)機能強化加算算定要件が 2016 年度より小児重症児も要件に入るため、看取り件数が伸びない分、小児の訪問も積極的に受けていく。

2. その他公益活動

- (ア) 神戸市看護大学生実習受け入れ
- (イ)介護保険認定審査会に3名の職員が参加
- (ウ) NPO 主催「介護者の集い」への参加

【数值実績】

訪問看護事業(訪問看護ステーション北神戸)

平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価(円)	サービス活動収益 (千円)	職員数(常勤換算)
115 人	713 件	8,560件	9,607円	81,484 千円	9.6名

居宅介護支援事業(ケアプランセンター北神戸)

	年間請	求件数	平均単価(円)		訪問調査	訪問調査	サービス活動	職員数
ſ	介護	予防	介護	予防	年間件数	単価(円)	収益(千円)	(常勤換算)
	658 件	366 件	12,787 円	3,786 円	_	_	9,711 千円	2.4名

宝塚第五地区在宅複合事業

聖隷ケアプランセンター花屋敷 聖隷訪問看護ステーション山本

聖隷ケアプランセンター花屋敷は、2015年度は予算を下回る人員体制での運営となり、請求件数的には予算未達となったが、経営的には安定した運営ができた。要因として、介護保険制度改正による利用者基本単価のアップ、各種加算の積極的な算定により、介護・予防共に利用者単価を大幅に上回ったことがあげられる。

聖隷訪問看護ステーション山本は、2015年度は人の採用・経営ともに上手く運営できない1年であった。また、聖隷事業所間での連携課題や、地域の特性を考えた中で聖隷がすべきことに考えが及んでいなかった。

2016年4月より、事業所移転に伴う事業費増加が見込まれる。さらなる質の向上に努め、利用者に選ばれる事業所を目指すと共に、利用者数を増やし、安定した事業運営を行っていく。

【事業・運営実績】

< 聖隷ケアプランセンター花屋敷>

- 1. 業務管理・リスク管理の強化
 - (ア)ケアマネジメントプロセスの見直しについては、2016年度に関西6事業所合同で作成する こととなり、具体的な取り組むはできなかったが、相互チェックについては「モニタリン グ記録」をテーマに実施することができた。
 - (イ)記録・請求ソフトの活用については、マニュアルの作成や運用ルールの検討などに時間を要し、2016年4月からの実施となった。
 - (ウ)リスク管理については、関西在宅事業所統一書式を使用、リスク勉強会の開催などの取り 組みを行なうことができた。
- 2. 特定事業所としてのケアマネジャーの質の担保
 - (ア)中堅職員業務マニュアルの見直しについては、既存の新人オリエンテーションマニュアルと統合し、「ケアマネジャー業務マニュアル」を整備することができた。
 - (イ)研修については、「権利擁護」「神経難病」など研修やケース検討などを重ねることでスキルアップを図ることができた。
- 3. 宝塚地区における新規事業への積極的参画
 - (ア) 東地区事業所間における連携・体操教室の開催については、聖隷山本デイサービスセンターの閉鎖もあり、具体的な取り組みを行なうことができなかった。
- 4. (新) 特定事業所加算Ⅱを算定できる職員体制の確立
 - (ア)加算算定に必要な人員体制の整備については、2015年4月時点で要件を満たす人員体制を整え、加算を算定することができた。

< 聖隷訪問看護ステーション山本>

- 1. ラダー別に合わせた職員教育システム作り(聖隷訪問看護ステーション宝塚と合同)
 - (ア) 2015 年度の事業計画立案当初は宝塚との合併も視野に置いた目標設定であったが、その計画が無くなり合同での教育システムは作ることができなかった。聖隷の訪問看護ステーション全体での取り組みでラダー作成や関西地区内でのリハビリ部門の合同研修の計画・実践は行えた。2016 年度は 2015 年度の実践を振り返り、引き続き関西の4訪問看護ステーションでできるシステムつくりを計画・実践していく。

2. 東地区で実践可能な地域との関わり作り

- (ア)宝塚東地区での連携については、聖隷山本デイサービスセンターの休業日である日曜日に、 訪問看護、ケアプラン、デイサービス共同で要支援者に向けた体操教室や相談室の開催を 計画したが、デイサービスセンターの事業廃止があり、実施には至っていない。
- (イ)地域への関わり作りでは包括との連携がうまくいかず、地域へ入っていくことができていない。今後の地域包括ケアを行うためにまず、顔の見える連携作りから行っていく。

3. 事業運営について

(ア)2015年度は件数が徐々に増加したが、人の採用がうまくいかず一時的にスタッフが疲弊するような状況に陥り、介護の訪問件数は予算を下回り、赤字経営が続く状況となった。2016年度は、居宅支援事業所・地域包括支援センターとの連携方法について課題の明確化・改善策について話し合い、新規獲得につなげていく。

【数值実績】

居宅介護支援事業(聖隷ケアプランセンター花屋敷)

年間請	求件数	平均単価(円)		訪問調査	訪問調査	サービス活動	職員数
介護	予防	介護	予防	年間件数	単価(円)	収益(千円)	(常勤換算)
2,973 件	290 件	17, 192 円	4,384 円	0 件	0 円	52, 381 千円	8.3名

訪問看護事業(聖隷訪問看護ステーション山本)

	平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価(円)	サービス活動 収益(千円)	職員数 (常勤換算)	
医療	21 人	191 件	2, 294 件	9,838円			
介護	78 人	373 件	4,483件	8,999 円	66,565 千円	8.2名	
予防	11 人	34 件	408 件	8, 286 円			

聖隷逆瀬台デイサービスセンター

2015 年度介護報酬改定により通所介護費の大幅な引き下げが実施され、報酬面への影響が懸念されたが、新設の中重度ケア体制加算・認知症加算が共に算定ができたことで経営面は概ね安定した。中重度利用者が安心して利用できる大規模デイサービスとして、地域を支える役割を担い、開設より22年目となる2016年度以降も利用者の受入れ体制は継続し地域ニーズを充足していく。

1.「最高のサービス」の提供

- (ア) 開設20年を超え建物の老朽化も著しく、改修工事を計画的に行う。
 - ①館内防火カーテン交換・厨房冷凍冷蔵庫交換・利用者用椅子交換を実施。その他不具合 箇所の軽微な補修も適宜実施した。
 - ②送迎用車両は走行10万kmを超えた、故障頻度の高い車両3台を新車に入れ替えた。
- (イ) 新規利用者が安心して利用できる。
 - ①看取り期利用者もデイサービスを利用できるよう、緊急時の対応・連絡・相談の手順と 方法について検討した。内容については法人内関係各所との共有の場を設けた。

2. 運営の安定化の推進

- (ア) 職員一人ひとりが運営面も意識し、課題を共有することで直接収入に反映できる。
 - ①職種毎の専門性を各自が意識・発信できる風土作りに着手した。
 - ②相談員を配置することで窓口業務を円滑に、関係各所へのタイムリーなリアクションができたことでスムーズに利用者受入れができ年間通じて稼働率80%を維持した。
- (イ) 重度の利用者が安心して利用できるよう介護技術の教育体制を構築する。
 - ①単発の勉強会は実施できたが継続・発展性に乏しく教育体制構築には至らなかった。
 - ②根拠に基づく介護技術の指導ができておらず、指導側の論理的思考と伝え方の課題がある。2016年度以降も解決すべき課題として継続的に取り組んでいく。
- (ウ) 認知症高齢者のケアに評価基準を設ける。
 - ①認知症実践者研修へ職員1名が参加したが、伝達が不十分であり計画未実施に終わる。

3. その他公益事業

(ア) 教育課程の大学生実習受入れ・宝塚市自立支援配食の受託・施設2階の地域開放

【数値実績】大規模通所介護 I 利用定員 40 人(介護・予防を一体的に運営)

介護給付		予防給付		単価(円)		サービス活	職員数	
平 均	月間	年 間	月間	年間	介護	予防	動収益	(常勤
利用者数	利用者数	利用者数	利用者	利用者	(月)	(月)	(千円)	換算)
30.5人	793 人	9,526 人	42 人	506 人	12, 269 円	40,812 円	130,424 千円	21.5名

聖隷デイサービスセンター結い

2015 年度 4 月に UR 逆瀬川団地内に移転し、2016 年 3 月時点で要支援、要介護合わせ約 140 名の方に利用頂いている。特に要支援者については、介護度に合わせて利用回数を統一し、多くの方に利用していただく形をつくったことが利用者増の要因としてあげられる。また、要介護者の利用を増やしていく為、10 月より食事と入浴のサービスを導入した。また、サービスの核であるリハビリについても理学療法士を中心に生活に即したプログラムの提供に努めた。収支的には開設以来、赤字が続いていたが、2 月には初めて単月黒字を出すことができた。

- 1. 生活行為の向上を目指したプログラムの立案と評価の実施
- (ア) 理学療法士を中心に、居宅訪問を行うことで生活ニーズの掘り起こしを行うことができた。
- (イ) 理学療法士を中心に、身体状況と生活環境を把握した上で、より生活に即したプログラム の提供をすることができた。

2. 新規利用者の獲得

- (ア) 生活行為の向上を目指したサービスの提供を売りに新規利用者の獲得を図った。フロア内にデモ浴槽を設置し、理学療法士指導の下、入浴の出入りについてのプログラムの提供ができた。新規利用者は増えたものの要支援者が多く通常規模型への変更はできなかった為、2016年度は地域密着型通所介護事業所での運営に変更とした。
- (イ) 認知症の方の対応を含め色々な疾患・障害に対応できる職員の知識とスキルの向上を図ったが、デイサービスの業務が初めての職員も多いことから、研修・教育に時間を要している。
- 3. 平成29年度4月開始の総合支援事業に向けて地域住民との関係作りを行った。
- (ア)1月より逆瀬川団地自治会に参加し、団地内住民との関係作りに着手している段階である。

【数値実績】

	介護給付		予防	5給付	単価	(円)	総収入	職員数
平 均	月間	年 間	月間	年間	介護	予防	(千円)	(常勤
利用者数	利用者数	利用者数	利用者	利用者	(月)	(月)	(十円)	換算)
6.8人	178 人	2,130 人	89 人	1,072人	7,004 円	27, 121 円	44, 179 千円	9.5名

聖隷コミュニティケアセンター宝塚店

2015年度は、利用者、ケアマネージャー、施設のニーズを把握し福祉用具の提案や生活環境改善に向けた住宅改修の提案を的確に行える専門的で質の高いサービスの提供を努める事で利用者満足度を高める事を目指した1年であった。特に住宅改修工事に関しては提案方法を変え利用者に分かりやすく説明する提案書を導入した事で大幅に改善する事ができ、利用者の立場に立ったサービスを構築する事ができた。福祉用具レンタル・販売に関しては各サービス機関との連携を深める事を意識し密な報連相を意識し取組んだ結果、迅速な対応が可能となり利用者満足の向上に繋げられたと感じている。

2016 年度も利用者の気持ちに寄り添いながら必要とされる福祉用具の相談援助に努め快適な在宅生活を送れるよう支援していきたい。

1. 人材の安定と育成

(ア) 年間研修計画の実施

毎月勉強会を開催し福祉用具の知識を深める事ができた。車いす勉強会については 6 回に分け毎回違うテーマで行い力を入れた。

(イ) 外部研修・聖隷内部研修の参加

聖隷内部研修の参加者は職場の問題解決に向け取り組む事ができた。 外部研修は職員への案内が不十分なところもあり積極的参加には至らなかった。

(ウ) 目標参画システムの活用

各職員が事業所の中での役割を認識し目標を参画する事ができ、日常意識しながら取組む事ができた。

2. リスク管理

(ア) フォロー体制の確立

パート職員間でのローテーションを実施し職員の業務幅を広げる事ができた。

(イ) リスクマネジメントの実践

インシデント、アクシデント報告書の書式を更新し、事例の振返りを定期的に行った。

3. 営業活動の強化

(ア) 新しいサービス展開

利用者、ケアマネージャーからのニーズがあった軽度者向けの車いすプランを新たに 導入し利用者拡大に繋がった。また施設向けレンタルを新たに展開するにあたり会議 内で話合う機会を設 2016 年度より開始する新しいサービスの準備をする事ができた。

(イ) コミュニティ通信発行

利用者向けには毎月コミュニティ通信を発行し新しい福祉用具の紹介や便利グッズの案内を行う事で購買意欲を高める事ができた。

【数値実績】

	レンタル件数	介護保険収益	販売収益	住宅改修	サービス活動
					収益(*)
宝塚店	8,074 件	104,849 千円	61,730 千円	32,188 千円	198,767 千円

(*)内部取引消去前

聖隷ケアプランセンター結い

2015 年度は事業としての成長・発展の計画を基に運営したが、ケアマネージャーの増員・加算の取得に至らず、軽微な増減はあるものの請求件数ほぼ横ばい状態で推移した。同時期に開設したケアプランセンターすみれと問題点が重なる部分が多く、活動範囲も近いことから 2015 年度で事業を廃止し、2016 年度はケアプランセンターすみれと合併し運営することとなった。

1.「最高のサービス」の提供

- (ア) 同じ地区内のケアプランセンターとの境界を明確にする。
 - ①地域包括からの新規依頼について居住地を考慮し、担当ケアマネージャーがすぐに駆けっけられるようケアプランセンター宝塚・すみれと振り分けて受入れすることができた。
 - ②逆瀬台デイサービスセンターの併設により、同デイサービスとの連絡・相談がスムーズ に図れたことで多くの利用者紹介に繋がった。
- (イ) 各専門職がそれぞれの知識・技術向上のために内外の研修に参加する。
 - ①計画的に研修参加はできたが、個別の学習に留まり職場への普及効果は薄かった。職場でのフィードバックの仕組みを作為的に作る必要があった。
 - ②デイサービスに併設していることで、サービス事業所のスタッフの動きやデイサービス で過ごす利用者の姿などを実際に見ることができ、サービス事業所の視点も踏まえたケ アマネジメントができるようになった。

2. 運営の安定化の推進

- (ア) ケアマネージャー1名を増員し、特定事業所加算を取得し安定化を図る。
 - ①事務所面積を考慮するとケアマネージャー増員には事務所移転が不可欠だったが、2015年度中の移転はできなかった。結果、ケアマネージャーの増員・特定事業所加算の算定ができず運営の安定には至らなかった。

【数值実績】

年間請	求件数	平均単価(円)		訪問調査	訪問調査	サービス活動	職員数
介護	予防	介護	予防	年間件数	単価(円)	収益(千円)	(常勤換算)
814 件	68 件	12,416 円	4,775 円	0 件	0 円	10,317 千円	2.0名

聖隷山本デイサービスセンター

2007年2月1日オープン以降、要支援者主体に介護予防に力を入れて、サービスを提供し、2009年度・2012年度の介護保険制度改正に合わせて、サービスの内容や提供時間、職員体制などを変更しながら運営してきた。結果、要支援主体のデイサービスセンターから、要介護者の利用率が伸び、要支援者と要介護者の利用割合が約半数となり、要介護者への対応も可能なデイサービスセンターへ変化してきた。また、要介護者への対応が増加するに伴い、認知症ケアや重度者へのケアも増加し、サービスの幅が広がった。

しかし、2015年度の介護保険制度改正で、大幅な基本報酬の減少に加え、新設された認知症加 算や中重度者ケア体制加算の算定できる要件を満たす事が出来ず、大幅な減収となった。運営的 に収支が厳しい事に加え、今後の事業展開や介護保険制度の動向なども踏まえ、3 月末を持って 山本デイサービスセンターは閉鎖する事となった。

- 1. 小規模デイサービス再編に合わせた事業運営の決定 計画通り、地域密着型へ移行し、介護保険から外れた要支援者の対応も行った。
- 2. 予防型から要介護を中心とした事業にシフトし、経営の安定を図った。
 - (ア)要介護者の受け入れを積極的に行ったが、要介護利用者は 2014 年度利用者延べ数に届かず、約1割減の利用率となった。
 - (イ) 要介護者増に伴い、入浴施設等の設備の検討をしたが、設置には至らなかった。
 - (ウ) 利用者減に加え、定員数を 30 名から 36 名に増加した事により、目標稼働率 80%には届かず 41%に留まった。
 - (エ) 宝塚東地区の在宅事業について、ケアプランセンター・訪問看護・ヘルパーステーションの3事業所で話し合いを進める事が出来た。

3. 地域開放

(ア) 山本デイサービスセンターを、日曜日に地域開放を行い、地域へ還元する事業を開始する話し合いは行えたが、実施までに至らなかった。

【数值実績】

介護給付			予防	5給付	単価	(円)	サービス活動	職員数
平 均	月間	年 間	月間	年間	介護	予防	収益	(常勤
利用者数	利用者数	利用者数	利用者	利用者	(月)	(月)	(千円)	換算)
10.9人	281 人	3,377 人	227 人	2,721 人	10,442 円	33, 333 円	48,544 千円	9.2名

聖隷カーネーションホーム

開設 2年目を迎えた 2015 年度は、介護報酬改定も重なり非常に不安の多いスタートであった。その中、新たな加算算定に向けた組織整備を行ったことと、職員個々の対応力の向上に伴い、特別養護老人ホームでは入院等による空床発生を抑え、高稼働率を維持することができた。また、地域における認知症対応力が低いことを鑑み、認知症対応型デイサービスセンター「うっとこ」を8月に新規開設することで、新たな利用者獲得に至った。その他設備面では、現状のご利用者ニーズに合致する形で、浴室、トイレ等の改修を実施し、利用者満足度の向上に繋げることができた。一方、地域貢献活動としては、介護保険認定抑制が進む中、非該当となった段階で環境が激変し生活が困窮する方々を救う為、淡路エリア事業所間の連携を図り、「有償ヘルパー事業」、「生きがい対応型デイサービス」を開始した。更には、近隣他法人と「体験型介護講座」を共同開催することで、地域の介護力向上を図ることができた。2016 年度は、過去 2 年間の経験を踏まえ、法人内外を問わず各種機関との連携を図り、地域包括ケアシステムの主軸として、地域における医療・福祉力の向上を図れるよう基幹施設としての役割を担っていきたい。

- 1、安全と安心を与え続けられるように質を高めたサービスの提供、情報発信
 - (ア) 計画通りサービス計画書の作成、見直しを実施。ニーズからずれないサービスを提供。
 - (イ) 異常の早期発見、対応、介護者が原因となる事故の減少により空床数が減少。
 - (ウ) 専門職が協議の上、説明、同意を実施。看取り介護は的確に確認し、加算算定実施。
 - (エ) 福祉体験の受け入れ、地域住民向け講座の開催は他法人とも連携し、計画的に実施。
- 2、地域ニーズ把握を徹底し、新たなサービスを創出
 - (ア)経管栄養者の受け入れに向け、有資格者数を計画的に増加。年度内に受け入れを開始。 併せて、空床発生を抑えることで高稼働率を維持することができた。
 - (イ) 認知症対応型デイサービスセンター「うっとこ」を8月に開設。広域的に受入実施。
 - (ウ)「有償ヘルパー」、「生きがい対応型デイサービス」を淡路市へ提案、承認の上、開始。
 - (エ) 兵庫県サービス評価事業受託。自施設の「強み」と「弱み」を整理し、改善策を展開。
- 3、淡路地区としての総合化力の発揮
 - (ア) 定期的に会議開催。聖隷淡路病院の地域包括ケア病棟開設に向け、「退院支援ルール」の 検討、実施。結果、聖隷淡路病院の在宅復帰率の向上や施設稼働率の向上に至った。
 - (イ) 近隣他法人と「体験型介護講座」、淡路市と「認知症サポーター養成講座」共同開催。
 - (ウ) エリア制における事業部内の連携促進。2016年度もエリア視野での協働を図る予定。 聖隷淡路病院との連携スキームも継続して検討、構築していく。
- 4、人材開拓・確保・育成
 - (ア)地域介護力向上を目指し「体験型介護講座」を共同開催。就労意向者の発掘に繋がる。
 - (イ) 各種ラダーや目標参画システムも活用し、職員個々のレベル向上を図った。
 - (ウ)介護福祉士合格率60%(3/5)。加算算定に向け、着実に有資格者の増加ができた。
 - (エ) 喀痰吸引等研修2名修了、経管栄養者の受入可能となる。認知症介護実践者研修2名修 了。介護プロフェッショナル段位制度にて内部評価者2名修了。

- (オ) 職員交換研修を相互に実施。特に聖隷淡路病院看護師の受け入れを重点的に実施。
- (カ) 聖隷淡路病院も含めライフプランや加算算定、人件費調整等に合った人事異動を実施。

5、運営の安定化

- (ア)組織整備や協力医療機関との調整を図り、新たな加算算定を開始。
- (イ) オムツに関しては業者と協働し、無駄なオムツ使用の削減を年間通して実施。
- (ウ) 不必要な外部委託は都度修正を加え、スリム化を実施。
- (エ) ご利用者ニーズと収益状況に合わせ、設備改修実施。併せて、老朽化備品の入れ替え。

6、その他公益事業

- (ア) 関西看護医療大学「領域別看護実習」受け入れ(8名・延6日間)
- (イ) 兵庫県社会福祉協議会「介護等体験事業」受け入れ(2名・延10日間)
- (ウ)「体験型介護講座」開催(計4日間・延80名)・「認知症予防講座」開催(計1日間・20名)・「認知症サポーター養成講座」開催(計1日間・30名)
- (エ) 淡路市立東浦中学校「トライやるウィーク (職場体験)」受け入れ (4名・延5日間)
- (オ) 淡路市立東浦中学校「福祉活動」受け入れ(9団体・延18日間)

【数值実績】

特別養護老人ホーム・通所介護・地域密着型サービス

	聖隷カーネー	ションホーム	聖隷カーネーションホーム				
			デイサービスセンター				
	特養入所 短期入所			通所介護			
	従来型	従来型	一般型	介護予防	認知症対応型		
利用者定員	54名	16名	30名	(30名)	12名		
利用者延数	19,891名	4,591名	5,574名	849 名	811 名		
一日平均利用者数	54.3名	12.5名	17.9名	2.7名	101名		
稼働率	100.6%	78.4%		68.8%	32.8%		
稼働延日数	366 日	366 日		311 日	206 日		
単価 (一人一日)	11, 173 円	11, 195 円	8,729円		11,528円		
サービス活動収益	223, 263 千円	51,475 千円	56,076 千円		9,417 千円		
職員数(常勤換算)	31.6名	7.2名		8名	3.4名		

在宅介護支援事業(聖隷在宅介護支援センター淡路)

サービス活動収益	職員数
りってへ行動収益	(常勤換算)
6,574 千円	1.2名

居宅介護支援事業(聖隷ケアプランセンター淡路)

年間請求件数	平均単価	訪問調査	訪問調査	サービス活動	職員数
介護	介護	年間件数	単価	収益	(常勤換算)
2,100件	16, 246 円	79 件	4,000円	33,615 千円	4.9名

淡路栄光園

2015 年度、運営面においては人財育成を主とし、皆でベクトルを合わせながら推進した。なかでも職員一人ひとりの「伝える」力の向上を目指し、担当職員からご家族へご利用者の体調変化やリスク説明等の報告、対応の相談を行うことで、改めてニーズの理解やコミュニケーションスキルを学ぶ機会となった。またご家族からのフィードバックを受け、実施しているケアの自信を植え付ける結果にもなった。この成功体験から職員同士互いに支え合う姿勢が一層深くなり、年間を通じて厳しい人員配置であったが、組織としては一段階レベルアップしたと言える。

経営面においては、管理職主導にて稼働率の維持に加え、介護保険改正後の対応を検討しながら丁寧に加算取得を行ったことで、年度当初の危機的予測を払拭できる結果となった。それにより老朽化した設備、備品の入れ替えを行うことができた。

地域包括システムにおける施設の役割を踏まえつつ、聖隷各事業所はもとより、行政、他事業所との連携を密にした地域支援を意識的に展開できた1年であった。今後も2017年度より始まる介護予防・日常生活支援総合事業への対応等、一層地域に貢献できるよう努めていきたい。

1.「人財育成」を軸とした質の高いサービスの提供

- (ア) 研修対応により介護テクニカルラダーレベル1を全介護職員がクリア、目標を達成できた。
- (イ) 新人採用が出来ず新人育成の機会は無かったが、係やリーダー会を通して職員個々が役割を果たし、PDCAの思考を用いながらチームでの達成と伴に、中堅層の成長がみられた。
- (ウ) 感染症無く過ごせたが、自力で動ける方の見守り不足等で起きた転倒骨折事故が年間9件 発生した。ケアによる対策を強化しつつ、低床ベッドやセンサー等の環境を整備した。
- (エ)職場長主導にて、担当職員がご家族にケアの説明、生活の様子等こまめに連絡を行った。 結果、ご家族とやり取りが増すなかで職員との間に信頼関係が生まれ、安心されている様子や起こった出来事についても納得いただける機会が増加した。
- (オ)「介護職員等による痰の吸引等の実施のための研修」1名、「介護職員実務者研修」3名、「認知症実践者研修」1名の研修参加。資格取得と中重度利用者対応の力となった。
- (カ) 誤嚥性肺炎の予防、口腔ケアの向上に向けた研修会を実施し、知識と技術を高められた。
- (キ)介護福祉士1名、介護支援専門員1名の資格取得となった。
- (ク) 通所介護事業は、職員体制が不安定な状況のなか、営業日を減らすことなく現状サービス を何とか維持できるよう努力した。

2. 施設経営の安定化

- (ア) 聖隷淡路病院、淡路医療センターのMSWや在宅のケアマネジャーとの連携を密にし、早期の退院調整や入院期間中の空室利用を円滑に行うことができた。
- (イ) 島外からのショートステイ新規利用や聖隷淡路病院との退院支援ルールに基づいた社会的 入院者の受け入れ調整を行い、高い稼働率を維持した。
- (ウ) 人事部関西採用センターと連携し、地元高校からの採用、島内中途採用者の獲得ができた。
- (エ) 毎月の職場長会にて定期的に介護保険制度、加算算定方法等の勉強会を実施、加算取得の

適時対応を可能にしたため 安定した運営に繋がった。

- (オ)年間を通して人員配置が厳しく、時間外対応が増えるため、コスト面の業務改善までは手が届かなかった。コスト研修は実施することができた。
- (カ) 老朽化した機器(機械浴槽、厨房機器、送迎車等)の入れ替えを実施した。

3. 淡路地区における事業連携強化

- (ア) 淡路地区戦略会議及び医療福祉連携会議を通して、施設として 退院後の在宅復帰に向けた 中間施設的役割と在宅生活者の支援の役割を明確化し取り組んだ。
- (イ) 訪問看護ステーション淡路、ヘルパーステーション淡路、宝塚栄光園への交換研修に計 8 名の参加した。淡路地区、宝塚地区の聖隷学会へ参加し人財育成の良い機会となった。
- (ウ) 淡路地区聖隷事業所(聖隷淡路病院、在宅部門、施設部門) はもとより、地域包括支援センター、社会福祉協議会、他法人と連携し、地域包括システムにおける役割を果たした。

4. 将来計画への取り組み

- (ア) 地域密着型サービス及び介護予防・日常生活支援総合事業の検討を行った。
- (イ)介護保険制度改正による新設、変更の加算等の理解と対応方法の検討、実践を行った。

5. 環境対策への取り組みと社会貢献活動

(ア) 環境対策への取り組み

- ① 玄関からロビーに掛けての照明器具をLEDに変更した。
- ② 職員による空調フィルター等のメンテナンスを実施した。空調、給湯の更新準備のため、業者との折衝を継続中であり、2016年度更新予定している。

(イ) 社会貢献活動

- ① 地域の踊りや演奏のボランティア、地元中学のトライやるウィーク、関西看護医療大学の実習受け入れ等を行った。
- ② 地域包括支援センター主催の介護予防講演会への職員出演や認知症サポーター研修の 開催、介護保険非該当者対象の生きがい型デイサービス事業の実施を行った。
- ③ LSA24 地域サポート型特養事業の周知に努めたが、6名の登録に留まった。見守り 支援を行っている方々には、精神的に安心するという声をいただけた。

【数値実績】

	特養入所	短期入所	通所	介護
	従来型		一般	介護予防
利用者定員	60 名	17 名		35 名
利用者延べ数	21,013名	5,680名	7,506名	1,048名
一日平均利用者数	57.4名	15.5名	20.7名	2.9名
稼働率 (%)	95.7%	%		67.4%
稼動日数(延べ)	366 日	366 日		362 日
単価 (一人一日当り)	11,315円	11, 292 円	9,437 円	5,256円
サービス活動収益 (千円)	238, 211 千円	64, 136 千円	7	76,406 千円
職員数(常勤換算)	36.7名	8.5名		13.5名

聖隷訪問看護ステーション淡路

2015 年度、当事業所は淡路エリアの南下計画を目的とした事業拡大を図る為、①タブレットの導入、②チーム体制の実現、③津名サテライトの改修を行った。タブレットの導入に関しては、8月の試行から 11月の本格導入まで期間は要したが、利用者情報が即座に確認でき、緊急訪問や職員間の伝達に大きな効果が見られている。また、チーム体制に関しては、東浦チームと津名チームに分け、担当地区での稼働を基本とした活動を実施することとした。これにより、担当地区での新規受け入れや関係機関との連携等の強化が図られた上、スケジュール調整やチーム間で協力体制が充実し柔軟な業務が実現できている。津名サテライトの改修については聖隷ケアセンター津名として機能強化型事業所となる準備を整えることができ、職員のモチベーションの向上につながり、更なる事業拡大と、サービスの向上に向けた取り組みが継続できている。

1. 地区別事業の実施と安定

- (ア) 津名サテライトからの稼動を増加させたことで兵庫県立淡路医療センター・淡路市地域 包括支援センター・千鳥会居宅介護支援事業所等からの新規依頼が増加。ターミナルケ アに関しては、兵庫県立淡路医療センターにおいて退院支援に関わることで、在宅医と 共に看取りを行う機会が増加した。結果、知名度が上がり、紹介や依頼が増えている。
- (イ) タブレットの導入に関しては8月の試行から11月の本格導入まで期間は要したが、利用 者情報が即座に確認でき、緊急訪問や職員間の伝達に大きな効果が見られている。
- 2. 訪問リハビリテーションの充実
 - (ア) 退院調整カンファレンス等に随時参加し、継続的なリハビリ機会を提供できた。
 - (イ) 件数は少ないがリハビリテーションの必要性を随時提言し、支援に繋げることができた。
- 3. 訪問看護の多機能化
 - (ア) 聖隷カーネーションホームデイサービスセンターへ理学療法士、作業療法士を派遣。デ イサービスでの個別機能訓練を実施している。
 - (イ)退院後の体調不安・受診につながらない困難事例・認知症等地域包括や在宅介護支援センター等からの相談にも迅速に対応した結果、大幅な実績・収益増につながった。

4. その他収益事業

- (ア)関西看護医療大学実習生・兵庫県立淡路医療センター看護師在宅実習受け入れ
- (イ) 淡路市立中田小学校・淡路市立生穂小学校への医療的ケア訪問
- (ウ) グループホームへの医療連携訪問

【数值実績】 (千円)

	予算	実績	差異	予算比	2014 年度比
医療件数	1,613 件	2,330 件	717 件	144.5%	135%
介護件数	10,789 件	10,458 件	-331 件	96.9%	105%
総収入	109,777	109,902	125	100.1%	112.7%

聖隷ヘルパーステーション淡路

2015年度は、淡路市全域で営業活動を継続し、訪問依頼を断ることなく、急な依頼にも対応してきたが、新規利用者 106名、終了者 95名となり、大幅な利用者増にはつながらなかった。終了者の内、施設入居者が 24名と逝去者 17名を上回っている。要因として、施設入居、病院入院の対応ベッド数が供給過剰状態となっていることが考えられ、病院退院後に自宅に戻ることなく、施設等に入居するケースが増え続けている現状が見受けられる。今後、サービス付き高齢者住宅をはじめ、洲本市での広域型特別養護老人ホームの開設が計画されている中、訪問介護サービスの在り様も変容させていく必要性を感じている。また、2017年度には淡路市が介護予防・日常生活支援総合事業を開始することを見越し、2016年度は制度の谷間で困窮する方が出ないように、新たなサービスを創造し、サービスの多様化を図っていく必要性を感じている。

1. 淡路市全域での積極的な活動

効率的なスケジュール管理を行う為、東浦チーム、津名チームに分け、津名サテライトに 常勤2名、パート職3名を配置し、エリアでのチーム体制を強化した。結果、津名地区の新 規利用者は10名増加。今後も津名地域での営業活動を強化し、活動エリアの拡大を目指して いく。職員確保(主に登録ヘルパー)に関しては、訪問車両にヘルパー募集広告を掲示し、 募集実施。結果、登録ヘルパーは1名増員。

2. 職員教育の充実

身体介護に対応できる職員を増加する目的で、聖隷カーネーションホーム、淡路栄光園の協力のもと研修を実施し、職員 9 名が参加。今後もサービス向上の為、研修を継続しスキルアップを目指す。

3. 有償サービスの利用料の変更

要支援利用者のサービスが地域支援事業へ移行していく中、支援が必要な方への訪問が継続できるよう、2015年6月より有償サービスの利用料金を1時間¥2,500から¥1,500に変更。また、聖隷カーネーションホーム、淡路栄光園と業務委託契約を締結することで、利用ニーズへの対応力を強化した。結果、利用者14名、1ヵ月平均利用件数47件の増加となった。

【数值実績】 (千円)

	予算	実績	差異	予算比	前年比
介護給付件数	13,419 件	13,314 件	-105 件	99.2%	103.0%
予防給付件数	3,960 件	4,536 件	+576 件	114.5%	97.0%
自立支援件数	前年実績 4,993 件	5,011 件	_	_	100.4%
総収入	80,049	79,769	-280	99.6%	100.6%

奄美佳南園

特別養護老人ホーム奄美佳南園・デイサービス・ホームヘルプ事業所 訪問入浴事業所・在宅介護支援センター (居宅介護支援事業)・春日デイサービスセンター

2015 年度は、介護報酬改定への対応・のぞみ園の移転改築・春日保育園の増床・奄美エリア就業規則の統一化など奄美エリアにとって大きな転機となる一年であった。マイナス改定を危機ではなくチャンスと捉え、各種加算取得に伴うサービスの質の強化・向上に努めるとともに、長期入院者を出さないためのケアの改善や、長期入院者の早期帰園のための働きかけ、事務機能の集約化、次世代リーダー候補の発掘と育成といった事項に重点を置いた。法人本部及び事業部から多大な経営支援をいただきながら種々の改善を進めた結果、経営的にも一定の改善がみられた。その一方で通所介護・訪問介護は利用実績を回復できず、今後は認知症対応や障害者短期入所・訪問介護の新規開拓、障害者就労支援事業など障害者事業の実施検討など、サービスのバリエーションや利用者層の構成を見直していき、需要を掘り起こしながら経営基盤を強化していくことが課題である。そして2016年度以降も奄美佳南園の経営改善を推し進めていくとともに、エリアの中核施設として他施設をサポートする役割を果たしていきたい。

- 1. 利用者の尊厳を守る
- (ア)重度高齢者に対する医療介護の専門機能を発揮するために、経管栄養の準備段階における 看護・介護の連携を強化できた。
- (イ)利用者が求めるケアを実践するための業務改善を行い、以前よりゆとりある食事時間を確保できる等の改善がみられた。日課全体の評価・見直しを今後も継続して取り組んでいく。
- 2. 利用者が安心で安全な生活を送れるケアの実践
- (ア)介護職員が参画した個別ケアプランの作成と実践を企図したが、計画通りに進捗できなかった。より確実なモニタリング実施とプラン把握ができるよう再度取り組んでいきたい。
- (イ)喀痰吸引研修の実施により、各介護職員のスキルの確認と向上につなげることができた。
- (ウ)事故防止に関し、一部の事業においては改善成果が見られたが、全体としては引き続き事 実確認・分析・対策検討・対策実施管理の各段階を更に強化していく必要がある。
- 3. 奄美における事業拡大と安定した運営基盤を構築する
- (ア)事務機能の集約化と、奄美エリア共通の就業規則への変更を実施できた。
- (イ) 佳南園・春日両デイサービスセンターの役割分担はできたが、統合化・サテライト化については検討継続とした。
- (ウ)入所稼働率の改善のために、空床の早期活用・短期入所の期間の見直し・病院からの早期退院等に努め、平均空床数を低減させることができた。

4. 地域との連携を強化する

- (ア) 奄美市が実施する地域見守りネットワーク作りへの参画と、地域と合同で防災訓練を実施することができた。
- (イ)春日デイサービスセンターで地域支援活動「ゆていもれ会」を定期開催できるようになり、 ボランティア活動等を通じて近隣住民との交流機会が増加した。

5. 次世代を担う自立した職員を育成する

- (ア) 介護係長を介護テクニカルラダー研修に参加させることができた。
- (イ) 法人本部の協力を得て、係長を中心とした奄美でのFT研修が実施できた。

6. その他公益的事業

(ア) 各種専門学校・養護学校職場体験実習・小学校福祉体験学習等の実習の受入を実施した。

【数值実績】

	特養入所	短期入所	通所介護	(佳南園)		配食サービス
	村食八別	应别八川	一般	(介護刊	予防)	配良り一しろ
利 用 者 定 員	80	10	2	0.0		
利用者延べ数	28, 832	2, 895	4, 515	470		19,817
一日平均利用者数	78. 78	7. 91	12. 37	1. 29	9	54. 14
稼働率(%)	98. 47	79. 10	61.85	6. 44	1	
稼動日数 (延べ)	366	366	36	65		366
単価(1人1日当り)	11, 337	11, 077	9, 480	5, 23	0	601
サービス活動収益	326, 878	32, 068	42, 804	2, 45	8	11, 919
職員数(常勤換算)	57	. 3		. 9		3.5
	在宅介護	ケアプラン	ノセンター	ヘル	パース	テーション
	支援	一般	(介護予防)	一般	予防	(障害)
利 用 者 定 員						
利用者延べ数		967	342	5, 618	1, 125	1,949
一日平均利用者数				15. 39	3.08	5. 34
稼働率(%)						
稼動日数 (延べ)	366	262	262	365	365	365
単価(1人1日当り)		16, 544	4, 322	3, 392	3, 555	3, 536
サービス活動収益	4, 809	15, 998	1, 478	19,057	3, 999	6, 891
職員数(常勤換算)	1. 3	3.			8.	4
		入浴	通所介護	1		
	一般	(障害)	一般	(介護)	予防)	
利用者定員			1	5		
利用者延べ数	572	180	2, 264	1, 49		
一日平均利用者数	1.83	0.58	7. 23	4. 79		
稼働率(%)			48. 22	31. 93		
稼動日数 (延べ)	313	313	31	13		
単価(1人1日当り)	14, 306	12, 339	10, 134	5, 85		
サービス活動収益 8,183		2, 221	22, 943	8, 777		
職員数 (常勤換算)	3	6	6.	2		

のぞみ園

2015年度は9月に和光町への新築移転し、児童発達支援センターとして療育支援、家族支援、地域支援を柱として、更なる質の高い支援を目指して事業展開をしてきた。

現在、奄美地域においては早期療育の支援を求める声は増加傾向にあり、その声に応えるべく、2015 年度は法人本部及び在宅・福祉サービス事業部の支援を受けながら、児童発達支援事業での子ども達の受け入れ、保育所等訪問支援等を利用した保育園・幼稚園・小学校等との連携の強化、放課後等デイサービス事業の平日・夏休み期間の終日の受け入れ、効率的かつ細目な相談支援の実施など成果を感じる年でもあった。

2016 年度のぞみ園は開園 20 周年を迎えるが、今までのぞみ園しかなかった療育施設も、新たな事業所が開設されるなど、奄美地域の支援体制も徐々に変化しつつある。そういった変化の中においても、これまでの19年間の歩みを大切にしつつ、児童発達支援センターとして機能の充実を図っていくこと、そして早期療育を求める多くの声に応えていけるように、龍郷地域における事業所の開設など、のぞみ園だからこそできる療育支援を今後も展開していきたい。また、奄美地域における私たちの役割をしっかりと意識しながら、新たな障害福祉サービスの展開も検討していきたい。

1. 児童発達支援

(ア) 個別支援計画の策定のスキルアップを図る

児童発達支援管理責任者を中心にケースカンファレンス・相談支援専門員との担当 者会を行いながら、個別支援計画作成を行うことができた。

(イ) 個別支援計画に基づいた療育を行い、評価する

日々の振り返り、6ヵ月に1回の個別支援計画の評価を児童発達支援管理責任者・ 各処遇担当職員と一緒に実施することができた。

2. 放課後等デイサービス

(ア) 休業日以外(月~金曜日)の活動を開始する

平日の子ども達の受け入れを年間通して実施できた。また、奄美佳南園との連携から、夏休み期間中は子ども達の終日受け入れを実施し、就労している保護者の支援 や子ども達の生活リズムの定着など実施による効果を感じることができた。

(イ) 余暇活動の充実を図る

ダンス・買物学習・ファミリーデイの開催・他施設との交流・就労支援事業所との 交流など、年間通して余暇活動の充実に取り組むことができた。

(ウ) 個別支援計画に基づいた療育を行い、評価する

家族との面談や学校等との連携を通して、個別支援計画を作成し、カンファレンス・ 担当者会での支援状況の確認・評価など定期的に実施することができた。

3. 相談支援事業

- (ア) 計画相談、サービス利用計画およびモニタリングを行う為のスキームを具体化する マニュアルの作成・ソフトの導入・支給管理表の作成により見通しを持って計画相 談に取り組むことができ、新たな利用者の獲得・細目のモニタリングの実施にもつ なげることができた。
- (イ) 他事業所との連携、情報共有を行う

家族の希望に合わせて他事業所・学校・保育園・幼稚園との担当者会の開催や保健 師・その他行政担当者等も巻き込んだ、困難事例への取り組みなど実施することが できた。

4. 保育所等訪問事業

(ア) 保育所・幼稚園・学校への周知を行う

年度初めに、すみれ会(奄美市保育連合会)での事業説明や小学校へ訪問しての事業説明など事業周知に取り組むことができた。

(イ) 具体的な支援方法を伝えるための書式等を検討する

書式に関しては、現在も思考錯誤を行っている。訪問先の支援者と支援方法を共有できる書式等の作成を今後も検討していきたい。

5. 人材育成

年間を通して、療育や発達についての勉強会を実施できた。また保護者会・ダウン症親の会などを通して保護者の思いや願いを共有し、その支援にかかわるのぞみ園以外の支援者(地域の保健師・教育委員会・小児科医・児童相談所など)との連携の場に、児童発達管責任者だけではなく様々な職員を派遣して、支援の実際を経験・体験できる機会を増やすことができた。しかし、これまでより多くの新しい職員を迎え入れて事業を展開しているので、職員を段階的に育成していける体制作りを今後進めていく。

【数值実績】

					児童発達支援	放課後等デイ	特定相談支援	障害児相談支援	保育所等訪問							
利	用	者 定 員		員	25	15										
利	用	者	延	ベ	数	6, 377	3, 158	48	489	20						
_	日 平	均	利。	用者	数	27	13	0. 19	2	0.08						
稼	働	率	(%)	107. 63	87. 72									
稼	動日	数	()	延べ)	237	240	2	249	249						
単有	西 (1	人	1	当当り))	11, 478	6, 063	13, 917	15, 088	10, 800						
サー	ービス	活動	収益	(千F	円)	73, 198	19, 147	668	7, 378	216						
職	員数 (常勤換算)		対勤換算)			常勤換算)			数 (常勤換算)			13. 46	4. 15	3	3. 0	1. 0

春日保育園

2015年8月園舎の増改築が完了し、全クラスエアコン完備となり、こどもたちは、夏の後半よりようやく快適な環境で日々を過ごすことができた。工事完成が年度途中で職員確保も難しいことから、2016年4月より定員を90名から120名に変更する予定である。増改築工事により、9月から0歳児の入所希望者を多く受け入れる事ができ、待機児童解消につながった。職員間でキリスト教保育指針による「心」のあり方を学び、日々の保育の実践を通して見えない物の大切さに気付く事で、一人ひとりの個性を大切にし、発達に合わせ見通しをもって関わることができた。また、親子教室の開催を通して、保育者と保護者の間で子どもの育ちをじっくり共有することができ、卒園後の小学校生活に繋ぐことができたと考える。

新制度が施行され、保護者理解に時間を要したが、繰り返し説明をすることで理解を得ることができた。

1. 入所状況

106 名でスタートし年度途中退所、入所があり月平均 112 名の園児数で 9 月より 0 歳児の入所が多かった。

2. 重点目標及び重点施策への振り返り

- (ア) 保育の質の向上
- ①職員研修等でキリスト教保育指針・キリスト教保育ハンドブックを学ぶことで、保育理念 を共有することが出来た。
- (イ) 地域との連携・交流
- ①地域の保育所・小学校との交流や、中学校・高校の職場体験の受け入れ及び看護福祉専門 学校・養成校の実習受け入れを行った。
- ②法人内他施設との交流を行った。(夏まつり・運動会・敬老の日・クリスマス会・もちつき・ ソーメン流し等)
- (ウ) 食育と環境教育
- ①給食ボードで食材の栄養素を知らせることで、体への役割を知り、食べる意識を深めたり、 命をいただく感謝の気持ちを育むことが出来た。
- ②田植えや稲刈りに参加することで、お米のできる過程を理解することができた。また、収穫したお米を使った"おにぎり会"を開催し、お米の1粒が大切だという実感を得ることができた。
- (エ) 統合保育と他機関との連携
- ①のぞみ園の並行通園児は9名おり、支援が必要な園児も多い。親子教室を保健師・のぞみ 園職員と一緒に保育園で開催することにより、親子の支援が十分にでき、職員も学ぶこと が出来た。
- ②のぞみ園との連携を図り、情報交換を行い支援につながることができた。
- (オ) 身体能力推進

運動あそびやリズムあそびを行うことで、よく動く体を目指し取り組めた。

3. その他公益的事業

- (ア) 園庭開放:地域の親子が天気の良い日に利用し親子支援ができた。
- (イ) 実習生の受け入れを積極的に行い保育園の存在を知ってもらった。
- (ウ) 広報誌を配布し、行事の参加を呼びかけ、多くの幼児が足を運んだ。
- (エ) 高齢者との交流で自然体験や昔あそびを行った。
- (オ) 同法人の高齢者との交流機会を多く持った。

【経営実績】

① 歳児別入所保育児童数(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10 月	11月	12 月	1月	2月	3月	計	月平均
0 歳児	4	4	5	7	7	8	9	11	11	11	11	11	99	8. 2
1歳児	13	13	13	14	14	14	15	15	15	15	15	15	171	14. 2
2 歳児	20	21	21	21	21	21	21	23	23	23	23	23	261	21.7
3 歳児	22	22	22	21	21	21	21	21	21	21	22	22	257	21.4
4 歳児	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	252	21
5 歳児	26	26	26	26	26	26	26	26	25	25	25	25	308	25. 6
計	106	107	108	110	110	111	113	117	116	116	117	117	1348	112.3

② 保育日数及び出席状況

	4 月	5月	6月	7月	8月	9月	10 月	11月	12 月	1月	2月	3月
延べ人数(名)	1, 937	1,841	2, 432	2, 326	2,073	2, 182	2, 334	2, 346	2, 318	2, 186	2, 332	2, 340
保育日数(日)	23	23	24	26	26	23	26	23	23	23	24	26
一日平均(名)	84	80	101	89	86	83	89	102	100	95	97	90

② 職員の状況(名)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3 月
施	設 長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育	士(正)	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
調理師	・栄養(正/パ)	1/3	1/3	1/3	1/3	1/3	1/3	1/3	1/3	1/3	1/3	1/3	1/4
事務員	負(パ)委託	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育ノ	パ・/保育補	14/1	14/1	14/1	14/1	14/1	14/1	14/1	14/1	14/1	14/1	14/1	14/1
合	計	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29

沖縄地区在宅複合事業

聖隷訪問看護ステーションゆい・聖隷居宅介護支援センターゆい

2015 年度沖縄地区在宅複合事業では、沖縄県中部地区で事業を行っていくための基盤をつくり、 聖隷の知名度を上げるため、訪問看護に続き 2015 年 1 月に聖隷居宅介護支援センターゆいを開設した。予防を中心とした地域包括支援センターからの新規依頼が多くあり、訪問看護の利用者数も徐々に増加しつつある。関係機関と連携し、一つ一つのケースをていねいに対応することで、訪問看護への依頼へとつながった。また地域のデイサービスや社会福祉協議会事業の業務委託を受けたことで、地域との繋がりを持つことができた。

- 1. 訪問看護事業(訪問看護ステーション)
- (ア) 居宅介護支援事業と連携を図り介護保険新規利用者を増やした。
- (イ) 地域の病院やケアマネジャーと顔の見える連携を図り、情報共有に努めた。
- 2. 居宅介護支援事業 (ケアプランセンター)
- (ア) 地域包括支援センターと連携を図り、新規利用者を増やした。
- (イ) 地域ケア会議に出席し、地域包括支援センターとの連携を強化した。
- (ウ) 依頼があった時にタイムリーに対応することで病院との連携を図ることができた。
- 3. その他公益的事業について
- (ア) 地域のデイサービスの業務委託(訪問看護事業)を受けた。
- (イ) 社会福祉協議会「生きがいと健康づくり推進事業(生きがいデイサービス)」の業務委託を 受けた。

【数值実績】

1. 訪問看護事業(聖隷訪問看護ステーションゆい)

平均利用者数/月	月訪問件数	年訪問件数	単価/月	業務委託/月	サービス活動
					収益
20 名	130 件	1,584 件	8,800 円	72,000 円	14,095 千円

2. 居宅介護支援事業(聖隷居宅介護支援センターゆい)

年間請	求件数	平均単個	西/月	サービス活動収益
介護	予防	介護	予防	リーしろ伯男収金
124 件	241 件	12,000 円	4,300円	2,564 千円

聖隷こども園わかば

2015年4月より施行開始となった子ども・子育で支援新制度に伴い、時代が求める要望にいち早く応える形で当園も幼保連携型認定こども園として、また 150 名定員に移行して新しくスタートした。新制度について情報を収集し、在宅・福祉サービス事業部と連携・相談を行いながら、新制度に対応した運営を行ってきた。平均入所率については定員増したばかりということもあり高くはないが、ニーズの高い 0 歳児の受け入れを積極的に行うことができた。保育ニーズに応えていくと同時に、より質の高い教育・保育を行っていくために具体的な取り組みについて園内でも検討していった。保育学会を通して、職員が保育の質の向上を意識し、職場内研修、外部研修に参加し、保育環境の見直し、学びを活かした実践に取り組めたことは有意義であった。また、本格的に保育士ラダーが運用されたことは、保育士として自身の課題が明確化され、具体的な目標をもって保育実践していく事ができ、保育士のキャリアアップにおいても有効であった。さらに新制度の中でこのラダーが保育士の処遇改善にもつながったことは、職員の仕事に対するモチベーションアップになり、今後の人材育成へとつなげていきたいと考える。

保育に携わる職員の確保が大きな課題という社会情勢の中、2015 年度は定数を上回る保育士を確保してスタートでき、安定した園の運営につながった。

さらに浜松市の待機児童解消の要望に応え、2016年度の施設整備事業が採択され、整備に向けた取り組みが始まった。2017年度にはさらに200人定員となり、よりニーズの高い1・2歳児の受け入れが可能となる。施設の規模が大きくなる中、未来を築く子どもたちの最善の利益を考え、子どもたちに対して丁寧な保育・教育の提供ができるよう保育内容の充実を図りたい。

1. 入所状況

年間平均入所率は96.7%

途中入所は0歳児11名 1歳児1名 2歳児1名 ・転居により2歳児1名途中退園

2. 重点目標及び重点施策への取り組み

(ア) 保育内容

① 環境を通して、教育・保育を行う

継続した取り組みとして環境の見直しに重点を置き、研修や他園見学での気づきをもとに職員が話し合い、子どもが意欲的に遊びを体験できるような環境づくりを目指した。取り組みは保育学会での発表につなげ、さらに他園の発表をもとに自園を振り返り、聖隷の保育・教育について考えあった。聖隷のこども園・保育園の強みを共有し、活かしていきたい。

② 異年齢グループによる保育・少人数グループでの保育の実践 年齢ごとのクラスを生活の基盤にしながら、個別の指導計画をもとにそれぞれの発達に応じた保育を心掛けた。幼児クラスでの異年齢グループ、乳児クラスでの少人数グループでのきめ細やかな保育が展開できた。個別な関わりを必要とする子どもに対しては専門機関との連携を図り対応の仕方を学んだ。

- (イ) 保育士の資質向上・自己研鑚
- ① 保育士ラダーの運用を通して職員の資質向上の取り組みにつながった。
- ② 自己評価をもとに自園の課題を明確にし、改善に向けて話し合いを行った。自己評価の取り組みについては公表も行った。

(ウ) 子育て、親育ての支援

- ① ホームページをリニューアルし、園の情報を出来るだけ分かりやすく保護者・地域に発信した。懇談会・面談等を通して子どもの育ちを共有していった。
- ② 子育て支援ひろばの充実

2015 年度より再編された浜松市「子育て支援ひろば」事業を引き続き委託することとなり 内容の検討も行われた。1週間を通して開催し、常設のひろば・妊婦支援・孫支援・発達に 不安のある子どもへの支援、および地域に出向いた出張ひろば等も行っていった。年間を通 して多くの親子の利用があり、地域の子育て家庭を支援する拠点としての役割を担っている。

(エ)独自の取り組み

- ① 食育…管理栄養士を軸に子ども・保護者に向けた取り組みを年間を通して行った。
- ② 世代間交流…地域性を活かし、近隣施設との交流や、学生の受け入れを積極的に行った。 また小学校へのスムーズな接続のため担当者をたて、小学校との連携に取り組んだ。
- ③ 病児保育事業 (病後児型) …園内で病気の流行が少なかったこともあり、2015 年度の総利用者数は減っているが、必要時に利用したい保護者は多く登録者数は引き続き伸びている。

【数值実績】

① 歳児別入所児童数(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10 月	11 月	12 月	1月	2月	3 月	計	月平均
0 歳児	10	10	10	11	15	17	17	20	20	20	20	21	191	15. 9
1 歳児	23	23	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	286	23.8
2 歳児	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	312	26.0
3 歳児	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	324	27. 0
4 歳児	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	324	27. 0
5 歳児	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	300	25. 0
合計	138	138	139	140	144	146	146	149	149	149	149	150	1, 737	96.7%

② 保育日数及び出席状況(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3 月	計	月平均
延べ人数	2664	2351	2896	2992	2290	2143	3079	2820	2680	2518	2923	2960	32316	2693
保育日数	25	23	26	26	26	23	26	23	24	23	24	26	295	24. 6
1日平均	107	102	112	115	88	93	118	123	112	109	122	114	1315	109. 6
一時預かり	0	0	6	1	3	0	18	18	2	9	6	1	64	5.3
病後児保育	26	7	16	21	18	17	18	13	19	11	11	7	184	15. 3

※一時保育利用者は延べ64名、延長保育利用者延べ3015人、病後児保育室利用者は延べ184名

③ 職員の状況(名)7月より1名産休・育児休暇入(保育士)・8月より育休明け復職1名(調理師)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3 月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士(正)	20	20	19	18	18	18	18	18	18	18	18	18
保育士(パ)	12	11	11	11	11	11	11	12	12	12	12	12
看護師 (正)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
調理師(正・パ)	0.4	0.4	0.4	0.4	0.5	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4
事務員・用務員	1 • 1	1.1	1 • 1	1 • 1	1.1	1 • 1	1 • 1	1.1	1 • 1	1.1	1.1	1.1
管理栄養士	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士助手	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
計 (換算数)	43	42	41	40	40	40	40	41	41	41	41	41

聖隷こども園桜ヶ丘

2015年度は幼保連携型認定こども園へ移行し、定員も130名から160名へ増員した。園児数・職員数ともに増加し園の規模が大きくなった中、職員間で話し合いを重ね、改めて「養護」と「教育」に意識を置きながら保育活動の見直しを図ってきた。子どもを中心に、保護者や地域の方に必要とされ信頼される園になるために園の目標を確認し合い業務に取り組むことができた。

2014年度より検討してきた保育士ラダーについては本稼働させることができ、今後保育士全体のスキルアップを期待するところである。

地域活動においてはシニアクラブの方や小学生との交流を活発に行い、子どもたちにとって幅 広い年齢層の方との関わりを持つことができた。今後も地域とのつながりを大切にしていきたい。 また地域に開放している親子ひろばにも力を入れて 2016 年度へつなげていきたい。

1. 入所状況

4月は155名でスタートし、2015年度は在園児の兄弟で途中入園の枠が埋まってしまう状況であった。途中退園児が3名いたが3月には164名となった。年度途中の退職者があり、保育士確保の難しさから十分な入所受け入れができなかった。障害児は一般6名、食物アレルギー児は7名の認定があった。

1. 事業目標・重点施策への取り組み

- (ア) 質の高いサービスを提供する。
 - ①外部研修で学んだことを報告し合い、個々の学びを園全体の保育に生かすように心がけた。
 - ②園内研修では「わらべうた」「自然」のグループに分かれ、それぞれに研究を深め保育実践 に生かし、行事を通じて親子で楽しんだ。
 - ③園内研修と兼ねて、保護者と共に「自然」に親しめる機会を設けるため講師を招き「親子 自然観察会」を行い、親子で身近な自然と触れ合う機会を作った。
- (イ) 安定した運営の意識を持つ。
 - ①一時預かり事業への問い合わせが多く、可能な範囲での受け入れを行ってきたが、保育士 確保が難しく 2014 年度ほどの実績が挙げられなかった。
 - ②親子ひろばに継続的に来園する家庭が増え、当年度の入園につながった家庭もみられる。
 - ③職員一人ひとりが省エネルギーやエコロジーに意識を持つことは今後も課題である。
- (ウ) 保育資源の活用および育児支援を行う。
 - ①2015 年度名称が変更したことも浸透し、地域の自治会やシニアクラブの方との交流が深まり、行事に参加してくださる方が多かった。子どもたちも名前や顔を覚えて共に過ごすことを喜び、世代間交流の良い機会となっている。
 - ②小学生の就業体験受け入れや、保育士の仕事説明など互いに行き来をしながら小学校との 連携が図れた。年長児の学校体験等の受け入れをしてもらうことができたが、教育につい ての職員の学びという視点では課題が残る。

(エ) 食育への取り組み

隣家でお借りしている畑で季節の野菜を栽培し、子どもが中心となって世話をし、収穫、 クッキングを通して食への興味を深めることができた。

(オ) 保育環境および施設整備

安全確保の面から、西通路フェンスの設置を早々に行った。また、備品の固定を行ったが うさぎ飼育小屋は場所の確定ができていない。生き物の飼育も含めて今後の課題である。

【数値指標】

① 歳児別入所保育児童数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10 月	11月	12月	1月	2月	3 月	合計	月平均
0歳	5	6	6	7	8	11	12	15	15	15	16	17	133	11. 1
1歳	30	30	30	30	29	29	28	28	28	28	28	28	346	28.8
2歳	34	34	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	398	33. 2
3歳	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	396	33. 0
4歳	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	360	30.0
5歳	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	276	23. 0
合計	155	156	155	156	156	159	159	162	162	162	163	164	1, 909	159. 1

② 保育日数及び出席状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延べ人数	2887	2543	3111	2933	2522	2823	3326	3063	2996	2812	3198	3158	35, 372
保育日数	25	23	26	26	26	23	26	24	23	23	24	26	295
一日平均	115	110	119	112	97	122	127	127	130	122	133	121	1, 435
一時預かり	50	33	39	42	17	26	29	27	24	20	23	21	351
延長保育	85	45	54	43	40	44	54	57	62	42	59	65	650

③ 職員の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10 月	11月	12 月	1月	2月	3 月
施 設 長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士(正/ゾ)	6/13	6/13	6/12	6/12	6/12	6/12	6/12	6/12	6/12	6/12	6/12	6/12
保育士(パ)	7	7	7	8	8	8	8	8	8	8	8	9
准看護師(パ)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
調理員(パ)	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
事務員(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
その他	8	8	7	6	6	7	6	6	6	6	6	6
派遣保育士	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	41	41	39	39	39	40	39	39	39	39	39	40

聖隷こども園ひかりの子

2015年度は、「子ども・子育て支援新制度」の施行に伴い、当園も「幼保連携型認定こども園 聖隷こども園ひかりの子」としてスタートした、変革の年であった。浜松市の待機児童解消の一端を担うべく、1号認定の定員設定はなく、2,3号認定の定員設定のみであったため、保育の内容に大きな変化はなかった。しかし、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を基に保育が展開されることが求められるため、運営面でも職員の意識改革や書類の改訂が必要となり、浜松市や聖隷以外のこども園から情報収集を行い、園全体で検討しながら歩んだ1年となった。

また、2016 年度、増改築工事が行われ 2017 年度には、定員が 150 名から 230 名に増員することが決定しており、保育の内容や環境を考える際、増員を見越した話し合いがなされ、すでに準備期間として始動している。特に、園舎 2 階の 1 歳児の保育室を小集団で過ごせる空間へと整える為、職場全体で検討し想いが形になったことは、成果であり喜びとなった。

1. 入所状況と保護者支援

4月新入園児17名、年度途中新入園児16名のうち、育休明け0歳児が13名、1歳児が3名となっており、年間入園率は99.2%であった。

2. 重点目標及び重点施策への取り組み

(ア) 保育内容

① 保育の質の向上

子どもが主体的に遊び込める(集中できる)環境作りをクラスや園全体で実施し、保育 室内のコーナー充実を図った。園庭では、『とっちゃん・じっちゃんの会』(保護者)の 協力を得ながら、チャイルドハウス(砂遊びを楽しめる小屋)を制作した。

② 保護者支援

名古屋短期大学教授の小川雄二氏を招いて、演題『楽しく食べる食育で体と心と生きる力が育つ』の講演会を実施。保護者と職員が同じ学びを得ることで、各々の立場で取り組めることを見出し実践している。

- (イ) 公益事業(地域交流・社会福祉協議会との連携・ボランティア・実習生の受け入れ)
 - 地域交流

長上地区のお年寄り(睦会)・主任児童委員・社協との連携を実施。

睦会(老人会)の招待や園児の公民館訪問など、世代間の交流を図っている。年長者の生きがいとなり、園児はいたわりの心が育まれ、双方にとって良い機会となっている。 主任児童委員とは、定期的に連絡を取り合い、園児や地域の親子の情報交換を行っている。また、必要に応じ園に訪問して現状把握を行ってくれるケースもある。

② ボランティア・実習生の受け入れ 聖隷クリストファー大学より、保育実習及び看護実習の受け入れ実施。

- (ウ) 保育環境の改善、施設整備
 - ① 修繕 園庭の総合遊具、エレベーター、ウッドデッキ、排煙オペレータ 他
 - ② 購入 防災用具 (ベンチ)、1 歳児保育室衝立、棚等、園児食器 他

(エ) 職員研修

- ① 園内研修 学習会 (気になる子供のケース会議・クリスマスクランツ作り・キリスト教保育 他)
- ② 事業団の階層別研修 (新人・2年目・マネージャー)・聖隷保育園こども園初任者研修・ 聖隷保育学会・福祉学会 他
- ③ 外部研修 幼保連携型認定こども園勉強会・保育士会研修・赤十字幼児安全法研修・ 給食研修・衛生推進者研修 他

【数值指標】

① 歳児別入所保育児童数(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10 月	11月	12 月	1月	2月	3月	計	月平均
0 歳児	7	9	11	14	15	16	16	18	19	20	20	20	185	15. 4
1 歳児	24	24	26	27	27	27	27	27	27	27	27	27	317	26. 4
2 歳児	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	324	27
3 歳児	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	336	28
4 歳児	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	300	25
5 歳児	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	324	27
合計	138	140	144	148	149	150	150	152	153	154	154	154	1, 786	148.8

② 保育日数及び延べ出席(利用)状況

	4 月	5月	6月	7月	8月	9月	10 月	11月	12 月	1月	2月	3 月	計	平均
延べ人数	2758	2436	2983	3128	2291	2656	3134	2782	2774	2618	2825	2890	33275	2772.9
保育日数	25	23	26	27	26	23	26	24	24	23	24	25	296	24.6
1日平均	110	105	114	115	88	115	120	115	115	113	117	115	1342	111.8
一時預かり	13	10	21	20	11	11	23	23	20	14	13	10	189	15.8
延長保育	28	28	59	35	36	69	73	83	63	93	116	106	789	65.8
学童保育	119	45	29	127	280	33	43	39	72	43	19	79	928	77.3

③ 職員の状況(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10 月	11月	12 月	1月	2月	3 月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士(正)	141	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14
保育士(パ)	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21
調理師(正・パ)	1 • 3	1 • 3	1 • 3	1 • 3	1 • 3	1 • 4	1 • 4	1 • 4	1 • 4	1 • 4	1 • 4	1 • 4
事務員	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
用務員	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
保育補助	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	44	44	44	44	44	45	45	45	45	45	45	45

聖隷浜松病院ひばり保育園

2015年度は「子ども子育て支援新制度」の施行に伴い、本園は地域型保育事業(事業所内保育)を開始した。従来の浜松病院職員に加え、地域からの受け入れ枠を20名設けたことで、受け入れ枠の幅も広がったが、各所との連携を密に行うことでスムーズな対応を取ることができた。また、入所児童の年齢による偏りについては、徐々に解消されると予想しているが、入所希望児童に対する職員の安定的な確保が困難であった。

新人職員の育成については、体系的な新人教育と同時に現場レベルでの後進指導の在り方が問われる年となった。教育を行うにあたりチーム分けを行ったが、チームにより指導工程や進捗に差が生じる結果となった。また、保育士ラダーは、日常の業務の中で十分に活かせたとは言えないが、保育者が子どもひとり一人と関わる中で、さらに丁寧な関わりを意識するようになったことは、保護者の信頼を得ることにつながったと考える。

最後に6名の児童が年長まで在園し、3月に卒園の運びとなったことは喜びであった。

1. 入所状況

年間平均入所率は 87.2%、途中入所は 0 歳児が 17 名であった。他の年齢は入退園がそれぞれ同程度で推移しており、最終的には 4 月より 13 名増となった。 $4 \cdot 5$ 歳児が少ないため、乳・幼児の割合が高いアンバランスな 1 年であった。

- 2. 重点目標及び重点施策への取り組み
 - (ア) 遊びが自由に展開でき、個々の興味・関心を引き出せる環境づくり
 - ①年齢別カリキュラムに則って作成した個別指導計画を基にして、個々の発達に沿った保育を実施することができた。
 - ②遊びの環境づくりに関しては、既存のものが有効に活用されないクラスもあったが、全体的には職員ひとり一人の遊びの工夫はなされていた。
 - ③専門講師による体操教室や英会話教室での経験は、保育者が受けた指導を日常の保育の中に取り入れることによって有効に活かされていた。
 - (イ) 少人数グループによる保育・異年齢交流の実践
 - ①各年齢共通して、保育者が生活や活動を少人数の単位で行おうとする意識を持ち、実践 していた。異年齢の交流では、保育園児同士はもとより、デイサービスセンターを利用 する高齢者の方々とも自然な形で良い交流ができていた。
 - (ウ) 質の高い保育の提供
 - ①児童個々の発達状況や特別な配慮が必要な児童は、乳幼児部会や職員会等で現状を共有し、専門機関のアドバイスが必要な児童は個別で対応した。
 - 保育士ラダーについては、日常業務と十分に結び付けて活かすまでに至らなかった。

【数值実績】①歳児別入所保育児童数(名)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3 月	計	月平均
0 歳児	5	5	7	6	6	10	12	15	17	18	19	22	142	11.8
1歳児	31	31	30	31	33	33	33	31	31	29	28	29	370	30.8
2 歳児	23	24	24	22	23	23	25	24	24	23	23	23	281	23.4
3 歳児	21	21	20	20	20	20	20	20	20	19	19	19	239	19.9
4 歳児	13	13	13	13	12	12	12	12	13	13	13	13	152	12.6
5 歳児	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	72	6
計	99	100	100	97	100	104	108	109	111	108	108	112	1, 256	87. 2%

② 保育日数および延べ出席(利用)状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
延人数	1789	1580	1926	2018	1673	1773	2119	1845	1896	1820	2011	2052	22502	1875. 2
保育日数	25	24	26	26	26	23	26	23	22	23	24	26	294	24. 5
1日平均	72	66	74	78	64	77	81	80	86	79	84	79	920	76. 6

③ 職員の状況(名)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10 月	1月	12月	1月	2月	3月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士(正)	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14
保育士(パ)	3	4	4	4	4	4	4	4	5	5	5	6
看護師(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育補助	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	5	5
事務員/用務員	0/1	0/1	0/1	0/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1
保育士(派遣)	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1
計	24	25	25	25	26	26	26	27	28	28	29	30

聖隷めぐみ保育園

子ども子育で支援新制度施行に伴い、地域型保育のひとつである事業所内保育事業所として開設初年度の保育運営を進めてきた。新制度で新たに設定された地域枠は地域のニーズと相まって早々に定員に達した。従業員枠の利用は安定的とはいえなかったが、保育の様子を視覚的に伝えたり交流を図るなどして各事業所により広く保育園の存在や保育内容を知っていただくよう努め、各部署と調整を図りながら年度後半は入園が増えていった。

地域の方、従業員の方とも見学に来られる方が増え、少しずつではあるが認知度の高まりを感じている。見学では少人数での保育環境、立地など園の良さを見ていただいているため今後の利用者増に期待したい。

保育に対する思いや技術は職員それぞれが持っており、事業や施設としての役割も理解しようと取り組んできた。一方で、聖隷の保育理念やそれに伴う保育スキルの向上といった学びが今一つ弱かったと感じる。この一年で職員が乳児の少人数保育の良さを実感できたので、次年度はその良さを最大限に活用できるよう学びを深め、環境を整えていくとともに外部に発信していきたい。

1. 入所状況

年間入所率は60%、地域枠は5月に定員の5名に達した。途中入所は0歳児6名、1歳児5名。育児休暇明けの0歳児の入所希望が多かったので、職員数や保育室面積の条件をみながら定員を超えて受け入れを行った。2歳児の途中入所はなかった。

- 2. 重点目標・重点施策への取り組み
- (ア) 利用者に質の高い保育サービスを提供する。
 - ①施設理念であるキリスト教保育を学びつつ、園児一人一人の想いをくみながら、園児・保護者ともに個を尊重する保育実践や対応を心がけた。
 - ②聖隷の保育園で行う合同研修会、保育研究報告会、保育学会等や和合愛光園で行われる講習会にはできるだけ多くの職員が参加できるようにし、数少ない外部の研修にもできる限り参加した。
 - ③年度後半になると人員の余裕もなくなってきたが、保育室を使い分けたり年齢や月齢発達 段階などで分かれ、更に少人数で過ごすことで個々が落ち着いた環境で過ごせるように配 慮した。
 - ④メンタルチェックや腰痛予防講習を受けたり、声の掛け合い、休みの取り方の工夫をする などして心身の健康維持に努め、保育の質の低下を防いだ。
- (イ) 事業の成長、発展のための見通しをたてる。
 - ①保護者の働き方や家庭状況などを理解し、勤務に合った保育の受け入れを行なったり、どのような保育ニーズがあるのかを探るよう努めた。
 - ②聖隷の保育園・こども園見学や実習に行き体験したことを園で共有することはできたが、 環境整備にあたってはなかなか進められなかった。
 - ③保育中の様子を写真に撮り保育室内に掲示したり、事業所に送付して保育活動や園児の 様子を見て安心していただけるようにするとともに、今後の利用につながるよう努めた。

【数値実績】

① 歳児別入所保育児童数(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12 月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	1	1	1	3	3	4	4	5	5	5	6	7	45	3.8
1歳児	3	5	5	5	5	5	5	5	5	8	8	8	67	5. 6
2 歳児	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24	2.0
計	6	8	8	10	10	11	11	12	12	15	16	17	136	11. 3

② 保育日数および延べ出席(利用)状況

	4 月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延べ人数(名)	112	131	166	202	174	173	234	197	220	259	268	322	2458
保育日数(日)	25	24	26	26	26	23	26	23	22	23	24	26	294
一日平均(名)	4. 5	5. 5	6. 4	7.8	6.8	7. 5	9.0	8.6	10.0	11.3	11.2	12. 4	8. 4

③職員の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士(正)	4	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
保育士(パ)	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
合計	8	8	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7

こうのとり保育園

2015 年度は「子ども・子育て支援新制度」が施行され、待機児童の解消と保育等の質の改善が求められてきた。現在、幼児教育に関する国際調査が検討され、例えば、幼児期に育成すべき資質・能力(特に非認知的能力)がどのように培われるのかといった研究課題があげられ、すすめられている。5 歳児教育の無償化など幼児教育の重要性は増している。数値では表すことが難しいものの根拠等がこれからの大きなテーマとなっている。

質の高い幼児教育は幼児期だけにスポットがあたるものではなく、乳児期からの育ちを丁寧に 積み上げていくことが重要であるという考え方に基づいて取り組んできた。

2015 年度の保護者会総会では、乳幼児期の運動あそびに着目して、静岡産業大学の専門の講師の方に講演依頼をし、子どもの健やかな成長発達を促すための日常的な運動あそびの取り入れ方について学びの時を持つことができた。これからも保育園と家庭が互いに手を携えて、より豊かな子どもの育ちへとつなげていきたい。

1. 入所状況と保護者支援

4月新入園児 20名、年度途中新入園児 13名のうち、育休明け 0歳児が 13名で、年間入園率は 120.9%であった。

2. 重点目標及び重点施策への取り組み

(ア) 保育の質の向上

① 統合保育の実践

2015 年度は、新たに3名の障がいのある児童の受け入れを行い、合わせて8名の障がいのある児童の在籍となった。うち1名は要支援児童である。市の関係機関(子育て支援課・幼稚園保育園課・発達支援センター「はあと」「かるみあ」)と密に連携をとりながら、慎重に受け入れを行った。この他に、浜松市発達医療総合福祉センター・おおぞら療育センター、そして磐田病院や摂食外来との連携、さらに児童発達支援センター「まめの木」との連携により、個別のきめの細かな対応を行った。それにより、子どもの成長発達をよりよく促していくことができた。また、障がい一時保育においてもクラスの枠組みを外し、保育園全体で子ども同士の交流を図ることにより、個々に応じた保育環境を整えることができ、在園児と相互に関係し合うことで、それぞれの子どもの育ちへの影響は大きなものがあった。

一時預かりの利用延べ人数は、障がいの一時保育利用者数と合わせて 833 名で 2014 年度 と比較すると 3 割減であった。これは、市の関係機関の年度の区切り方の違いが影響している。市との協議や保健師へのアピール等も積極的に行い、2016 年度へつなげていく。

② 歳児別・異年齢クラスの中でも、小人数に分けて保育する。

新人職員にも理解できるように、少人数に分けて保育を行う意義や目的を伝え、実践の中での質問や疑問に丁寧に応え、指導保育士と主任が共に月1回のカンファレンスも行った。

③ 質の高い保育(者) <保育園の職員として、誇りを持って働ける職場づくり> 聖隷保育園合同の保育学会では、保育園全体でひとつのテーマを持ち、職員一人一人が 統合保育の保育実践エピソードを持ち寄り、共に語り合い、専門書に学び、職員一人一人 のステップアップにつなげることができた。

- (イ)公益事業…ボランティア、実習生の受け入れ・お年寄りとの交流
- ① サマーショートボランティアの受け入れ(市内中高生)、学校探検(市内小学・高等学校)、 泉町老人会の寿会との交流等を通して、多世代の方たちが子育てに関わり、子育てに興味 や関心を持てるように継続して取り組んできた。学生から新鮮な感動の声が聞かれた。
- ② 大学からの保育実習の受け入れと非行少年ボランティアの受け入れ(家庭裁判所浜松支部)

(ウ) 保育環境の改善、施設整備

- ① 修繕…園庭の総合遊具他、給食室の冷凍庫他、2階のテラスの危険個所
- ② 購入…防災用品(簡易テント他)、カーテン、サッカーゴール等

(エ) 職員研修

- ① 園内研修(学習会・園内学会)、保育学会、福祉学会、聖隷合同研修(キリスト教保育研修)
- ② 聖隷保育園浜松磐田地区初任者研修、保育士キャリアラダーの活用(自己評価と上司面接)
- ③ 外部研修…保育の質向上の専門研修、障がい児保育専門研修、給食研修、その他(視察)

【数值実績】

① 歳児別入所保育児童数(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10 月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0 歳児	5	6	8	12	14	15	15	15	17	17	18	18	160	13. 3
1歳児	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	26	323	26. 9
2 歳児	28	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	325	27. 0
3 歳児	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	300	25. 0
4 歳児	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	24	24	298	24.8
5 歳児	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	336	28. 0
計	138	138	140	144	146	147	147	147	149	149	149	148	1742	145. 1

② 保育日数及び延べ出席(利用) 状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10 月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
延べ人数 (名)	2657	2375	2883	3072	2504	2708	3473	2724	2731	2728	2854	2874	33583	2798. 5
保育日数(日)	25	23	26	26	26	23	26	23	23	23	24	26	294	24. 5
一日平均(名)	106. 2	103. 2	110.8	118. 1	96. 3	117. 7	133.5	118.4	118. 7	118.6	118.9	110.5	1370.9	114. 2
一時預り(名)	45	32	49	61	41	62	97	94	70	79	108	95	833	69. 4
延長保育(名)	128	92	140	136	98	110	140	130	139	125	166	158	1562	130. 1
学童保育(名)	96	42	49	128	253	43	52	51	71	67	58	86	996	83.0
休日保育(名)	8	14	4	0	5	19	14	21	14	8	10	17	134	11. 1
病後児 (名)	2	5	2	2	0	1	7	9	4	0	1	3	36	3.0
支援センター (名)	431	346	339	587	424	406	460	301	364	319	325	484	4786	398.8

③ 職員の状況(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10 月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士(正・パ)	16.20	16.20	14.20	14.20	14.20	14.21	14.21	12•22	12•23	13•21	13•22	13.23
看護師(正)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
調理師(正・パ)	2 • 1	2 • 1	2 • 1	2 • 2	2 • 2	2 • 2	2 • 2	2 • 2	2 • 2	2 • 2	2 • 2	2 • 2
事務員(正・パ)	0 • 2	0 • 2	0 • 2	0 • 2	0 • 2	0 • 2	0 • 2	0 • 2	0 • 2	0 • 2	0 • 2	0 • 2
補助他・アルバイト	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	7	5
計	49	49	47	48	48	49	49	48	49	48	50	49

*育児休暇中職員3名

磐田市子育て支援総合センター「のびのび」

1. 子育て支援

2015 年度から新たに市の委託業務を任され子育て支援総合センターとしてのありかたを、改めて見つめ直す機会となった。その中でも年々深刻化している、子育て中の母親が孤立せずに地域で安心して子育てできるための総合的な支援のありかたについて考え、対応した。子育ての悩みが多様化している中で、子どもの発達が心配で母親の子育てが深刻化し心の病に発展し専門家に繋げながら継続支援しているケースも多々あった。

悩みに耳を傾けながら、適切な支援方法を見出すことなど、相談業務の大切さと重大さを痛感した一年だった。又緊急時の体制、対応、そして防災体制の構築など 2016 年度への課題も多いと感じている。

【利用人数】

大人	子ども	合計	月平均
10,337名	10,406名	20,743名	1,729 名

(ア) 育児相談

2014 年度に比べ倍近く相談件数が増えたが、月1回の職員会議で利用者の気持ちに寄り添う事の意義の学びを重ねたことで、母親達への的確な支援を行うことができた。相談の内容は、例年と変わらず食事、健康、躾に関する事が大半だったが、発達に関しての悩みや母親の育児不安が影響しているのか、精神疾患を抱えて専門機関と連携を持ちながらケース会議に繋げる内容も複数あった。

【相談数】

電話	面接	メール	出前	合計
641 件	4,946 件	123 件	269 件	5,979 件

(イ) 一時預かり保育

2015 年度の倍近い利用があった要因は、保育園で待機児が多い事や気軽に利用できる便利さがあるためと考えられる。又一時預かりで楽しそうに過ごしている光景を見て影響を受け預けるケースも多かったが、母親のストレス解消のための利用の伸びは小さかった。

(ウ) 集団療育「ピポパ」

例年に比べ参加者が増え 2015 年度は延べ人数 107 名の子が集団療育に参加した。今までに比べ自閉傾向が強く又多動の子が数人いたので集団療育としての機能を保つことにかなり苦慮した一年だった。休館日に実施していることで、気になる子どもを抱え子育てに不安や悩みを抱えながら子育てをしている母親達の苦労を軽減できる場としては、重要な役目を果たしていると実感できた。今後も「はあと」等と連携を持ちながら支援ができればと考えている。

(エ) 季節の行事・講座等

毎月実施している育児講座「赤ちゃんと一緒」は、母親達の子育ての資質向上を狙いとして 専門講師を招いて実施しているが参加希望者が多くキャンセル待ちも多い状況が続いている。 又ここ数年実施している無料託児のリフレッシュ講座も好評で、託児ボランテイアの存在の大きさを感じている。子育てに悩みを抱える母親達が、心理士等から子育ての上手なポイント等を子どもと離れて受ける講座は魅力なようである。

その他季節の行事は、今の家庭で実施しない事を考慮してなるべく多くの親子に参加してもらえるよう工夫をしながら進めてきた。その他地域の資源を活用して人形劇や影絵、絵本の読み聞かせ、音楽コンサート等を定期的に実施した。地域の中には、いろいろな才能をもった高齢者がいるので、利用者のニーズを探りながら企画していきたい。

2.ファミリー・サポート・センター

(ア) 2015年4月1日~2016年3月31日

	会員数	年間会員数
依頼会員	648 人	54 人
援助会員	197 人	6 人
両方会員	88 人	9 人
合 計	933 人	69 人
年間援助回数	3, 541 回	

(イ)援助活動内容

幼稚園・保育園の送迎 650 回、放課後児童クラブ迎え 537 回、子どもの習い事等の援助 501 回、 保護者の短時間就労の場合の援助 406 回、その他 777 回、の順に援助活動が多かった。

又その他の中で、精神疾患を抱えた母親がいる家庭の援助依頼が例年に比べ多かったので、地域の専門機関等と連携を持ちながら援助者選びにも細かな配慮をしながらコーディネートを進めてきた。又双方の顔合わせや援助継続中にも問題が生じ、職員が出向くケースが多かった。

(ウ) 会員への活動

援助会員の為の養成講座 6 月・10 月の 2 回開催。新規登録の会員数は、援助会員・両方会員合わせて 13 人。会員交流会は、例年出席者が少ないのでイベントと兼ねて実施してみたが、参加者が少ない現状がある。一時預かり保育を、ファミリーサポートの提供会員に依頼している事から、一部の会員とは交流が密にある反面何年も交流がない会員もいる。2015 年度は、情報誌を通して会員名簿を整理して会員の近況等の調査をした。2016 年度は、他市の活動の様子を調査しながらファミリーサポート事業に関心を示してもらえるようなイベント企画を実施していきたい。

3. 出前子育て支援センター(であいのひろば)

地域の交流センター等に年間 45 回出向き、地域で活躍している子育てサークル、高齢者サロン、主任児童委員、民生委員等と連携を深め信頼関係が築けた背景の中に、地域のニーズにできる限り応える方向で進めてきた事が大きかったと感じている。特に市から強い要請があった青空の下でのであいのひろば「ゆめりあ」は、多くの地域ボランテイアの方の協力の元で 100 組以上の親子を集め 5 月 11 月の年 2 回実施したが、大盛況だった事もあり、「であいのひろば」のメインイベントになっている。

こうのとり東保育園

放課後児童クラブ"オリーブ"

2015 年度より定員が 90 名から 200 名に変更となった。0 歳児の希望が多く、保育士も確保が出来た事から、年間を通して多くの受け入れが可能であった。一方で、1,2年目の新人職員が正規職保育士の6割を占めた事から、人材育成が課題であった。まず、危機管理として子どもが安全、安心に生活できる環境を学ぶ、保育内容として子どもが様々な人と関わりながら、興味関心を持って主体的にあそぶことが出来る環境を考える、等園内研修の充実を図り、取り組んできた。その一つとして、日常の保育の具体的な場面を事例としてPDCAサイクルを基に勉強会を行い保育力の向上を図った。放課後児童クラブ"オリーブ"は民間放課後児童健全育成事業補助金を戴いて40名定員でスタートした。2015年度は通常利用児童14名であった。一人ひとりと十分関わりながら、保育園内の児童クラブとしての土台作りの1年間であった。

1、入所状况

3年計画で 200 名を目標とし、磐田市からの依頼もあり、乳児クラスの受け入れを多くしてきた。3月には0歳児から2歳児まで、約30名ずつの園児が在籍し、目標人数に達した。

2、年度事業目標·年度重点施策

(ア) 2015 年度事業の振り返り

- ①保育力の向上・・保育理念を基盤に「ひとりひとりを大切にする保育」を具体的に実践した。新人職員がイメージできるよう写真、ビデオ等を教材にしたり、保育の計画から実際の保育を見合い、振り返る事でそれぞれの経験者がスキルアップできる取り組みを行った。
- ②保護者支援の実践・・保育理念を基盤に、ドキュメンテーション、お便り、懇談会、講演会、座談会等を活用し、行事や日常の保育のねらい、目的を明確に伝えてきた。子どもの活き活きとした表情を見る事により、保護者があそびからの学びの大切さを理解してくれていることが行事ごとのアンケート結果で実感できた。

③統合保育・他機関との連携

磐田市児童発達支援センター(心愛・豆の木)への並行通園での繋がりを機会とし、お互いに見学をしあう事で、一人ひとりの保育の仕方を学んだ。

虐待のケースが 5 名 (3 件) あった。磐田病院ケース会議、児童相談所・磐田市子ども部 支援課との定例会等で見守りを行ってきた。

④多文化共生推進

グローバル子育てを行った。 "子育て"のテーマが定着してきたのか、意見交換が活動に 行われ、充実してきた。

"ポルトガル語教室"をほぼ毎日行った。母国語で安心した時間を持つことができ、日本の子どもも真剣に学び、良い交流の場だった。

⑤食育の推進と環境

地域の方の力を戴いて、畑づくりの充実が達成できた。土づくりの大切さを実践しながら 教えて頂き、見事に沢山の収穫に結びついた。お米、みそ作りも苗、種から体験し、おい しくいただくことで神様、周りの人々に感謝の気持ちに繋がった。

⑥放課後児童クラブ"オリーブ"

公用車 2 台をフルに活用し、小学校 3 校の送迎をはじめ、外国人児童の学習支援に力を入れてきた。夏休みは利用児童が多く、園児との交流を深めながら大きな異年齢の中で、充実した日々を送っていた。児童、保護者が安心して過ごせる場の必要性を感じた。

(イ) 公益的事業について

①外国人園児受け入れ保育、地域交流センター出前保育、老人クラブとの交流、実習生受け入れ、災害における地域支援(避難所)等。高齢者のみの家庭が多い地域と殆どが核家族の園児が交流する事の効果は大きい。行事への協力、交通整理等の奉仕をしてくださり、園からも園児と共に地域の催事参加を行う事で、信頼関係を築いている。今後は放課後児童クラブも含め、高齢者から学ぶ活動をお願いしながら、交流を深めていきたい。

【数值実績】

① 歳児別入所保育児童数(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10 月	11 月	12 月	1月	2月	3 月	計	月平 均
0 歳児	15	16	17	18	19	20	21	24	23	26	26	26	251	20.9
1 歳児	27	27	27	30	30	30	31	31	31	30	30	30	354	29.5
2 歳児	29	30	30	28	28	29	30	29	30	30	31	31	355	29.5
3 歳児	29	29	29	30	30	30	30	30	30	30	29	29	355	29.5
4 歳児	20	20	20	20	20	20	20	19	19	19	19	19	235	19.5
5 歳児	27	27	27	27	27	27	27	27	27	26	26	26	321	26. 7
計	147	149	150	153	154	156	159	160	160	161	161	161	1871	155. 9

② 保育日数及び延べ出席(利用) 状況(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10 月	11 月	12 月	1月	2月	3 月	計	月平 均
延べ人数	2644	2480	3075	3190	2326	2749	3284	2956	2751	2620	3075	2834	33984	2832
保育日数	25	23	26	26	26	23	26	23	23	23	24	26	294	24. 5
一日平均	105. 7	107.8	118. 2	122.6	89. 4	119.5	126. 3	128. 5	119.6	113. 9	128. 1	109.0	1388.6	115. 7
一時保育	14	26	46	24	15	30	30	38	46	53	58	45	425	35. 4
延長保育	99	67	82	95	51	73	97	76	88	94	88	92	1002	83. 5
学童保育	221	187	225	271	302	218	242	217	208	189	186	212	2678	223. 1
病後児	6	3	8	8	9	2	3	4	24	1	4	4	76	6. 3
外国人保育	34	34	34	34	34	34	34	34	33	33	32	32	402	33. 5

③ 職員の状況(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10 月	11月	12 月	1月	2月	3 月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士(正・パ)	16 · 18	16 · 17	17 · 18	17 · 18	17 · 18	17 · 18	18 • 18	18 · 18	19 · 18	19 · 18	19 • 18	19 · 19
看護師(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
調理師(正・パ)	0 • 3	0 • 3	0 • 3	0 • 3	0 • 3	0 • 2	0 • 2	0 • 2	0 • 3	0 • 3	0 • 3	0 • 3
事務員(正~パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
補助他・アルバイト	6 • 0	6 · 1	6 • 1	6 · 1	6 · 1	6 · 1	4 • 1	5 · 1	5 · 1	5 · 1	5 · 1	5 · 1
計	46	46	48	48	48	47	46	47	49	49	49	50

こうのとり豊田保育園

開園 5 年目となり入所児童数も安定的に伸び、地域のふれあいクラブ(老人クラブ)との交流をはじめ、地区納涼大会への参加、地元小学校との交流等さまざまな活動を通し地域に受け入れられ必要とされる保育園となった。しかし依然として待機児童数が多く、ホールの一部を保育室へ用途変更し乳幼児をできる限り受け入れた。

保育の専門性や保育と教育の質の向上については、経験年数の浅い職員が多いため園内研修で、 具体的な子どもの成長発達を踏まえた遊びを中心に、職員間で学び合うことができた。また、保 育士ラダーの本格稼働により目標参画システムと合わせて、職員一人ひとりの目指すべき姿が具 体化され各人が目標を持って業務にあたることでスキルアップを図ることができた。

1. 入所状況

4月新入園児 17名を迎えて 139名でスタートした。年度途中入園児は 17名の内 0歳児 13名、 1歳児 4名であった。定員 120名に対して 123.4%の入所率であった。

2. 年度事業目標・年度重点施策

(ア) 2015 年度事業の振り返り

- ①地域の子育て家庭に対し月2回の園庭解放を行い、園の様子や雰囲気を伝え入園に繋げる 事ができた。また、管理栄養士が離乳食や幼児食の講座を行い、保育園で提供する離乳食 を試食体験した。わらべうたによるベビーマッサージを行い、親子のゆったりとしたふれ あいを体験してもらう等子育て力の向上に繋がるような働きかけを行った。
- ②待機児童の解消の為、ホールの一部を保育室へ用途変更し保育室の面積拡張を行った。
- ③遊びの中から意識的に教育的な要素を拾い上げ、保育活動の中に取り入れることでより幅のある保育が展開できるよう園内研修や勉強会等職員の学び合いの場をもち、保育の質の向上に努めた。(ことば集め、色あそび、数あそびなど)
- ④保護者に対しては、保育活動を通して行うあそびを中心とした教育的な学びや親子のコミュニケーションの大切さを毎月のたよりや懇談会等で折に触れて伝えた。また、家庭でのメディアによる子育てが危惧される中、今まで行ってきた絵本の貸出しと同様に、親子の触れ合いを目的として玩具の貸出しを開始した。
- ④地域のふれあいクラブの協力を得て田植えから稲刈り体験や JA 婦人部の協力の下、大豆からのみそ作り・干しイモ作りと栽培から食品の加工までの過程を食育活動として展開することができた。
- ⑤保育士ラダーに基づいて、それぞれの職員のあるべき姿を明確化し自己評価することで個 人差はあるが具体的な目標を持って業務にあたることができた。

(イ) 公益的事業

①地域のふれあいクラブの方たちが年間を通して保育園ホールを会場として、月に1度布草 履作りを行い、在園家庭の祖母や母親の参加も見られた。また、バザーにも出店し在園児 の保護者とも交流をもつことができた。

- ②市内の中高生のサマーショートボランティアを受け入れることで、中高生自身が家族や周 りの人に感謝の気持ちをもつきっかけとなった。
- ③実習生の受け入れ (保育士、管理栄養士、歯科衛生士、言語聴覚士養成校より)

(ウ) その他

園庭の築山の整備を行い、斜面に芝桜を植栽したことで外観的にも魅力的な園庭となった。

3. 数值実績

(ア) 歳児別入所保育児童数(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10 月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0 歳児	5	8	8	9	10	12	14	15	16	18	18	18	151	12.6
1 歳児	24	24	25	25	26	26	26	26	27	27	27	28	311	25. 9
2 歳児	30	30	30	30	30	30	29	29	30	29	29	29	355	29.6
3 歳児	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	348	29.0
4 歳児	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	324	27.0
5 歳児	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	288	24. 0
計	139	142	143	144	146	148	149	150	153	154	154	155	1777	148. 1

(イ)保育日数及び延べ出席(利用)状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
延べ人数(名)	2, 843	2, 451	3, 163	3,002	2, 391	2,836	3, 096	2,774	2, 872	2, 705	2, 954	2,860	33, 947	2, 828. 9
保育日数(日)	25	23	26	26	26	23	26	23	23	23	24	26	294	24. 5
一日平均(名)	113. 7	106. 6	121.7	115. 5	92. 0	123. 3	119. 1	120.6	124. 9	117. 6	123. 1	110. 0	1388. 1	115. 5
一時預り(名)	8	8	22	48	24	25	14	37	6	19	15	56	282	23. 5
延長保育(名)	234	183	244	205	171	189	231	224	232	229	231	221	2, 594	216. 2

(ウ)職員の状況(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10 月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長(正)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士(正) 保育士(パ)	14 17	13 19	13 18	12 18	12 18	12 18	12 18	13 18	13 18	13 18	13 18	13 18
管理栄養士(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
調理師(パ)	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
事務員(パ)	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1
用務員(パ)	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3
計	40	41	40	39	39	39	39	41	40	40	40	41

逆瀬川あゆみ保育園

2015 年度も引き続き、「ひとり一人を大切にする保育」を行うために、職員と共に考え取り組んだ。外部研修や園内研修の受講、講師を招いて助言をいただくなどして土台を固めた。目標参画の実施により職員一人ひとりが理念に添って同じ方向を目指し、個々が目標をしっかり意識して保育に取り組めたことを実感した一年であった。

1. 入所状況

4月、新入園(0歳児5名 1歳児2名 2歳児1名 3歳児1名)計9名を加え47名でスタートした。

2. 重点目標及び重点施策への取り組み

(ア) 保育内容

①統合保育

市の臨床心理士による巡回指導を受ける障害としての診断はついていないものの集団で過ご す中で配慮が特に必要と感じる子どもの相談をし、より個々に対して添った保育が出来るよう、 指導を受けた。

②世代間交流(公益事業として)

中学生体験活動「トライやる」で市内の中学2年生3校より13名、高校生3名、保育実習生延べ3名の受け入れをした。園の行事である花の日や感謝祭などで地域の方々、またデイサービスのご利用者の方々にもお花や果物を届けるなどし、様々な人と接する機会を設けた。野上あゆみ保育園との園庭交流や歳児別交流も積極的に行った。

③食育

毎月3歳児を対象に、プログラムを作成し季節の野菜や果物などの食材を取り上げ、形や色、香り、感触などの体験活動を行った。毎月の旬の野菜や果物、それを使った給食メニューなどを職員間で周知し各年齢に応じた食育に繋げた。園庭に植えた野菜を収穫しクッキングをして楽しんたり、持ち帰ってもらい親子で味わってもらった。給食だよりを1か月ごとに保護者向けに発行し情報の発信を行った。

(イ) 地域の保育ニーズに対応

①延長保育

11 時間をこえ1時間の延長保育(18時~19時)を行い、月平均6名の利用があった。

②一時保育

2015年度は妊娠・出産のための利用、利用中の保護者の紹介、利用後の就労等、様々な利用 状況があった。非定型利用の低月齢化が進んでおり、女性の就労と保育所へのニーズを感じる。 2歳児のほとんどが2016年度幼稚園に決まり退園するが、0・1歳児は引き続き利用希望も多い。 ③地域に向けて

子育て支援プログラムの内容や園での食育、行事など誰でも気軽に見ることのできる保育を 配慮し、園のブログを通して常時発信し地域の方々に知っていただく努力をした。

④子育て支援(公益事業として)

毎週月曜日午前に園庭開放、月1回室内開放を行い、保護者同士がつながることを意識した。 保育士全員が、年間1~2回はプログラムを担当し在宅の保護者と触れ合う機会を持ち、地域 の保護者と触れ合う中で情報の発信や収集をした。給食体験は非常に人気が高かった。

(ウ) 保育室環境の改善、施設整備

講師に助言をいただいたり、本を参考にしたりなどして子どもたちが落ちつける、遊びこめる環境をめざした。そして定期的に環境を見直し発達にあったおもちゃや遊びを職員間で考えて随時購入した。職員が専門性を生かし一人1冊ずつ絵本を推薦し保護者向けのプレゼン冊子を用意し配布した。すべての推薦絵本を購入し園の蔵書を充実させた。

(エ) 職員研修

年1回(11月)あゆみ合同研修 10回以上の園内研修行い楽しんで参加できるようにした。 また、第2回宝塚保育学会を開催し日頃の気づきを研究して発表し、わかちあった。

【数值実績】

① 歳児別入所保育児童数(名)

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	計	月平均
0 歳児	5	6	8	9	12	12	12	12	12	12	12	12	124	10. 33
1歳児	14	14	14	14	13	14	14	14	14	14	14	14	167	13. 92
2 歳児	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	168	14. 00
3 歳児	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	168	14. 00
4歳児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
合計	47	48	50	51	53	54	54	54	54	54	54	54	627	52. 25

② 保育日数及び出席状況 延べ人数(名)保育日数(日)一日平均(名)一時保育(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10 月	11月	12 月	1月	2月	3 月	計	月平均
延べ人数	929	813	1002	1024	848	913	1023	960	891	915	1063	1027	11408	950. 6
保育日数	25	23	26	26	26	23	26	23	23	23	24	26	294	24. 5
1日平均	37. 2	35.3	38. 5	39. 4	32.6	39. 7	39. 3	41. 7	38. 7	39.8	44. 3	39.5	466. 0	38.8
一時保育	118	108	124	126	98	112	123	121	101	121	132	130	1414	117.8

③ 職員の状況(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10 月	11月	12 月	1月	2月	3月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士(正)	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
看護師(正)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
管理栄養士	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員(正)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
パート	14	14	14	14	16	15	14	13	13	13	13	13
計	30	30	30	30	32	31	30	29	29	29	29	29

給食業務は、㈱LEOCに委託(管理栄養士1名、パート内【調理師3名】)

御殿山あゆみ保育園

0~5歳児クラスはでの子どもの成長は、途切れることなく繋がっている。 よってクラス単位だけで保育を考えるのではなく発達の連続性を考慮し、子どもの成長する姿に見通しをもって卒園までの育ちを丁寧に見ていきたい。 この一年は、乳児期に特定の大人に関わることで大切に育てられた子どもが、幼児期になり「主体的に生活できる子ども」に成長できるよう、幼児の生活の流れを見直した一年であった。これからも階段を一段ずつ上がるように、一年ごとの積み重ねを大切にし、いつの日か社会に出た時に自己実現できる夢のある、しなやかで強い心を育てていく。

1. 入所状况

4月に22名の新入園児を迎え、計133名(緊急枠含む)でスタート。0歳児クラスは5月で定員の15名となり安定した状態で新年度を迎えることができた。

2. 重点目標及び重点施策への取り組み

(ア) 保育内容

①統合保育

障がい児は、4歳児クラスに1名、3歳児クラスに1名が在籍、年2回専門医による巡回 指導を受け、専門機関との連携も取っていった。気になる子については、発達心理相談 員による年3回の巡回指導により相談、助言を受け、講義にも参加。全職員で周知した。

②特定の大人とのかかわり

一人一人を丁寧に見ていき、子どもが安心感を持って過ごせるよう「室内環境」「日課」 「保育士の動き」等、個々の成長発達に応じた関わりを考えた。

③食育

管理栄養士による食育活動や、自分たちで収穫した野菜のクッキング等を通して食べ物への関心が高まった。

(イ)地域のニーズに対応

①延長保育

朝 7:00~7:30、夕方 18:15~19:00 までの延長保育をおこなっている。延長保育の申請 は多い月で 18 名であった。

②一時保育

非定型·緊急・私的等で受入れ、0~2 歳児の子どもが中心であった。また夏休み、冬休み、春休み期間中の幼稚園児の利用もあった。

③子育て支援

子ども連れの親が授乳やおむつ交換のために、気軽に立ち寄ることのできる「赤ちゃんの駅」を実施。土曜日には園庭開放を行った。また、「観劇」、「おもちゃライブラリー」、「離乳食の試食会」年6回「看護師によるミニミニ講座」11回を実施した。

(ウ) 保育環境の改善、施設整備

園庭改修計画について検討した。2016年度も引き続き検討していく。

(エ) 職員研修

外部研修、グループに分かれての園内研修会に加え、宝塚地区の3ヶ園で保育の資質向上、3ヶ園の交流を目的に「あゆみ合同研修会」や「第2回宝塚保育学会」を開催。良き学びの場となった。また、浜松地区の保育学会でも「主体的な子ども育む」という題で発表する機会が与えられ、自分たちが目指す方向が整理され具体的になった。

3. 公益的事業

近隣のデイサービスセンターや特養との月1回の交流会を行った。「トライやるウィーク」(中学生仕事体験活動)では御殿山中学校の生徒10名を受け入れ、短大保育科の保育実習では2名を受け入れた。また、中学生(卒園児)吹奏楽部が来園し、園児たちに普段見ることのない楽器に触れる機会を設けた。

【数值実績】

歳児別入所保育児童数(単位:名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0 歳児	14	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	179	14.9
1 歳児	23	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	287	23.9
2 歳児	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	23	23	286	23.8
3 歳児	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	300	25.0
4 歳児	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	288	24.0
5 歳児	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	276	23.0
合計	133	135	135	135	135	135	135	135	135	135	134	134	1616	134.6

保育日数及び出席状況(単位:名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10 月	11月	12 月	1月	2 月	3月	計	月平均
延べ人数	2,566	2,292	2,633	2,715	2,401	2,421	2,799	2,382	2,448	2,330	2,583	2,699	30,269	2,522.4
保育日数	25	23	26	26	26	23	26	23	23	23	24	26	294	24.5
一日平均	102.6	99.7	101.3	104.4	92.3	105.3	107.7	103.6	106.4	101.3	107.6	103.8	1236	103.0
一時保育	47	42	40	35	43	46	54	60	47	54	77	53	598	49.8
(延べ人数)	47	42	40	39	45	46	54	60	47	54	11	99	998	49.8

職員の状況(単位:名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10 月	11 月	12 月	1月	2月	3月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士(正)	19	19	19	19	20	20	20	20	20	20	20	20
看護師	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
パート	13	13	13	13	13	12	12	12	12	13	13	13
計	35	35	35	35	36	36	36	36	36	37	37	37

御殿山児童館

2015 年度は、乳幼児親子から中高生までの利用者のニーズを理解し、適切な支援を行うことができた一年であった。乳幼児親子プログラムでは、子育てをしている保護者が"ほっ"とできる機会を作り、プログラムの中で保護者がお互いの子どもを見守りながら、心休まる時間を保護者同士のエンパワメントで得ることができた。小学生においては自主的にプログラムを企画するなど社会へ参画する姿も見られ、ボランティアとして誰かの役に立つ活動が多く見られた。

中高生は 2014 年度に比べ来館が増えており、中高生の居場所づくりや関わりを充実させ、出前 児童館事業については、必要とされる場所で必要な支援をすることにより乳幼児小学生の居場所 づくりに貢献した。今後も引き続き、利用者のニーズを把握し応えていけるよう努めていきたい。

【事業・運営状況】

- 1. 地域との連帯の強化
 - (ア) 地域との関わりを深め協力体制をとれるよう地域の会議に出席し、児童館での利用者 の様子や気になる親子・児童についての情報の共有と連携に努めた。また、地域の方々 にボランティアとして関わっていただき花壇の整備等の活動を充実させることができた。
- 2. サービスの質の向上
 - (ア) 来館者が安心して遊ぶことのできるよう、環境作りを考えた。また安全管理と事故等 や有事の際に備え新規利用者は緊急連絡先等を登録し、管理を行った。
 - (イ) 乳幼児親子を対象とした子育て支援プログラムは、参加したい親子すべてが参加できるよう内容や時間帯などを工夫するとともに、発達年齢に応じた遊びや仲間作り活動を提供し「子育ち」・「親育ち」を支援した。
 - (ウ) 小学生を対象にした集団あそび支援プログラムについては、運動遊びや自然体験活動・ 創作活動や視聴覚活動等、みんなで楽しく遊べる内容の充実を図り、様々な体験を通 じての仲間作りを行った。また、事業への参画活動も行った。
 - (エ) 中高生を対象にした居場所づくり推進事業では、毎週1回開館時間を延長することで利用の機会を増やすとともに、クッキング、ボランティア体験等を通じての自立支援を行った。
 - (オ) 出前児童館事業として、児童館が近隣にない地域に出向き、地域住民のより身近な居場所作りと、地域の子育て力の向上に繋がる、遊びのノウハウの提供や安全管理の指導を行った。

3. 職員の資質向上

- (ア) 宝塚市児童館交流研修に参加し、技術や実施プログラムの内容の向上に努めた。
- (イ) 児童館事業に携わる職員全員が同じ方向性で取り組んでいけるように、月 1 回の職員会や担当(乳幼児・小学生・中高生・出前)ごとの部会を行い、話し合いの機会を持った。

4. 公益的事業

(ア) 館内プログラムより生まれた自主サークル主体のプログラムを行った。来館者自身の

自己実現など成果があった。

(イ)「トライやるウィーク」(中学生仕事体験活動)では中学校の生徒6名、短大保育科の保育実習では1名を受け入れた。

【延利用者数】

	就学前	小学生	中学生	高校生	こども計	大人	合 計	開館日数	一日平均
4月	720	927	196	54	1897	647	2544	25	101.76
5月	661	446	202	41	1350	625	1975	23	85.87
6 月	773	487	146	41	1447	729	2176	26	83.69
7月	705	1294	310	60	2369	734	3103	25	124.12
8月	821	1354	193	48	2416	771	3187	26	122.58
9月	695	552	165	31	1443	644	2087	23	90.74
10 月	729	449	139	36	1353	643	1996	26	76.77
11 月	653	423	200	30	1306	619	1925	23	83.70
12 月	570	548	204	56	1378	521	1899	23	82.57
1月	673	585	222	31	1511	581	2092	23	90.96
2月	610	392	210	39	1251	547	1798	24	74.9
3 月	604	1001	384	55	2044	546	2590	26	99.6
計	8214	8458	2571	522	19765	7607	27372	293	93.42

【出前児童館回数・利用者数】

		常意	9 型				イベント型		
	回数	就学前	小学生	大人	回数	就学前	小学生	大人	回数
4 月	4	73	0	60	8	41	180	34	0
5月	3	56	0	50	9	102	349	37	0
6月	4	51	0	50	11	77	282	70	0
7月	2	17	0	16	9	37	544	35	0
8月	4	64	1	50	7	33	118	47	0
9月	4	65	0	59	11	46	624	41	0
10 月	4	57	0	54	11	49	778	49	0
11 月	3	30	0	29	10	34	321	30	0
12 月	4	53	0	46	8	25	215	21	0
1月	3	36	0	34	6	17	249	14	0
2 月	3	55	0	47	8	30	378	27	0
3 月	4	47	0	42	6	22	134	21	0
計	42	604	1	537	104	513	4172	426	0

野上あゆみ保育園

2015年度は、一時保育へのニーズが非常に多く、在園児以外の方も、発達支援を求めているという現実と向き合った1年であった。地域にとって、保育園の役割とは何かとあらためて考えさせられた。様々な角度から、園としてできるサポートは何かと探っていく必要性を感じる。今後も、そのような多角的な視点をしっかりもって進んでいきたい。

1. 入所状况

4月、0歳児9名、1歳児7名、逆瀬川あゆみ保育園より4歳児13名を含めた29名の新入園児を迎え全体で108名でのスタート。

2. 重点目標及び重点施策への取り組み

(ア) 保育内容

- ①統合保育・・・障がい児2歳児2名。3歳児1名、4歳児1名が加配対象。発達の心配な子どもについては、市の臨床心理士による巡回指導や研修を受けた。年間3名の子どもの指導を受けた。
- ②交流・・・異年齢児交流・隣接する有料老人ホーム(グランダ)への訪問や宝塚地区の聖 隷デイサービスにてお年寄りとの交流の場を持った。クリスマスのページェントも訪問し て行った。子どもの視野が広がるよう、様々な人々と共に過ごすことを心がけた。 また、4歳児クラスで一緒になる逆瀬川あゆみ保育園の3歳クラスとの交流も月に一回の ペースで行ったり、のがみっこくらぶ(学童保育)との交流も意識した。
- ③保護者に向けて・・懇談会や園だより、クラスだよりなどで園の理念や子どもの発達についての発信をした。また、職員が中心となり茶話会も積極的に行い、母親同士が何気ない会話による癒しの場になるよう心がけ年間8回行った。
- ④食育・・作業は、幼児クラスが中心となったが、土作りから始め、苗の生長を楽しんだり 野菜の食べ比べをしたりと積極的に取り組んだ。また、各年齢ごとに食育ボードを作成し 給食の食材にも自然に意識がいくよう試みた。

(イ) 事業内容

- ①一時保育・・年間を通してニーズは常にあった。また、問い合わせの電話も多く登録面接も常時行い、月平均 141 名、一日平均 7 名の利用実積があった。利用理由としては短時間の仕事の方や、子どもの発達に不安を感じ集団生活の経験を希望される方、リフレッシュなどである。利用年齢は $0\sim2$ 歳児が主であるが夏休み期間には幼稚園に在園する児の問い合わせもある。
- ②延長保育・・18:15~20:00(約 15 名)の延長保育を行った。19:00 以降は約 3 名。19:30 までの保育が多かったが、残業などで延長申請以上の時間まで残る子どもも多かった。
- ③子育て支援・・週2回の園庭開放、子育て相談随時、離乳食体験、コンサートやおもちゃライブラリーなど児童館と協力して行った。保育士がそれぞれ企画担当する機会を設け、在宅子育て親子の現状を知る機会を得た。また、母親向けの支援として、石鹸作りや虫よけスプレー作りなど子育てと少し離れてのリフレッシュも目的とした。今後につなげ、よ

り幅広い支援をしていきたい。

(ウ) 職員研修

- ①年1回(6月)あゆみ合同研修(子どもを見る視点)
- ②第二回宝塚保育学会 参加人数が70名ほどのため、ディスカッションも入れた形での宝塚らしい学会を目指した。
- ③外部研修には希望者が参加する形で行う。保育の質を高める研修に積極的に参加をした。
- ④園内研修・・発達について・わらべ歌・茶話会・異年齢交流と 4 つのグループで、取り組んだ。園内研修に取り組むことで、まとめるという作業の学びもあった。宝塚保育学会、宝塚地区学会に参加した。

3. その他の公益的事業

(ア)『トライやる』(中学生体験活動)中学生10名5日間

①歳児別入所保育児童数(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10 月	11月	12 月	1月	2月	3 月	計	月平均
0 歳児	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	108	9.0
1歳児	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	180	15. 0
2 歳児	15	15	15	15	15	15	15	14	15	15	15	15	179	14. 9
3 歳児	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	180	15. 0
4 歳児	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	336	28. 0
5 歳児	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	312	26. 0
合計	108	108	108	108	108	108	108	107	108	108	108	108	1295	107. 9

② 保育日数及び出席状況 延べ人数(名)保育日数(日)一日平均(名)一時保育(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10 月	11月	12 月	1月	2月	3 月	計	月平均
延べ人数	2147	1855	2237	1856	1720	2226	1914	2226	1981	1857	1862	2125	24006	2000
保育日数	25	23	26	26	26	23	26	23	23	23	24	26	294	24. 5
一日平均	85. 9	80.7	86.0	71. 4	66. 2	79.8	85. 6	83. 6	83.2	86. 1	80.7	81. 7	970. 9	80. 9
一時保育	83	116	150	159	133	149	183	157	144	154	183	176	1787	148. 9

③職員数(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10 月	11月	12 月	1月	2月	3 月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士(正・ゾ)	12	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13
看護師	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
パート	15	15	14	14	16	17	17	17	17	18	18	18
計	30	31	30	30	32	33	33	33	33	34	34	34
調理(外注)	5	5	5	6	5	5	5	5	5	5	5	5

野上児童館

地域の居場所というだけではなく、子どもの発達に不安をもっている保護者に対しての声かけ や養育に不安があるケースなど、支援という意味を再度職員と共に考え直し、共通認識を行った 1年だった。「支援」として見ようとする目を常にもつことの重要さを常に意識し進んでいきたい。 また、環境作りやプログラムのあり方なども、来館者のニーズを踏まえ、職員間で意見交換を行いながら継続して検討してゆきたい。

1. 利用状況

開館当初から中高生の来館は少なかったが、現在も少ない状態である。小学生や乳幼児の利用は、定着してきたように感じる。乳幼児プログラムは、予約制ではなく、当日参加できる形にしたことで、「気軽に参加でき、うれしい」との声も頂いた。

2. 活動報告(公益的事業)

(ア) 乳幼児子育て支援活動

「こあら」「うさぎ」「パンダ」と3つのグループでそれぞれのねらいをもち未就園児の親子を対象にプログラムを行った。子どもの年齢によって、保護者の求めていることも違うのではないかという気づきもあり、単発事業として『新米ママのふれあいタイム』、年8回程度の『栄養士・助産師巡回相談』などを行ったが、どちらも好評であった。また、子育て支援活動が児童館に来るきっかけとしてうまく機能することができた。

(イ) 小学生集団あそび支援活動

「児童館まつり」「工作」「野外活動」などを通じて異年齢の仲間作りを目的として活動した。また、長期休暇時は、ランチタイムを実施した。

- (ウ) 中高生の居場所づくり推進事業
 - 中高生のために今後環境を整えていき、これからの活躍に期待する。
- (エ) 実習生やボランティアの受け入れ
 - 中学生の職業体験活動の受け入れ(4名)や実習生(2名)の受け入れをした。
- (オ)年間3回行っている運営委員会は、意見交換を重視した。

3. 職員の資質向上

「児童館交流研修」などの研修や、宝塚市内の各児童館が連携して行う事業(ミニたからづか)に参加することにより他児童館との交流を持ち職員のスキルアップを図ることができた。またOJTとして会議などで日頃の疑問点などを出し合い確認し合ったほか、業務マニュアルの見直しを図り、周知した。

【数値実績】

·利用状況 本館 (単位:名)

	就学前	小学生	中学生	高校生	こども計	大人	合 計	開館日数	一日平均
4月	326	777	44	3	1150	351	1501	25	60. 04
5月	297	341	19	0	657	318	975	23	42. 39
6月	403	421	26	2	852	386	1238	26	47. 62
7月	427	829	30	6	1292	449	1741	25	69. 64
8月	526	981	44	0	1551	569	2120	26	81. 54
9月	415	430	6	2	853	327	1180	23	51. 30
10 月	518	378	10	8	914	392	1306	26	50. 23
11月	313	359	17	0	689	282	971	23	42. 22
12月	343	439	16	3	801	315	1116	23	48. 52
1月	351	318	14	0	683	300	983	23	42. 74
2月	334	301	18	1	654	293	947	24	39. 46
3 月	445	624	57	8	1134	399	1533	26	58. 96
計	4698	6198	301	33	11230	4381	15611	293	53. 28

・利用状況 出前児童館 (単位:名)

		常設	型			派遣	型		イベント型
	回数	就学前	小学生 以上	大人	回数	就学前	小学生 以上	大人	回数
4月	15	167	2	139	1	5	0	8	0
5月	13	194	2	154	3	8	95	4	0
6月	14	167	2	139	3	3	221	3	0
7月	15	197	4	165	2	2	198	0	1
8月	15	160	9	128	0	0	0	0	0
9月	13	165	2	135	1	1	160	0	0
10 月	14	182	9	152	2	1	82	0	0
11 月	12	151	0	126	2	1	142	0	0
12 月	13	147	0	122	2	4	141	0	0
1月	11	158	0	128	2	44	121	0	0
2月	14	133	0	115	2	1	118	0	0
3 月	14	149	1	149	2	2	170	2	0
計	163	1970	31	1652	22	72	1448	17	1

高齢者公益事業部

2015年度は、同業他社の介護職員による入居者の死亡事案、虐待が大きく報道され、有料老人ホームを取り巻く環境は厳しい一年であったと言える。しかし、そのような世相の中にあって当事業部では新規契約実績が契約件数、契約金額ともに目標数を超える成果を収めたことは、入居検討者から、安心・安全な生活が送ることができる施設であるとの評価をいただいた結果ではないかと思われる。

「私たちは、高齢者ひとりひとりを尊重し、自由で快適な生活の実現を支援する」という事業理念の下、後述の5つの経営方針を立て取り組みをおこなった。中でも昭和48年の開園から42年が経過した浜名湖エデンの園における1,2号館耐震対策計画について、ご入居者への説明に時間を費やしたもののご承諾いただけたことは、この事業の未来、永続性の確保への大きな一歩であった。

- 1. 聖隷理念の継承とエデン価値の確立と実践
- (ア) 聖隷理念・事業部・施設運営方針の浸透と自覚

新入職員及び他事業部から異動してきた職員を対象に、聖隷理念の継承等を目的とした 研修を高齢者公益事業部基礎研修内で引き続き実施した。

- (イ) パーソン・センタード・ケアの浸透、認知症ケアマッピング (DCM) の実践と継続 2014 年度に全施設に導入した DCM は、本部運営管理部主導から施設主導に切り換えた。
- (ウ) サービス内容の可視化

提供されている介護サービスの内容について各施設で説明会を開催した。また、各種サービスについて費用区分の整理をおこなった。

- (エ)トータルヘルスケア (その人らしく最期まで生活することを支えるサービス)の実践 入居前から入居後 1 年間の新入居者に対する施設全体でのフォロー体制の統一化を図り 手厚い対応が取れる仕組みづくりをおこなった。
- (オ) エンド・オブ・ライフケアとグリーフケアの推進 看取りの分科会が中心となり、最期の時を住み慣れた施設内で迎えていただけるよう、 各施設において勉強会を開催するなど、施設内での看取り体制の強化を推進した。
- (カ) EQC の浸透・実践

IS09001 を導入している浜名湖・宝塚を除いたすべての施設で EQC (エデン・クオリティ・コントロール) を導入した。

- 2. 経営の安定と永続性の確保
 - (ア) 入居率 95%を目指した募集活動の展開

これまでの入居者募集の取り組みに加え、ネットマーケティング強化、他社と合同での募集企画、相談員のスキル向上のための研修等に取り組んだ。その結果、入居率 96.1% (販売対象戸数) と目標を達成できた。

(イ) ベンチマークシートの活用(項目策定)による運営、運営分析 他施設と経営・運営状況が比較できるようベンチマークシートを作成し、各施設の見直 すべきポイントの抽出をおこない、経営改善につなげた。

(ウ) 環境及び耐久力等を考慮した建物・設備更新

建物・設備更新長期計画に基づき、油壺エデンの園の大型ボイラー及びエレベーター の更新をおこなった。

(エ) 耐震・老朽化対策計画の策定と実践

浜名湖エデンの園 1,2 号館耐震対策計画において、上半期は8回に及ぶ入ご居者との検討会で協議、個別対応を重ね、基本計画を取り纏めるとともに工事に対するご入居者の同意を得ることができた。下半期は設計図作成に着手し、基本設計まで完了した。

- 3. 人材の採用・育成・定着の強化
- (ア) ケア部門ラダーの定着

施設・在宅看護職ラダーの試用運用を開始した。テクニカルラダーについては二次評価までおこなえるように立案まで進めた。

(イ) 事業部内部門別専門研修の拡大

事務職対象の基礎研修の開催の為、運営管理課長会にて11項目の研修資料を作成した。

(ウ) 中堅職員のレベルアップ

日本老人福祉財団(ゆうゆうの里)と中堅職員を対象とした交流研修を企画し、事業部、日老の中堅職員が研修に参加(合計23名)、2月には合同での研修を開催した。

- 4. サービスの質・安全・効率の向上
- (ア) 感染症の拡大(集団感染)防止

感染症予防分科会を中心に、感染防止対策の強化を図った。その結果、インフルエン ザが散発的に発生することはあったが、集団感染に至ることはなかった。

(イ) 事業部・地域(市、自治会など)と連携した防災体制つくり

各施設にて、地域自治体と連携しての防災訓練等を実施するなど協力体制を強化した。

- 5. 新しい時代に向けた先駆的・開拓的な事業の発想
- (ア) 有料老人ホーム経営・運営ソフトの提供

2015 年度の事業計画時に他法人と進めていた中国瀋陽市における日本式有料老人ホームの実証作業は、中国での展開はリスクが多く伴うと判断し撤退を余儀なくされた。

(イ) 次世代介護の創造と技術の共同開発(介護ロボット、介護備品)

宝塚エデンの園では利用者の移乗時の負荷を軽減し、自立を支援するベッドについて 専門メーカーと共同開発を進めた。

【数值実績】

(直営力	施設)	浜名湖	宝塚	松山	油壺	浦安	横浜	藤沢 1	藤沢 2	計
目標作	牛数	25 件	17 件	13 件	25 件	22 件	12 件	13 件	6 件	133 件
募集	実績	22 件 25 名	23 件 26 名	11 件 13 名	25 件 34 名	23 件 27 名	9件 9名	18 件 22 名	6件 6名	137 件 162 名
入居率	期首	98.0%	94.0%	91.0%	90.0%	85.0%	88.0%	92.0%	75.0%	92.0%
八店竿	期末	96.5%	98.6%	95.3%	91.2%	91.3%	98.0%	97.6%	89.6%	95.0%

高齢者世話ホーム 浜名湖エデンの園

2015年度は長年懸案となっていた 1,2 号館の建て替え及び 4 号館の増築工事の具体的なプランが承認された。何度も説明会や聞き取り調査を重ねた末にようやく第一歩を踏み出すことができた。この後も、引き続き個別の対応を続けながら、業界初の本格的な建て替え工事を進めていくことになる。また、秋には取得後初の ISO 認定更新を終え、2 月には有料老人ホームサービス第三者評価プログラム (Ver. 6.4) を受審した。また、2014年度に導入した 5 台のトレーニングマシンによる正確な筋力・体力測定に基づいた運動のメニューや習慣作りの取り組みが認められ、第 14 回聖隷福祉学会では優秀賞を受賞することができた。

設備面では診療所の改修、4,5 号館屋上防水工事のほか、照明の LED 化、自動照明化などを進めた。また、4 号館東屋外階段から 4 号館北側駐車場への避難通路の舗装手摺整備なども実施し、計画に基づき住環境の快適性や安全性を向上させた。

入居募集活動では、建て替え工事前の最後の募集年度となったが、新規契約数は 22 件 27 名となり目標に近い数字を確保できた。2019 年度の新 1,2 号館完成に向けて、今後も広報活動を続けていく。

- 1. 個人の意思を尊重したエデンオリジナルサービスの確立と実践
 - (ア) パーソン・センタード・ケア (その人らしさを尊重した介護やサービス) の考え方を基 に認知症の勉強会を行うなど、そのサービスの実践と意識の浸透を図ることができた。
 - (イ) ISO を取得更新し、サービスや業務の標準化を推し進めることができた。合わせて、パーソン・センタード・ケアによる個別のサービスを深めることにより、浜名湖エデンオリジナルのサービスを模索・実践する年となった。
 - (ウ)介護やケアに対する安心だけでなく入居時から終末期までの連続性を重視した取り組み を意識して行った。
 - (エ) 入居者の誰もが落ち着いてくつろげるスペースを確保するべく、共用部の改修工事の他、 建物周辺や公園整備に努めた。
- 2. 次世代を担う人材確保と育成
 - (ア) 「聖隷の理念」「施設理念」を継承すべく研修や見学などでの啓蒙を行ったほか、施設 内各所に掲示した。
 - (イ)施設の「事業・運営計画」「予算」浸透のため園内勉強会を開催した。また、給与明細に月次の情報を掲載し職員の意識高める試みを行った。
 - (ウ)職員の問題発見能力や対人援助技術向上に向け、毎月行われる研修会や階層別(ラダー) 勉強会を実施した。
 - (エ) 管理職の能力向上を目指し、求められる能力を明確にし、主体的に行動できるよう年2 回行われるマネジメントレビューを活用し、目標参画システムに反映させた。
- 3. 安定した経営基盤の確立と事業の永続性の確保
 - (ア) 全職員が募集スタッフの意識を持ち、常に入居率を意識することを目指した。募集停止 前に多くの新入居者を迎えることができた。
 - (イ) 1,2 号館のマスタプランを入居者及び職員に示すことができ、号館別個別伺いを実施した。

- (ウ) 職員一人ひとりがコスト意識を持ち、経費の削減に努めることができた。
- (エ) 受診機会の増加と加算の見直しを検討し、診療所の経営改善を引き続き検討していく。
- 4. 安全管理・感染管理の徹底を図ったサービスの提供
 - (ア) 感染予防委員会を中心として、入居者へ感染症予防の意識を高めるための取り組みを行 った。手洗いや消毒等予防対策も引き続き実施した結果、大きな感染の拡大はなかった。
 - (イ) 発生時の迅速な対応について実地訓練し拡大防止と再発防止に努めた。
 - (ウ)防災委員会を通し入居者・職員への防災意識の向上に努め、防災マニュアルを見直した。
 - (エ) 衛生委員会を中心に職員の健康作りに取り組み、産業医とともに職場巡視を実施した。
- 5. 地域社会との協調・交流の推進
 - (ア) 地域清掃ボランティアや三方原サミットの一員として広域防災や交通巡視を実施した。
 - (イ) 聖隷学園やゆうゆうの里との交流に力を入れ、実習の受け入れや交換研修、学会の相互 参加などを引き続き行った。
 - (ウ) 地域の他業種との情報交換、交流では、自治会を中心として様々な交流を深めた。

【数值実績】

表1:契約状況

(単位;名)

	戸数(複数入居)	男性	女性	計
人数	348戸 (57) 戸	110	295	405

表 2:地域別契約状況

(単位;名・%)

	関東	近畿	東海	九州	甲信越	四国	北海道	中国	東北	計
人数	102	18	267	4	7	0	1	3	3	405
構成比	25. 2	4. 4	65. 9	1.0	1. 7	0.0	0.2	0.8	0.8	100.0

表3:年齢構成

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人数	21	62	108	94	76	32	10	2	0	405
構成比	5. 2	15. 3	26. 7	23. 2	18.8	7. 9	2.4	0.5	0.0	100.0

表4:平均年齢 (単位;歳) 表5:入・退去状況

(単位;名)

平均	男性	女性
83. 5	82. 4	84.0

	入居	退去	(死亡退去)
男	10	14	(13)
女	17	18	(16)
計	27	32	(29)

表 6:介護保険利用者(介護保険請求者数)

(単位;名)

	Δ ∌l.			内		訳		
	合 計	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護3	要介護 4	要介護 5
期首人数	107	8	13	38	12	17	12	7
期末人数	112	15	12	38	13	5	16	13
月平均人数	114.6	11.0	14. 4	37. 5	14. 1	10. 7	16. 4	10. 5

ウェル・エイジング・コミュニティ 宝塚エデンの園

2015年度は、中・長期的な運営、経営について課題を明確にする年となった。

当園の事業運営の 3 つの柱を「入居者満足・職員満足・経営安定」と定め、園が提供するサービスの質を計る機会として I S O 9001 認証の更新審査に臨み、新たな認証を得ることができた。この認証更新により、3 つの柱を支える土台として、 $P \ 1 \ a \ n - D \ o - C \ h \ e \ c \ k - A \ c \ t \ i \ o \ n$ ($P \ D \ C \ A$) サイクルによる改善と適正化の姿勢を確認できた。

ここ数年、介護保険認定者数の増加に伴い介護予防への取り組みの強化や認知症ケアの充実のために介護に係るサービス提供時間および人員の増加を図り、入居者満足度の向上に努めてきた。2015年度はそれら取り組みの更なる質の向上を目指し改善に取り組んだ。

経営面では、2015 年度はご逝去により退去された方が例年に比べ多く厳しい一年であったが、募集活動が順調であり入居契約は25件28名と目標値を上回り、期末入居率は95.8%と例年の入居率を維持できた。

2016年度は、職場間、職種間の連携を高めることでパーソン・センタード・ケア(その人を中心としたケア)の実践強化を実現したいと考える。

以下、詳述する。

1. 入居者満足の向上への取り組み

- (ア)入居者満足度調査は総合評価で星 4.13 (前回、星 4.15) となり、2014 年度より僅かに減少した。しかし、継続して星 4 つを維持しており、サービスを安定的に提供することが出来ていると考える。
- (イ)食事サービスに関しては、全国の郷土料理を提供するなど食事に変化を生み出す取り組み を行い好評であった。また、より多くのご入居者に安全に食堂を利用して頂くための見守 りサービスも定着している。
- (ウ) パーソン・センタード・ケアの実践のために全職員を対象とした研修を実施し、理解を深めた。
- (エ)継続して実施してきた介護予防講座や介護予防プログラムに関する評価を実施し、参加率、 効果を高めるための新たなプログラムを設計した。
- (オ) ISO9001 認証の更新審査にて認証を得た。

2. 職員満足の向上への取り組み

- (ア) 職員一人一人の思い、考え方を知るために園長による職員との面接を実施した。
- (イ)職員の力を経営課題に直結させるため園長による施設方針の勉強会を実施した。また、安全な事業運営を実現するため、各委員会主催の研修を16種類実施した。

3. 健全経営体制の維持

(ア)入居契約は、年間25件28名と目標を大きく上回ることができた。しかし、期末の入居率

は95.8%であった。

- (イ) 2014 年度に実施した共用部分の照明機器LED化により、電気料金の値上げによる費用増加の影響を抑えた。
- (ウ) 附属診療所においては、整形外科医師の確保ができず休診となる期間が半年続いた。
- (エ) リハビリテーションは、受診者の増加により予約枠の確保が困難な状況も発生したが、医師との連携、予約枠調整により計画的な実施が実現できている。

4. 安全・安心な暮らしの提供

- (ア) 感染性胃腸炎(ノロウイルス)及びインフルエンザの集団感染の防止策として、全職員及び 委託業者職員を対象とした研修を実施した。また、昼食、夕食時に食堂前にて手洗い啓蒙 活動を実施した。2015年度も集団感染の発生はなかった。
- (イ) ゆずり葉自治会と災害時の協力体制として「自然災害時の緊急避難場所提供に関する協定」 を締結し、地域連携の強化に取り組んだ。年3回の防災避難訓練を実施し、年度末の地震 防災訓練では、前年同様にゆずり葉自治会の方々にも参加いただいた。

【数値実績】

表1:契約状況

(単位:名)

	戸数(複数入居)	男性	女性	計
人数	387 (62)	111	338	449

表 2:地域別契約状況

(単位:名・%)

	近畿	関東	東海	甲信越	中国	北海道	北陸	四国	九州	計
人数	402	21	15	1	5	2	1	0	2	449
構成比%	89. 5	4. 7	3. 3	0. 2	1. 1	0.5	0. 2	0	0.5	100

表 3:年齢構成 (単位:名・%)

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人数	24	59	118	113	75	35	19	6	0	449
構成比%	5. 3	13. 1	26. 3	25. 2	16. 7	7.8	4. 2	1. 3	0	100

表 4: 平均年齢

表 5:入・退去状況

(単位:名)

平均	男性	女性	
83.0歳	82.1歳	83.3歳	

	入居	退去	(死亡退去)
男	6	9	9
女	22	22	21
計	28	31	30

表 6:介護保険利用者(介護保険請求者数)

(単位:名)

	合 計			内		訳		
	合 計	要支援1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護5
期首人数	106. 4	29. 2	11.0	27. 0	7. 0	15.8	8. 4	8.0
期末人数	109. 9	17.5	13. 5	41.6	13.0	8. 4	9.8	6.0
月平均人数	106. 1	22. 2	11. 7	33. 4	8. 4	12. 1	11.0	7. 3

高齢者世話ホーム 松山エデンの園

2015年度は、開園 35 周年を迎え、将来を見据えてこれまでの活動をベースに、より適切なサービスの提供をすべく見直しを図ってきた。入居募集活動は、3 年続けて二桁(13 名)の新規入居をお迎えすることができた。しかし、一方で退去者は15 名となり入居率の予算達成は実現できなかった。近年取り組んできた積極的な募集活動の結果、問い合わせや見学者が増加しており、また次年度も引き続き多くの新しいご入居者をお迎えする事ができるよう力を注いでいきたい。園運営を安定させ安らぎの住まいを継続してご提供していくため、昨年に引続き環境整備と共に各活動の整備並びに検証を続けていく。園内各種行事や介護、食事を中心とした各種サービスを昨年同様に安定して提供し、介護フェスタの継続や地域防災活動により地域で当園の存在価値を高めていくとともに、松山ベテル病院との連携をさらに深めてより一層ご入居者の皆さまのご要望にお応えしていきたい。

1. 質の高いケアの提供

- (ア) 従来からの各種機能向上や講演活動等の充実を図り、初の介護棟家族会開催、ドッグセラピーや外部専門家によるフットケアの導入、園内ボランティア活動の確立などの新たな試みと合わせてご入居者への更なる安心に結び付けることができた。
- (イ) センター方式及び DCM を通じて3号館の共用フロアの環境が変化した結果、ご入居者 により良い環境づくりに一定の成果を得た。次年度も継続して入居視点の環境づくりに 取り組む。
- (ウ) 今年度転倒予防の体操を職員のみではなく、外部講師での体操指導を行った。その他職員から提供する介護予防活動について継続した取り組みと新しい情報や対応方法を取り入れて参加者拡大ができる積極的な活動を行いたい。
- (エ) ターミナルケアの実践については、書類やマニュアルの整備と園内での職員研修、ご入 居者向けの講演を行いご入居者の気持ちを大切にしたケアを意識できる活動を行った。

2. 安全で美味しい食事の提供

- (ア)ご入居者の食事アンケートをもとに新しい取り組みや対応変更等を行い、満足度向上に 努めた。
- (イ)食材で高騰している物もあるが業者選定や調理法等コスト削減に努めた。 来年度より食事料金が値上げとなり食事メニューの充実や新しい取り組み等更に充実したサービス提供が求められる。
- (ウ)介護食については、現在の提供方法を見直し、美味しく食べて頂ける改善を引き続き行っていく必要がある。

3. 人材の育成

- (ア)基礎研修や全体研修等を通じて聖隷理念に基づく職員倫理・接遇の向上に取組んだ。
- (イ) 昨年に引き続きご入居者とのかかわり、会議・委員会での議論の活性化等を通してのコミュニケーション能力向上や専門研修、マニュアル整備を通じ一人ひとりのレベルアップを図っている。

- 4. 安定した園運営を永続するための入居率の向上
 - (ア) 新規契約戸数 16戸を目標としたが、13戸であった。
 - (イ) 環境整備においては、安全面に配慮した施設整備や経年劣化による住環境整備ととも に共用部の LED 導入をはじめ中長期的な経費節減にも成果が出始めている。
- 5. 地域貢献・交流の推進
 - (ア) 10 月に地域合同の防災避難活動を行い、聖愛会、町内会、消防署と合同で防災教室を 開催し多くの地域の方に参加頂いた。環境保全活動として年1回行われる市民大清掃 にご入居者と職員が地域の方と一緒に継続して参加している。
 - (イ) エデン納涼祭や市民清掃、松山地方祭の受け入れによる地域との交流の定着や介護フ エスタを開催し地域との関係づくりを進めている。
 - (ウ) 隣接する松山ベテル病院と医療面のサポートのみならず学会発表を通じての専門性を 高めあう交流連携を深めている。

【数值実績】

表1:契約状況

(単位:名)

	戸数(複数入居)	男性	女性	計
人数	120戸 (17戸)	39	98	137

表 2:地域別契約状況

(単位:名・%)

		四国	近畿	関東	東海	九州	中国	計
人刻	数	103	12	10	5	2	5	137
構成	比	75. 2	8.8	7. 3	3. 6	1.5	3.6	100.0

表3:年齢構成

(単位:名・%)

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	計
人数	5	26	41	34	15	9	4	3	137
構成比	3. 7	19. 0	29. 9	24.8	10. 9	6. 6	2. 9	2. 2	100.0

表 4: 平均年齡 (単位:歳) 表 5: 入·退去状况

(単位:名)

平均	男性	女性
83. 57	82.05	84. 17

	入居	退去	(死亡退去)
男	7	8	(8)
女	6	7	(6)
計	13	15	(14)

表 6:介護保険利用者(介護保険請求者数)

(単位:名)

	合 計			内		訳		
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護3	要介護 4	要介護 5
期首人数	67	20	7	10	5	7	7	11
期末人数	66	19	6	5	6	12	6	4
月平均人数	64. 4	18. 5	5. 7	7. 0	4. 5	11. 2	9. 1	3. 7

高齢者世話ホーム 油壺エデンの園

2015年度は3課に新職場長を迎え新体制でスタートした。組織体制の変更により年度当初は不安な点もあったが、新世代の風を感じる年となった。

さて、運営面での方針は2014年度と大幅な変更はなくご入居者と職員がともに同じ方向を向き引き続き園運営に関する課題点解決に向けて具体的取組を行った。特に8・9号館を主とするご入居者の高齢化対策は急務であり各種検討、取組を行った。また経営面では、2014年度事業報告書にて「園運営の基本は経営の安定である。」と記載しそのことを意識し改善にあたった結果、穏やかな改善を確認出来た年度となった。特に新入居者募集成果はご入居者皆様の全面的協力によるものであり、感謝申し上げる。

1 安全、安心を基盤とした各種サービスの質向上

- (ア)4回シリーズの介護サービス説明会を開催した。その内容をまとめた「介護サービス詳細説明書」を作成、全入居者に配布した。また最期まで入居者の意向に沿ったケア提供のための「医療・介護に対する希望書」を作成した。これらを通し、ご入居者の介護等に関する理解を深めるとともに考えて頂く機会となった。
- (イ)食事満足度調査結果を踏まえ課題点を明確化し具体的な取り組みを強化した一年になった。食材、メニューの検討、食器の更新を行い、2016年4月からの食事価格改定につなげた。また温冷配膳車導入に向けた取り組みを開始した。
- (ウ)ご入居者の高齢化に伴う利便性向上の為、園バスの両玄関発着便の増加を目的としたバス ダイヤ改定に向けた取り組みを開始した。また難聴対策として入居者連絡会の会場変更、 両フロントに対話支援機器設置、大型対話支援機器のデモンストレーションを実施した。
- (エ)ご入居者の安全で快適な環境整備を目的に7月、正面玄関の改修工事を完了した。2016年度に向け正面玄関フロア、喫茶、トイレ、相談室等共用部の改修工事、防犯カメラの設置等の準備を進めた。(2016年度上半期実施予定)
- (オ)開設30周年記念事業として「記念誌」「記念歌」「行事」のプロジェクトを立ち上げ2016年11月に向けて検討を開始した。

2 自ら考え行動できる職員の育成

- (ア)ゆうゆうの里との交換研修をはじめ中堅職員等が自ら体験して学ぶ機会をつくることにより専門職としての知識・技術、入居者サービス向上につなげた。
- (イ)看護・介護テクニカルラダーを導入実施した。今後自己評価から自身の課題点発掘、取り組み・評価に繋げていく。
- (ウ)年間を通して朝礼等にて「夜もひるのように輝く」など聖隷の源流となる書籍の読み合わせを行った。これらにより職員が聖隷の理念を理解する機会とした。

3 安定した施設運営

(ア)新入居者件数は実績25件35名(予算25件30名)と予算を達成した。また3年ぶりに入 居率90%を超える結果となり、次年度の入居率安定化につなげることができた。新入居 者の皆様が入居を決めた理由として、「ご入居者、職員とも明るく皆さんが声を掛けてく れ、施設の雰囲気が良かった。」との声をいただいた。このことを今後も大切にしたい。

- (イ)平均年齢83.5歳と高齢化が進み、介護サービスを必要とされるご入居者が増加している。 適正な介護認定申請、介護サービスを提供する仕組みを強化した。
- (ウ) 現診療所長を招聘し2年目となり、ご入居者皆様より良い評価を頂くなどホームドクタ ーとしての役割が構築されつつある。
- 4 環境・省エネへの取組みと地域との関わり
 - (ア)年間を通して「グリーンデイ」を開催、ご入居者とともに園内庭園管理を行った。7月 には近隣公園で住民の方々と納涼祭を開催、公園内の草刈り、植栽の剪定作業を行った。
- 5 災害時の対策、防災教育の徹底
 - (ア)春秋の防災訓練を休日等管理者不在想定にて訓練実施、また課別に現場状況に沿った訓 練を実施、ご入居者・職員の防災意識向上の機会となった。
 - (イ)市防災課と地区との共同防災体制について協議を行った。今後地区との協議を進めたい。
- 6 その他の公益的事業について
 - (ア)看護実習生受け入れ(神奈川県歯科大学短期大学部) 18名
 - (イ)地域への開放も含めた介護フェスタの開催(介護予防活動紹介)

【数値実績】

表1:契約状況 (単位:名)

	戸数(複数入居)	男性	女性	計
人数	383 (91)	134	340	474

表 2:地域別契約状況

(単位:名・%)

	関東	近畿	東海	九州	信越	四国	北海道	中国	東北	外国	計
人数	445	9	8	1	3	1	1	1	3	2	474
構成比	94. 0	1. 9	1. 7	0.2	0.6	0. 2	0. 2	0. 2	0.6	0.4	100.0

(単位:名・%) 表3:年齢構成

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人数	30	66	130	110	79	40	15	4	0	474
構成比	6.3	13. 9	27. 4	23. 2	16. 7	8. 5	3. 2	0.8	0.0	100.0

THE HELL () 4 (4 , 4) 表 4

83.1

83.5

4:平均	的年齢	(単位:歳) -	表5:入	· 退	去状	況
平均	男性	女性		•			入

83.7

(死亡退去) 退去

(単位:名)

	' ' ' ' '	. — .	/
男	11	12	(12)
女	24	18	(15)
計	35	30	(27)

入居

表 6:介護保険利用者(介護保険請求者数)

(単位:名)

	合 計			内		訳		
	合 計	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
期首人数	108	9	20	23	13	12	18	13
期末人数	116	15	14	26	19	9	22	11
月平均人数	115.0	13. 3	17. 7	25. 3	16.8	11. 3	19. 3	11. 3

介護付き有料老人ホーム 浦安エデンの園

2015年度は「楽縁プロジェクト」が活動2年目を迎え、様々なイベントが入居者参画型に変化し定着してきた。また、入居者募集センターと楽縁プロジェクトのコラボレーションによるエデンフェスタ、介護フェスタでは入居者と入居検討者、地域の方々と交流する機会を増やし、入居者には募集活動にもご協力をいただくことができた。これらにより2015年度の新入居数は予算22件23名に対し実績23件27名と予算を上回った。しかしながら、退去数は過去に例のない多くのご逝去により園の運営に大きく影響した。介護サービスにおいては支援・介護を必要とする入居者が増加したことにより、要介護認定者数も増加し結果として介護保険収益が予算を上回った。

- 1. エデンらしい良質なサービスの追及
 - (ア)パーソン・センタード・ケアの考え方に基づく認知症マッピングを継続中。
 - (イ) 楽縁プロジェクトでは入居者間での認知度も高まり、情報提供やイベント参画も充実 したものへ成長することができた。
 - (ウ) 食事サービスではメイン料理は手作り、出来立て、揚げたてにこだわった。また、食事サービス課とケアサービス課が連携し特に終末期の方へ「最後のワンスプーン」にも柔軟に対応することができた。
 - (エ) 看取り介護指針について説明会を設け、入居者や家族へ周知することができた。
 - (オ) 入居者の変化を生活サービス係と一般居室係が情報共有・連携し支援に繋いでいる。
 - (カ)実態に則した管理規定の見直しと、介護基準に基づいた環境・書類の整備を進めた。
 - (キ) 苦情には的確な事実確認、対応策についても職員間で情報共有することができた。

2. 自立した施設運営の実現

- (ア)「全員プロモーター」プロジェクトと題し、各課協力の下、募集体制強化活動を実践中。
- (イ) 特定施設入居者生活介護による収益はケアサービス課と運営管理課の連携によりスムーズな契約締結と住替えの推進で予算を達成できた。
- (ウ) 食事の喫食率についてはかなり高い目標で、ご逝去も多かったこともあり前年度並み となり予算未達となった。事業部での共同購入など材料費削減を今後も目指していく。
- (エ) 電気使用料金の削減のためデマンド装置による使用量の監視と共用部のLED化を進め年間の電気料金を大幅に削減することができた。また、職員向け管理費会計研修を 実施しコスト意識向上を図った。

3. 安心・安全な施設づくり

- (ア)職員はもとより入居者対象の感染症勉強会を開催し感染症予防の意識向上を図った。 年間を通して感染症発症者は出たものの、早期隔離対処により拡大には至らなかった。
- (イ) 転倒発生後のカンファレンスを適宜行うことができたが、今後は s h e l l 分析や KYTにより積極的に取り組んでいく。
- (ウ) 法定の避難訓練とは別に夜間想定の火災訓練を実施し、有事の際の役割を再確認した。
- (エ) 消火器を使った消火訓練など参画型の訓練を増やし入居者の防災意識向上を図った。
- (オ) 地域防災の取組みとして隣地の保育園児の防災訓練で避難先として協力ができた。

- 4. 聖隷理念・事業部経営方針及び施設運営方針の浸透と、職員を大切にする園づくり
 - (ア) 理念の継承のために定期的な職員研修を実践している。
 - (イ) 役職員の異動や退職などにより次世代の登用を積極的に行っている。
 - (ウ) 職員の定着率向上のため、パート職員の処遇改善を行った。
 - (エ) 働きやすい職場作りのために退職者の聞き取りを職場へフィードバックをしている。 メンタル不全者への根気強い支援で職場復帰に繋げている。
 - (オ)看護ラダーは前進しているが、介護ラダーについては一部不十分であり、2016年度の 目標管理に取り入れていく。
- 5. 環境・省エネルギーへの取り組み強化と、地域社会貢献活動の積極的開催
 - (ア) グリーンカーテン設置、エコキャップ活動など施設全体で省エネルギーへの更なる取組みを進めた。
 - (イ)環境保全活動については、入居者の中からの参加者と共に2回実施することができた。
 - (ウ) 地域開放型イベントは募集センターともタイアップした広報活動により、例年よりも 多くの地域の方々に参加して頂くことができた。

【数值実績】

表1:契約状況

	戸数(複数入居)	男性	女性	計
人数	195戸 (25戸)	63名	157名	220名

表 2:地域別契約状況

	関東	近畿	東海	九州	中国	東北	計
人数	206 名	5名	1名	3名	0名	5名	220 名
構成比	93. 6%	2.3%	0.5%	1.3%	0.0%	2. 3%	100.0%

表3:年龄構成

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人数	9名	41 名	50名	51名	38名	19名	12名	0名	0名	220 名
構成比	4. 1%	18.6%	22. 7%	23. 2%	17.3%	8.6%	5.5%	0.0%	0.0%	100.0%

表 4: 平均年齢

表 5	:	入	•	退去状况
-----	---	---	---	------

83 1 歳 80 9 歳 83 9 歳	平均	男性	女性	
	83.1歳	80.9歳	83.9歳	

	入居	退去	(死亡退去)
男	13名	8名	(8名)
女	14名	13 名	(11名)
計	27 名	21 名	(19名)

表 6:介護保険利用者(介護保険請求者数)

	合 計			内		訳		
	合 計	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護3	要介護 4	要介護 5
期首人数	57 名	10名	10名	9名	12名	6名	4名	6名
期末人数	65 名	12名	6名	17名	8名	14名	5名	3名
月平均人数	63.3名	13.5名	8.5名	14.3名	9.7名	8.2名	4.6名	4.5名

介護付有料老人ホーム 横浜エデンの園

2015 年度は、入居者の心身の健康状態を把握し、職員間の「タイムリーな情報共有」を充実させることで、横浜エデンの園らしいサービスの質向上を目指し取り組み、情報共有することでタイムリーな受診や適切な対応ができた。年間のご逝去は4名と少なく、うち2名は「看取り」目的での入居で聖隷横浜病院との連携も充実し、ご家族からは感謝の言葉をいただいた。リスク管理では、骨折での入院が3件起きたが大事には至らず、基本的なケアを見直すことで未然に事故を防ぐこともできた。また、下半期には入居率100%を達成することができたが、上半期の入居率が上がらず、年間稼働率は94.2%にとどまった。また、行政の実地指導や第3者評価を受審し、経営や業務の見直しを得る機会となった。

2016年度は入居率の安定を図るとともに、「横浜エデンの園」らしさを出せるように職員全員で問題意識を持ち、課題に対して検討・実践していきたい。

- 1. 安全・安心・良質なサービス提供
- (ア) 情報をチーム間でどのように活かすのかが継続しての課題となっていたが、チームでの「看取り」を行うことで、情報の内容・提供方法を考え発信できるようになってきたがまだ十分に活用できているとは言えない。2016 年度も継続して取り組んでいく。
- (イ) リスク対策の強化では、骨折による入院は3件、2016年度は事故を未然に防げるようにインシデントに気づけるように指導・周知していく。苦情については職員個人への内容があがり、都度該当職員へ注意することがあった。集団感染は0を維持でき、継続を目指す。
- (ウ) DCMについては計画に沿い、進めることができた。また、認知症グループによる集団レクレーションを行うことで、認知症の入居者が「自分らしく」行動することが観えた。2016年度は継続しケア職員だけでなく全職員で取り組んでいく。
- (エ) 2015 年度の逝去は4名、園での看取りは3名。聖隷横浜病院緩和ケアチームからの紹介入 居もあり、さらなる連携強化が実現できた。次年度も継続して取り組んでいく。また、2 4時間医療連携については、夜間・休日の看取りにも聖隷横浜病院の協力が得られた。
- (オ) 満足度調査結果から入居者個々に適した対応が不十分であることが指摘され、改めて職員がPCCを理解、実践することを自覚した。2016年度は更なる満足度アップに向け取り組む。

2. 人財の育成

- (ア) 2015 年度も朝礼で施設理念・ケア方針の唱和を継続したが、入居者や家族に対して実践できたとは言えない。2016 年度も継続し、日々のケアが事業団の理念・方針を基に施設理念があること、更に行動に結び付くためには職員が「考える」ことを目指す。
- (イ) 接遇は、全体ではご入居者・ご家族からの評価は高いが、個々の職員へのご意見もあり、 言葉遣いなど気になる点も観えている。次年度は虐待にもつながりかねない「不適切なケ ア」を指摘できる環境創りに取り組んでいく。
- (ウ) 外部監査指導を受け、新人(中途採用者)への指導方法など、職員の定着率を安定させる ためにも教育委員会を中心に職員教育プログラム作成に取り組む。
- (エ) メンタル不全者は0を維持している。継続させていく。

- 3. 経営基盤の安定と永続性確保
 - (ア) 2015 年度は平均稼働率 94.2%。退去は 4名と少なかったが、待機者の把握やタイムリーな入居へ結びつかなかった。2016 年度は有望顧客確保を維持し、平均稼働率 98%を目指す。
 - (イ) 光熱費の減少や、エコ活動・職員による園周囲の清掃等意識は向上した。更なるコスト意識を持たせていく。
- (ウ) 昨年度からの共同購入や清掃・洗濯業者統一による費用削減を維持し、継続して取り組む。 4. 地域社会との連携と協働
 - (ア) 2015 年度は 10 月に聖隷横浜病院との合同防災訓練を実施した。地域との合同防災訓練は 2016 年度に実施予定。
- (イ) 地域の緑化活動や清掃活動・祭事へ参加、地域との交流が活発化した。継続していく。 5. 環境・省エネ活動への取り組みの強化
 - (ア) テラスやベランダでのグリーン栽培を入居者と行い、収穫した野菜を味わえた。
 - (イ) 職員が3R (リユース・リサイクル・リデュース) を周知し、実践を試みたが、まだ 十分な理解ができていない。継続して周知徹底していく。

【数值実績】

表1:契約状況 (単位:名)

	戸数(複数入居)	男性	女性	計
人数	49戸 (0戸)	8人	41 人	49 人

表 2:地域別契約状況 (単位:名・%)

	関東	近畿	東海	九州	中国	東北	ハワイ	計
人数	44	1	3	0	0	0	1	49
構成比	89.8	2.0	6. 1	0	0	0	2.0	100.0

表 3:年齢構成 (単位:名・%)

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人数	6	14	13	11	4	0	1	0	0	49
構成比	12. 2	28. 6	26. 5	22. 4	8.2	0	2.0	0	0	100.0

表4:平均年齢 (単位:歳) 表5:入・退去状況

合 計

44

49

47.1

期首人数

期末人数

月平均人数

		入居	退去	(死亡退去)
5	男	0	0	(0)
	女	4	4	(4)
	計	4	4	(4)

8.4

内

13

9

10.4

要介護1

平均男性女性87.582.888.5

表 6:介護保険利用者(介護保険請求者数)

要支援 1

4

4

3.3

要支援 2

3

6

4.8

	訳		
要介護 2	要介護3	要介護 4	要介護 5
7	2	8	7
8	6	7	9

3.8

(単位:名)

8.3

8.1

(単位:名)

聖隷藤沢ウェルフェアタウン

開設 5 年目を迎えた聖隷藤沢ウェルフェアタウンは各事業の"サービスの質の向上"や"安定した運営"とともに"複合施設"としての更なる連携強化に取り組んだ。

藤沢エデンの園一番館は、二番館と連携して生活サービス課フロントへの看護師配置やレ ストランへの生活サービス課職員の配置、健康診断の一部検査委託や定期的な健康講話開催 による聖隷横浜病院との連携をスタートしたことのほか、大浴場の手すり設置・暑さ対策と して廊下のカーテン設置等、ハード・ソフト両面において改善を図ることができた。また、 開設当初から入居率の目標(95%)を漸く達成により、安定した経営基盤を築くことができた。 しかし、食事における満足度や運営面の効率化など改善すべき点も残った。藤沢エデンの園 二番館は、2014年度からスタートしたパーソン・センタード・ケアに基づく認知症ケアに 加えて、エンドオブライフケアの実践にも取り組み始めた。 今後もご入居者の疾病や心身の 状態に拘らず、ご入居者お一人おひとりの思いに沿ったケアを提供できるよう、継続した取 り組みを行っていく。藤沢愛光園は、"地域、ご利用者ひとりひとりのために最善を尽くす" という目標を掲げて、地域に生活する高齢者世帯の状況変化に伴う緊急ショートステイの受 入れや地域活動への参加協力にも積極的に取り組んだ。また、ご利用者の健康管理には、こ れまで以上に配慮することで、体調の変化に対し早期対応が可能となり、ご利用者には入院 による治療・療養の減少、スタッフにはケアの質の向上、加えて施設にとっては、稼働率の 向上にも繋がり、経営面でも成果を上げることができた。その他、関東地区では初めてとな る EPA による介護福祉士候補生を受入れたことは、本人たちの努力とそれを教育支援する ことがスタッフにとっても新たなモチベーションにもなっているので、今後も継続していく。 在宅サービス室においては、居宅介護支援事業は職員確保に苦労したが、訪問看護・通所介 護事業も安定した運営ができた。2015 年度は特に訪問介護事業の躍進した1年となった。

1. 『隣人愛』精神の浸透と専門職としての教育システムの構築

2015 年度から採用時に行う基礎研修や各階層別研修の場などにおいて、これまで以上に聖隷の基本理念である『隣人愛』精神を語り伝えることを意識的に行った。我々職員が"誰のために""何のために"この仕事をしているのかを考えられる職員の育成を目指し、今後も継続して取り組んでいく。専門職の教育システムについては、看護職の研修会実施レベルにとどまっている。

2. 入居率・利用率の確保と安定した経営

一番館は、2015 年度も多くの新ご入居者をお迎えすることができて入居率は97.1%に向上した。二番館は、一番館ご入居者の住み替え用の居室を確保しながらも入居率を86%となった。藤沢愛光園は、前述の対応により96.3%の高い稼働率となった。藤沢在宅サービス室は経営的には居宅介護支援事業の未達成分を通所介護・訪問介護事業・訪問介護事業が補って全体として好成績となった。

3. 聖隷藤沢ウェルフェアタウン内の連携強化

藤沢エデンの園一番館でご入居者が日常生活に支援・介護が必要になった場合、生活サービス課・食事サービス課と在宅サービスの各事業所が必要に応じて情報共有やサービス内容をケア会議や日常業務の中でスムーズに調整できるようになった。

4. 地域(住民・医療機関・施設・行政機関など)との良好な関係づくり

見学者やボランティア活動の受入れだけでなく、大庭市民ふるさとまつりへの模擬店 出店(一番館ご入居者との共同出店)や施設紹介ブースの設置等による地域行事参加も定 着してきた。また、近隣病院でのセミナーや勉強会への参加、藤沢愛光園で始まった近 隣の児童養護施設との相互交流など、様々な形で地域との交流できるようになってきた ので、今後もこれらの小さな交流を積み重ねていきたい。

5. 公益的事業について

- (ア)慶應義塾大学・平塚看護専門学校の看護学生の実習受け入れ実施
- (イ)介護労働安定センター・かながわ福祉人材センター等からの介護実習受入れ実施
- (ウ)隣接する公園のゴミ拾い活動を実施(1回/月)
- (エ)近隣児童養護施設卒園者への就労支援の協力

【藤沢エデンの園一番館ー数値実績】

表1:契約状況

	戸数(複数入居)	男性	女性	計
人数	203 (57 戸)	86 名	174名	260 名

表 2 : 地域別契約状況 (単位:人・%)

	関東	近畿	東海	九州	中国	東北	計
人数	234	3	17	1	4	1	260
構成比	90. 0	1. 2	6. 5	0.4	1. 5	0.4	100.0

表3:年齢構成 (単位:名・%)

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人数	3	7	36	77	66	47	16	8	0	260
構成比	1. 2	2. 7	13.8	29. 6	25. 4	18. 1	6. 2	3.0	0.0	100

表 4:平均年齢 (単位:歳) 表 5:入・退去状況 (単位:名)

平均	男性	女性
78.6	79. 1	78.0

	入居	退去	(死亡退去)
男	6	6	(1)
女	17	6	(0)
計	23	12	(1)

【藤沢エデンの園二番館ー数値実績】

表1:契約状況

	戸数(複数入居)	男性	女性	計
人数	41戸 (2戸)	15 名	28 名	43 名

表2:地域別契約状況 (単位:名・%)

		関東	近畿	東海	九州	中国	東北	計
	人数	36	2	3	1	0	1	43
柞	構成比	83. 7	4. 7	7. 0	2. 3	0.0	2. 3	100.0

表3:年齢構成 (単位:名・%)

		95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
Ī	人数	3	12	14	7	4	3	0	0	0	43
Ī	構成比	7. 0	27.9	32. 5	16. 3	9.3	7.0	0.0	0.0	0.0	100

表4:平均年齢 (単位:歳) 表5:入・退去状況

平均	男性	女性
86. 4	86. 1	86.6

表 5 : 入·退去状况 (単位:名)

	入居	退去	(死亡退去)
男	4	3	(3)
女	7	3	(3)
計	11	6	(6)

表 6:介護保険利用者(介護保険請求者数)

(単位:名)

	合 計		内訳						
		要支援1	要支援 2	要介護 1	要介護2	要介護 3	要介護4	要介護 5	
期首人数	36	1	3	9	10	4	5	4	
期末人数	43	0	5	13	9	8	4	4	
月平均人数	41. 7	0.3	4. 2	12. 2	10.9	6.8	4.6	2. 7	

【藤沢愛光園-数値実績】

	特養	入所	短其	月入所	合計					
	既存	ユニット	既存	ユニット						
利用者定員	名	100名	名	20 名	120 名					
利用者延べ数	名	35,659名	名	6,614名	42,273名					
稼動延日数	366 日			366 日						
一日平均利用者数	名	97.4名	名	18.1名	115.5 名					
稼 働 率	%	97. 4%	%	90.4%	_					
単価(1人1日当り)		13,982 円	13, 295 円		_					
サービス活動収益(千円)	49	99,406 千円	87,934 千円		587,340 千円					
職員数(常勤換算)		64.8名		13.5名	78.3名					

※サービス活動収益は内部取引消去前の数値

【聖隷訪問看護ステーション藤沢】

	平均 利用者数	月間 訪問件数	年間 訪問件数	単価(円)	サービス活動収益 (千円)
予算	92. 3	542	6, 509	9, 643	63, 000
実績	80. 9	521	6, 254	9, 838	61, 208
差異	-11.4	-21	-255	195	-1, 792

[※]サービス活動収益は内部取引消去前の数値

【聖隷ヘルパーステーション藤沢】

	介護給付			予防給付		単価(円)		サービス活動収益	
	平均 利用者数	月間 訪問件数	年間 訪問件数	月間 訪問数	年間 訪問数	介護 (回)	予防 (月)	(千円)	
予算	45. 5	528	6, 336	114	1, 368	3, 626	15, 828	37, 960	
実績	36.8	519	6, 233	133	1,601	3, 434	15, 924	43, 965	
差異	-8. 7	-9	-103	19	233	-192	96	6, 005	

[※]サービス活動収益は内部取引消去前の数値

【聖隷ケアプランセンター藤沢】

	年間請求件数		平均単	価(円)	訪問調査	訪問調査	サービス活動収益
	介護	予防	介護	予防	年間件数	単価 (円)	(千円)
予算	1,604	505	14, 791	4, 139	0	5, 000	25, 820
実績	1, 118	472	12, 491	4, 141	56	5, 000	16, 194
差異	-486	-33	-2, 300	2	56	0	-9, 626

[※]サービス活動収益は内部取引消去前の数値

【聖隷デイサービスセンター藤沢】

		介護給付			i給付	単価(円)			
	平均 利 用 者 数	月間 利用件数	年間 利用件数	月間 利用件数	年間 利用件数	介護 (回)	予防 (月)	サービス活動収益 (千円)	
予算	26. 5	686	8, 232	15. 0	180	9,076	36, 035	86, 810	
実績	23. 3	602	7, 221	17. 4	209	10, 176	38, 086	82, 080	
差異	-3.2	-84	-1, 011	2. 4	29	1, 100	2, 051	-4, 730	

[※]サービス活動収益は内部取引消去前の数値

ウェル・エイジング・プラザ 奈良ニッセイエデンの園

2015年度は、有料老人ホームの入居者を対象に認知症予防短期集中プログラムを開始するなど、 頭の健康管理(MCIチェック)や運動機能管理、栄養管理の3つを柱として介護予防プログラ ムの取り組みを強化した。運営面においては、パーソン・センタード・ケアの考え方を継続しな がら、施設理念・基本理念に立ち返り、「最も信頼できる隣人」としての自覚をもってサービスを 提供できる職員の育成に努めた。食事サービスについては、新規の喫食者を獲得するために、様々 なイベント企画や専用掲示板による情報発信に努め、少しずつ喫食数が増加している。また、在 宅部門では、西大和地区への事業集約化のために奈良地区の事業を廃止した。

経営面では、2014年度に引き続き有料老人ホームの一般居室が高い契約率を維持する中、介護居室の迅速な住み替えに努め、且つ募集広報室を中心に入居者募集を推進したことにより、高い入居率を維持することができた。クリニックにおいては、整形外科を再開することが出来たが、内科外来が伸び悩み、厳しい経営状況となった。また、奈良ベテルホームにおいては、渉外・広報活動及び利用者管理の強化を実施し、入所、短期入所ともに利用者数が伸び、通所リハビリも運動・物療機器を導入することで運営の安定化を図れた。また、在宅事業も概ね順調な運営状況で、ベル西大和店では、近隣利用者のニーズが高まり、収益の増収につながった。

なお、各施設別の取り組みについては、以下の通り報告する。

◆有料老人ホーム「奈良ニッセイエデンの園」

1.聖隷理念の浸透とトータルケアサービスの実践

健幸生活推進活動を各職場から専門職合同で本格的に開始した。短期集中プログラムまで実施できた。また、短期集中プログラムでは予防活動の重要性についての意識付けに繋がった。デイサロン万葉の内容を充実のため、年度末に拡大工事も完了し、ご入居者にとって心地良い空間にできるようにしていきたい。食事料金改定に伴い、喫食数の向上を目指し、大食堂を利用していない入居者への聞き取りアンケートを実施し、ご入居者のニーズの把握と共に大食堂用の掲示板を設置し、食堂とラウンジのPRを強化したことにより、徐々に喫食数が回復傾向にある。

2. 安定した経営基盤の確立

年度当初の介護保険制度改定による介護報酬収益が減益となる中、他課との連携の継続により介護居室へ12室の住み替えを行い、入居率86.9%を維持できたとともに、新入居19件25名の入居契約につながった。また、新入居者オリエンテーションの際の書類に、居室サービス課の業務案内を新規作成し、ご利用者に理解を得られるようにしたと同時に、新入居者訪問を生活サービス課職員と一緒に行く流れを構築、実施し、連携の幅を増やすことが出来た。省エネ活動については、LED化の促進やボイラー関連のこまめな運転制御と、燃料費の価格低下もあり費用削減につながった。

3. 人材の育成・活用・定着の強化

フロント対応の不安感"ゼロ"を目指し、些細な事でも、全スタッフが気を付けて対応ができ

るよう、業務改善の流れを構築し、様々なことが共有できるようになり、入居者、ご利用者へのフロント対応がスムーズに行えるようになった。また、新人職員(パート職員含む)のために、業務把握度を見極めるチェックシートを作成し、習熟度を図った。しかし、目標参画に沿って、個々人への関わりは積極的に行えたが、介護ラダーを活用した指導にまで至らなかった。

4. サービスの質・安全・効率の向上

早期の感染対策を行い、特に冬季の乾燥による感染予防対策として大型加湿器を園内共用部複数個所に配置することで、拡大防止に大きな効果が得られた。リスクマネジメント委員会では各部署のリスク情報・各部署における改善報告の共有を継続。本格的に開始を目指したEQC(エデン・クオリティ・コントロール)の構築については、各職場の進捗差はあるものの今後の活動の方向性が見えてきた。

5. 地域及び他施設との連携・交流

今年度で3回目となる地域の総合防災訓練や大和側一斉清掃に参加することで、地域における園と近隣自治会、町とのつながりを深められた。また、恒例となった奈良ニッセイエデンの園学会を地域の福祉事業所や教育機関を招待し開催した。地域連携グループを中心に、地域向け介護講座や出張介護講座(転倒予防)の開催やエコフリーマーケット(売上は町社会福祉協議会に寄付)への参加など地域に根差した活動を継続し行えた。

■入居者募集活動状況

2015 年度の新規契約戸数は19戸で、(対前年-5戸) その内、6戸が2人入居であった。また、退去が22戸(一般9戸、介護居室13戸)、介護居室への住替えが13戸(対前年比+1戸)あった。その結果、年度末の入居状況は一般居室356戸(対前年比-3戸)、介護居室40戸(対前年比-1戸)となり、入居率は一般居室98.3%、介護居室87.0%、全体で97.1%であった。

■介護保険状況

介護保険認定者は2016年3月31日現在で要支援1;28名(含介護居室1名)、要支援2;16名(同0名)、要介護1;32名(同8名)、要介護2;22名(同12名)、要介護3;10名(同7名)、要介護4;8名(同7名)、要介護5;6名(同5名)、合計;122名(同40名)となった。介護保険認定者数は、2015年度当初の123名から1名減少した。

【数値実績】

■表 1:契約状況

(3月末現在)

(3月末現在)

	居室数	契約数 (内複数入居)	入居率
一般居室	362	356 (96)	98.3%
介護居室	46	40 (1)	87.0%
合 計	408	396 (97)	97.1%

男 性	女 性	全 体
145	348	493
29.4%	70.6%	100.0%

■表2:地域別契約状況

(3月末現在)

		近畿	関東	中国	東海	北陸	四国	九州	北海道	合計
件	数	349	19	1	17	3	5	2	0	396
構月	戊比	88.0%	4.8%	0.3%	4.3%	0.8%	1.3%	0.5%	0.0%	100.0%

■表3:年齢構成

(3月末現在)

			~60	~64	~69	~74	~79	~84	~89	~94	95~	合計
	\	数	1	4	31	55	75	137	116	59	15	493
村	冓瓦	比比	0.2%	0.8%	6.3%	11.2%	15.2%	27.8%	23.5%	12.0%	3.0%	100.0%

■表4:平均年齢

(3 月末現在) **■**表 5:入・退居状況

男性	女 性	全 体
81.2歳	82.2歳	81.9歳

	入居	退去(内死亡退去)
男性	7	8(7)
女性	18	21 (20)
合計	25	29 (27)

■表6:介護保険利用者(介護保険請求者数)

	合 計	内				訳			
		要支援1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護3	要介護 4	要介護 5	
期首人数	113 人	26 人	15 人	34 人	16 人	8 人	7人	7人	
期末人数	110 人	26 人	15 人	26 人	21 人	10 人	7人	5 人	
月平均人数	107.3 人	25.4人	14.0 人	25.7人	20.7人	9.5人	7.0人	5.0人	

◆高齢者総合福祉センター「ふれあいプラザ」

教養講座の構成内容は大きく変化させず、講師の若返りと文学講座の拡大を実践した。イベン トにおいては、純クラシックの演奏会を外部の方は有料として4回開催し質の高い音楽を、より よい環境の下で提供できた。また、この流れを隣接するまほろばホールでの演奏会につなげ近隣 住民を中心に 528 名の来場があった。ニーズの高い外出企画も、美術・美食・逍遥と3つのテー マで各2回開催し、すべて定員に達し施行することができた。講座受講者数 988 名(昨年度 923 名)、イベント参加者数 1,930 名(昨年度 1,950 名)、外出企画参加者数 130 名(昨年度 22 名)

◆ニッセイ聖隷クリニック

2015 年度は、トータルケアサービス実践のため、入院時よりその人にとっての最善のケアを取 入れ、また緩和ケアへの理解を深めて本人が望む終焉など看取りケアに力を入れた。『安全でくつ ろげる入浴』や有老協関連の他施設交換研修、看護ラダー導入などサービスの質向上に努めた。 経営面では、在宅での看取り件数減少に伴う在宅療養支援診療所の施設基準引下げや入院患者数 減少など厳しい状況が続いたが、休診となっていた整形外来を再開させ患者確保に努めた。

◆奈良ベテルホーム

2015 年度は、安定した経営基盤を確立する為に、渉外・広報活動及び利用者管理の強化を実施 した。その結果、入所・ショートステイに関しては予算達成することが出来た。通所リハビリテ ーションに関しては上半期予算未達であったが、10月に運動・物療機器を導入し、下半期は予算 数値を達成できている。また備品・設備等の老朽化に伴い、トイレ改修や居室内のチェストの入 替え等を行った。

◆ニッセイせいれい在宅介護サービスセンター・ベル(西大和店・奈良店)

(西大和店)

訪問介護は、介護保険制度改定により介護報酬単価は下がったが、利用者増による収益増と施設へのヘルパー派遣によって大幅に予算を達成し、安定した運営ができた。福祉用具貸与は、より順調に利用者を伸ばし、予算を達成することができた。

(奈良店)

2015 年 9 月末日をもって西大和地区への集約化のため、ベル奈良店事業所が閉鎖となる。7 月末には訪問介護・居宅介護支援・福祉用具ともに全利用者の他事業所への移行・引継ぎを行った。

◆訪問看護ステーション西大和・ニッセイせいれい訪問看護ステーション奈良

(西大和)

利用者数・訪問件数は増加したが、介護報酬単価の減算による減収や休日加算・交通費の 見直しにより、実績の伸びが無かった。ターミナル期や難病の依頼も増加し、緊急時対応・ 時間外訪問利用者は増えた。今後地域包括ケアシステムにおいて地域と連携し、訪問看護と しての役割を果たしていきたい。

(奈良)

2015年9月末日をもって西大和地区への集約化のため、訪問看護奈良事業所が閉鎖となる。 5~7月末に掛け、訪問看護利用者を家族の要望に合わせ、他事業所へ移行、随時引継ぎを行った。

◆ニッセイせいれいケアプランセンター西大和

4月~5月にかけて新規介護利用者数が多く、件数が予算を上回っていたが、7月から入院・ 入所・ご逝去などにより件数が減少し、件数は若干予算未達だったが、介護保険改定による 特定事業所加算単位数増などにより、利益を上げることができた。

◆その他公益的事業

- (ア) 実習生受入(実人数 38 名 延べ日数 243 日)
- (イ) 職場体験学習受入(河合第二中学校 2名 実日数各3日間)
- (ウ) ボランティア受入(実人数 32 名 延べ日数 791 日)・行事ボランティア(実人数 211 名)
- (エ) 地域住民の河合町高塚台・中山台各老人クラブ介護講座:転倒予防講座、合計 80 名参加
- (オ)介護の日ふれあいフェスタ開催(入居者76名、外部12名)
- (カ) 文化教養講座(開催数 41 回 参加者 988 名)
- (キ) 地域住民・入居者を対象としたコンサート・講演会(開催数12回 参加者1,930名)
- (ク)河合町総合防災訓練への参加(15名、内ご入居者5名)
- (ケ) 近隣自治体開催マーケットへ参加・売上金は社協寄贈(来場者約2,000人、売上55,920円)

ウェル・エイジング・プラザ 松戸ニッセイエデンの園

2015年度は、リビング・オブ・ザ・イヤー2015(高齢者住宅経営者連絡協議会主催)にて優秀賞に輝くなどの広報宣伝活動を努めた結果、好調な入居者募集活動が展開できたため、一般居室については年間を通してほぼ満室の状況であった。しかし、ここ数年の介護認定者の増加傾向は止むことなく、最高齢 108 歳を筆頭とするご入居者の平均年齢は 84 歳に達し、介護認定者数は年間を通じて 1 3 0 名前後を推移し、医療や介護を必要とされるご入居者に溢れた状況であった。そのため、一般居室の介護認定者を対象としたデイサービス「ふれあいサロン」の拡充など、自立した生活への支援について、職員一丸となって取り組むことができた一年であったといえる。

(ア) 2015 年度事業の振り返り

- 1. 有料老人ホーム「松戸ニッセイエデンの園」
- (1) 各課の協力と情報の融合による総合力の発揮とサービスの向上

専門看護師・認定看護師を中心に、入居時面談や入居後の健康相談・定期検診などあらゆる機会を通じてご入居者の暮らしぶりを知ることや健康面での不安や体力変化を把握することに継続して注力した。その情報について、看護・介護のみならず事務部門も含めた職種間・職場間で情報共有することに努め、特に、認知症に関する早期発見・早期診断・早期治療を目指したシステム構築に取り組み、一定の成果を得た。

(2) 人材育成

認知症ケアマッピングや聖隷介護ラダーの活用を図ったほか、喀痰吸引等研修にも二名参加するなど、看護職・介護職をはじめとした各専門職の知識・技術向上が図られた。

(3)経営基盤の安定

全職員の募集活動への参画により、2015年度の新規契約は18件24名となり、年度末の空室 (介護居室は除く)は発生しているもののすべて申込みをいただいている状況となっている。

(4) リスク管理体制の強化

園内にてインフルエンザの集団感染があったが、短期間で収束させることができたことは、 感染対応への職員の意識の向上と考える。

(5) 社会・地域への貢献と連携

地域社会向けにはWAC施設という特徴を生かすとともに、松戸市からの災害時の一次避難 所指定を受け、近隣の松戸愛光園、松戸市立福祉医療センター東松戸病院との連携をさらに 深めることができた。また、近隣介護福祉専門学校留学生を雇用(非常勤)した。

(6) 環境・省エネへの取組み強化・継続

節電対策として園内照明のLED化や省エネ型空調機への更新を計画的に実施した。また、年2回(5月と11月)の地域清掃活動を松戸愛光園と共同して実施した。

2. 松戸ニッセイ聖隷クリニック

CT装置導入により、診療のみならず健診での活用により診療機能の向上が図られた。また、 医師の定着及び拡充により入院・外来とも患者数増加となり、診療所開設以来初めての黒字 決算となった。園との協同により入居者向けの情報発信に積極的に努めた。

3. 高齢者総合福祉センター

2015 年度は、地域交流や高齢者の生きがい増進にかかわるサービスの提供と福祉施設からの出張販売の定期的開催を継続し、好評を博した。また、入居者の世代交代を予測して新たな主催教室や企画の創出に取り組んだ1年であった。また、入居者による子供工作教室は、実際の作業に加え、参加する子供たちとの交流が生きがい増進に大きく寄与している。

4. ニッセイエデンヘルパーステーション(訪問介護)

介護保険改正により厳しい状況を想定したなか、黒字基調での事業運営が継続できたことは、 職員ひとりひとりの経営意識の高さであったと考える。各専門職との連携強化に力を入れた 結果が実績として評価され、近隣のケアマネージャーからの信頼につながったと考える。 また、地域の独居高齢者の見守りシステム構築へのネットワークにも継続して参加した。

(イ) 公益的事業について

- ・松戸市と災害時における避難所等の提供に関する協定書締結(収容避難所指定)
- ・教員免許特例法に基づく介護等体験受入(実人数 12 名、延べ日数 60 日間)
- ・園内ボランティア (朗読・花壇整理) の受入 (延べ人数 100 名)
- ・ペットボトルキャップ回収によるワクチン寄付(46,440個→54人分)

表1:契約状況

	戸数(複数入居)	男性	女性	計
人数	341 (81)	110	312	422

表 2:地域別契約状況

	関東	近畿	東海	九州	北海道	甲信越	東北	北陸	中国	計
人数	400	2	9	0	0	3	4	2	2	422
構成比	94.8	0.5	2. 1	0.0	0.0	0.7	0.9	0.5	0.5	100.0

表3:年齢構成

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人数	14	69	140	102	63	16	17	1	0	422
構成比	3. 3	16. 3	33. 3	24. 2	14. 9	3.8	4.0	0.2	0.0	100.0

表 4: 平均年齢

	平均	男性	女性	
	84. 0	83. 3	84. 3	男
•				,

表5:入・退去状況

	入居	退去	(死亡退去)
男	7	11	(10)
女	17	16	(16)
計	24	27	(26)

表 6:介護保険利用者(介護保険請求者数)

	合 計			内		訳		
		要支援1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護3	要介護 4	要介護 5
期首人数	115	16	10	33	21	9	16	10
期末人数	115	23	16	26	20	10	10	10
月平均人数	114.8	20. 1	11.0	29.8	20. 2	10. 2	14. 2	9. 3

ケア付き高齢者住宅 明日見らいふ南大沢

2015 年度、明日見らいふ南大沢(東京都住宅供給公社(以下公社)からの運営受託事業)は開設 19 年を経過し、20 周年を迎える 2016 年度を目前に、これまでの運営についての検証と将来にむけた方向性を示すための基盤づくりをする重要な年度であった。新たな運営管理体制においても、これまで以上に「あんしん」「あんぜん」を第一義に、質の高いサービスの提供を掲げ運営をすすめてきた。

入居者の多大なる協力と、職員全員の努力、および聖隷の総合化力によるサポートにより、取り組んできた 2015 年度事業の結果・成果について以下のとおり報告する。

- 1. 『いきいき』 『あんしん』の提供
 - (ア) 一人ひとりを、より大切にしたケアの実践
 - ①これまで以上に一人ひとりを意識し、より最適なケアプランの提供に注力した。
 - (イ) 部門間連携によるサービスの提供
 - ①全職場でのETSの積極活用。
 - ②部門を超えたカンファレンスを積極的に実施。
 - (ウ) 看取り介護の継続的取り組み
 - ①指針の見直しにより、介護報酬の基準を上回るケアを提供できる運用を整えた。
 - (エ) 認知症ケアの実践と評価
 - ①事業部の協力により、より精度の高い認知症ケアマッピングの実践・評価が行えた。 個別の評価結果をもとに、さらなる充実したケアの提供を目指す。
- 2. 人材の育成
 - (ア) 現場における個の力と総合化力の強化
 - (イ) 職業人としての技術と意識の向上
 - (ウ) 人材育成の仕組みに沿った職場内教育の実践

職員一人ひとりがプロとして働くことが必要であることを意識づけてきた。現場での実践による人材育成を中心にしつつ、外部の研修会を多くの職員に受講してもらうことにより、サービスの向上を目的とした専門職としての知識・技術の習得とレベルアップを推進してきた。

- 3. さらなる効率的な運営
 - (ア)業務の可視化と情報の共有化
 - (イ)将来を見据えた組織の再構築
 - (ウ) 職場・職員へのコスト意識の浸透

2014年度後半より年度末にかけて、業務効率化のための職場環境の検証と改善のための起案を各職場に求め、2015年度より順次実践した。

- 4. 地域に開かれた施設づくり
 - (ア) 地域における施設の価値創造
 - (イ) 地域活動への積極参加

入居者の皆様から多大な協力をいただき、2015年度も地域ボランティアの受け入れをはじめ、施設内行事や入居者サークルの地域開放等、開かれた施設づくりのための活動を継続的に行うことができた。また、地域の中学生職場体験の受入れ施設として、長年に渡り取り組んできた実績が町田市教育委員会から評価され感謝状を頂くこととなった。今後も、地域のさまざまな世代の皆様へ、高齢者福祉への理解を深めていただくための活動を継続していく。

5. 環境・エコ活動への取り組み

- (ア) 入居者と共同・協働による様々な活動の実践
- (イ) 環境美化活動の継続

6. 入居者募集

(ア) セミナー他、公社募集業務への協力と連携

2015 年度の新規入居者は 21 名(2014 年度実績 18 名)であった。公社募集管理事務所の効果的な募集活動による成果が大きいが、入居者の口コミや見学者への関わり、また施設が取り組む健康増進活動や介護予防活動が新規契約に大きく寄与しており、2016 年度以降も効果的な募集活動を模索し入居率向上を目指す。

【数值実績】

表 1:契約状況

	戸数(複数入居)	男 性	女 性	計
人数	326 戸 (49 戸)	99名	276名	375名

表 2:地域別契約状況

	())!	/_L		⊢		%)	
- (HH /	17	٠	1	•	U/2 1	
1		1 1 /	-	\sim		/()/	

	関東	近畿	東海	九州	北海道	甲信越	東北	計
人数	354名	8名	5名	1名	2名	2名	3名	375名
構成比	94. 5%	2.1%	1.3%	0.3%	0. 5%	0. 5%	0.8%	100.0%

表 3:年齢構成

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人 数	14名	53名	132名	109名	53名	9名	5名	0名	0名	375名
構成比	3. 7%	14. 2%	35. 2%	29.0%	14. 2%	2.4%	1.3%	Ο%	0%	100.0%

表 4: 平均年齢

全 体	男性	女 性
84.4歳	84.1歳	84.6歳

表 5:入・退去状況

	入居	退去	(死亡退去)
男 性	7名	5名	(5名)
女 性	14名	16名	(15名)
計	21 名	21 名	(20名)

表 6:介護保険利用者(介護保険請求)

3 · · / REPROPERTY								
	合 計			内		訳		
		要支援 1	要支援 2	要介護1	要介護 2	要介護3	要介護 4	要介護 5
期首人数	101名	18名	7名	27名	19名	10名	9名	11名
期末人数	103名	13名	10名	29 名	21 名	11 名	10名	9名
月平均人数	100.9名	15.2名	9.8名	29.2名	19.0名	8.9名	9.2名	9.8名

法人本部

社会福祉法の改正が年度末に国会で可決された。理事会と評議員会の役割が新たに規定され、理事や評議員の選任基準が厳格化されることや、利益剰余金を社会へ還元することなど、社会福祉法人に対して従来以上のガバナンスと機能発揮を求める内容となった。法人本部では法改正に関する議論の動向を注視しつつ、情報収集を進めてきたことで法改正への対応に向けて下準備を進めることができた。また、2015年度より新社会福祉法人会計基準へ移行した。会計システムの変更とその運用が大きな課題であったが、各施設の担当者と共に勉強会等を重ね、十分な準備を行うことで、スムーズに移行ができた。

近年、事業部制における本部機能の充実を図ってきた。特に相次ぐ大規模災害の経験から災害時の本部機能の維持は必要性が高く、2015年度はBCPの策定検討、安否確認システムの運用、情報システムの災害対応強化等を行い、これらの訓練に努めてきた。また、ハラスメント勉強会の開催やホットライン制度の充実などコンプライアンス(法令遵守)への対応も進めることができた。人事給与システムの本格稼働による安定運用に取り組んできたが、さらなるシステム活用の一環として目標参画制度も人事システムで稼働するなど大きく進展した。今後の医療福祉の事業展開において情報共有や効率化などが焦点となるが、情報システムを活用した法人内外との連携や情報共有の推進について各事業部と協力しながら対応を進め、法人内連携では着実に実績が伸びている。

人材の確保と育成は聖隷福祉事業団の根幹であり、最重要な課題として取り組んできた。経団連の採用選考に関する指針により大卒生の採用試験の解禁が8月になり、例年のスケジュールとは異なる対応を求められたが、インターンシップ(職場体験)や聖隷カフェ(若手職員による職場紹介イベント)、リクルーターの活用等により混乱なく採用活動を進めることができた。 EPA介護福祉士候補生の育成は今年も国家試験合格者を輩出し、国外からの優秀な人材確保ルートとして実績を上げる事ができた。継続的に取り組んできた障害者雇用拡大については各事業部の協力により法定障害者雇用率を達成した。

将来に向けて新人事制度の検討を行い、制度案の骨格部分の検討を進めている。また、聖隷の 事業発展に対応して、多様なリーダー人材の登用をめざし、女性経営職の育成に向けての研修な ど具体的な取り組みを開始した。

「中期計画 2010-2015」の最終年度を迎え、次期中期計画「中期計画 2016-2020」の設定を行った。ビジョン 2020 の達成をめざし、制度、財務、人事、情報など戦略的な観点から、トップマネジメントによる中期的な経営管理をスタートさせることができた。

【各部の報告】

《総務部》

2015 年度は、公益的な活動としての福祉基金の積極的な情報提供として、福祉基金のみならず推進基金、ホスピス基金の情報をホームページへ掲載した。新たな公益活動としての生活困窮者向け学習支援事業を補完するための独自事業である学習サポート事業に対して福祉基金より

支出割り当てがされたことの情報発信を行った。

新たにマイナンバー制度が開始され、法人本部各部を中心に実務的対応において各事業部と十分な連携、協働をすることができた。また施設での労務トラブル(裁判、斡旋、労働局報告徴収等)においても、施設・事業部・本部の三者が一体となり対応することができた。

防災体制強化の一環として、コンサルタント (無償)を交えた法人全体のBCPの策定検討を開始した。2014年度に導入した安否情報システムは、新たに6施設が導入し、複数施設が2016年度以降導入検討を進めている。

福利厚生サービスの一環として 2014 年度に開始した「聖隷互助会グループ保険」制度は、順調に加入者数を伸ばすことができた。(年間 120 件増加:計 436 件)

2016年3月31日に成立した改正社会福祉法については、改正を見据えた適法な組織体制の検討及び定款改訂スケジュールを示した。2016年度は、改正社会福祉法施行に向けて関係各所と連携を図り、適法・適時・適切な対応を行っていく。

《人事部》

2015年度の主な課題として、下記の3項目について取り組んできた。

- 1. 新人事制度の骨格の組み立てと新人事給与システムの構築
- 2. 障がい者雇用の法定雇用率を達成する仕組みの構築
- 3. 各職種の人材確保の仕組みの確立と方向性の明確化

新人事制度については、2014年度に引き続き骨格の検討を重ねてきた。法人が運営する事業の多様化、各地区における特有の課題、各職種による採用、処遇の適正化等、多面化している課題を解決できる具体的な制度設計までには至らなかった。新人事給与システムは、まだ改善すべき点もあるが自己申告書等のデータ化により法人全体の人事把握をするための資料作成が開始された。障がい者雇用は、各事業部の努力により2015年度は法定雇用率を達成する見込みである。人材確保については、特に採用困難職種の採用方法を検討し、リクルーターの積極的な活動や新たな広報媒体の開拓、学校等との情報交換の充実等を進めてきた。今後の人材不足に対応すべく従来の採用方法を常に見直して時代に合った採用方法を実践していきたい。

《人材開発部》

事業団目標の中期事業目標をもとに 2015 年度は以下の点を目標に掲げ多くの事業に取り組んできた。

- 1. 職員の自己研鑽を後押しする人材開発体制を整備する
- 2. EPA 介護福祉士事業を安定運用する
- 3. 初任者研修の学習形態(通信)の定着と介護職の資格取得の入口として実務者研修へ繋げる
- 4. 介護福祉士国家試験受験者の受験ニーズに応じた実務者研修を企画運営する
- 5. 喀痰吸引等研修の質の向上と指導看護師の養成を行う
- 6. 新規外部研修事業の実施

事業団の階層別の育成として部長研修・キャリアデザイン研修(35歳対象)は2年目を迎え、 事業部間の連携や経営推進や人材開発につなげている。さらに20~30代の女性職員が経営視点 をもてるよう「女性のためのマネジメントワークショップ」を開催し、参加者からも高評価を得 ている。事業団研修の担い手でもあるファシリテーターの育成も強化しマネジャー育成と OFF-JT と OJT の連動が行えるよう取り組んできた。

EPA 介護福祉士候補者 (4 期生) の国家試験も合格の見込みであり、8 期生以降の受け入れ人数の拡大とフィリピン以外の国からの受入れ拡大の検討も進めている。

外部事業として介護職員初任者研修や介護福祉士実務者研修および喀痰吸引等研修を運営し、 介護職人材の確保や資格取得支援を推進している。また、千葉・静岡・兵庫の事業団施設が存在 する地域ニーズや制度改革を見越した研修が展開された。

今後は採用から育成まで事業団内職員のキャリアパスを明確にし、職員のモチベーションを上げ、最高の質が提供できるような取り組みを行う。

《財務部》

2015 年度は、4月より「新社会福祉法人会計基準」が導入され、新たな基準に基づいた会計処理が始まった。それに伴い、業務フローの見直しをはじめ、適正な月次決算および年次決算ができるよう、各施設の経理担当者に対する教育研修の充実を図り、円滑に新基準への移行を果たすことができた。一方、資金調達についても、史上空前の低金利下において、さらなる資金調達コストの削減を図るべく、銀行との利率交渉を行った。

また、2016年度から2020年度までの「新・中期事業計画」の策定に当たっては、「事業の継続性」を軸に検討を重ね、「キャッシュフロー経営」と「有利子負債比率」を柱とした経営指標を盛り込むことができた。

さらに、社会福祉法人制度改革への対応については、「社会福祉充実残額」の試算をはじめ、 財務諸表、現況報告書の公表義務に対する対応等、2016年4月の法律施行に焦点を当てた検討 を総合企画室とともに実施した。

2016年度に向けては、月次経営報告の早期化を実現させ、事業団としてスピーディな経営判断ができるベースを造るとともに、社会福祉法改正、消費税増税等、制度の改正にも注意を払いつつ、万全を期した準備を進めていきたいと考えている。

《総合企画室》

2016年度から開始する「中期計画 2016-2020」の策定を行った。5年後の聖隷の在り方を模索しつつ、各事業部と密接な検討を重ね、明確な目標を定めたことで新たな事業戦略として取りまとめることができた。同時に、毎年の振り返りをルールとすることで"ビジョン 2020"をスローガンで終わらせずに達成を目指す仕組みとした。

シンクタンク機能として政府の審議会の内容や理事長からの特命事項の結果を報告するブリーフィングを毎週実施した。また既存事業の検証作業を行い、聖隷淡路病院、聖隷健康サポートセンターShizuokaの事業計画の振り返りを行った。事業計画の検証と共に聖隷淡路病院へはデータ提出加算の取得や地域包括ケア病棟開設の事務的な支援を行い、最短期間での取得・開設に貢献できた。健康サポートセンターShizuokaとは定期的な協議を実施し、あらゆる企業、機関との契約拡大支援を継続的に進めていく。

秘書広報業務ではあらたな情報発信媒体を2つ開始した。「Iam」は聖隷の人、モノ、事に焦点を当てドラマのある物語としてより印象深く聖隷を理解していただけるインタビュー形式の編集とし、「実践躬行」は理事長をはじめとした役員に理念を中心に聖隷の事業を語っていただいた。いずれもホームページで広く公開し、利用者や就職希望者に訴求でき、聖隷のブランド力

強化に貢献できるツールとして育てていく。

数年にわたり議論されてきた社会福祉法改正が成立し、社会福祉法人にとって組織や公益的事業の推進など大きな変革を求められることになった。法案成立以前から情報収集に努め、変更項目等の準備をすることができたため、今後の施行に合わせて各部と協力して具体的な対応を進めていく。

《総合情報システム部》

2015年度は、次の5つの重点目標を掲げて、各種業務に取り組んだ。

- 1. 情報システムの災害対策及び事業継続のための環境整備
- 2. 事業団内外の連携・情報共有に寄与する情報システム構築
- 3. 聖隷らしいサービスの提供に寄与する情報システム構築
- 4. 情報システム部門の組織力強化と技術・能力の向上
- 5. 事業団内の情報資産の正確な把握と適正な利用の推進

災害対策及び事業継続のための環境整備については、法人本部・在宅福祉サービス部・高齢者 公益事業部のNASデータのバックアップをデータセンターへ集約・移行が完了し、またDATのバックアップについてもデータセンターで行う運用設計を実施し、次年度早い段階で実現する予定 である。また、今年度開設したリハビリプラザいなさ及びケアプラン引佐南部で使用する業務システムについては、クラウド基盤を活用したシステムによる構築を行い、運用を開始している。

事業団内外の連携・情報共有に寄与するシステム構築では、浜松地区における利用者情報共有システム(ID-Link)の更なる利用を促進し、保健事業部と聖隷三方原病院間の紹介患者については、ほぼ全例が対象となるなど利用範囲が拡大している。今後は、保健・医療事業以外の聖隷内における他事業との連携に向けた働きかけを行う予定である。また、5月にはデスクネッツのバージョンアップを無事に完了し、更なる利用の拡大に向けた基盤整備を実施した。

聖隷らしいサービスの提供に寄与するシステム構築では、社内システムを外部から利用可能とする環境構築を行い、業務効率化に向けた基盤の整備を実現した。また、各施設における無線 LAN 利用環境構築を支援し、モバイルデバイスの活用による業務効率化を実現した。

情報システム部門の組織力強化と技術・能力の向上では、事業団情報システム部門のスキル体系 (UISS) の調査結果を利用した人事異動を実施し、各種勉強会の実施と併せ、専門技術の伝達と次世代を担う人材育成を継続して行った。

事業団内の情報資産の正確な把握と適正な利用の推進では、今年度も継続して IT 監査の支援 (39 施設)を行い、各施設におけるシステム利用の適正化とコンプライアンス意識の醸成に貢献した。また、全職員を対象とした「情報システムニュース」を毎月発刊し、情報システム利用 におけるリテラシーの向上とリスク対策意識の向上を目的とした情報提供に努めた。

2016 年度は、各事業部における各種業務のシステム構築が予定されており、システム導入における設計段階から積極的に関与し、個別最適のみならず事業団全体にも価値のあるシステム構築を支援したいと考える。

《監査室》

2015年度は、①施設のガバナンス体制強化、②内部監査の効率的・効果的実施、③コンプライアンス教育の充実、④コンプライアンスホットライン制度の充実を目標に掲げ業務を推進した。

核となる内部監査については、2014 年度の結果及び予想される課題から重点監査項目を設定 し、効率的・効果的な監査を行った。また、病院施設基準監査は、2015 年度も医事課長会の協力を得て継続実施し、大きな改善を得ることができた。診療所監査は、保険請求全般の監査項目を追加し多くの課題発見に貢献した。

コンプライアンス教育については、従前通り施設の要請により講師派遣を行った。階層毎に差別化した教育内容を継続的に見直しブラッシュアップした。

内部通報・相談窓口としてのコンプライアンスホットラインは、4年連続で相談件数の増加を果たした。制度の周知が進んだとともに、相談への対応を丁寧に行うことで信頼度が増したものと思われる。ただし、相談窓口の周知については依然十分とは言えず、継続的に啓発活動を行う必要がある。そのために2015年度は教育ツールの改訂や情報発信を計画していたが未達に終わった。2016年度の優先課題とし、重大事故や不正の予防・早期発見に資する活動を行いたい。

施設種別	医療施設の事業
施設名	聖隷横浜病院 フェリーチェせいれい
所在地	神奈川県横浜市保土ヶ谷区岩井町215
工事名	聖隷横浜病院フェリーチェ改修工事
事業完了年月日	建築工事:2016年1月8日 完成引渡し
施設の構造	鉄筋コンクリート造4階建
延床面積	1542. 14 m²
	総建築工事費 155,844,000円 (税込)
総事業費	
	合計 155,844,000円
財源	自己資金 155,844,000円
於1 <i>似</i> 尔	合計 155,844,000円
備考	改修内容:1Fひだまり保育園、2Fせいれい訪問看護ステーション横浜、 3Fロッカー・倉庫、4F事務室・会議室・看護実習更衣 等

施設種別	福祉型児童発達支援センタ	_	
施設名	のぞみ園		
所在地	鹿児島県奄美市名瀬和光町	741-3	
工事名	のぞみ園移転新築工事		
事業完了年月日	建築工事:2015年8月15日	完成引渡し	
施設の構造	鉄筋コンクリート造 2階	·建	
延床面積	532. 30 m²		
	建築工事費	179, 031, 721円	
	外構工事	8, 585, 879円	
総事業費	設計監理費	10, 470, 600円	
松尹未負	備品費	19, 194, 592円	
	その他	1,944,000円	
	合計	219, 226, 792円	
	国県補助金	78, 816, 000円	
	うち国庫補助金	52, 544, 000円	
財源	うち県費補助金	26, 272, 000円	
火1 (//六	福祉医療機構借入金	80,000,000円	
	自己資金	60, 410, 792円	
	合計	219, 226, 792円	
備考			

施設種別	通所介護事業 訪問看護事業 地域包括支援事業 居宅介護支援事業
施設名	聖隷ケアセンターいなさ
所在地	浜松市北区引佐町井伊谷2569番地
工事名	聖隷ケアセンターいなさ新築工事
事業完了年月日	建築工事:2015年9月18日 完成引渡し
施設の構造	鉄骨造 2階建(くい基礎)
延床面積	1 階 356.05㎡ 総延床面積 698.39㎡ 2 階 342.34㎡ 建築面積 393.93㎡
	土地関連費用 56,341,000円
	総建築工事費 179, 280, 000円
総事業費	設計監理費 8,229,600円
心ず未具	備品 28, 258, 069円
	その他 1,780,000円
	合計 273,888,669円
	自己資金 270,788,669円
財源	補助金 -3,100,000円 訪問看護整備補助 (浜松市)
	合計 273, 888, 669円
備考	

施設種別	保育所
施設名	春日保育園
所在地	鹿児島県奄美市名瀬春日町1-1
工事名	春日保育園増改築工事
事業完了年月日	建築工事:2014年11月1日~2015年8月31日
施設の構造	鉄筋コンクリート造 2階建
延床面積	增築面積:115.39㎡ ※増築後延床面積:803.92㎡ 改修面積:221.16㎡
	建築工事費 110, 106, 500円
	外構工事 2,802,179円
	解体撤去工事 749,441円
総事業費	設計監理費 8,202,600円
	備品費 7,454,052円
	その他 1,512,000円
	合計 130,826,772円
	安心こども基金 62,577,000円
	うち国庫補助金 55,624,000円
H-//IE	うち市費補助金 6,953,000円
財源	福祉医療機構借入金 0,000円
	自己資金 68, 249, 772円
	合計 130,826,772円
備考	



法人の概要

法人名 社会福祉法人 聖隷福祉事業団

• 創立 1930年(昭和5年)5月

• 基本理念 キリスト教精神に基づく「隣人愛」

• 代表者 **理事長 山本 敏博**

• 所在地 **静岡県浜松市中区住吉 2 丁目 12 番 12 号**(法人登記)

• 事業内容 **1. 医療事業** (病院・診療所・ホスピスなど)

2. 保健事業 (健康増進・健康診断・人間ドック・疾病予防・ 労働環境測定など)

3. 福祉事業 (特別養護老人ホーム・身体障害者支援施設・救護施設・ 無料又は低額診療・保育事業・有料老人ホーム事業など)

4. 介護サービス事業(介護老人保健施設・通所事業・

訪問看護ステーション・在宅訪問事業など)

• 事業規模 施設・事業数 : **143 施設 290 事業** (2016 年 3 月時点)

職 員 数 : 13,408名 (非常勤含む) (2016年3月時点)

サービス活動収益: 1,055 億円 (2015 年度)

実施する事業の概要

【第1種社会福祉事業】 2016/3/31現在

施設(事業)の種類	施設名	定員	開設年月日	所 在 地
救護施設	聖隷厚生園讃栄寮	60	1978年4月1日	静岡県浜松市
特別養護老人ホーム	奄美佳南園	80	1974年5月1日	鹿児島県奄美市
特別養護老人ホーム	宝塚栄光園	70	1979年4月1日	兵庫県宝塚市
特別養護老人ホーム	横須賀愛光園	104	1992年6月1日	神奈川県横須賀市
特別養護老人ホーム	森町愛光園	80	1993年4月1日	静岡県周智郡森町
特別養護老人ホーム	森町愛光園天宮サテライト	29	2012年4月1日	静岡県周智郡森町
特別養護老人ホーム	いなさ愛光園	70	1997年4月1日	静岡県浜松市
特別養護老人ホーム	和合愛光園	90	1999年4月1日	静岡県浜松市
特別養護老人ホーム	和合愛光園初生サテライト	29	2012年4月1日	静岡県浜松市
特別養護老人ホーム	和合愛光園和合サテライト	29	2014年4月1日	静岡県浜松市
特別養護老人ホーム	浜北愛光園	150	1999年4月1日	静岡県浜松市
特別養護老人ホーム	花屋敷栄光園	108	1999年4月1日	兵庫県宝塚市
特別養護老人ホーム	淡路栄光園	60	1999年4月1日	兵庫県淡路市
特別養護老人ホーム	浦安市特別養護老人ホーム(受託経営)	100	1999年8月1日	千葉県浦安市
特別養護老人ホーム	松戸愛光園	100	2003年5月1日	千葉県松戸市
特別養護老人ホーム	浦安愛光園	70	2006年4月1日	千葉県浦安市
特別養護老人ホーム	藤沢愛光園	100	2011年4月1日	神奈川県藤沢市
特別養護老人ホーム	聖隷カーネーションホーム	56	2014年4月1日	兵庫県淡路市
特別養護老人ホーム	宝塚すみれ栄光園	100	2014年4月1日	兵庫県宝塚市
軽費老人ホーム	もくせいの里	50	1978年12月1日	静岡県浜松市
軽費老人ホーム	ケアハウス花屋敷	100	1999年4月1日	兵庫県宝塚市
軽費老人ホーム	浦安市ケアハウス(受託経営)	50	1999年8月1日	千葉県浦安市
軽費老人ホーム	ケアハウス宝塚	60	2014年4月1日	兵庫県宝塚市
障害者支援施設	障害者支援施設 みるとす	20	2003年4月1日	静岡県浜松市
障害者支援施設	聖隷厚生園信生寮	60	1978年4月1日	静岡県浜松市

施設(事業)の種類	施設名	定員	開設年月日	所 在 地
障害児入所施設	聖隷おおぞら療育センター	170	2006年10月1日	静岡県浜松市

【第2種社会福祉事業】

施設(事業)の種類	施設名	定員	開設年月日	所 在 地
医療保護施設	聖隷三方原病院	934	1942年11月9日	静岡県浜松市
幼保連携型認定こども園	聖隷こども園わかば	150	1966年11月1日	静岡県浜松市
保育所	こうのとり保育園	120	1971年11月1日	静岡県磐田市
保育所	春日保育園	90	1972年4月1日	鹿児島県奄美市
幼保連携型認定こども園	聖隷こども園桜ヶ丘	160	1975年4月1日	静岡県浜松市
幼保連携型認定こども園	聖隷こども園ひかりの子	150	1976年4月1日	静岡県浜松市
保育所	こうのとり東保育園	200	1978年4月1日	静岡県磐田市
保育所	逆瀬川あゆみ保育園	45	2002年4月1日	兵庫県宝塚市
保育所	御殿山あゆみ保育園	120	2003年4月1日	兵庫県宝塚市
保育所	野上あゆみ保育園	90	2009年4月1日	兵庫県宝塚市
保育所	こうのとり豊田保育園	120	2011年4月1日	静岡県磐田市
事業所内保育所	聖隷浜松病院ひばり保育園	120	2015年4月1日	静岡県浜松市
事業所内保育所	聖隷めぐみ保育園	19	2015年4月1日	静岡県浜松市
地域子育て支援拠点事業	聖隷こども園わかば		2009年4月1日	静岡県浜松市
地域子育て支援拠点事業	こうのとり保育園	_	2009年4月1日	静岡県磐田市
地域子育て支援拠点事業	磐田市子育て支援総合センター のびのび(受託経営)		2003年7月1日	静岡県磐田市
一時預かり事業	聖隷こども園わかば		2009年4月1日	静岡県浜松市
一時預かり事業	こうのとり保育園		2009年4月1日	静岡県磐田市
一時預かり事業	春日保育園		2009年4月1日	鹿児島県奄美市
一時預かり事業	聖隷こども園桜ヶ丘	_	2009年4月1日	静岡県浜松市
一時預かり事業	聖隷こども園ひかりの子	_	2009年4月1日	静岡県浜松市
一時預かり事業	こうのとり東保育園	_	2009年4月1日	静岡県磐田市
一時預かり事業	逆瀬川あゆみ保育園	_	2009年4月1日	兵庫県宝塚市
一時預かり事業	御殿山あゆみ保育園	_	2009年4月1日	兵庫県宝塚市
一時預かり事業	野上あゆみ保育園	_	2009年4月1日	兵庫県宝塚市

施設(事業)の種類	施設名	定員	開設年月日	所 在 地
病児保育事業	聖隷こども園わかば	4	2015年4月1日	静岡県浜松市
病児保育事業	こうのとり保育園	6	2015年4月1日	静岡県磐田市
病児保育事業	こうのとり東保育園	4	2015年4月1日	静岡県磐田市
児童厚生施設	御殿山児童館	_	2003年4月1日	兵庫県宝塚市
児童厚生施設	野上児童館	_	2008年11月4日	兵庫県宝塚市
助産施設	聖隷浜松病院併設助産所	10	1969年6月1日	静岡県浜松市
助産施設	聖隷三方原病院併設助産所	6	1994年9月19日	静岡県浜松市
老人デイサービスセンター	横須賀愛光園デイサービスセンター	40	1992年6月1日	神奈川県横須賀市
老人デイサービスセンター	奄美佳南園デイサービスセンター	20	1993年2月1日	鹿児島県奄美市
老人デイサービスセンター	森町愛光園デイサービスセンター	42	1993年4月1日	静岡県周智郡
老人デイサービスセンター	聖隷逆瀬台デイサービスセンター	40	1995年10月1日	兵庫県宝塚市
老人デイサービスセンター	奄美佳南園春日デイサービスセンター	15	1996年11月1日	鹿児島県奄美市
老人デイサービスセンター	いなさ愛光園デイサービスセンター	45	1997年4月1日	静岡県浜松市
老人デイサービスセンター	和合愛光園デイサービスセンター	62	1999年4月1日	静岡県浜松市
老人デイサービスセンター	高薗デイサービスセンター	35	1999年4月1日	静岡県浜松市
老人デイサービスセンター	花屋敷デイサービスセンター	59	1999年4月1日	兵庫県宝塚市
老人デイサービスセンター	デイサービスセンター淡路	35	1999年4月1日	兵庫県淡路市
老人デイサービスセンター	浦安市高洲高齢者デイサービス センター(受託経営)	20	1999年8月1日	千葉県浦安市
老人デイサービスセンター	浦安市猫実高齢者デイサービス センター(受託経営)	20	1999年10月1日	千葉県浦安市
老人デイサービスセンター 	聖隷逆瀬川デイサービスセンター	40	2000年4月1日	兵庫県宝塚市
老人デイサービスセンター	聖隷デイサービスセンター住吉	35	2001年8月1日	静岡県浜松市
老人デイサービスセンター	松戸愛光園デイサービスセンター	29	2003年5月1日	千葉県松戸市
老人デイサービスセンター	聖隷デイサービスセンター初生	50	2004年4月1日	静岡県浜松市
老人デイサービスセンター	聖隷山本デイサービスセンター	30	2007年2月1日	兵庫県宝塚市
老人デイサービスセンター	聖隷リハビリプラザIN高丘	50	2007年4月1日	静岡県浜松市
老人デイサービスセンター	聖隷逆瀬川デイサービスセンター虹	12	2010年10月1日	兵庫県宝塚市
老人デイサービスセンター	聖隷デイサービスセンター三方原	65	2011年3月15日	静岡県浜松市
老人デイサービスセンター	聖隷デイサービスセンター藤沢	30	2011年4月1日	神奈川県藤沢市
		•		

施設(事業)の種類	施設名	定員	開設年月日	所 在 地
老人デイサービスセンター	聖隷デイサービスセンター結い	10	2013年6月3日	兵庫県宝塚市
老人デイサービスセンター	聖隷カーネーションホーム	42	2014年4月1日	兵庫県淡路市
老人デイサービスセンター	宝塚すみれ栄光園デイサービス センター	24	2014年10月1日	兵庫県宝塚市
老人デイサービスセンター	聖隷リハビリプラザいなさ	45	2015年10月1日	静岡県浜松市
老人短期入所事業	老人短期入所事業(横須賀愛光園)	16	1992年6月1日	神奈川県横須賀市
老人短期入所事業	老人短期入所事業(森町愛光園)	12	1993年4月1日	静岡県周智郡
老人短期入所事業	老人短期入所事業(宝塚栄光園)	15	1993年4月1日	兵庫県宝塚市
老人短期入所事業	老人短期入所事業(いなさ愛光園)	20	1997年4月1日	静岡県浜松市
老人短期入所事業	老人短期入所事業(和合愛光園)	20	1999年4月1日	静岡県浜松市
老人短期入所事業	老人短期入所事業(浜北愛光園)	40	1999年4月1日	静岡県浜松市
老人短期入所事業	老人短期入所事業(花屋敷栄光園)	12	1999年4月1日	兵庫県宝塚市
老人短期入所事業	老人短期入所事業(淡路栄光園)	17	1999年4月1日	兵庫県淡路市
老人短期入所事業	浦安市特別養護老人ホーム (受託経営)	50	1999年8月1日	千葉県浦安市
老人短期入所事業	老人短期入所事業(奄美佳南園)	10	1999年4月1日	鹿児島県奄美市
老人短期入所事業	老人短期入所事業(松戸愛光園)	20	2003年6月1日	千葉県松戸市
老人短期入所事業	老人短期入所事業(藤沢愛光園)	20	2011年4月1日	神奈川県藤沢市
老人短期入所事業	聖隷カーネーションホーム	14	2014年4月1日	兵庫県淡路市
老人短期入所事業	老人短期入所事業 (宝塚すみれ栄光園)	20	2014年4月1日	兵庫県宝塚市
老人介護支援センター	奄美佳南園在宅介護支援センター (受託経営)	_	1993年2月1日	鹿児島県奄美市
老人介護支援センター	いなさ愛光園在宅介護支援センター (受託経営)	_	1997年4月1日	静岡県浜松市
老人介護支援センター	森町愛光園在宅介護支援センター (受託経営)	_	1998年10月1日	静岡県周智郡
老人介護支援センター	聖隷在宅介護支援センター淡路 (受託経営)	_	1999年4月1日	兵庫県淡路市
老人介護支援センター	浦安市高洲在宅介護支援センター (受託経営)	_	1999年8月1日	千葉県浦安市
老人居宅介護等事業	奄美佳南園	_	1993年10月1日	鹿児島県奄美市
老人居宅介護等事業	聖隷ヘルパーセンターいなさ	_	1997年4月1日	静岡県浜松市
老人居宅介護等事業	聖隷ヘルパーセンター	_	1997年4月1日	静岡県浜松市
老人居宅介護等事業	聖隷ヘルパーステーション宝塚	_	1997年10月1日	兵庫県宝塚市
老人居宅介護等事業	聖隷ヘルパーセンター森町	_	1998年10月1日	静岡県周智郡

施設(事業)の種類	施設名	定員	開設年月日	所 在 地
老人居宅介護等事業	せいれいヘルパーステーション 横須賀	_	2000年8月1日	神奈川県横須賀市
老人居宅介護等事業	聖隷ヘルパーステーション淡路	_	1999年4月1日	兵庫県淡路市
老人居宅介護等事業	聖隷ヘルパーステーション藤沢	_	2011年4月1日	神奈川県藤沢市
老人居宅介護等事業	聖隷ヘルパーセンター初生	_	2012年7月1日	静岡県浜松市
老人居宅介護等事業	聖隷巡回ヘルパーぐるり和合	_	2013年8月1日	静岡県浜松市
老人居宅介護等事業	聖隷巡回ヘルパーぐるり初生	_	2013年10月1日	静岡県浜松市
老人居宅介護等事業	聖隷巡回ヘルパーぐるり横須賀	_	2014年4月1日	神奈川県横須賀市
認知症対応型老人共同生活援助事業	ほのぼのケアガーデン	9	2001年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 居宅介護等事業	奄美佳南園		1993年2月1日	鹿児島県奄美市
(障害福祉サービス事業) 居宅介護等事業	聖隷ヘルパーセンター	_	1997年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 居宅介護等事業	聖隷ヘルパーステーション宝塚	_	1999年4月1日	兵庫県宝塚市
(障害福祉サービス事業) 居宅介護等事業	せいれいヘルパーステーション 横須賀	_	2000年8月1日	神奈川県横須賀市
(障害福祉サービス事業) 居宅介護等事業	聖隷ヘルパーステーション淡路	_	2012年4月1日	兵庫県淡路市
(障害福祉サービス事業) 居宅介護等事業	聖隷ヘルパーステーション初生		2012年7月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 居宅介護等事業	聖隷ヘルパーステーション藤沢	_	2011年4月1日	神奈川県藤沢市
(障害福祉サービス事業) 重度訪問介護事業	奄美佳南園	_	1993年2月1日	鹿児島県奄美市
(障害福祉サービス事業) 重度訪問介護事業	聖隷ヘルパーセンター	_	1997年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 重度訪問介護事業	聖隷ヘルパーステーション宝塚		1999年4月1日	兵庫県宝塚市
(障害福祉サービス事業) 重度訪問介護事業	せいれいヘルパーステーション 横須賀	_	2000年8月1日	神奈川県横須賀市
(障害福祉サービス事業) 重度訪問介護事業	聖隷ヘルパーステーション淡路	_	2012年4月1日	兵庫県淡路市
(障害福祉サービス事業) 重度訪問介護事業	聖隷ヘルパーステーション初生	_	2012年7月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 重度訪問介護事業	聖隷ヘルパーステーション藤沢	_	2011年4月1日	神奈川県藤沢市
(障害福祉サービス事業) 同行援護事業	聖隷ヘルパーセンター	_	2011年10月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 同行援護事業	聖隷ヘルパーステーション宝塚	_	2012年3月1日	兵庫県宝塚市
(障害福祉サービス事業) 同行援護事業	聖隷ヘルパーステーション淡路	_	2012年4月1日	兵庫県淡路市
(障害福祉サービス事業) 同行援護事業	聖隷ヘルパーステーション初生	_	2012年7月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 自立訓練(生活訓練)	生活訓練事業所ナルド	14	2010年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 自立訓練(機能訓練)	聖隷厚生園まじわりの家	6	2011年10月1日	静岡県浜松市

施設(事業)の種類	施設名	定員	開設年月日	所 在 地
(障害福祉サービス事業) 生活介護	聖隷厚生園信生寮	60	1993年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 生活介護	生活訓練事業所ナルド	6	2011年10月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 生活介護	聖隷厚生園まじわりの家	14	2011年10月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 生活介護	障害者支援施設 みるとす	40	1999年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 生活介護	あさひ	35	2006年10月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 療養介護	聖隷おおぞら療育センター	150	2006年10月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	聖隷厚生園信生寮	10	1978年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	聖隷厚生園讃栄寮	4	1978年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	障害者支援施設 みるとす	2	2003年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	聖隷おおぞら療育センター	20	2006年10月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	奄美佳南園		2015年6月1日	鹿児島県奄美市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	浜北愛光園	-	2013年1月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	森町愛光園	T -	2013年11月1日	静岡県周智郡
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	和合愛光園	T -	2014年8月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	和合愛光園初生サテライト	-	2014年8月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	和合愛光園和合サテライト	_	2014年8月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 就労移行支援事業	ナルド工房	20	2007年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 就労移行支援事業	聖隷厚生園チャレンジエ房	15	2012年3月15日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 就労移行支援事業	聖隷厚生園きらめき工房	15	2014年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 就労継続支援事業	ナルド工房	15	2007年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 就労継続支援事業	聖隷厚生園チャレンジエ房	15	2012年3月15日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 就労継続支援事業	聖隷厚生園きらめき工房	15	2014年4月1日	静岡県浜松市
地域活動支援センター	ナルド(受託経営)	_	2003年4月1日	静岡県浜松市
移動支援事業	聖隷ヘルパーセンター	_	1997年4月1日	静岡県浜松市
移動支援事業	聖隷ヘルパーステーション宝塚	_	1999年4月1日	兵庫県宝塚市
移動支援事業	せいれいヘルパーステーション 横須賀		2000年8月1日	神奈川県横須賀市
移動支援事業	奄美佳南園	-	2007年7月1日	鹿児島県奄美市
移動支援事業	聖隷ヘルパーステーション淡路	-	2012年4月1日	兵庫県淡路市
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·				

施設(事業)の種類	施設名	定員	開設年月日	所 在 地
移動支援事業	聖隷ヘルパーセンター初生		2012年7月1日	静岡県浜松市
無料又は低額診療事業	聖隷淡路病院	152	1999年12月1日	兵庫県淡路市
無料又は低額診療事業	聖隷横浜病院	300	2003年3月1日	神奈川県横浜市
無料又は低額診療事業	聖隷佐倉市民病院	400	2004年3月1日	千葉県佐倉市
無料又は低額介護老人保健施設	三方原ベテルホーム	150	1991年5月1日	静岡県浜松市
無料又は低額介護老人保健施設	浦安ベテルホーム	100	2006年4月1日	千葉県浦安市
障害児通所支援事業 (児童発達支援)	のぞみ園	25	2014年1月1日	鹿児島県奄美市
障害児通所支援事業 (放課後等デイサービス)	のぞみ園	15	2014年1月1日	鹿児島県奄美市
障害児通所支援事業 (保育所等訪問)	のぞみ園	_	2015年3月1日	鹿児島県奄美市
障害児通所支援事業	磐田市発達支援センターはあと (受託経営)	_	2007年11月1日	静岡県磐田市
障害児通所支援事業 (児童発達支援)	児童発達支援センターひかりの子	15	2012年4月1日	静岡県浜松市
障害児通所支援事業 (放課後等デイサービス)	児童発達支援センターひかりの子	5	2013年4月1日	静岡県浜松市
障害児通所支援事業 (保育所等訪問)	児童発達支援センターひかりの子		2015年4月1日	静岡県浜松市
障害児通所支援事業 (児童発達支援)	児童発達支援事業所かるみあ	20	2013年10月1日	静岡県磐田市
障害児通所支援事業 (保育所等訪問)	児童発達支援事業所かるみあ	_	2013年10月1日	静岡県磐田市
障害児相談支援事業	信生	_	2012年6月1日	静岡県浜松市
障害児相談支援事業	浜松東	_	2013年9月1日	静岡県浜松市
障害児相談支援事業	指定相談支援事業所くすのき	_	2015年4月1日	静岡県浜松市
障害児相談支援事業	指定相談支援事業所おおぞら		2014年10月1日	静岡県浜松市
障害児相談支援事業	のぞみ園		2014年4月1日	鹿児島県奄美市
一般相談支援事業	信生		2013年4月1日	静岡県浜松市
一般相談支援事業	ナルド	_	2013年4月1日	静岡県浜松市
特定相談支援事業	浜松東	_	2007年4月1日	静岡県浜松市
特定相談支援事業	信生	_	2012年4月1日	静岡県浜松市
特定相談支援事業	ナルド	_	2012年4月1日	静岡県浜松市
特定相談支援事業	指定相談支援事業所くすのき		2012年4月1日	静岡県浜松市
特定相談支援事業	のぞみ園	_	2014年4月1日	鹿児島県奄美市
特定相談支援事業	指定相談支援事業所おおぞら	-	2014年10月1日	静岡県浜松市
				<u> </u>

【公益事業】

【公益事業】	Γ			
施設(事業)の種類	施設名	定員	開設年月日	所 在 地
医療施設	聖隷浜松病院	744	1962年3月5日	静岡県浜松市
医療施設	聖隷浜松病院附属診療所 聖隷健康診断センター	_	1975年5月16日	静岡県浜松市
医療施設	宝塚エデンの園附属診療所	19	1979年4月1日	兵庫県宝塚市
医療施設	油壺エデンの園附属診療所	15	1986年11月1日	神奈川県三浦市
医療施設	診療所聖隷予防検診センター	11	1987年4月1日	静岡県浜松市
医療施設	診療所聖隷クリニック南大沢	_	1996年6月1日	東京都八王子市
医療施設	浜名湖エデンの園診療所	_	2000年3月15日	静岡県浜松市
医療施設	浦安せいれいクリニック	_	2006年4月1日	千葉県浦安市
医療施設	浜松市リハビリテーション病院 (受託経営)	225	2008年4月1日	静岡県浜松市
医療施設	袋井市立聖隷袋井市民病院 (受託経営)	150	2013年5月1日	静岡県袋井市
医療施設	聖隷健康サポートセンター Shizuoka	_	2010年4月1日	静岡県静岡市
医療施設	聖隷静岡健診クリニック	_	2013年4月1日	静岡県静岡市
有料老人ホーム	介護付有料老人ホーム 浜名湖エデンの園	519	1973年5月1日	静岡県浜松市
有料老人ホーム	介護付有料老人ホーム 松山エデンの園	169	1980年6月20日	愛媛県松山市
有料老人ホーム	介護付有料老人ホーム 油壺エデンの園	550	1986年11月1日	神奈川県三浦市
有料老人ホーム	介護付有料老人ホーム 浦安エデンの園	324	2007年7月1日	千葉県浦安市
有料老人ホーム	介護付有料老人ホーム 横浜エデンの園	50	2010年4月1日	神奈川県横浜市
有料老人ホーム	住宅型有料老人ホーム 藤沢エデンの園ー番館	418	2011年4月1日	神奈川県藤沢市
有料老人ホーム	介護付有料老人ホーム 藤沢エデンの園二番館	54	2011年4月1日	神奈川県藤沢市
有料老人ホーム	介護付有料老人ホーム 結いホーム宝塚	100	2013年11月1日	兵庫県宝塚市
地域における公的介護施設等の 計画的な整備等の促進に関する 法律第2条に規定する特定民間施設	ウエル・エイジング・コミュニティ 宝塚エデンの園	551	1979年4月1日	兵庫県宝塚市
医療施設、福祉サービス及び介護保険の 事業への業務支援・指導の事業	ウエル・エイジング・プラザ 奈良ニッセイエデンの園	598 1992年4月1日 奈良県北葛城		奈良県北葛城郡
医療施設、福祉サービス及び介護保険の 事業への業務支援・指導の事業	奈良ベテルホーム	116	1992年4月1日	奈良県北葛城郡

# ** ** ** ** ** *	集松 戸市
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーションと言	
お問看護ステーション お問看護ステーション及び お問看護ステーション お問看護ステーション お問看護ステーション及び お問看護ステーション お問看護ステーション及び お問看護ステーション 日995年10月1日 静能 指定老人訪問看護ステーション及び お問看護ステーション 日995年10月1日 静能 指定老人訪問看護ステーション及び お問看護ステーション カ問看護ステーション及び お問看護ステーション及び お問看護ステーション及び お問看護ステーション及び お問看護ステーション及び お問看護ステーション及び お問看護ステーション及び お問看護ステーション及び お問看護ステーション及び お問看護ステーション及び お問看護ステーションと及び お問看護ステーション及び お問看護ステーション及び 世いれい訪問看護ステーション 神報 神報 大変を人訪問看護ステーションとび 世いれい訪問看護ステーション 1997年12月1日 神報 日997年12月1日 神報 日998年11月1日 神報 日998年11月1日 神報 日998年11月1日 神報 日998年11月1日 神報 日998年11月1日 中報 日998年11月1日 中報 日998年11月1日 日998年1	都八王子市
お問看護ステーション お問看護ステーション及び お問看護ステーション 1995年10月1日 静能 指定老人訪問看護ステーション及び 計問看護ステーション及び 計問看護ステーションと及び 計問看護ステーション及び 世いれい訪問看護ステーション 世いれい訪問看護ステーション 1997年12月1日 神理 神理 神理 神理 神理 神理 神理 神	引県浜松市
計問看護ステーション 計問看護ステーション及び 記問看護ステーション 記明有護ステーション及び 記問看護ステーション及び 世いれい訪問看護ステーション横浜 1997年11月1日 神野 指定老人訪問看護ステーション及び 世いれい訪問看護ステーション横浜 1998年10月1日 神野 指定老人訪問看護ステーション及び 世いれい訪問看護ステーション 1998年10月1日 神野 指定老人訪問看護ステーション及び 世いれい訪問看護ステーション 1998年10月1日 神野 指定老人訪問看護ステーション及び 世いれい訪問看護ステーション 1998年11月1日 神野 神野 日東 日東 日東 日東 日東 日東 日東 日	周県浜松市
計問看護ステーション 対している 対している	周県浜松市
1997年2月1日 1997年2月1日 1997年2月1日 1997年2月1日 1997年2月1日 1997年5月1日 1997年5月1日 1997年5月1日 1997年5月1日 1997年11月1日 1997年11月1日 1997年11月1日 1997年11月1日 1997年11月1日 1997年12月1日 1997年12月1日 1997年12月1日 1997年12月1日 1997年12月1日 1997年12月1日 1997年12月1日 1998年10月1日 1998年10月1日 1998年10月1日 1998年10月1日 1998年11月1日 1998年11月1日	具宝塚市
1997年5月1日 共成	周県浜松市
1997年11月1日 1917年11月1日 1917年12月1日 1918年10月1日 1	『県神戸市
1997年12月1日 1998年12月1日 1998年10月1日 1998年10月1日 1998年10月1日 1998年10月1日 1998年10月1日 1998年11月1日 1	周県浜松市
お問看護ステーション せいれい訪問看護ステーション 1998年10月1日 神秀 1998年11月1日 1998年11	ミ川県横浜市
訪問看護ステーション横須賀1998年11月1日 神気指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーションとの お問看護ステーション及び 訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーションとの お問看護ステーション及び 訪問看護ステーションとの お問看護ステーション及び 訪問看護ステーションとの お問看護ステーション及び 訪問看護ステーションとの お問看護ステーションとの お問看護ステーションとの ・ 2011年4月1日 神気 ・ 2012年7月1日 静脈 ・ 2012年7月1日 静脈 ・ 2012年7月1日 静脈 ・ 2012年7月1日 静脈 ・ 2012年7月1日 静脈 ・ 2013年3月1日 兵庫 ・ 2013年3月1日 沖糸 ・ 2016年3月1日 中系 ・ 2016年3月1日 中系 ・ 2016年3月1日 中系	※川県三浦市
	ミ川県横須賀市
訪問看護ステーションせいれい訪問看護ステーション佐倉2010年1月1日 十分指定老人訪問看護ステーション及びお問看護ステーション及びお問看護ステーション及び聖隷訪問看護ステーションゆい2013年3月1日 沖縄指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション及びお問看護ステーション及びお問看護ステーション及びお問看護ステーション及びお問看護ステーション及びお問看護ステーション及びお問看護ステーション及びお問看護ステーション及びお問看護ステーション及びお問看護ステーション及びお問看護ステーション及びお問看護ステーション及びお問看護ステーション及び取りまな問題を表することは表することは表することに表することに表することに表することに表する。	厚淡路市
お問看護ステーション お問看護ステーション及び 聖隷訪問看護ステーション藤沢 一 2011年4月1日 神系	集集佐倉市
	周県浜松市
訪問看護ステーション	≷川県藤沢市
計問看護ステーション 空縁 初 同 看護 ステーション	周県浜松市
訪問看護ステーション	具宝塚市
	見 見明郡
	集県浦安市
高齢者生活支援ハウス やまぶき(受託経営) 20 1999年4月1日 静岡	周県浜松市
居宅介護支援事業 聖隷ケアプランセンター浜松 — 2000年4月1日 静原	周県浜松市
居宅介護支援事業 聖隷ケアプランセンター細江 — 2000年4月1日 静原	周県浜松市
居宅介護支援事業 聖隷ケアプランセンター浜北 — 2000年4月1日 静岡	県浜松市
居宅介護支援事業 聖隷ケアプランセンターいなさ — 2000年4月1日 静R	引県浜松市
居宅介護支援事業 聖隷ケアプランセンター森町 — 2000年4月1日 静岡	引県周智郡
居宅介護支援事業 聖隷ケアプランセンター宝塚 — 2000年4月1日 兵庫	原宝塚市

施設(事業)の種類	施設名	定員	開設年月日	所 在 地
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター北神戸	_	2000年4月1日	兵庫県神戸市
居宅介護支援事業	せいれいケアプランセンター 横須賀	_	2000年4月1日	神奈川県横須賀市
居宅介護支援事業	奄美佳南園 在宅介護支援センター	_	2000年4月1日	鹿児島県奄美市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター花屋敷	_	2003年10月1日	兵庫県宝塚市
居宅介護支援事業	松戸愛光園ケアプランセンター	_	2004年4月1日	千葉県松戸市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター和	_	2007年2月1日	静岡県浜松市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター淡路	_	2010年5月1日	兵庫県淡路市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター三方原	_	2011年3月15日	静岡県浜松市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター藤沢	_	2011年3月1日	神奈川県藤沢市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター浦安	_	2011年6月1日	千葉県浦安市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンターすみれ	_	2014年10月1日	兵庫県宝塚市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター結い	_	2014年10月1日	兵庫県宝塚市
居宅介護支援事業	聖隷居宅介護支援センターゆい	_	2015年1月1日	沖縄県中頭郡
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンターいなさ南部		2015年10月1日	静岡県浜松市
訪問入浴介護事業	奄美佳南園訪問入浴事業所	_	2000年4月1日	鹿児島県奄美市
福祉用具貸与事業	聖隷コミュニティケアセンター	_	2000年4月1日	静岡県浜松市
福祉用具貸与事業	聖隷コミュニティケアセンター 宝塚店	_	2000年10月1日	兵庫県宝塚市
特定福祉用具販売事業	聖隷コミュニティケアセンター	_	1990年4月1日	静岡県浜松市
特定福祉用具販売事業	聖隷コミュニティケアセンター 宝塚店	_	2000年10月1日	兵庫県宝塚市
居宅療養管理指導事業	聖隷三方原病院	_	2000年4月1日	静岡県浜松市
訪問看護事業	聖隷三方原病院	_	2000年4月1日	静岡県浜松市
地域包括支援センター	地域包括支援センター和合 (受託経営)		2006年4月1日	静岡県浜松市
地域包括支援センター	地域包括支援センター細江 (受託経営)		2006年4月1日	静岡県浜松市
地域包括支援センター	花屋敷地域包括支援センター (受託経営)	_	2006年4月1日	兵庫県宝塚市
地域包括支援センター	地域包括支援センター北浜 (受託経営)	_	2007年4月1日	静岡県浜松市
地域包括支援センター	逆瀬川地域包括支援センター (受託経営)	_	2007年4月1日	兵庫県宝塚市
地域包括支援センター	西第二地域包括支援センター (受託経営)	_	2008年4月1日	神奈川県横須賀市
地域包括支援センター	地域包括支援センター高丘 (受託経営)		2012年10月1日	静岡県浜松市

施設(事業)の種類	施設名	定員	開設年月日	所 在 地
身体障害者向け住宅の事業	シオンハウス (身体障害者用住宅)	5	1992年10月1日	静岡県浜松市
障害者の日常生活及び社会生活を 総合的に支援するための法律の規定に 基づく市町村地域生活支援事業	浜松市障害者相談支援事業所 くすのき(受託経営)	1	1999年4月1日	静岡県浜松市
障害者の日常生活及び社会生活を 総合的に支援するための法律の規定に 基づく市町村地域生活支援事業	浜松市障害者相談支援事業所 ナルド(受託経営)	ı	2003年4月1日	静岡県浜松市
障害者の日常生活及び社会生活を 総合的に支援するための法律の規定に 基づく市町村地域生活支援事業	浜松市障害者相談支援事業所 信生(受託経営)	_	2003年4月1日	静岡県浜松市
障害者の日常生活及び社会生活を 総合的に支援するための法律の規定に 基づく市町村地域生活支援事業	聖隷おおぞら療育センター	_	2006年10月1日	静岡県浜松市
障害者の日常生活及び社会生活を 総合的に支援するための法律の規定に 基づく市町村地域生活支援事業	聖隷厚生園信生寮	_	2006年10月1日	静岡県浜松市
障害者の日常生活及び社会生活を 総合的に支援するための法律の規定に 基づく市町村地域生活支援事業	みるとす	_	2006年10月1日	静岡県浜松市
障害者の日常生活及び社会生活を 総合的に支援するための法律の規定に 基づく市町村地域生活支援事業	浜松市障害者相談支援事業所 浜松東(受託経営)	_	2007年4月1日	静岡県浜松市
入浴、排せつ、食事、外出時の移動、 コミュニケーション、スポーツ・文化的活動、 就労、住環境の調整等を支援する事業	聖隷コミュニティケアセンター	-	1990年4月1日	静岡県浜松市
入浴、排せつ、食事、外出時の移動、 コミュニケーション、スポーツ・文化的活動、 就労、住環境の調整等を支援する事業	聖隷コミュニティケアセンター 宝塚店	_	2000年10月1日	兵庫県宝塚市
浜松市生活困窮者 自立促進支援モデル事業	浜松市生活自立相談支援センター つながり(受託事業)	-	2014年4月1日	静岡県浜松市
社会福祉の増進に資する人材の育成・ 確保に関する事業	法人本部	_	2007年4月1日	静岡県浜松市

【収益事業】

施設(事業)の種類	施設名	定員	開設年月日	所 在 地
貸事務所	法人本部	_	2005年1月1日	静岡県浜松市

理事会、評議員会運営の状況

役員の状況

【理事】

No.		氏 名	関係役職名
1	理事長	山本 敏博	評議員・代表執行役員 (公財)ニッセイ聖隷健康福祉財団会長
2	常務理事	荻野 和功	評議員·専務執行役員·聖隷三方原病院院長 (学)聖隷学園理事
3	常務理事	福田 崇典	評議員‧常務執行役員‧保健事業部長
4	常務理事	鳥居 裕一	評議員·専務執行役員·聖隷浜松病院院長 (学)聖隷学園理事
5	常務理事	津幡 佳伸	評議員・常務執行役員・在宅・福祉サービス事業部長 (福)十字の園理事・(福)神戸聖隷福祉事業団
6	理事	青木 善治	評議員·常務執行役員 (財)芙蓉協会理事
7	理事	石岡 晃	評議員・常務執行役員 (公財)ニッセイ聖隷健康福祉財団評議員
8	理事	日下部 行宏	評議員·常務執行役員 (財)恵愛会評議員
9	理事	鈴木 睦明	評議員・常務執行役員・高齢者公益事業部長 (公財)ニッセイ聖隷健康福祉財団常務理事
10	理事	平川 健二	評議員・常務執行役員・法人本部総務部長 (公財)ニッセイ聖隷健康福祉財団評議員
11	理事	小野田 全宏	(特非)静岡県ボランティア協会常務理事
12	理事	小栁 守弘	(学)聖隷学園専務理事·法人事務局長
13	理事	背戸 好廣	評議員 (財)恵愛会常務理事

【監事】

No.		氏 名	関係役職名
1	監事	石打 剛義	
2	監事	上野 桂子	(社)全国訪問看護事業協会理事
3	監事	白木 政幸	
4	監事	佐野 國治	

(任期)2017年9月30日迄

開催年月日	会議名
2015年4月24日(金)	理事会
2015年5月22日(金)	評議員会•理事会
2015年6月26日(金)	理事会
2015年7月24日(金)	理事会
2015年8月21日(金)	理事会
2015年9月25日(金)	評議員会•理事会
2015年10月1日(木)	理事会
2015年10月23日(金)	理事会
2015年11月27日(金)	理事会
2015年12月18日(金)	理事会
2016年1月22日(金)	評議員会•理事会
2016年2月26日(金)	理事会
2016年3月25日(金)	評議員会•理事会